



IVMS-4200 クライアント ソフトウェア

ユーザマニュアル

UD05006B

ユーザマニュアル

COPYRIGHT ©2017 GRASPHERE JAPAN Co., Ltd.

ALL RIGHTS RESERVED.

文章、画像、図表を含むすべての情報は、GRASPHERE JAPAN Co., Ltd. またはその子会社（以下、「GRASPHERE JAPAN」とする）の所有するものとします。本ユーザマニュアル（以下、「本マニュアル」とする）は、GRASPHERE JAPAN の事前の書面による許可なく、部分的または全体的にかかわらず再生産、変更、翻訳または配布できないものとします。それ以外規定されていない場合、GRASPHERE JAPAN は、マニュアルに関して、明示または默示のいかなる保証、保証または表明を行いません。

本マニュアルについて

このマニュアルは、IVMS-4200 クライアントソフトウェアに適用されます。

本マニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像およびその他すべての情報は説明だけを目的としています。本マニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で通知なく変更されるものとします。最新版は企業ウェブサイト (<http://www.graspHERE.com/>) でご確認ください。

プロの指導の下で本ユーザマニュアルをご利用ください。

商標に関する確認

GRASPHERE およびその他 GRASPHERE JAPAN の商標およびロゴは、国や地域に関係なく GRASPHERE JAPAN の所有物です。以下に示されたその他の商標およびロゴは、各権利保有者の所有物です。

免責事項

適用法により許容される範囲内で、記載の製品とそのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアは、あらゆる誤謬やエラーを含め、そのままの形で提供されるものとし、GRASPHERE JAPAN では明示默示を問わず一切の保証 (商品性、十分な品質、特定の目的の適合性および第三者の権利非侵害を含むがそれだけに限定されない) を行いません。GRASPHERE JAPAN およびその取締役、役員、従業員または代理人は、たとえ GRASPHERE JAPAN がこのような損害に関して忠告を受けていても、本製品に関連する事業利益の損失や事業妨害、データや書類の損失に関する損害を含む特別、必然、偶発または間接的な損害に対して一切の責任を負いません。

インターネットアクセスを伴う製品に関して、当該製品の一切の使用はお客様自身の責任によるものとします。GRASPHERE JAPAN は、異常操作、プライバシー漏えいまたはサイバー攻撃、ハッキング、ウィルス検査やその他のセキュリティリスクから生じるその他の損害に対して一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて GRASPHERE JAPAN は適宜技術サポートを提供します。

監視に関する法律は裁判管轄地域によって異なります。本製品のご使用前に、使用地の裁判管轄地域におけるすべての関連法を確認して、必ず適用法に準拠するかたちで使用してください。本製品が不正な目的で使用された場合に、GRASPHERE JAPAN は責任を負わないものとします。

本マニュアルと適用法における矛盾がある場合については、より新しいほうを優先します。

目次

第 1 章 概要.....	9
1.1 説明	9
1.2 実行環境.....	10
1.3 機能モジュール	11
1.4 アップデート手順.....	19
第 2 章 ユーザ登録とログイン.....	21
第 3 章 デバイス管理.....	24
3.1 デバイスの追加.....	24
3.1.1 パスワードの作成	27
3.1.2 オンラインデバイスの追加	29
3.1.3 IP またはドメイン名によるデバイスの追加	37
3.1.4 IP セグメントによるデバイスの追加	38
3.1.5 EHome アカウントによるデバイスの追加	40
3.1.6 シリアルポートによるデバイスの追加	41
3.1.7 IP Server によるデバイスの追加	43
3.1.8 エンコーディングデバイスの QR コード	44
3.1.9 デバイスのオンラインユーザの確認	45
3.2 グループ管理.....	47
第 4 章 ライブビュー	53
4.1 ライブビューの開始と停止	61

4.2 ライブビューのオートスイッチ.....	65
4.3 ライブビューでの PTZ コントロール.....	67
4.4 手動録画とキャプチャー.....	74
4.5 インスタント再生.....	81
4.6 カスタムウィンドウ分割.....	85
4.7 フィッシュアイモードでのライブビュー.....	88
4.8 マスタースレーブリンクエージの開始.....	93
4.9 ライブビューのその他の機能.....	100
第 5 章 リモートストレージスケジュールの設定と再生.....	101
5.1 リモートストレージ.....	101
5.1.1 DVR、NVR、またはネットワークカメラへの保存.....	101
5.1.2 ストレージデバイスへの保存.....	107
5.2 リモート再生.....	112
5.2.1 通常の再生.....	113
5.2.2 アラーム入力の再生.....	124
5.2.3 イベント再生.....	126
5.2.4 ATM 再生.....	129
5.2.5 POS 再生.....	131
5.2.6 同期再生.....	133
5.2.7 VCA 再生.....	134
5.2.8 フィッシュアイ再生.....	137
第 6 章 イベント管理.....	141
6.1 動体検知アラームの設定.....	143
6.2 ビデオタンパーアラームの設定.....	148

6.3 ビデオロスアラームの設定	151
6.4 音声異常アラームの設定	154
6.5 顔検知アラームの設定	157
6.6 ラインクロス検知アラームの設定	160
6.7 アラーム入力リンクエージの設定	164
6.8 デバイス異常リンクエージの設定	167
第 7 章 アラームとイベントセンター	169
7.1 アラーム情報の表示	173
7.2 イベント情報の表示	176
7.3 ポップアップアラーム情報の表示	177
第 8 章 E-マップ管理	178
8.1 E-マップの追加	179
8.2 ホットスポット機能	182
8.2.1 ホットスポットの追加	182
8.2.2 ホットスポットの変更	184
8.2.3 ホットスポットのプレビュー	185
8.3 ホットリージョン機能	187
8.3.1 ホットリージョンの追加	187
8.3.2 ホットリージョンの変更	188
8.3.3 ホットリージョンのプレビュー	189
第 9 章 VCA デバイス管理	191
第 10 章 ストリームメディアサーバを経由したビデオストリームの転送	194
10.1 ストリームメディアサーバの追加	194

10.2 ビデオストリームを転送するためのストリームメディアサーバへのカメラの追加	197
第 11 章 ビデオウォール上でのビデオのデコーディングと表示	198
11.1 エンコーディングデバイスの追加	199
11.2 デコーディングデバイスの追加	201
11.3 ビデオウォールの設定	204
11.3.1 ビデオウォールとデコーディング出力のリンク	204
11.3.2 マルチスクリーンディスプレイ	206
11.3.3 背景の設定	208
11.3.4 バーチャル LED の設定	210
11.4 ビデオウォール上でのビデオの表示	212
11.4.1 デコードディングと表示	212
11.4.2 ウィンドウとローミングの設定	216
11.4.3 再生の設定	218
11.4.4 周期的デコードの設定	220
第 12 章 セキュリティコントロールパネル	222
12.1 ゾーンイベントの設定	222
12.2 リモートコントロール	225
12.2.1 ディスプレイモード	225
12.2.2 パーティションリモートコントロール	227
12.2.3 ゾーンリモートコントロール	229
12.3 E-マップ上でのゾーンの表示	231
12.4 アラームの処理	236
12.4.1 リアルタイムアラーム	236
12.4.2 履歴アラームの検索	238

第 13 章 ログ管理	241
第 14 章 アカウント管理とシステム設定	246
14.1 アカウント管理	246
14.2 システム設定	250
14.2.1 一般設定	251
14.2.2 ライブビューと再生設定	253
14.2.3 画像設定	256
14.2.4 ファイル保存パスの設定	258
14.2.5 ツールバーの設定	260
14.2.6 キーボードとジョイスティックのショートカット設定	262
14.2.7 アラーム音の設定	263
14.2.8 メール設定	266
14.2.9 ビデオインターホンの設定	268
第 15 章 統計	270
15.1 ヒートマップ	271
15.2 人数計測統計	274
15.3 カウント統計	277
15.4 道路交通	280
15.5 顔検索	284
15.6 ナンバープレート検索	287
15.7 行動分析	290
15.8 顔のキャプチャー	293
トラブルシューティング	296
FAQ	298

エラーコード	299
--------------	-----

第1章 概要

1.1 説明

IVMS-4200 は、DVR、NVR、IP カメラ、エンコーダ、デコーダ、セキュリティコントロールパネル、ビデオインターフェイス、アクセス制御デバイスなどの多彩なセキュリティ管理ソフトウェアです。接続されたデバイスが監視タスクのニーズを満たすために、リアルタイムライブビュー、ビデオ録画、リモート検索と再生、ファイルバックアップ、アラーム受信などの複数の機能を提供します。柔軟な分散構造と使いやすい操作により、クライアントソフトウェアは中規模または小規模の監視プロジェクトに広く適用されます。

このユーザマニュアルでは、IVMS-4200 ソフトウェアの機能、設定、操作手順について説明しています。ソフトウェアの使用状況や安定性の性質を確保するために、以下の内容を参照して、インストールと操作の前に取扱説明書をよくお読みください。

1.2 実行環境

オペレーティングシステム: Microsoft Windows 7 / Windows 8.1 / Windows 10(32ビットまたは64ビット)。

[推奨] ※目安: 1080P カメラ同時 25 台表示

CPU: intel E3-1226 V3 (3.30GHz) 以上、intel Core i5-4590 (3.30GHz) 以上

メモリ: 8GB 以上

ビデオカード: intel HD graphics P4600 以上

※CPU 世代に合わせた内蔵グラフィック機能以上

[高処理対応] ※目安: 1080P カメラ同時 45 台表示

CPU: intel E3-1280 V5 (3.70GHz) 以上、intel Core i7-6700K (4.00GHz) 以上

メモリ: 16GB 以上

ビデオカード: GeForce GTX1070 以上

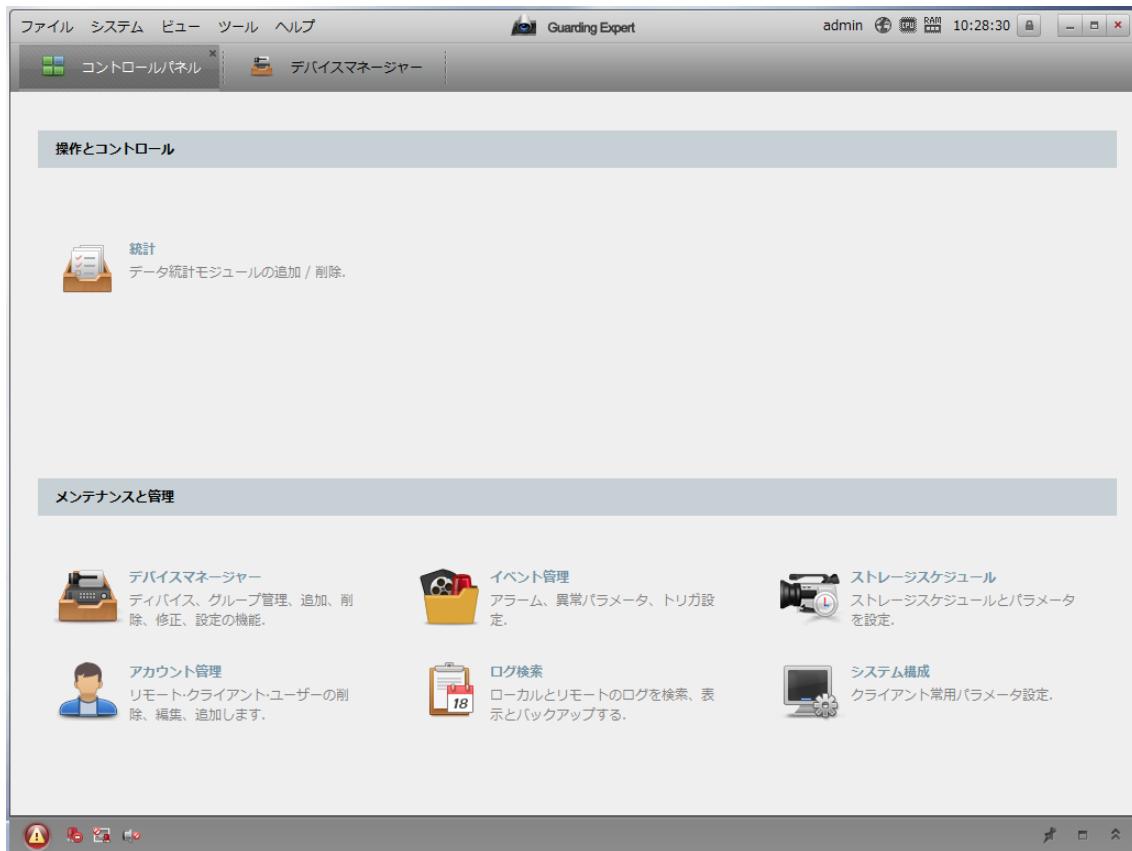
※外付けグラフィックカードを推奨

注意:

- 高い安定性と優れた性能を得るには、上記のシステム要件を満たす必要があります。
- ソフトウェアは 64 ビットオペレーティングシステムをサポートしていません。上記の 64 ビットオペレーティングシステムは、32 ビットアプリケーションもサポートするシステムを指します。

1.3 機能モジュール

IVMS-4200 のコントロールパネル:



メニューバー:

ファイル	画像ファイルを開く	ローカル PC に保存されているキャプチャされた画像を検索して表示します。
	ビデオファイルを開く	ローカル PC に記録されたビデオファイルを検索して表示します。
	ログファイルを開く	バックアップログファイルを表示します。

システム	エグジット	IVMS-4200 クライアントソフトウェアを終了します。
	ロック	画面操作をロックします。 クライアントに再度ログインしてロックを解除します。
	ユーザの切り替え	ログインユーザを切り替えます。
	システム設定ファイルのインポート	コンピュータからクライアント設定ファイルをインポートします。
	システム設定ファイルのエクスポート	クライアント設定ファイルをコンピュータにエクスポートします。
	自動バックアップ	人、出席データ、許可データを含むデータベースのバックアップスケジュールを自動的に設定します。
ビュー	1024X768	ウィンドウを 1024X768 ピクセルのサイズで表示します。
	1280X1024	ウィンドウを 1280X1024 ピクセルのサイズで表示します。
	1440X900	ウィンドウを 1440X900 ピクセルのサイズで表示します。
	1680X1050	ウィンドウを 1680X1050 ピクセルのサイズで表示します。

	最大化する	ウィンドウを最大モードで表示します。
	コントロールパネル	コントロールパネルのインターフェイスに入ります。
	メインビュー	「メインビュー」ページを開きます。
	リモート再生	「リモート再生」ページを開きます。
	アクセス制御	アクセス制御モジュールに入ります。
	ステータスモニタ	ステータスモニタモジュールに入ります。
	時間と出席	時間および出席モジュールに入ります。
	セキュリティコントロールパネル	セキュリティコントロールパネルモジュールに入ります。
	リアルタイムアラーム	リアルタイムアラームモジュールに入ります。
	ビデオウォール	「ビデオウォール」ページを開きます。
	E-マップ	「E-マップ」ページを開きます。
	補助画面のプレビュー	補助画面プレビューウィンドウを開きます。
ツール	デバイス管理	「デバイス管理」ページを開きます。
	イベント管理	「イベント管理」ページを開きます。

	ストレージのスケジュール	「ストレージのスケジュール」ページを開きます。
	アカウント管理	「アカウント管理」ページを開きます。
	ログ検索	「ログ検索」ページを開きます。
	システム設定	「システム設定」ページを開きます。
	放送	カメラを選択して放送を開始します。
	デバイスアーミング制御	デバイスのアーミング状態を設定します。
	アラーム出力制御	アラーム出力のオン/オフを切り替えます。
	バッチワイパー制御	デバイスのワイパーを一括して開始または停止します。
	バッチ時間同期	デバイスの一括時間同期します。
	プレーヤー	ビデオファイルを再生するには、プレーヤーを開きます。
	メッセージキュー	送信する電子メールメッセージの情報を表示します。
	ヘルプ	ビデオウィザードを開く
	ビデオウォールウィザードを開く	ビデオ監視設定用のビデオガイドを開きます。
	ビデオウォール設定のガイドを開きます。	

	セキュリティのコントロールパネルウィザードを開く	セキュリティコントロールパネル設定のガイドを開きます。
	アクセスコントロールとビデオインターラクス設定のガイドを開く	アクセスコントロールとビデオインターラクスの設定のガイドを開きます。
	出席ウィザードを開く	時間と出席設定のガイドを開きます。
	ユーザマニュアル(F1)	クリックするとユーザマニュアルが開きます。キーボードの F1 キーを押してユーザマニュアルを開くこともできます。
	アバウト	クライアントソフトウェアの基本情報を表示します。
	言語	クライアントソフトウェアの言語を選択し、ソフトウェアを再起動して設定を有効にします。

ソフトウェアを初めて実行するときは、コントロールパネルで



クリックして、コントロールパネルの操作および制御エリアを表示するモジュールを選択します。

手順:

1.  をクリックすると、次のダイアログが表示されます。



- モジュールチェックボックスをチェックして、実際のニーズに応じてコントロールパネルに表示します。
- OKをクリックして設定を保存します。

注意:

- デバイス管理モジュールにアクセス制御デバイスを追加すると、コントロールパネルにアクセスコントロール、ステータス、および時間と出席モジュールが自動的に表示されます。
- デバイス管理モジュールにセキュリティコントロールパネルを追加すると、セキュリティコントロールパネルとリアルタイムアラームモジュールがコントロールパネルに自動的に表示されます。

IVMS-4200 クライアントソフトウェアは、以下の機能モジュールで構成されています。

	メインビューモジュールは、ネットワークカメラとビデオエンコーダのライブビューを提供し、ピクチャキャプチャ、録画、PTZ コントロールなどの基本的な操作をサポートします。
	リモート再生モジュールは、ビデオファイルの検索、再生、およびエクスポートを提供します。

	アクセス制御モジュールは、組織、人物、権限、および高度なアクセス制御機能の管理を提供します。 ビデオインターホン機能を提供します。
	ステータスマニタモジュールは、ドアステータスの監視と制御、リアルタイムのカードスワイプ記録とアクセス制御イベントの表示を提供します。
	時間および出席モジュールは、従業員の出席ルールの設定とレポートの生成を提供します。
	セキュリティコントロールパネルモジュールは、パーティションとゾーンの両方に対して、アーミング、ディスアーミング、バイパス、グループバイパスなどの操作を提供します。
	リアルタイムアラームモジュールは、セキュリティコントロールパネルのリアルタイムアラームの表示、アラームの確認、および履歴アラームの検索を行います。
	アラームイベントモジュールは、クライアントソフトウェアによって受信されたアラームおよびイベントを表示します。
	ビデオウォールモジュールは、デコーディングデバイスとビデオウォールの管理と、デコードされたビデオをビデオウォールに表示する機能を提供します。
	E-マップモジュールは、E-マップ、アラーム入力、ホットリージョン、ホットスポットの表示と管理を行います。
	デバイスマネジメントモジュールは、異なるデバイスの追加、変更、および削除を提供し、デバイスを管理のためにグループにインポートすることができます。
	イベント管理モジュールは、アーミングスケジュール、アラームリンクージアクション、およびさまざまなイベントの他のパラメータの設定を提供します。
	ストレージスケジュールモジュールは、録画およびピクチャのスケジュール設定を提供します。

	アカウント管理モジュールは、ユーザカウントの追加、変更、削除を提供し、異なるユーザに対して異なる権限を割り当てることができます。
	ログ検索モジュールはシステムログファイルのクエリを提供し、ログファイルはさまざまなタイプでフィルタリングできます。
	システム設定モジュールは、一般パラメータ、ファイル保存パス、アラーム音および他のシステム設定を提供します。

その他の統計モジュールの説明については、第 19 章統計を参照してください。

機能モジュールは、コントロールパネルのナビゲーションボタンをクリックするか、または表示またはツールメニューから機能モジュールを選択することにより、簡単にアクセスできます。

メインページの右上隅には、現在のユーザ、ネットワーク使用状況、CPU 使用率、メモリ使用量、時間などの情報を確認できます。

1.4 アップデート手順

- **デバイス管理モジュールの最適化**

デバイスの分類を最適化して、より優れたユーザエクスペリエンスを提供します。

- **アクセスコントロール、ビデオインターホン、時間と出席**

アクセスコントロール、ビデオインターホン、時間と出席機能を提供します。

- **セキュリティコントロールパネルモジュールの最適化**

より良いユーザエクスペリエンスを提供するために、セキュリティコントロールパネルの機能を最適化します。

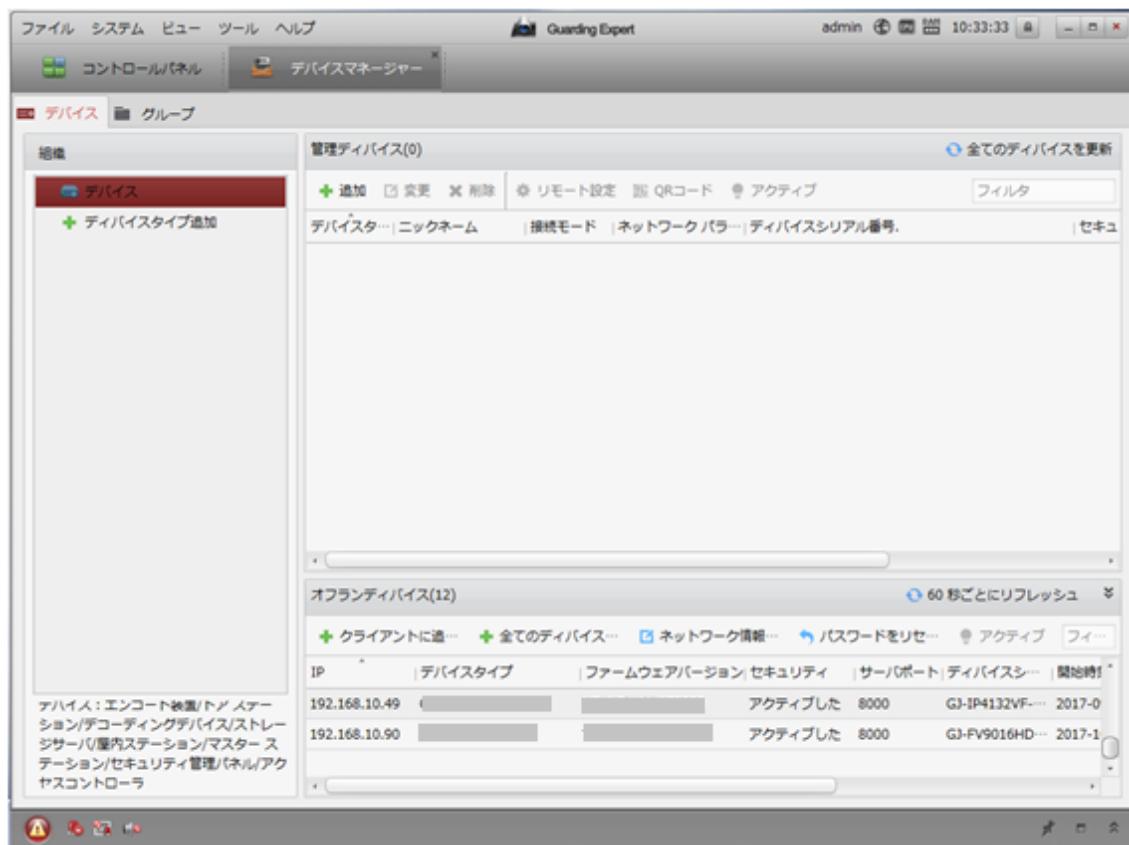
- **アクセスコントロールイベント、アクセスコントロールアラーム入力、イベントカードリンクージ、およびクロスデバイスリンクージ**

イベント管理モジュールで、アクセスコントロールイベント、アクセスコントロールアラーム入力、イベントカードリンクージ、およびクロスデバイスリンクージ設定を追加します。

- **モジュール表示の新デザイン**

コントロールパネルの操作および制御領域に表示するモジュールを選択します。

IVMS-4200 クライアントソフトウェア

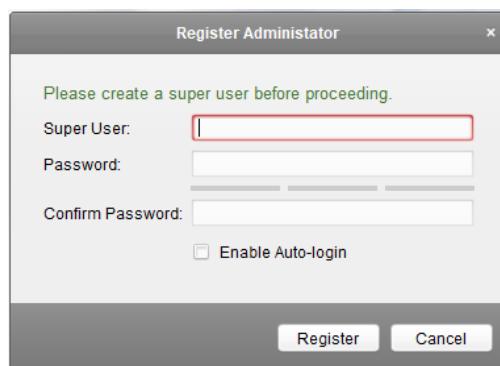


第2章 ユーザ登録とログイン

IVMS-4200 クライアントソフトウェアを初めて使用するには、ログインにスーパーユーザを登録する必要があります。また、言語変更を行って、再起動する必要があります。

手順:

1. スーパーユーザ名とパスワードを入力してください。ソフトウェアは自動的にパスワードの強さを判断します。強力なパスワードを使用してデータのセキュリティを確保することを強くお勧めします。
2. パスワードを確認します。
3. オプションで、「自動ログインを有効にする」チェックボックスをオンにして、ソフトウェアに自動的にログインします。
4. 登録をクリックします。その後、スーパーユーザとしてソフトウェアにログインできます。

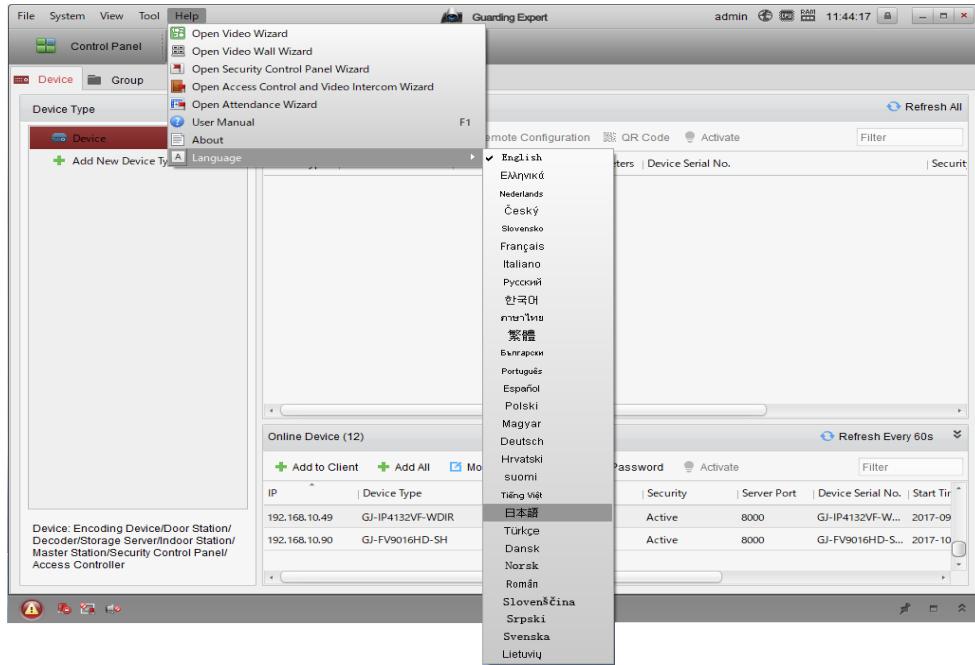


- ◆ ユーザ名には、次の文字は使用できません。/ ¥:/*? "↔|。また、パスワードの長さは6文字以上にすることはできません。
- ◆ お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、小文字、数字、特殊文字などを含む8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。

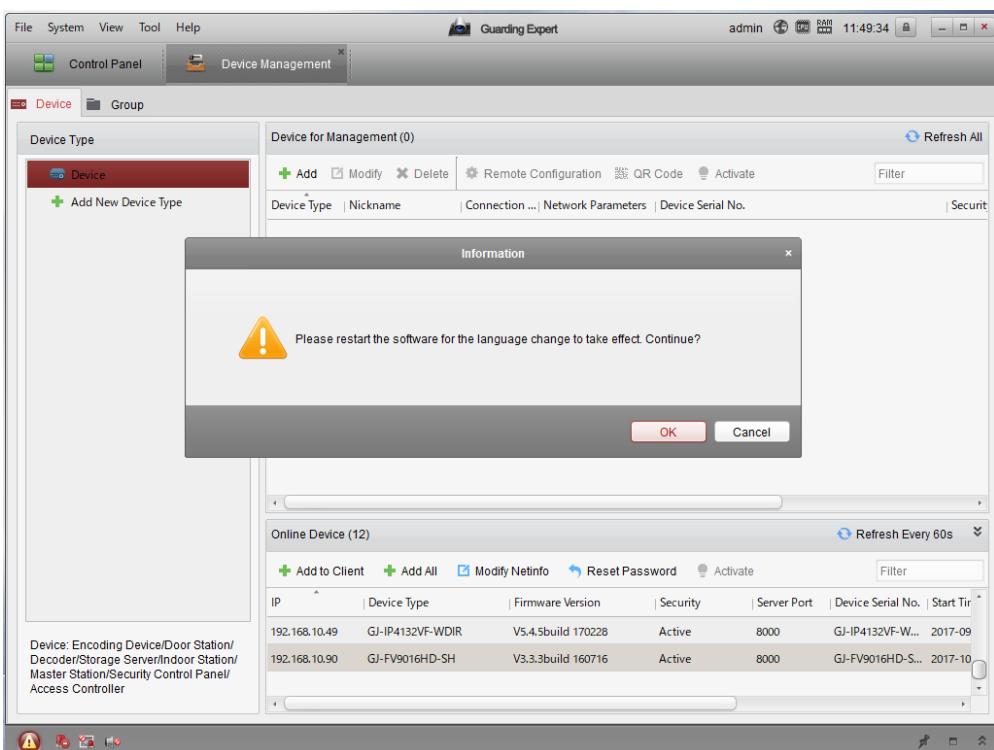
IVMS-4200 クライアントソフトウェア

- ◆ すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な設定は、インストーラおよび/またはエンドユーザの責任で行ってください。

5. 「IVMS-4200」インターフェイスで、Help>Language>日本語に選択します。



6. 言語変更するため、OKをクリックして、ソフトウェアを再起動してください。



登録後に IVMS-4200 を開くと、登録したユーザ名とパスワードでクライアントソフトウェアにログインできます。

手順:

1. 登録したユーザ名とパスワードを入力してください。

注意: パスワードを忘れた場合は、「スワードを忘れた」クリックし、ポップアップウィンドウで暗号化された文字列を覚えておいてください。ディーラーに連絡して暗号化された文字列を送ってパスワードをリセットしてください。

2. オプションで、「動ログインを有効にする」チェックボックスをオンにして、ソフトウェアに自動的にログインします。
3. ログインをクリックします。



クライアントソフトウェアを実行すると、ビデオウィザード、ビデオウォールウィザード、セキュリティコントロールパネルウィザード、アクセスコントロールとビデオインターフェース、出席者ウィザードなどのウィザードを開いて、デバイスの追加やその他の設定や操作を行うことができます。ウィザードの詳細な設定については、「IVMS-4200 のクイックスタートガイド」を参照してください。

第3章 デバイス管理

3.1 デバイスの追加

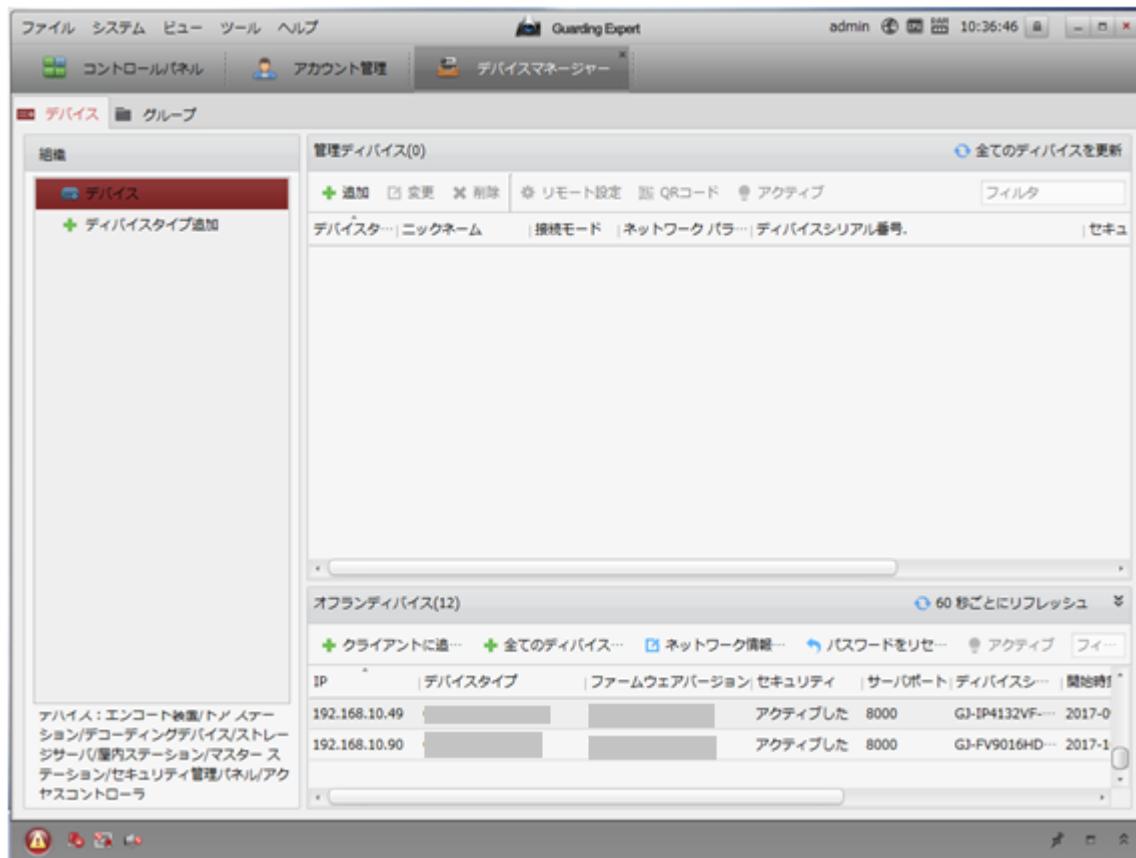
目的 :

IVMS-4200 を実行した後、ネットワークカメラ、ビデオエンコーダ、DVR、NVR、デコーダ、セキュリティ制御パネル、ビデオインターホンデバイス、アクセス制御デバイスなどのデバイスをライブビュー、再生、アラーム設定などのリモート設定と管理のためにクライアントに追加する必要があります。

デバイス追加インターフェイスを開始するには、次の手順を実行します。

手順 :

1. コントロールパネルのアイコンをクリックします。ツールー > **デバイス管理**をクリックして、デバイス管理ページを開きます。
2. デバイスタブをクリックして、次のインターフェイスに入ります。



- 右側のデバイスタイプパネルで、デバイスを選択して、ネットワークカメラ、ビデオエンコーダ、DVR、NVR、デコーダ、セキュリティコントロールパネル、ビデオインターフォンデバイス、アクセスコントロールデバイスなどのデバイスを追加できます。
- (オプション)「新しいデバイスタイプの追加」をクリックして、ストリームメディアサーバ、デバイス、およびサードパーティエンコーディングデバイスなどの他のタイプのデバイスを追加します。

ここでは例としてデバイスを追加します。

次の方法でデバイスを追加できます

- オンラインデバイスを検出するには、「3.1.2 オンラインデバイスの追加」を参照してください。
- デバイスの IP アドレスまたはドメイン名を指定してデバイスを追加する方法については、「3.1.3 IP またはドメイン名でデバイスを追加する」を参照してください。

- IP セグメントを指定してデバイスを追加する方法については、「3.1.4 IP セグメント別にデバイスを追加する」を参照してください。
- Hik-Connect で接続されたデバイスを追加する方法については、「3.1.5 Hik-Connect ドメインによるデバイスの追加」を参照してください。
- EHome プロトコルを使用してアクセス制御デバイスを追加する方法については、「3.1.6 EHome アカウントによるデバイスの追加」を参照してください。
- シリアルポート経由でアクセス制御デバイスを追加する方法については、「3.1.7 シリアルポートによるデバイスの追加」を参照してください。
- IP サーバによるデバイスの追加については、「3.1.8 IP サーバによるデバイスの追加」を参照してください。
- HiDDNS でデバイスを追加するには、「3.1.9 HiDDNS によるデバイスの追加」を参照してください。
- バッチでデバイスを追加するには、「3.1.10 バッチでデバイスをインポートする」を参照してください。

デバイスは、正常に追加された後、管理のためにデバイスリストに表示されます。追加されたデバイスのリソース使用状況、HDD ステータス、記録ステータス、およびその他の情報をリストで確認できます。

すべて更新をクリックして、追加されたすべてのデバイスの情報を更新します。フィルタフィールドにデバイス名を入力して、検索できます。

リストからデバイスを選択し、**変更/削除**をクリックすると、選択したデバイスの情報を変更または削除できます。

リストからデバイスを選択し、**リモート設定**をクリックすると、必要に応じて選択したデバイスのリモート設定を行うことができます。リモート設定の詳細については、各デバイスのユーザマニュアルを参照してください。

リストからアクセス制御デバイスを選択し、**デバイスステータス**をクリックして、記録ステータス、信号ステータス、ハードウェアステータスなどのデバイスステータスを表示します。

3.1.1 パスワードの作成

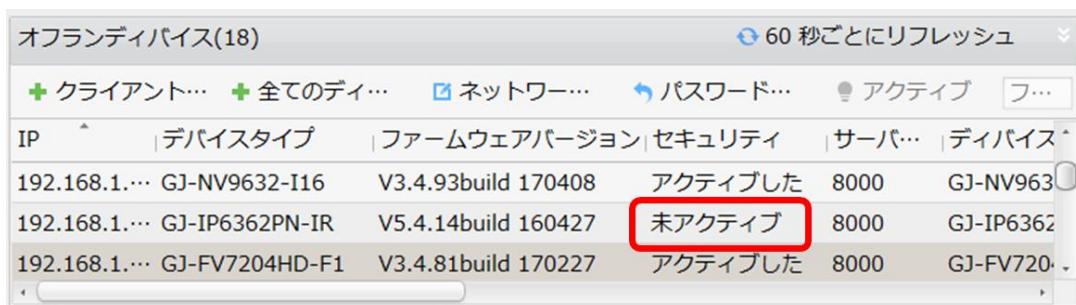
目的:

一部のデバイスでは、パスワードを作成してからソフトウェアに追加して正常に動作させる必要があります。

注意:この機能はデバイスでサポートされている必要があります。

手順:

1. 「デバイス管理」ページに入ります。
2. 管理デバイスまたはオンラインデバイスエリアで、デバイスの状態（「セキュリティ」コラムに表示されています）を確認し、非アクティブなデバイスを選択してください。

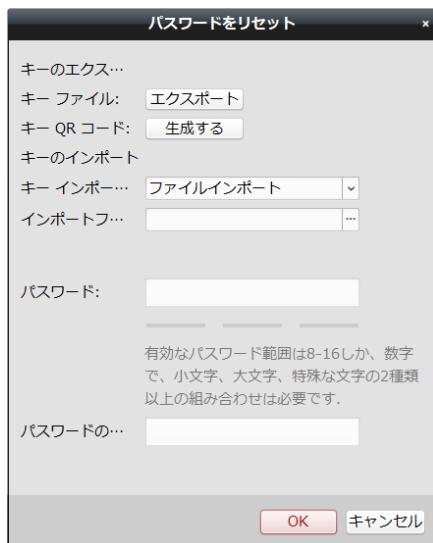


オフランデバイス(18)					
	IP	デバイスタイプ	ファームウェアバージョン	セキュリティ	サーバー
+	192.168.1.16	GJ-NV9632-I16	V3.4.93build 170408	アクティブした	8000
+	192.168.1.17	GJ-IP6362PN-IR	V5.4.14build 160427	未アクティブ	8000
+	192.168.1.18	GJ-FV7204HD-F1	V3.4.81build 170227	アクティブした	8000

3. **有効にする**ボタンをクリックして、「アクティベーション」インターフェイスをポップアップします。
4. パスワードフィールドにパスワードを作成し、パスワードを確認します。



強力なパスワードの推奨—製品のセキュリティを強化するために、自分で選択した強力なパスワード（大文字、小文字、数字、特殊文字を含む8文字以上）を作成することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。



5. 「ネットワーク情報を変更する」をクリックして、「ネットワークパラメータの変更」インターフェイスを表示します。

注意: この機能は、オンラインデバイス領域でのみ使用できます。ソフトウェアにデバイスを追加する必要がある場合は、デバイスのIPアドレスをコンピュータと同じサブネットに変更できます。

6. 手動でIPアドレスを変更するか、または「DHCP」チェックボックスをオンにすることによって、デバイスIPアドレスをコンピュータと同じサブネットに変更します。
7. 手順4で設定したパスワードを入力し、OKをクリックしてネットワーク設定を完了します。



3.1.2 オンラインデバイスの追加

目的:

クライアントソフトウェアと同じローカルサブネット内のアクティブなオンラインデバイスがオンラインデバイス領域に表示されます。「60秒ごとにリフレッシュ」ボタンをクリックすると、オンラインデバイスの情報を更新できます。

注意:  をクリックすると、オンラインデバイス領域が非表示になります。

オフランデバイス(23)										60 秒ごとにリフレッシュ
+ クライアントに追加しました		+ 全てのデバイス追加		+ ネットワーク情報修正		+ パスワードをリセット		+ アクティブ		フィルタ
IP	デバイスタイプ	ファームウェアバージョン	セキュリティ	サーバー	デバイスID	開始時刻	追加	Hik-Connectのサポート	Hik-Connectのステータス	
192.168.***. GJ-IP4212VF-IR...	V5.4.5build 1702...	アクティブした	8000	GJ-IP4212VF...	2017-10-03 13:2...	No	N/A	N/A	N/A	
192.168.***. GJ-IP6332PN-IR...	V5.4.5build 1703...	アクティブした	8000	GJ-IP6332PN...	2017-10-11 09:2...	No	N/A	N/A	N/A	
192.168.***. GJ-IP6362PN-IR...	V5.4.5build 1703...	アクティブした	8000	GJ-IP6362PN...	2017-09-28 14:4...	No	N/A	N/A	N/A	
192.168.***. GJ-IP2103PT...	V5.4.9build 1704...	アクティブした	8000	GJ-IP2103PT...	2017-10-10 15:2...	No	N/A	N/A	N/A	
192.168.***. GJ-IP2710VF-IR...	V5.4.3build 1703...	アクティブした	8000	GJ-IP2710VF...	2017-09-28 14:4...	No	N/A	N/A	N/A	
192.168.***. GJ-IP2512FX-IRS...	V5.2.0build 1407...	アクティブした	8000	GJ-IP2512FX...	2017-09-22 14:2...	No	N/A	N/A	N/A	

手順:

1. 追加するデバイスをリストから選択します。

注意: 非アクティブデバイスの場合は、デバイスを正しく追加する前にパスワードを作成する必要があります。詳細な手順については、「3.1.1 パスワードの作成」を参照してください。

2. **クライアントに追加**をクリックして、デバイスの追加ダイアログボックスを開きます。
3. 必要な情報を入力します。

ニックネーム: 必要に応じて、デバイスの名前を編集します。

アドレス: デバイスのIPアドレスを入力します。この追加モードでは、デバイスのIPアドレスが自動的に取得されます。

ポート: デバイスポート番号を入力します。デフォルト値は8000です。

ユーザ名: デバイスのユーザ名を入力します。デフォルトでは、ユーザ名は管理者です。

パスワード: デバイスのパスワードを入力します。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認することができます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くお勧めします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

- 必要に応じて、「グループにエクスポート」チェックボックスをオンにして、デバイス名でグループを作成します。

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャネルを対応するグループにインポートできます。

注意: IVMS-4200には、オフラインデバイスを追加する方法もあります。

- 「オフラインデバイスの追加」チェックボックスをオンにします。
- デバイスチャネル番号とアラーム入力番号を含む必要な情報を入力します。
- 追加をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアによって自動的に接続されます。

- 追加をクリックしてデバイスを追加します。

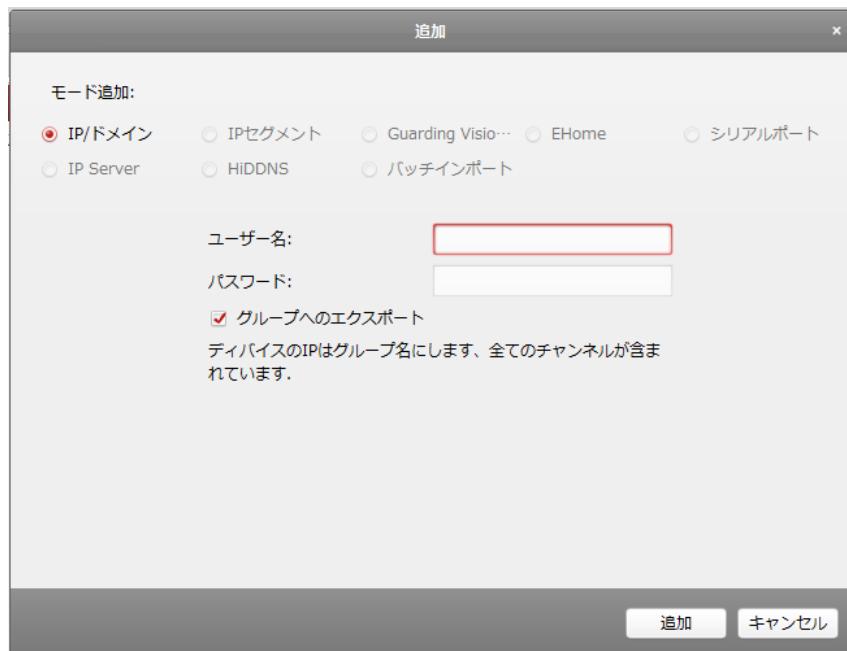


複数のオンラインデバイスを追加する

複数のオンラインデバイスをクライアントソフトウェアに追加する場合は、Ctrlキーを押しながら複数のデバイスを選択し、「クライアントに追加」をクリックしてデバイスの追加ダイアログボックスを開きます。ポップアップメッセージボックスに、追加するデバイスのユーザ名とパスワードを入力します。

すべてのオンラインデバイスを追加する

すべてのオンラインデバイスをクライアントソフトウェアに追加する場合は、「すべて追加」をクリックし、ポップアップメッセージボックスでOKをクリックします。次に、追加するデバイスのユーザ名とパスワードを入力します。



ネットワーク情報の変更

リストからデバイスを選択し、「ネットワーク情報を変更する」をクリックすると、選択したデバイスのネットワーク情報を変更できます。

注意: パラメータを変更するには、デバイスの管理者パスワードをポップアップウィンドウのパスワードフィールドに入力する必要があります。

パスワードをリセットする

さまざまなデバイスによる、ソフトウェアはデフォルトのパスワードを復元するか、またはパスワードをリセットする5つの異なる方法を提供します。

リストからデバイスを選択し、**パスワードのリセット**をクリックします。

オプション1:

インポートファイルとエクスポートファイルのボタン、パスワード、およびパスワードの確認フィールドのウィンドウが表示された場合、以下の手順でパスワードをリセットします。



手順:

1. エクスポートをクリックして、デバイスファイルをPCに保存します。
2. ファイルを技術者に送信します。
3. テクニカルエンジニアがファイルまたは8桁の番号をお送りします。
- テクニカルエンジニアからファイルを受け取った場合は、「キーインポートモードからファイルをインポート」ドロップダウンリストを選択し、…をクリックしてファイルをインポートします。
- テクニカルエンジニアから8桁の番号を受け取った場合は、「キーインポートモード」ドロップダウンリストから入力キーを選択し、番号を入力します。
4. 「パスワード」と「パスワードの確認」のテキストフィールドに新しいパスワードを入力します。
5. OKをクリックしてパスワードをリセットします。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認できます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

オプション2:

「エクスポートおよび生成」ボタン、「パスワード」および「パスワードの確認」フィールドが次のように表示される場合は、次の手順に従ってパスワードをリセットします。



手順:

1. 生成をクリックしてQRコードダイアログをポップアップします。
2. ダウンロードをクリックし、保存パスを選択してQRコードをPCに保存します。QRコードの写真を撮って携帯電話に保存することもできます。
3. 技術者に写真を送って、テクニカルエンジニアから8桁の番号を受け取ります。
4. キーインポートモードドロップダウンリストからを選択し、番号を入力します。

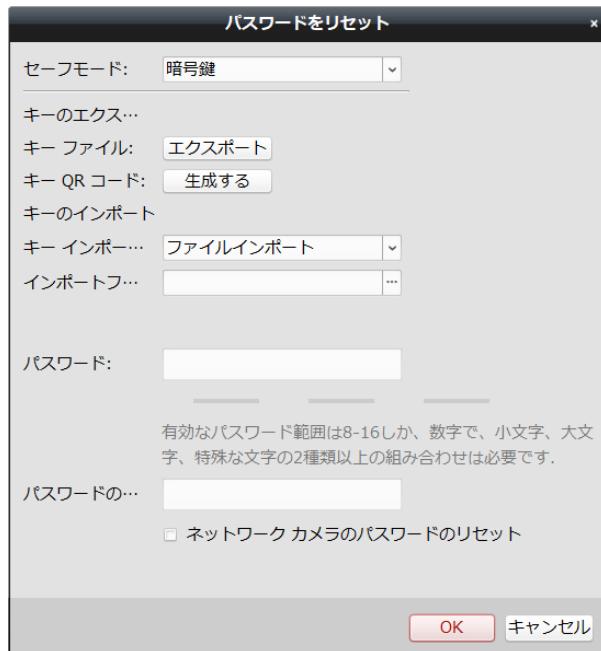
5. 「パスワード」と「パスワードの確認」のテキストフィールドに新しいパスワードを入力します。
6. OKをクリックしてパスワードをリセットします。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認できます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

オプション3:

セーフモードが選択可能なウィンドウが次のようにポップアップする場合は、以下の手順を実行してデバイスパスワードをリセットすることができます。



手順:

1. デバイスパスワードをリセットするセーフモードを選択します。

セーフモードとして「キー」を選択した場合は、上記のオプション2を参照してください。

セーフモードとして[セキュリティ質問]を選択した場合は、手順2に進みます。

セーフモードとしてGUID Fileを選択した場合は、手順3に進みます。

2. (オプション) セーフモードとして[セキュリティ質問]を選択した場合は、3つのセキュリティ質問の回答を入力します。

注意:

デバイスのアクティブ化時またはリモート設定時に、セキュリティに関する質問を設定できます。詳細は、本機の取扱説明書を参照してください。

3. (オプション) セーフモードとしてGUIDファイルを選択した場合は、「ファイルのインポート」フィールドで、 クリックしてGUIDファイルをインポートします。

注意:

デバイスをアクティブにすると、GUIDファイルを保存できます。詳細は、本機の取扱説明書を参照してください。

4. 「パスワード」と「パスワードの確認」のテキストフィールドに新しいパスワードを入力します。
5. OKをクリックしてパスワードをリセットします。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認できます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

オプション4:

一部の古いデバイスの場合、セキュリティコードフィールドが表示されたウィンドウがポップアップしたら、セキュリティコードを入力して、選択したデバイスのデフォルトパスワードを復元できます。

注意:

デバイスシリアル番号を製造元に送信すると、セキュリティコードが返されます。

オプション5:

一部の古いデバイスの場合、インポートファイルとエクスポートファイルボタンが表示されているウインドウが表示されたら、次の手順を実行してデフォルトのパスワードを復元します。

1. 「エクスポート」をクリックして、デバイスファイルをPCに保存します。
2. ファイルを技術者に送信します。
3. 「インポート」をクリックし、技術者から受け取ったファイルを選択します。
4. OKをクリックして、デバイスのデフォルトパスワードを復元します。



- ◆ 管理者アカウントのデフォルトパスワード(12345)は初めてログインするためのものです。このデフォルトパスワードを変更して、他の人が製品に不正にアクセスして、製品が正常に機能しなくなつて、望ましくない結果につながるなど、セキュリティリスクをよりよく保護する必要があります。
- ◆ お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。
- ◆ すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な設定は、インストーラおよび/またはエンドユーザの責任で行ってください

パスワードの同期

目的:

NVRまたはHDVRのパスワードをリセットし、接続されたネットワークカメラとエンコーダのパスワードとして新しいパスワードを使用することができます。

注意:

この機能は、デバイスでサポートされている必要があります。

手順:

1. 「オンラインデバイス」パネルでデバイスを選択し、「パスワードのリセット」をクリックします。
2. パスワードのリセット手順を実行し、「カメラパスワードとして新しいパスワードを使用する」チェックボックスをオンにします。
3. OKをクリックして設定を保存します。

3.1.3 IP またはドメイン名によるデバイスの追加

手順:

1. 追加をクリックして、デバイスの追加ダイアログボックスを開きます。
2. IP/ドメインは追加モードを選択します。
3. 必要な情報を入力します。

ニックネーム: 必要に応じて、デバイスの名前を編集します。

アドレス: デバイスのIPアドレスまたはドメイン名を入力します。

ポート: デバイスポート番号を入力します。デフォルト値は8000です。

ユーザ名: デバイスのユーザ名を入力します。デフォルトでは、ユーザ名は管理者です。

パスワード: デバイスのパスワードを入力します。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認できます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

4. 必要に応じて、「グループにエクスポート」チェックボックスをオンにして、デバイス名でグループを作成します。

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャネルを対応するグループにインポートできます。

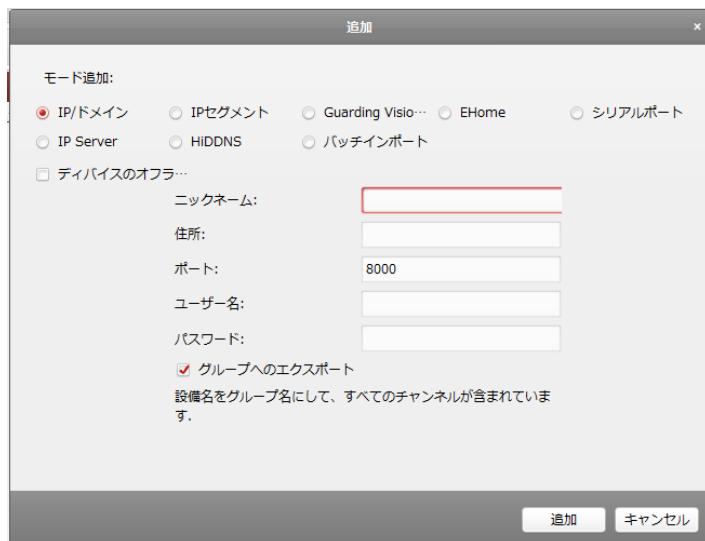
注意:

IVMS-4200は、オフラインデバイスを追加する方法も提供します。

- 1) 「オフラインデバイスの追加」チェックボックスをオンにします。
- 2) デバイスチャネル番号とアラーム入力番号を含む必要な情報を入力します。
- 3) **追加**をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアによって自動的に接続されます。

5. **追加**をクリックしてデバイスを追加します



3.1.4 IP セグメントによるデバイスの追加

手順:

1. 「追加」をクリックして、デバイスの追加ダイアログボックスを開きます。
2. IPセグメントは追加モードを選択します。
3. 必要な情報を入力します。

開始IP:開始IPアドレスを入力します。

終了IP:開始IPを持つ同じネットワークセグメントの終了IPアドレスを入力します。

ポート: デバイスポート番号を入力します。デフォルト値は8000です。

ユーザ名: デバイスのユーザ名を入力します。デフォルトでは、ユーザ名は管理者です。

パスワード: デバイスのパスワードを入力します。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認できます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

4. 必要に応じて、「グループにエクスポート」チェックボックスをオンにして、デバイス名でグループを作成します。

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャネルを対応するグループにインポートできます。

注意:

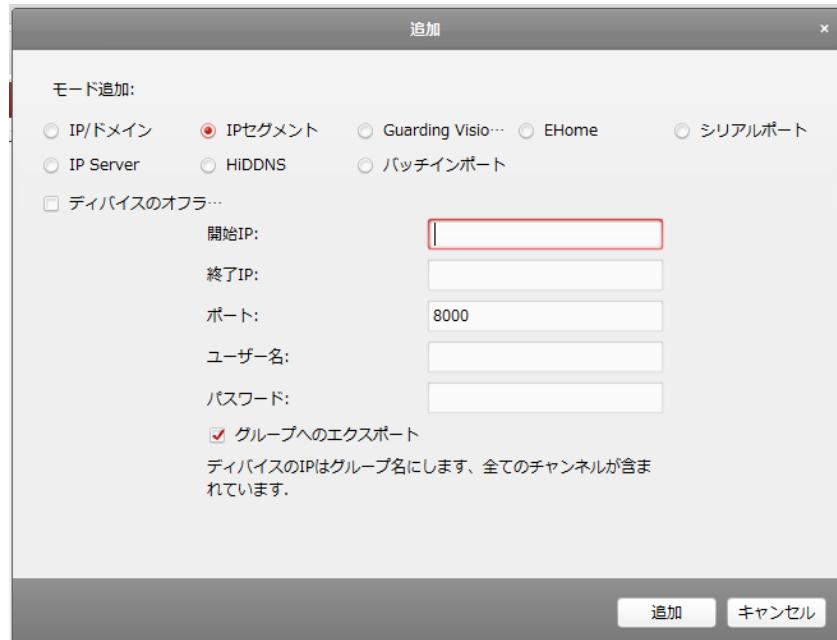
IVMS-4200は、オフラインデバイスを追加する方法も提供します。

- 1) 「オフラインデバイスの追加」チェックボックスをオンにします。
- 2) デバイスチャネル番号とアラーム入力番号を含む必要な情報を入力します。
- 3) **追加をクリックします。**

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアによって自動的に接続されます

5. **追加をクリックします。**

IPアドレスが開始IPと終了IPの間にあるデバイスをデバイスリストに追加できます。



3.1.5 EHome アカウントによるデバイスの追加

目的:

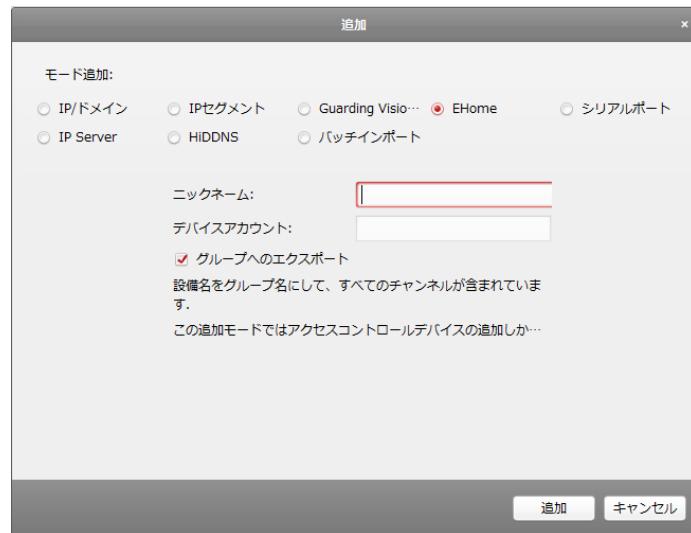
EHomeアカウントを入力することで、EHomeプロトコルで接続されたアクセス制御デバイスを追加することができます。

始める前に:

ネットワークセンターのパラメータを最初に設定します。 詳細は、ネットワークセンターの設定を参照してください。

手順:

1. 追加をクリックして、デバイスの追加ダイアログボックスを開きます。
2. 追加モードとして「EHome」を選択します。



3. 必要な情報を入力します。

ニックネーム: 必要に応じて、デバイスの名前を編集します。

アカウント: EHomeプロトコルに登録されているアカウント名を入力します。

4. 必要に応じて、「グループにエクスポート」チェックボックスをオンにして、デバイス名でグループを作成します。

デフォルトでは、デバイスのすべてのチャネルを対応するグループにインポートできます。

注意:

IVMS-4200は、オフラインデバイスを追加する方法も提供します。

- 1) 「オフラインデバイスの追加」チェックボックスをオンにします。
- 2) デバイスチャネル番号とアラーム入力番号を含む必要な情報を入力します。
- 3) **追加**をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアによって自動的に接続されます

5. **追加**をクリックしてデバイスを追加します。

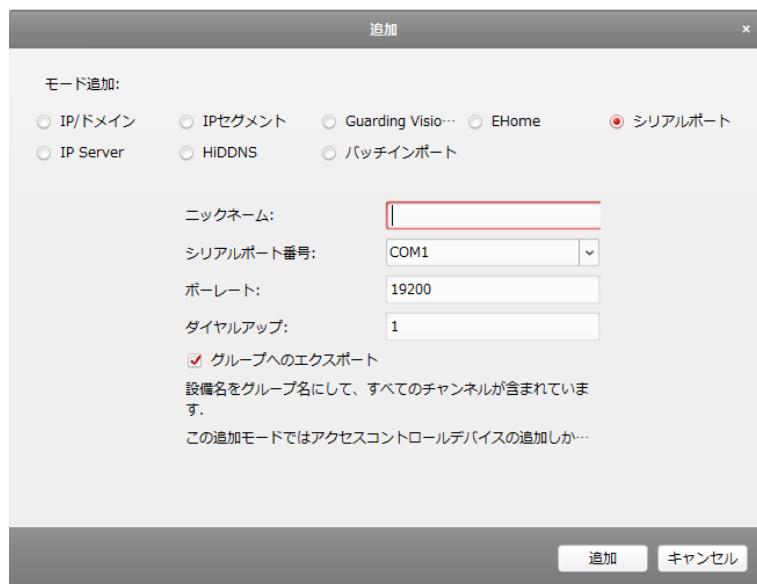
3.1.6 シリアルポートによるデバイスの追加

目的:

シリアルポートによる接続されたアクセス制御デバイスを追加することができます。

手順:

1. 追加をクリックして、デバイスの追加ダイアログボックスを開きます。
2. 追加モードとして「シリアルポート」を選択します。



3. 必要な情報を入力します。

ニックネーム: 必要に応じて、デバイスの名前を編集します。

シリアルポート番号: デバイスに接続されているシリアルポート番号を選択します。

ボーレート: アクセス制御デバイスのボーレートを入力します。

DIP: デバイスのDIPアドレスを入力します。

4. 必要に応じて、「グループにエクスポート」チェックボックスをオンにして、デバイス名でグループを作成します。デフォルトでは、デバイスのすべてのチャネルを対応するグループにインポートできます。

注意:

IVMS-4200は、オフラインデバイスを追加する方法も提供します。

- 1) 「オフラインデバイスの追加」チェックボックスをオンにします。
- 2) デバイスチャネル番号とアラーム入力番号を含む必要な情報を入力します。
- 3) **追加**をクリックします。

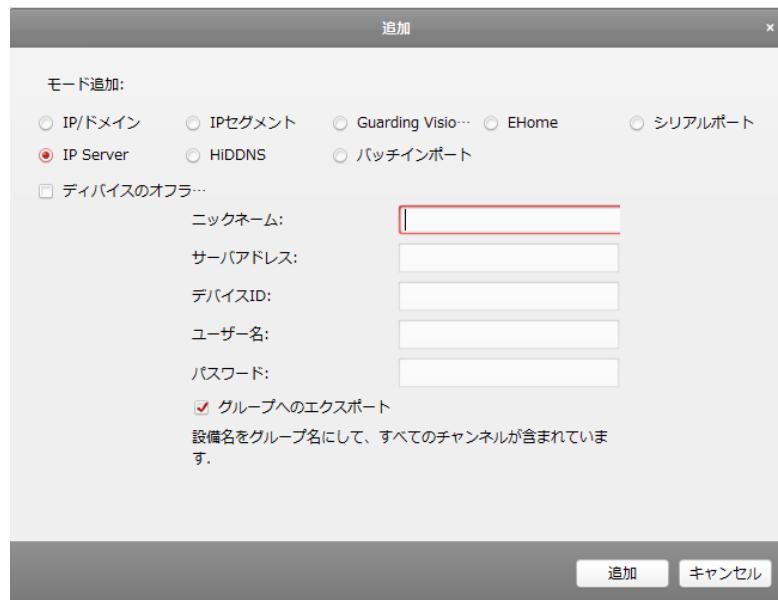
オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアによって自動的に接続されます。

5. **追加**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.7 IP Server によるデバイスの追加

手順:

1. **追加**をクリックして、デバイスの追加ダイアログボックスを開きます。
2. 追加モードとしてIP Serverを選択します。



3. 必要な情報を入力します。

ニックネーム: 必要に応じて、デバイスの名前を編集します。

サーバアドレス: IPサーバをインストールするPCのIPアドレスを入力します。

デバイスID: IPサーバに登録されているデバイスIDを入力します。

ユーザ名: デバイスのユーザ名を入力します。 デフォルトでは、ユーザ名は管理者です。

パスワード: デバイスのパスワードを入力します。



デバイスのパスワード強度は、ソフトウェアによって確認できます。お客様のプライバシーを保護するため、製品のセキュリティを強化するために、パスワードを大文字、小文字、数字、特殊文字など8文字以上の任意の形式に変更することを強くおすすめします。また、パスワードを定期的にリセットすることをお勧めします。特に高セキュリティシステムでは、パスワードを毎月または毎週リセットすると、製品をより良く保護することができます。

4. 必要に応じて、「グループにエクスポート」チェックボックスをオンにして、デバイス名でグループを作成します。デフォルトでは、デバイスのすべてのチャネルを対応するグループにインポートできます。

注意:

IVMS-4200は、オフラインデバイスを追加する方法も提供します。

- 1) 「オフラインデバイスの追加」チェックボックスをオンにします。
- 2) デバイスチャネル番号とアラーム入力番号を含む必要な情報を入力します。
- 3) **追加**をクリックします。

オフラインデバイスがオンラインになると、ソフトウェアによって自動的に接続されます。

5. **追加**をクリックしてデバイスを追加します。

3.1.8 エンコーディングデバイスの QR コード

目的:

エンコーディングデバイスの場合、デバイスのQRコードを生成することができます。QRコードをスキャンするためにモバイルクライアントソフトウェアを使用して、モバイルクライアントソフトウェアにデバイスを追加できます。モバイルクライアントソフトウェアにデバイスを追加する場合は、モバイルクライアントソフトウェアのユーザマニュアルを参照してください。

QRコードの確認

デバイスリストでデバイスをダブルクリックすると、デバイスの情報とQRコードが表示されます。または、デバイスをクリックして選択し、QRコードをクリックすると、デバイスのQRコードウインドウがポップアップ表示されます。また、Ctrlキーを押しながら複数のデバイスを選択し、QRコードをクリックすると、デバイスのQRコードウインドウがポップアップ表示されます。このようにして、QRコードをスキャンすることにより、複数のデバイスを同時に追加することができます。



3.1.9 デバイスのオンラインユーザの確認

目的:

ユーザがデバイスにアクセスすると、クライアントはユーザ名、ユーザの種類、ユーザのIPアドレス、ログイン時間などの接続情報を記録して表示できます。

注意: この機能は、デバイスでサポートされている必要があります。

手順:

1. 追加されたオンラインデバイスをクリックして選択します。
2. オンラインユーザをクリックして、オンラインユーザダイアログを表示します。



3. デバイスにログインしているユーザの情報を確認します。
4. OKをクリックしてダイアログを閉じます。

3.2 グループ管理

目的:

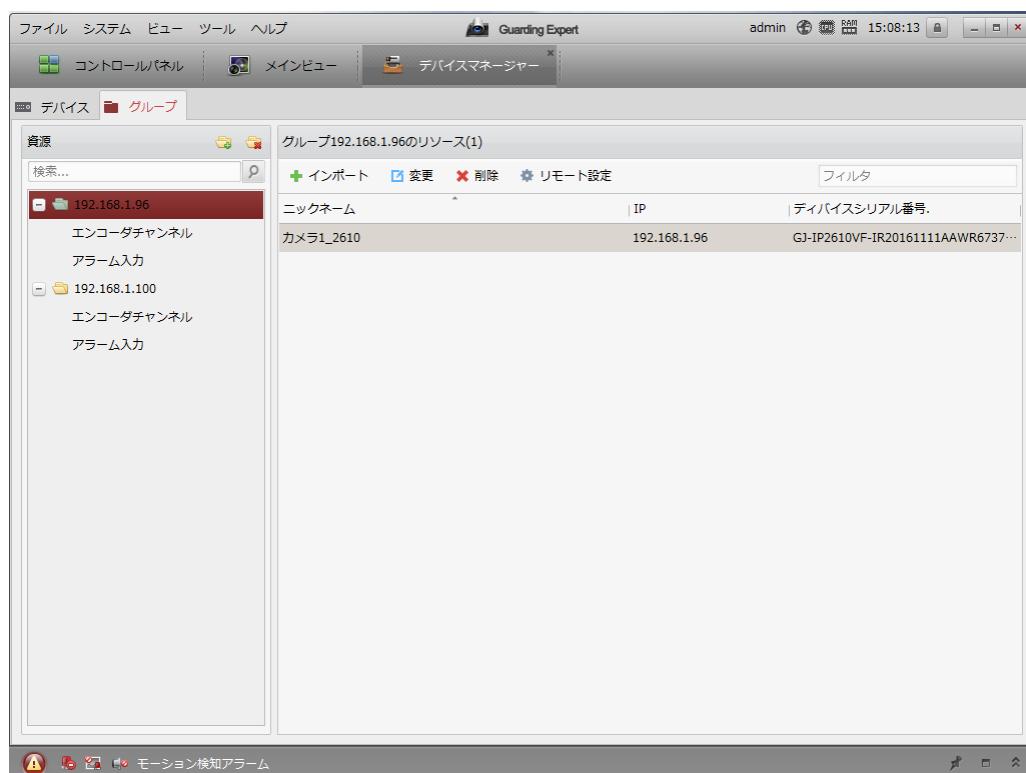
追加されたデバイスは、便利な管理のためにグループ化する必要があります。グループでライブビューを取得したり、ビデオファイルを再生したり、デバイスのその他の操作を行うことができます。

始める前に:

グループ管理のためにクライアントソフトウェアにデバイスを追加する必要があります。

グループ管理インターフェイスに入るには、次の手順を実行します。

1. 「デバイス管理」ページを開きます。
2. グループタブをクリックして、「グループ管理」インターフェイスに入ります。



グループの追加

手順:

1.  をクリックして、「グループの追加」ダイアログボックスを開きます。
 2. 必要に応じてグループ名を入力します。
 3. OKをクリックして、新しいグループをグループリストに追加します。
- 「デバイス名でグループを作成」チェックボックスをオンにすると、選択したデバイスの名前で新しいグループを作成することもできます。



エンコーディングデバイスをグループにインポートする

手順:

1. 「グループ管理インターフェイスでインポート」をクリックし、「エンコードチャンネル」タブをクリックして、「エンコードチャンネルのインポート」ページを開きます。

注意:

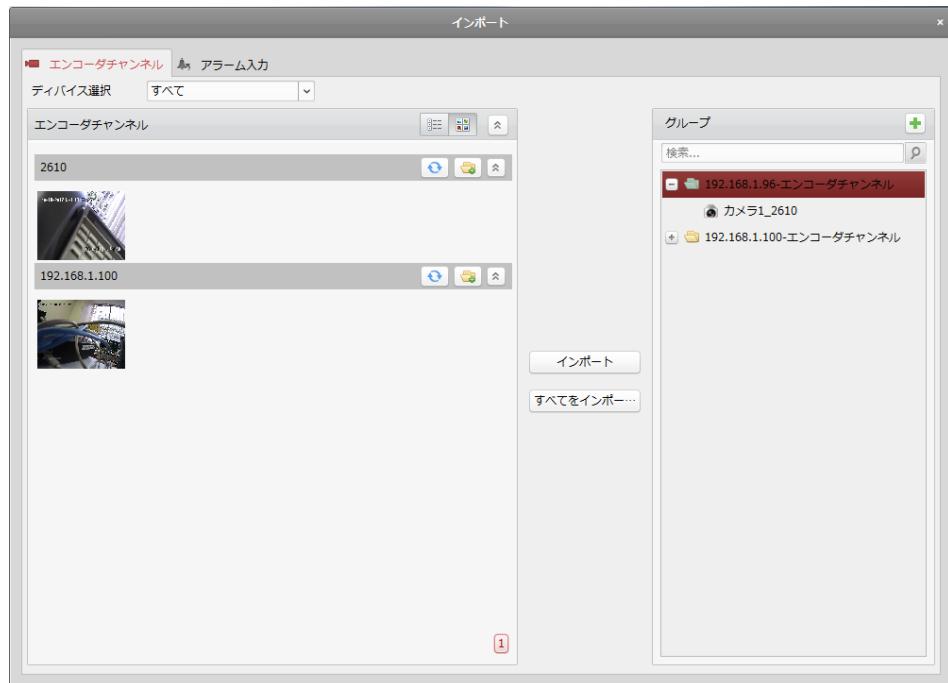
- アラーム入力タブを選択し、アラーム入力をグループにインポートすることもできます。
2. サムネイル/リストビューでカメラのサムネイル/名前を選択します。
 3. グループリストからグループを選択します。
 4. インポートをクリックして、選択したカメラをグループにインポートします。

すべてインポートをクリックして、すべてのカメラを選択したグループにインポートすることもできます。

注意:

- 「エンコードチャンネルのインポート」ページの  アイコンをクリックすると、新しいグループを追加することもできます。

- 最大256台のカメラを1つのグループに追加できます。



エンコーディングチャンネルのインポートページでは、次のボタンを使用できます。

	リストビュー	リストビューでカメラを表示します。
	サムネイル表示	カメラをサムネイル表示で表示します。
	リフレッシュ	追加されたカメラの最新情報を更新します。
	インポート	デバイス名 - エンコーディングチャンネル(アラーム入力)という名前のグループを作成し、デバイスをグループにインポートします。
	折りたたむ/展開	カメラのサムネイルを折りたたむ/展開する。

グループ/カメラの変更

手順:

1. インポートページのグループリストからグループ/カメラを選択します。

マウスをカメラ/グループに移動してクリックするか、グループ/カメラ名をダブルクリックして「グループ/カメラの変更」ダイアログボックスを開きます。

2. グループ/カメラ名、ストリームタイプなどのグループ/カメラ情報を編集します。

ビデオストリーム: 必要に応じてカメラのライブビューのストリームを選択します。

再生ストリームタイプ: 必要に応じて、カメラの再生用のストリームを選択します。

注意:

デバイスがデュアルストリームをサポートしている場合、再生ストリームタイプフィールドが表示されます。

回転タイプ: ライブビューまたはカメラの再生の回転タイプを必要に応じて選択します。

プロトコルタイプ: カメラの伝送プロトコルを選択します。

ストリームメディアサーバ: ストリームメディアサーバ経由でカメラのストリームを取得するように設定します。使用可能なストリームメディアサーバを選択して管理できます。

コピー先: 設定したパラメータを他のカメラにコピーします。

リフレッシュ: カメラのライブビューの新しいキャプチャーされた画像を取得します。

注意:

ビデオストリームとプロトコルタイプでは、カメラのライブビューを再度開いた後に新しい設定が有効になります。

3. OKをクリックして新しい設定を保存します。

また、エンコードされたチャンネルをエンコードした後、グループ管理インターフェイスのリソースリストでエンコードチャンネルをダブルクリックするか、エンコードチャンネルを選択して、

 **変更** クリックして、「カメラの変更」ダイアログボックスを開きます。



注意:

デコード機能をサポートするNVRのIPチャネルの場合:

- デコードしてビデオウォールに表示した後、プロトコルタイプがビデオウォールでデコードされている新しいチャネルがエンコードチャネルリソースリストに表示されます。
- 対応するローミングウィンドウを閉じた後、新しいチャネルがエンコードチャネルリソースリストから削除されます。

グループからのカメラの削除

手順:

- 「エンコーディングチャネルのインポート」ページのグループリストからカメラを選択します。

2. マウスをカメラに移動し、 削除 をクリックすると、グループからカメラが削除されます。また、グループ管理インターフェイスでカメラを選択し、削除をクリックしてグループからカメラを削除することもできます。
3. 「エンコーディングチャンネルのインポート」ページのグループリストからグループを選択し、マウスをグループに移動して  削除 をクリックすると、グループからすべてのカメラを削除できます。

グループの削除

手順:

1. グループ管理インターフェイスでグループを選択します。
2. グループの削除をクリックするか、マウスをグループに移動してアイコンをクリックすると、選択したグループとその下のリソースが削除されます。

第4章 ライブビュー

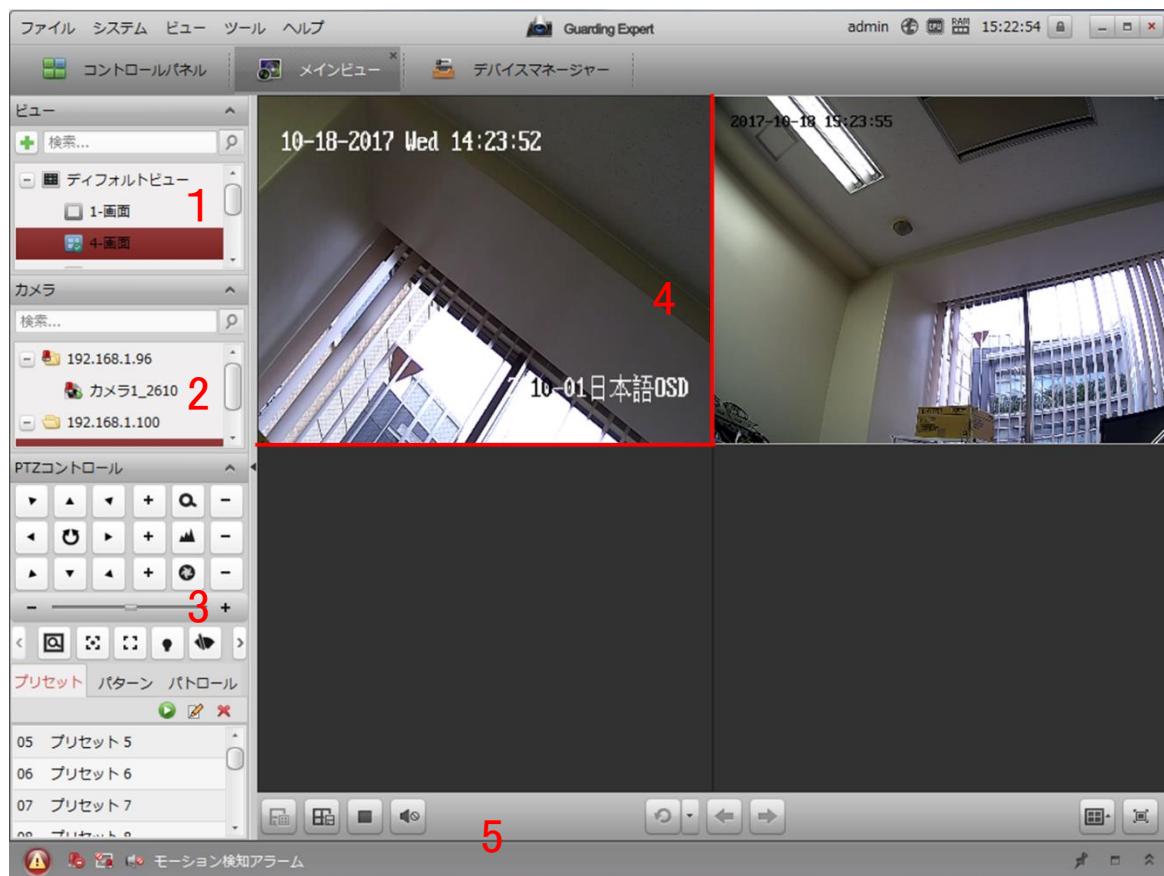
目的:

監視タスクでは、追加されたネットワークカメラ、ビデオエンコーダ、およびビデオインターフォンデバイスのライブビデオをメインビューページで表示できます。また、画像取り込み、手動録画、PTZ制御などの基本的な操作がサポートされています。

始める前に:

ライブビューでは、カメラグループを定義する必要があります。必要に応じてグループ管理で回転タイプを設定することができます。詳細は、「3.2 グループ管理-グループ/カメラの変更」を参照してください。

コントロールパネルの  アイコンをクリックするか、ビュー->メインビューをクリックしてメインビューページを開きます。



メインビューページ

1. ビューリスト
2. カメラリスト
3. PTZ コントロールパネル
4. ライブビューの表示ウィンドウ
5. ライブビューツールバー

カメラのステータス:

	カメラはオンラインで正常に動作しています。
	カメラはライブビュー中です。
	カメラは録画中です。
	カメラはオフラインです。

注意:

- カメラのイベント(動体検知など)が検出されると、カメラアイコンは  と表示され、グループアイコンは  と表示されます。
- カメラがオフラインの場合でも、ストリームメディアサーバが設定されていると、クライアントはストリームメディアサーバ経由でライブビデオを取得できます。カメラアイコンが  と表示されます。カメラのストリームメディアサーバを設定するには、「第 11 章 ストリームメディアサーバを経由したビデオストリームの転送」を参照してください。

ライブビューツールバー:

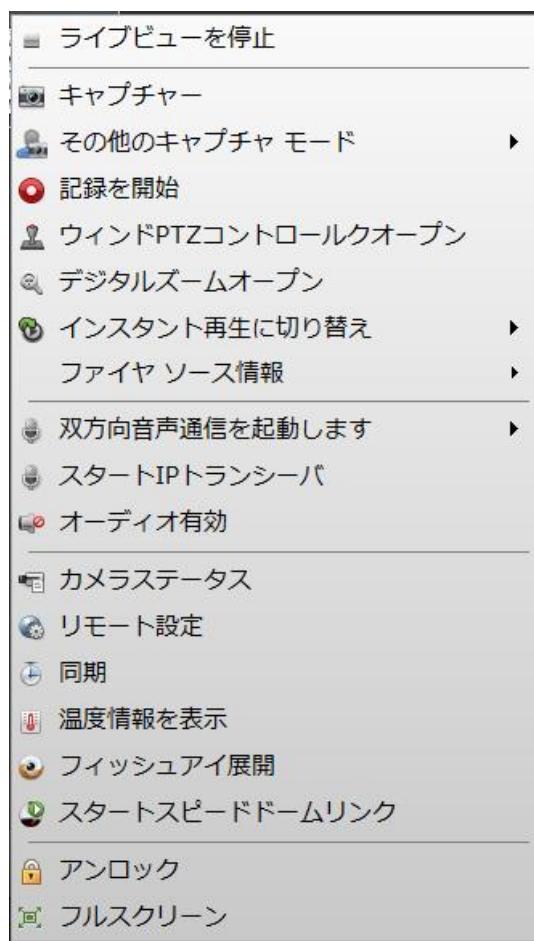


メインビューページには、次のツールバーボタンがあります。

	ビューを保存する	現在のビューの新しい設定を保存します。
	ビューを次のように保存する	現在のビューを別の新しいビューとして保存します。
	ライブビューを停止する	すべてのカメラのライブビューを停止します。
	ミュート/オーディオオン	ライブビューでオーディオのオン/オフを切り替えます。
	再開/一時停止オートスイッチ	ライブビューでオートスイッチを再開/一時停止する場合にクリックします。
	メニューの表示/非表示	オートスイッチの設定メニューの表示/非表示を切り替えます。もう一度クリックすると非表示になります。
	前へ	前のページのライブビューに移動します。
	次へ	次のページのライブビューに移動します。
	ウインドウ分割	ウインドウ分割を設定します。

	<p>全画面表示</p>	<p>全画面モードでライブビューを表示します。</p> <p>Escキーを押すか、マウスを画面の一番上に移動して「全画面終了」ボタンをクリックして終了します。</p> <p>「ロック」ボタンをクリックして画面をロックし、「ロック解除」をクリックしてクライアントの管理者パスワードを入力してロックを解除することができます。</p> <p>全画面自動切り替えの場合、「前へ」または「次へ」ボタンをクリックすると、前または次のカメラを表示できます。</p>
---	--------------	---

ライブビューの表示ウィンドウを右クリックして、ライブビュー管理メニューを開きます。



ライブビュー管理メニューを右クリックすると、次のボタンが使用できます。

	ライブビューを停止する	表示ウィンドウでライブビューを停止します。
	キャプチャー	ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。
	他のキャプチャーモード	キャプチャーされた画像をプリントする: 画像をキャプチャーしてプリントします。 電子メールの送信: 現在の画像をキャプチャーし、1つまたは複数の受信者に電子メール通知を送信します。

		す。キャプチャーした画像を添付することができます。
	録画の開始/停止	手動録画を開始/停止します。ビデオファイルは PC に保存されます。
	PTZ コントロールを開く	ディスプレイウィンドウで PTZ 制御機能を有効にします。もう一度クリックして、機能を無効にします。
	デジタルズームを開く	デジタルズーム機能を有効にします。もう一度クリックして、機能を無効にします。
	自動トラッキングを有効にする	スピードドームのオートトラッキング機能を有効にします。スピードドームは自動的にビデオに現れるオブジェクトを追跡します。このボタンはオートトラッキング機能をサポートするスピードドームでのみ使用できます。
	インスタント再生に切り替える	インスタント再生モードに切り替えます。
	火災情報	サーマルカメラの場合は、クリックすると火元の領域が表示され、最高の温度情報が表示され、最高温度領域を見つけて、火災源ターゲットを表示します。
	双方向オーディオの開始/停止	クリックすると、デバイスをライブビューで起動して双方向オーディオを開始/停止します。このボタンは、IP 双

		方向オーディオ機能をサポートするカメラでのみ使用できます。
	オーディオを有効/無効にする	クリックすると、ライブビューでオーディオを有効/無効にします。
	カメラのステータス	記録状態、信号状態、接続番号など、ライブビューでカメラの状態を表示します。
	リモート設定	ライブビューでカメラのリモート設定ページを開きます。
	VCA 設定	VCA デバイスの場合、デバイスのVCA 設定インターフェイスに入ります。
	同期	ライブビューでカメラがクライアントソフトウェアを実行している PC と同期させます。
	温度情報の表示/非表示	サーマルカメラの場合は、クリックすると、ライブビュー画像の温度を表示または非表示にします。
	フィッシュアイの拡張	フィッシュアイの拡張モードに入ります。詳しくは、「4.7 フィッシュアイのライブビュー」を参照してください。
	マスタースレーブリンクージの開始/停止	クリックすると、要求に応じてターゲットの検索や追跡を開始/停止します。デバイスがフィッシュアイカメラまたはボックス/バレットカメラの場合にのみ使用できます。

	ロックを解除する	デバイスがドアステーション、アウタードアステーションまたはドアステーション(V シリーズ)の場合は、クリックすると、ドアのリモートロックを解除します。
	全画面表示	全画面モードでライブビューを表示します。アイコンをもう一度クリックすると、終了します。

4.1 ライブビューの開始と停止

1台のカメラでライブビューを開始する

手順:

1. メインビューページを開きます。
2. 必要に応じて、ライブビューツールバーの  アイコンをクリックして、ライブビューのウィンドウ分割モードを選択します。
3. カメラを表示ウィンドウにクリック&ドラッグするか、表示ウィンドウを選択してカメラ名をダブルクリックして、ライブビューを開始します。

注意:

必要に応じて、ライブビューのカメラのビデオを別のディスプレイウィンドウにクリック&ドラッグすることができます。

カメラグループのライブビューを開始する

手順:

1. メインビューページを開きます。
2. グループをクリックして表示ウィンドウにドラッグするか、グループ名をダブルクリックしてライブビューを開始します。

注意:

表示ウィンドウ番号は、グループのカメラ番号に自己適応的です。

デフォルトビューモードでのライブビューを開始する

目的:

追加されたカメラのビデオは、異なるビューモードで表示することができます。4つの頻繁に使用されるデフォルトのビューモードは、1画面、4画面、9画面、および16画面から選択できます。

手順:

1. メインビューページを開きます。
2. ビューパネルでアイコン  をクリックして、デフォルトの表示リストを展開します。
3. クリックするとデフォルトのビューモードが選択され、追加されたカメラのビデオが選択されたビューのシーケンスで表示されます。

注意:



をクリックすると、既定のビューをカスタムビューとして保存できます。

マウスをビューに移動すると、次のアイコンを使用できます。

	インスタント再生を開始する	ビューのインスタント再生を開始します。
	オートスイッチを開始する	ビューの自動切り替えを開始します。詳細は、「4.2 ライブビューのオートスイッチ」を参照してください。



カスタムビューモードでライブビューを開始する

目的:

ビューモードは、ビデオライブビュー用にカスタマイズすることもできます。

手順:

1. メインビューページを開きます。
2. ビューパネルで、アイコン  をクリックしてカスタム表示リストを展開します。使用可能なカスタムビューがある場合、クリックすると、カスタムビューのライブビューを開始できます。
3.  クリックすると新しいビューが作成されます。
4. ビュー名を入力し、**追加**をクリックします。新しいビューはデフォルトで 4 画面モードです。
5. 必要に応じて、ライブビューツールバーのアイコン  をクリックし、新しいビューの画面レイアウトモードを選択します。
6. カメラ/グループを表示ウィンドウにクリックしてドラッグするか、カスタム表示モードでカメラ/グループ名をダブルクリックしてライブビューを開始します。
7. アイコン  をクリックして、新しいビューを保存します。また、 をクリックして別のカスタム表示として表示を保存することもできます。

マウスをカスタムビューに移動すると、次のアイコンを使用できます。

	ビュー名の編集	カスタムビューの名前を編集します。
	ビューの削除	カスタムビューを削除します。

	インスタント再生の開始	ビューのインスタント再生を開始します。
---	-------------	---------------------



ライブビューを停止する

手順:

1. 表示ウィンドウを選択します。
2. マウスポインタが表示ウィンドウの上にある時に右上隅に表示されるアイコン  をクリックするか、または右クリックメニューの「ライブビューの停止」をクリックすると、表示ウィンドウのライブビューが停止します。

ライブビューツールバーのボタン  をクリックして、ライブビューをすべて停止することもできます。

4.2 ライブビューのオートスイッチ

カメラオートスイッチ

目的:

同じグループのカメラのビデオストリームは、カメラの自動切り替えで選択された表示ウィンドウで自動的に切り替わります。

手順:

1. メインビューページを開きます。
2. カメラのオートスイッチの表示画面を選択します。
3. ツールバーのアイコン  をクリックし、切り替え間隔を選択またはカスタマイズします。
4. グループを選択し、グループノードのアイコン  をクリックします。
5. アイコン  /  をクリックすると、カメラのオートスイッチを一時停止/再開できます。
6.  または  をクリックして、前または次のカメラのライブビデオを表示します。

マルチビューオートスイッチ

目的:

カスタムビューはマルチビューオートスイッチで自動的に切り替わります。続行する前に、カスタムビューを追加する必要があります。

手順:

1. メインビューページを開きます。
2. ツールバーのアイコン  をクリックし、切り替え間隔を選択します。

3. カスタム表示モードでアイコン  をクリックします。
4. アイコン  /  をクリックすると、マルチビューオートスイッチを一時停止/再開できます。
5.  または  をクリックして、前または次のカメラのライブビデオを表示します。

4.3 ライブビューでの PTZ コントロール

このソフトウェアは、パン/チルト/ズーム機能を備えたカメラに PTZ 制御を提供します。PTZ コントロールパネルでカメラのプリセット、パトロール、パターンを設定することができます。また、PTZ カメラの操作用のウィンドウ PTZ コントロールを開くこともできます。

アイコン  をクリックして PTZ コントロールパネルを展開します。



PTZ コントロールパネルには、次のボタンがあります。



ズーム



フォーカス



アイリス



3D ポジショニング



補助フォーカス



レンズの初期化



ライト



ワイパー



手動トラッキング



メニュー



ワンタッチパトロー
ル



ワンタッチパーク

注意:

- アナログスピードドームの場合、をクリックしてローカルメニューを表示できます。メニューの詳細な操作については、スピードドームのユーザマニュアルを参照してください。

- 自動追跡機能を備えたスピードドームの場合は、右クリックメニューから自動追跡を有効にし、 をクリックしてビデオをクリックしてターゲットを手動で追跡することができます。
- ワンタッチパトロール機能は、A ボタンをクリックすると、ワンタッチパトロール機能は、 ボタンをクリックすると、一定時間(パークタイム)経過したあと、プリセット No.1 からプリセット No.32 までスピードドームがパトロールを開始します。パークタイムの設定についてはスピードドームのユーザマニュアルを参照してください。
- ワンタッチパーク機能を備えたスピードドームの場合は、 をクリックしてワンタッチパークを有効にし、スピードドームが現在のビューをプリセット No.32 に保存します。一定時間(パークタイム)の時間が経過すると、自動的にプリセット No.32 でパーキングが開始されます。パークタイムの設定についてはスピードドームのユーザマニュアルを参照してください。

プリセットの設定

プリセットは、パン、チルト、フォーカスおよび他のパラメータの情報を含む、予め定義された画像位置である。

プリセットを追加するには、次の手順を実行します。

1. プリセットボタンをクリックして、PTZ プリセット設定パネルに入ります。
2. PTZ コントロールパネルの方向ボタンと他のボタンをクリックして、カメラを目的のビューに移動します。
3. プリセットリストから PTZ プリセット番号を選択し、 をクリックします。
4. ポップアップダイアログボックスにプリセットの名前を入力します。
5. OK をクリックして設定を保存します。

設定されたプリセットを呼び出すには、プリセットをダブルクリックするか、プリセットを選択してアイコン  をクリックします。

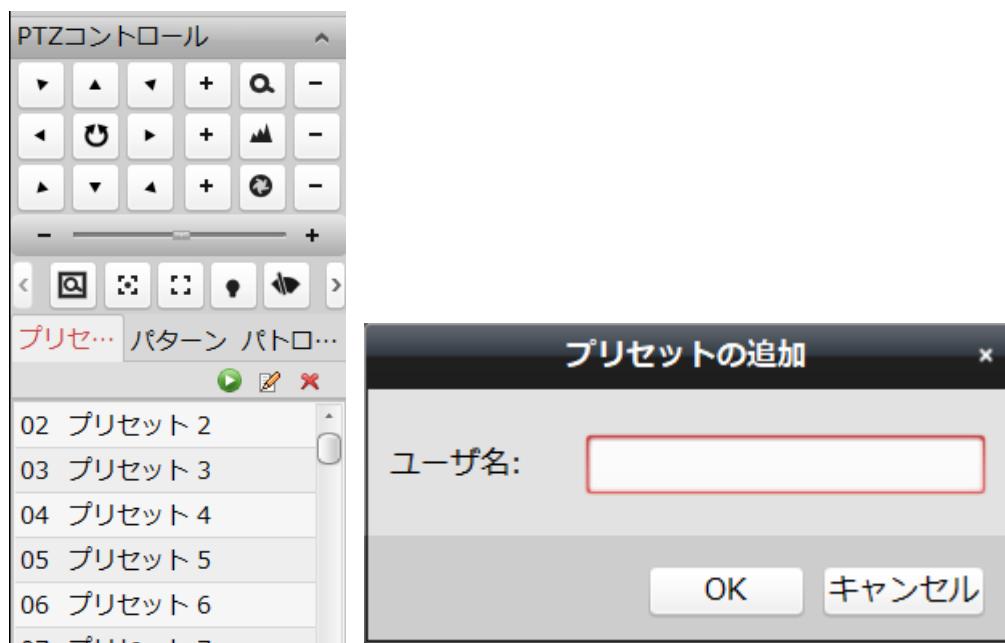
また、次の手順を実行してプリセットを呼び出します。

手順:

1. ライブビューウィンドウをクリックして選択します。
2. プリセット 1~9 の場合は、対応する数字キー(例:4)をクリックしてプリセットを呼び出します。他のプリセットの場合は、"["、数字キー(例:124)、"] "をクリックしてプリセットを呼び出します。

設定されたプリセットを変更するには、リストからプリセットを選択し、アイコン  をクリックします。

設定されたプリセットを削除するには、リストからプリセットを選択し、アイコン  をクリックします。



パターンの設定

パターンは、記憶された繰り返しの一連のパン、チルト、ズーム、およびプリセット機能です。

パターンを追加するには、次の手順を実行します。

1. パターンボタンをクリックして、PTZ パターン設定パネルに入ります。

2.  をクリックして、このパターンパスの記録を開始します。

3. 方向ボタンを使用して、PTZ の動きを制御します。

4.  をクリックして、パターン記録を停止して保存します。

5. アイコン  をクリックしてパターンを呼び出します。パターンの呼び出しを停止するには、 をクリックします。

6. (オプション)  をクリックして、選択したパターンを削除します。  をクリックして、すべてのパターンを削除します。



パトロールの設定

パトロールは、2つのプリセット間のスキャン速度とプリセットでの滞留時間を別々にプログラム可能な、ユーザ定義プリセットのグループによって指定されたスキャントラックです。

始める前に:

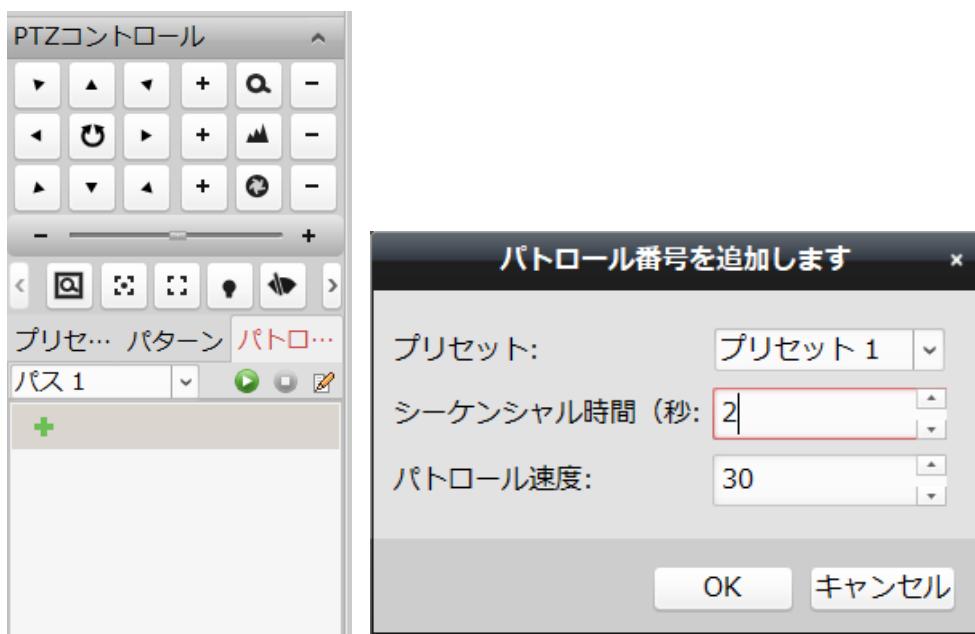
1台のPTZカメラに2つ以上のプリセットを追加する必要があります。

パトロールを追加して呼び出すには、次の手順を実行します。

1. パトロールボタンをクリックして、PTZパトロール設定パネルに入ります。
2. ドロップダウンリストからトラック番号を選択します。
3.  をクリックしてプリセットを追加し、プリセットの滞留時間と巡回速度を設定します。
4. 上記の操作を繰り返して、他のプリセットをパトロールに追加します。
5. オプションで、 または  をクリックしてパトロールパスのプリセットを編集または削除することができます。
6. アイコン  をクリックしてパトロールを呼び出します。パトロールの呼び出しを停止するには、 をクリックします。

注意:

設定された滞留時間は1~30秒に設定することができ、巡回速度はレベル1~40に設定することができます。



4.4 手動録画とキャプチャー

各ライブビュー表示ウィンドウのツールバー:



各ライブビュー表示ウィンドウには、次のツールバーボタンがあります。

	ライブビューを停止する	表示ウィンドウでライブビューを停止します。
	キャプチャー	ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。キャプチャー画像はPCに保存されます。
	録画の開始/停止	手動録画を開始/停止します。ビデオファイルはPCに保存されます。
	PTZ コントロールの オープン/クローズ	スピードドーム用のPTZモードの開始/停止します。ビューでクリックしてドラッグして、PTZコントロールを実行します。
	双方向オーディオの 開始/停止	クリックすると、デバイスをライブビューで起動して双方向オーディオを開始/停止します。
	デジタルズームの オープン/クローズ	デジタルズーム機能を有効にします。機能を無効にするにはもう一度クリックします。
	インスタント再生に切り替える	瞬時再生モードに切り替えます。

	リモート設定	ライブビューでカメラのリモート設定ページを開きます。
---	--------	----------------------------

注意:

システム設定で必要に応じて、アイコンとアイコンの順序をカスタマイズできます。詳細は、「18.2.5 ツールバーの設定」を参照してください。

ライブビューによる手動録画

目的:

手動録画機能を使用すると、ライブビデオをメインビューページに手動で記録することができ、ビデオファイルはローカル PC に保存されます。

手順:

1. ライブビューの表示ウィンドウにマウスポインタを移動すると、ツールバーが表示されます。
2. 表示ウィンドウのツールバーで  クリックするか、ライブビュー管理メニューを右クリックして手動録画を開始します。アイコン  が  に変わります。
3. アイコン  をクリックすると、マニュアル録画を停止します。

すべての操作が成功すると、録画したビデオファイルの保存パスを含むプロンプトがポップアップします。

注意:

- マニュアル録画中は、インジケーター  は、表示ウィンドウの右上隅に表示されます。
- ビデオファイルの保存パスは、システム設定インターフェイスで設定できます。詳細は、「18.2.4 パス設定の保存」を参照してください。
- Hik-Connect デバイスの場合、ライブビューでは手動録画はサポートされていません。

ローカルビデオファイルの表示

手順:

1. ファイル > ビデオファイルを開くをクリックして、ビデオファイルページを開きます。

2. カメラグループリストから、検索するカメラを選択します。

3. アイコン  をクリックして、検索の開始時刻と終了時刻を指定します。

4. 検索をクリックします。開始時刻と終了時刻の間に記録されたビデオファイルが表示されます。

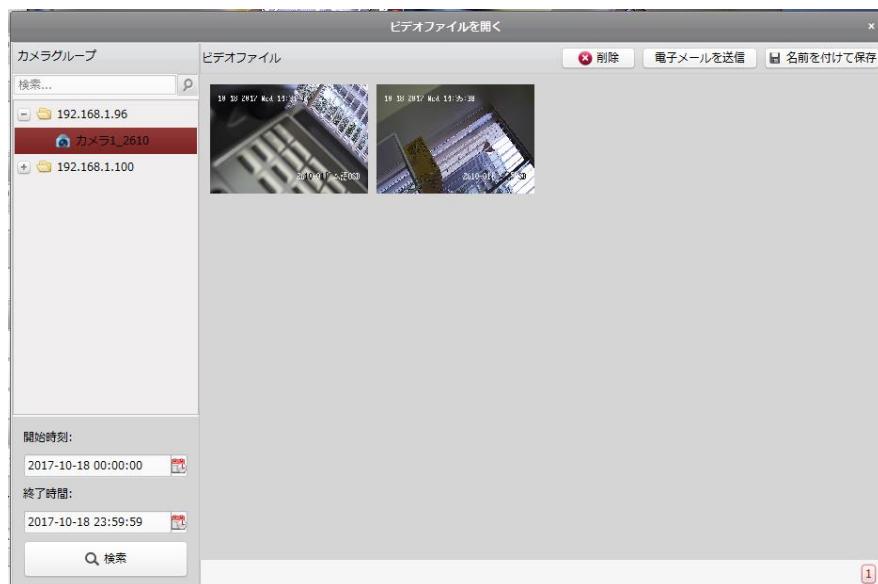
ビデオファイルを選択し、削除をクリックします。ビデオファイルを削除することができます。

ビデオファイルを選択し、電子メールの送信をクリックします。選択したビデオファイルが添付された電子メール通知を送信できます。

ビデオファイルを選択し、名前を付けて保存をクリックします。ビデオファイルの新しいコピーを保存することができます。

注意:

電子メール通知を送信するには、続行する前に電子メール設定する必要があります。詳細は、「18.2.8 電子メール設定」を参照してください。



ビデオファイルをダブルクリックすると、ビデオファイルをローカルで再生できます。



ローカル再生ページでは、次のボタンを使用できます。

	CiF/4CiF	ビデオを CiF/4CiF 解像度で表示します。
	全画面表示	ローカル再生ページを全画面モードで表示します。
	閉じる	ビデオファイルのローカル再生ページを閉じます。
	一時停止/再生	ビデオファイルの再生を一時停止/開始します。
	停止	ビデオファイルの再生を停止します。

	スピード	ビデオファイルの再生を停止します。
	シングルフレーム	フレーム単位でビデオファイルを再生します。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効にします。再度クリックすると無効になります。
	オーディオを有効/無効にする	クリックすると、ローカル再生時にオーディオを有効/無効にします。
	キャプチャー	再生プロセスで画像をキャプチャします。

ライブビューでの画像のキャプチャー

手順 :

1. ライブビューの表示ウィンドウにマウスポインタを移動すると、ツールバーが表示されます。
2. 表示ウィンドウのツールバーのアイコン  をクリックするか、ライブビュー管理メニューを右クリックします。

キャプチャーした画像の小さなウィンドウが表示され、キャプチャー操作が行われたかどうかが通知されます。

注意 :

キャプチャーされた画像の保存パスは、システム設定インターフェイスで設定できます。詳細は、「18.2.4 パス設定の保存」を参照してください。

キャプチャーされた画像の表示

ライブビューでキャプチャーされた画像は、ソフトウェアを実行している PC に保存されます。必要に応じて、キャプチャーした画像を表示できます。

手順 :

1. ファイル->画像ファイルを開くクリックして、「キャプチャーされた画像」ページを開きます。
2. カメラグループリストから、検索するカメラを選択します。
3. アイコン  をクリックして、検索の開始時刻と終了時刻を指定します。
4. 検索をクリックします。開始時刻と終了時刻の間にキャプチャーされた画像が表示されます。
5. キャプチャーされた画像をダブルクリックすると拡大表示され、より見やすくなります。

キャプチャーした画像を選択し、印刷をクリックします。選択した画像を印刷することができます。

キャプチャーした画像を選択し、削除をクリックします。選択した画像を削除することができます。

キャプチャーした画像を選択し、メールの送信をクリックします。選択した画像が添付された電子メール通知を送信できます。

キャプチャーされた画像を選択し、名前を付けて保存をクリックします。選択した画像の新しいコピーを保存することができます。

IVMS-4200 クライアントソフトウェア



4.5 インスタント再生

目的:

ビデオファイルはメインビューページで瞬時に再生できます。インスタント再生では、注目されたビデオ、または最初の視界では不明瞭だったビデオが表示されます。したがって、必要に応じてすぐにレビューを取得することができます。

始める前に:

ビデオファイルは、DVR、NVR、ネットワークカメラなどの SD / SDHC カードや HDD、ストレージサーバなどのストレージデバイスに記録する必要があります。

手順:

1. ライブビューを開始し、表示ウィンドウにマウスを移動すると、ツールバーが表示されます。また、マウスをデフォルトビューまたはカスタムビューに移動し、 をクリックすると、選択したビューのインスタント再生を有効にすることもできます。
2. ツールバーのアイコン  をクリックすると、期間のリストがポップアップします。
30 分、1 分、3 分、5 分、8 分、および 10 分が選択可能です。
3. インスタント再生を開始する時間を選択します。
例: ライブビューの現在の時間が 09:30:00 で、3 分を選択すると、インスタント再生は 09:27:00 から開始されます。
4. アイコン  をもう一度クリックすると、インスタント再生が停止し、ライブビューに戻ることができます。

注意:

インスタント再生中は、インジケーター  が表示ウィンドウの右上隅に表示されます。



インスタント再生ページでは、次のツールバー ボタンを使用できます。

	リバース再生	ビデオファイルをリバース再生します。
	再生の一時停止/開始	ビデオファイルの再生を一時停止/開始します。
	再生の停止	すべてのカメラの再生を停止します。
	スロー再生/早送り	再生の再生速度を下げ/上ります。
	シングルフレーム(リバース)	ビデオファイルをフレームごとに(リバース)再生します。

表示 ウィンドウを右クリックして、インスタント再生管理メニューを開きます。



右クリックのインスタント再生管理メニューでは、次のボタンを使用できます。

	リバース再生	ビデオファイルをリバース再生します。
	一時停止/再生	表示ウィンドウでインスタント再生を一時停止/開始します。
	停止	インスタント再生を停止し、ライブビュー モードに戻ります。
	早送り/スロー再生	インスタント再生の再生速度を増減します。
	シングルフレーム(リバース)	ビデオファイルをフレームごとに(リバース)再生します。

	デジタルズームの オープン	デジタルズーム機能を有効にします。機能を無効にするにはもう一度クリックします。
	キャプチャー	インスタント再生プロセスで画像をキャプチャーします。
	その他のキャプチャーモード 録音の開始/停止	キャプチャーされた画像をプリントする: 画像をキャプチャーしてプリントします。 電子メールの送信: 現在の画像をキャプチャーし、1つまたは複数の受信者に電子メール通知を送信します。キャプチャーした画像を添付することができます。 カスタムキャプチャー: 現在の画像をキャプチャーします。名前を編集して保存することができます。
	録画の開始/停止	ビデオファイルをクリップする開始/停止します。
	オーディオを 有効/無効にする	クリックするとインスタント再生時に音声がオン/オフされます。
	ライブビューに切り替える	ライブビューモードに切り替えます。
	全画面表示	全画面モードでインスタント再生を表示します。もう一度クリックすると終了します。

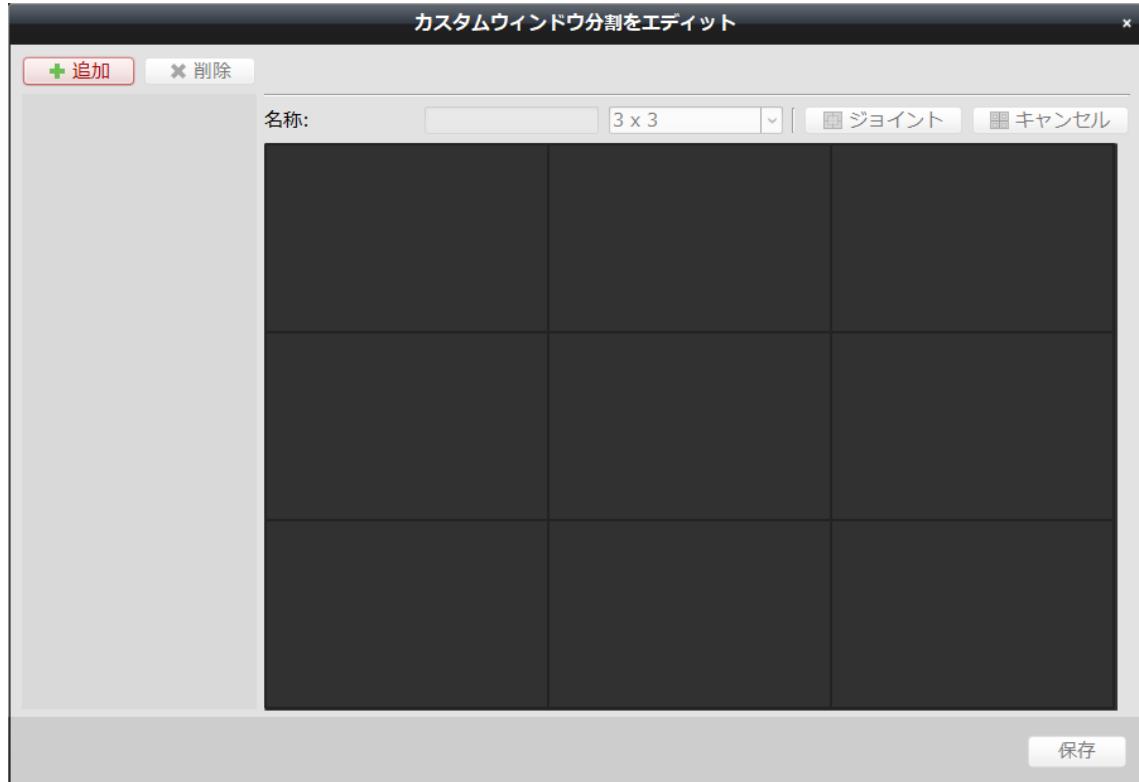
4.6 カスタムウィンドウ分割

目的 :

クライアントソフトウェアは、複数の種類の事前定義されたウィンドウ分割を提供します。必要に応じてカスタムウィンドウ分割を設定することもできます。

手順 :

1. ライブビューツールバー  をクリックし、 を選択してカスタムウィンドウ分割ダイアログボックスを表示します。

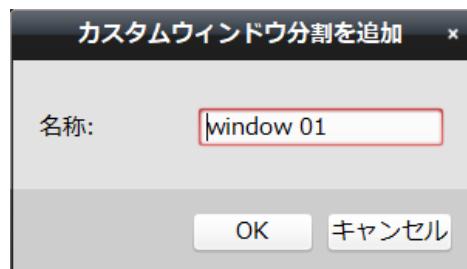


2. **追加** をクリックして、カスタムウィンドウ分割の追加ダイアログボックスを開きます。

注意 :

最大 5 つのカスタムウィンドウ分割を追加できます。

3. 必要に応じて新しいウィンドウ分割の名前を設定し、OK をクリックして設定を保存します。



4. 名前、ウィンドウ分割(3x3,4x4,5x5)を編集できます。
5. マウスをクリックしてドラッグすると、隣接するウィンドウが選択され、ジョイントをクリックするとウィンドウ全体として結合されます。キャンセルをクリックして、ジョイントをキャンセルできます。



6. 保存をクリックして設定を確定します。  をクリックしてメインビューページに戻ります。次に、  をクリックし、ライブビデオを再生するカスタムウィンドウ分割を選択します。

注意 :

- また、リモート再生ページに入り、上記の手順を実行してカスタムウィンドウ分割を設定することもできます。
- リモート再生では、最大 16 個のウィンドウを同時に再生することができます。16 個以上のウィンドウを持つカスタムウィンドウ分割は、再生には無効です。

4.7 フィッシュアイモードでのライブビュー

目的:

カメラのライブビデオは、フィッシュアイ拡張モードで再生できます。

手順:

1. ライブビューを開始します。(「4.1 ライブビューの開始と停止」を参照してください。)
2. ビデオを右クリックし、フィッシュアイ拡張を選択して、フィッシュアイ拡張ウィンドウに入ります。
3. 実際の取り付け位置に合わせてフィッシュアイカメラの取り付けタイプを選択してください。
4. ライブビューの展開モードは、必要に応じて選択できます。

注意:

一部のデバイスでは、デバイスのマウントタイプを選択することができ、関連する拡張モードが表示されます。



- **フィッシュアイ:** フィッシュアイビューモードでは、カメラの全広角ビューが表示されます。この視点モードは魚眼レンズの視線に近似するため、フィッシュアイと呼ばれます。レンズは、画像内の物体の視点および角度を歪ませながら、広い領域の曲線画像を生成します。
- **パノラマ/ デュアル-180° パノラマ/ 360° パノラマ:** パノラマ表示モードでは、いくつの較正方法によって、歪んだフィッシュアイ画像が通常の透視画像に変換されます。
- **PTZ:** PTZ ビューは、フィッシュアイビューまたはパノラマビューのいくつかの定義された領域のクローズアップビューです。 e-PTZ とも呼ばれる電子 PTZ 機能をサポートしています。

注意:

各 PTZ ビューは、特定のナビゲーションボックスでフィッシュアイビューとパノラマビューの上にマークされています。フィッシュアイビューまたはパノラマビューのナビゲーションボックスをドラッグして PTZ ビューを調整するか、または PTZ ビューをドラッグしてビューを希望の角度に調整できます。

5. ウィンドウを右クリックして、キャプチャーを選択すると、ライブビュープロセスで画像をキャプチャーできます。キャプチャー画像は PC に保存されます。
6. 再生中のウィンドウを右クリックすると、選択したウィンドウを全画面モードに切り替えることができます。キーボードの ESC キーを押すか、ウィンドウを右クリックして全画面終了を選択すると、全画面モードが終了します。

PTZ コントロール

PTZ モードでは、PTZ コントロールを使用して PTZ ウィンドウを調整できます。

注意: PTZ パネルはデバイスによって異なります。

- PTZ ウィンドウを選択し、1 つ方向ボタンをクリックしてビューアングルを調整します。

注意: フィッシュアイまたはパノラマウィンドウの番号ラベルをクリックしてドラッグすると、PTZ ウィンドウの表示角度も変更されます。

- PTZ ウィンドウを選択し、 をクリックして自動スキャンを開始し、再度クリックすると自動スキャンが停止します。
-  : スライダをドラッグして、PTZ の移動速度を調整します。
-  :  または  をクリックして、選択した PTZ ウィンドウをズームインまたはズームアウトします。または、マウスホイールをスクロールしてズームインまたはズームアウトすることもできます。

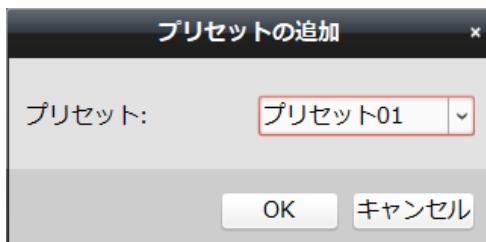
プリセット

注意: プリセットは特定のフィッシュアイカメラのみでサポートされています。

プリセットは、ユーザ定義のモニタ位置/ポイントです。プリセット No.を呼び出して、モニタシーンを定義された位置に変更することができます。プリセットを設定するには、以下の手順に従ってください。

手順:

1. プリセットタブをクリックして、「プリセット設定」インターフェイスに入ります。
2. PTZ ウィンドウを選択し、プリセットとしてマークしたい場所にシーンを調整します。
3.  をクリックしてプリセット名を入力し、OK をクリックしてプリセットを保存します。



4. (オプション)  をクリックすると、設定済みのプリセットが呼び出されます。
5. (オプション)  をクリックすると、設定されたプリセットが削除されます。

パトロール

注意: プリセットは特定のフィッシュアイカメラのみでサポートされています。

パトロールは、2つのプリセット間のスキャン速度とプリセットでの滞留時間を別々にプログラム可能な、ユーザ定義プリセットのグループによって指定されたスキャントラックです。パトロールを設定するには、以下の手順に従ってください。

注意:

パトロールを設定する前に、少なくとも2つのプリセットを設定する必要があります。

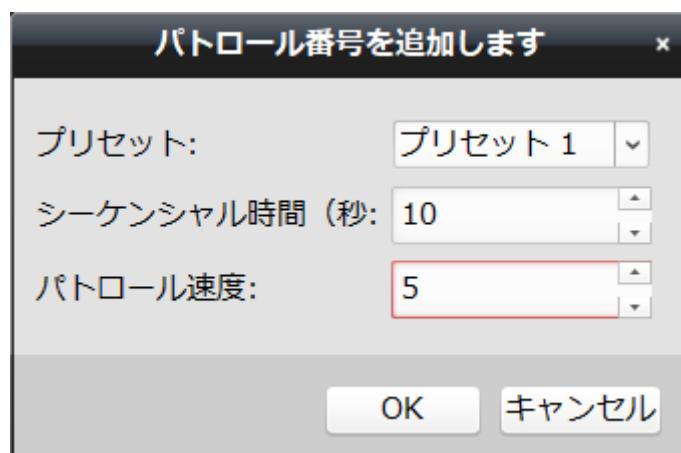
手順:

1. パトロールタブをクリックして、「パトロール設定」インターフェイスに入ります。

2. ドロップダウンリストからパス番号を選択します。

3.  クリックすると、設定されたプリセットが追加され、プリセットの滞留時間とパトロール速度が設定されます。

4. 他のプリセットをパトロールに追加するには、上記の操作を繰り返します。



5.  クリックするとパトロールが開始され、 クリックするとパトロールが停止します。

6. オプションで、 または  クリックして、パトロールパスにプリセットを編集または削除することができます。

注意:

- 最大 256 のプリセットを設定できます。
- 最大 32 パトロールまで設定できます。
- 滞留時間は 1~120 秒の範囲である。
- パトロール速度は 1~40 の範囲です。

4.8 マスタースレーブリンクージの開始

目的:

フィッシュアイカメラとボックス/バレットカメラはマスタースレーブリンクージ機能をサポートしており、要求に応じてターゲットをみつけたり追跡したりすることができます。

注意:

- この機能は特定のフィッシュアイまたはボックス/バレットカメラでのみサポートされています。
- オートトラッキング機能付きのスピードドームをカメラの近くに設置する必要があります。

フィッシュアイカメラのマスタースレーブリンクージ

手順:

1. フィッシュアイカメラのパノラマビューを右クリックし、リモート設定を選択して「リモート設定」インターフェイスに入ります。
2. フィッシュアイメニューをクリックして、次のインターフェイスに入ります。



3. スピードドームの取り付けタイプを選択し、フィッシュアイカメラのストリームモードを選択します。
4. ログインをクリックして、スピードドームを追加します。



デバイスの IP アドレス、ポート番号、ユーザ名、パスワードを入力し、ログインをクリックします。

- PTZ コントロールをクリックし、方向矢印を使用してスピードドームを水平位置に調整します。

注意:

スピードドームが水平位置に調整されている場合、傾斜度は 0 に近くなります。

- 水平線をクリックして水平線を設定します。水平線を設定すると「水平線を設定しました」というメッセージが表示されます。
- No.1 キャリブレーションクロスをフィッシュアイカメラの中央に移動すると、フィッシュアイカメラの下に小さな画像が表示されます。PTZ を使用してスピードドームを同じ位置に調整し、キャリブレーション 1 をクリックしてキャリブレーション設定を終了します。
- No.2 キャリブレーションクロスを 2 番目の位置に移動し、PTZ を使用してスピードドームを同じ位置に調整し、キャリブレーション 2 をクリックして 2 番目のキャリブレーション設定を終了します。

注意: クリアをクリックすると、設定されているキャリブレーションを削除できます。

- リンクをクリックして、スピードドームをフィッシュアイカメラにリンクします。
- トラッキングパラメータをクリックして、トラッキング方法を選択します。

注意:

- スピードドームリンクは、これらのアラームのいずれかがトリガされた場合に、侵入検知とラインクロス検知のリンク方法として機能します。
- フィッシュアイカメラのライブビューウィンドウを右クリックして、リモート設定>イベント>侵入/ラインクロスに入り、「スマートトラッキング」チェックボックスをオンにしてトラッキング機能を有効にします。

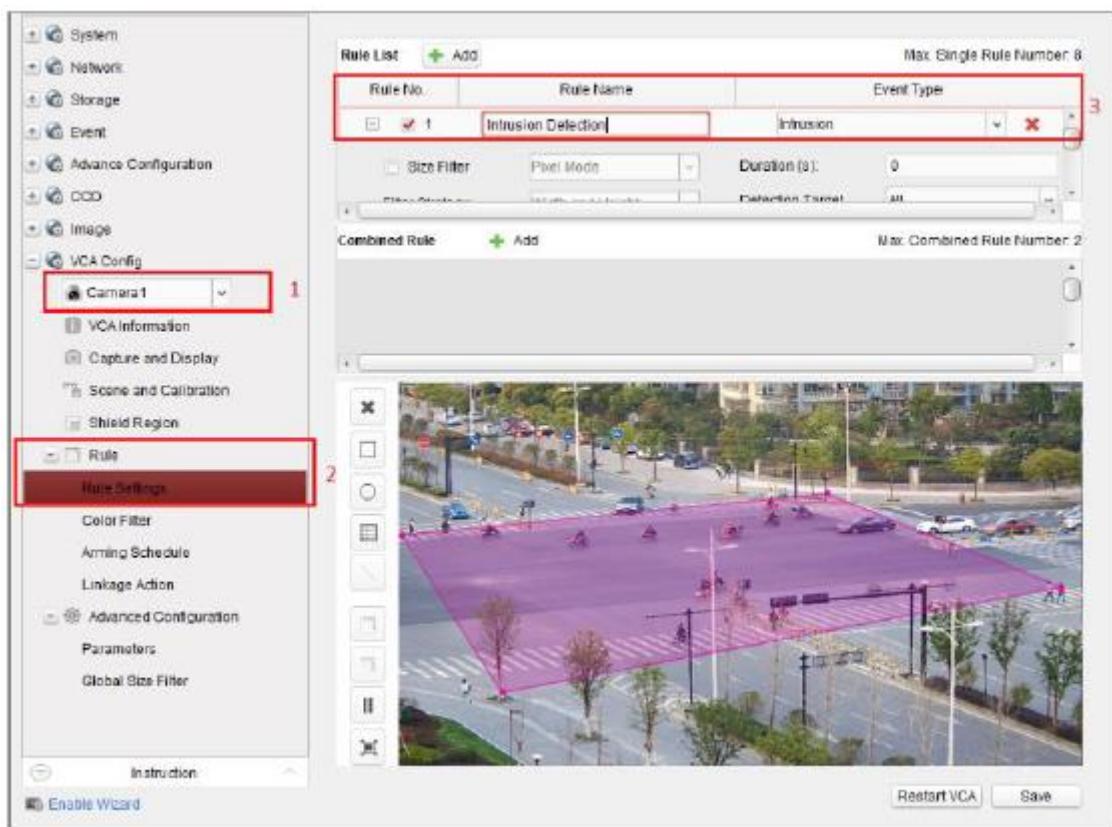
- 保存をクリックして設定を保存します。
- (オプション)パノラマ表示を右クリックし、「マスタースレーブリンクの開始」を選択することができます。次に、フィッシュアイカメラのライブビューでターゲットをクリックすることで、ターゲットを手動で追跡するスピードドームを作成できます。

注意: スピードドームリンクを見たい場合は、スピードドームをソフトウェアに追加し(「3.1 デバイスの追加」)、ライブビュー(「4.1 ライブビューの開始と停止」)を開始する必要があります。

ボックス/バレットカメラのマスタースレーブリンクージ

手順:

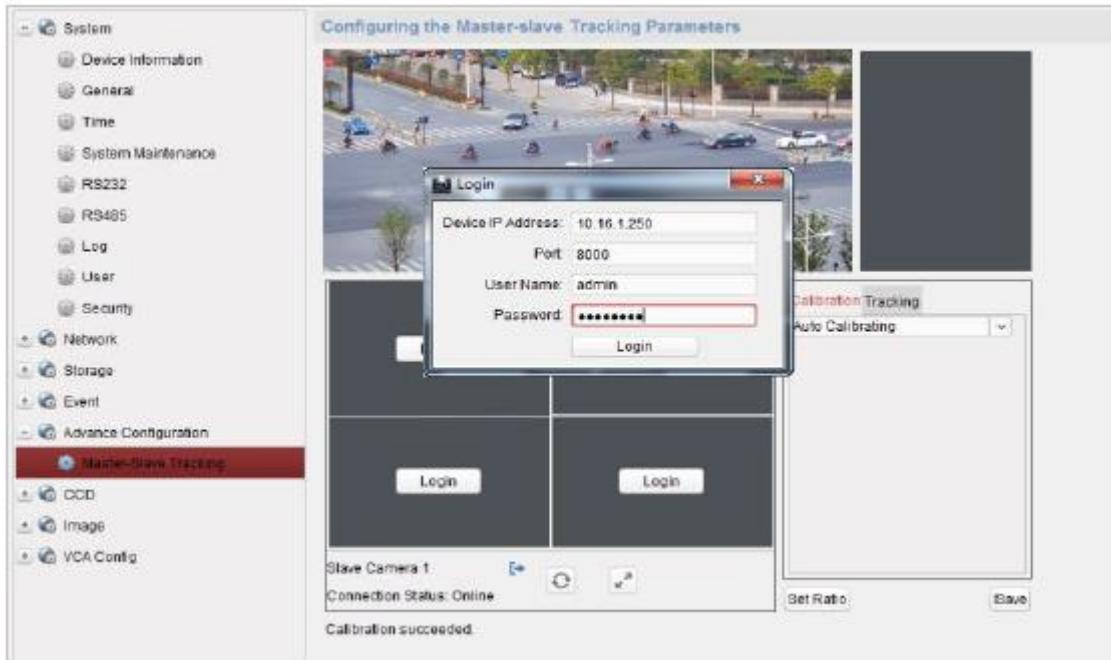
1. リモート設定>VCA 設定>ルール>ルール設定に進みます。

2. カメラ番号 1 を選択し、 をクリックしてルールを追加します。3. イベントタイプとして「侵入」を選択し、 をクリックして侵入ルールのゾーンを描画し、保存をクリックして設定を保存します。

4. スピードドームにログインします。

- 1) リモート設定インターフェイスで、**詳細設定>マスタースレーブトラッキング**を選択して、ログインインターフェイスを表示します。
- 2) ログインボタンをクリックすると、スピードドームのログインダイアログボックスが表示されます。

3) 必要な情報を入力します。



5. PTZ をクリックし、方向矢印を使用してスピードドームを水平位置に調整します。
6. キャリブレーションタブページをクリックして選択します。



オートキャリブレーションの場合:

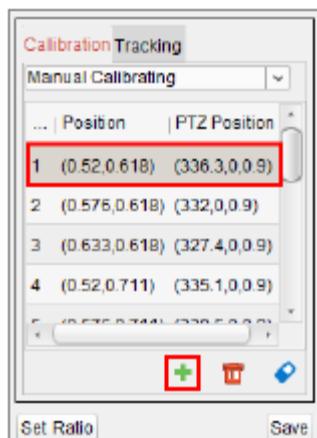
- 1) キャリブレーションリストからオートキャリブレーションを選択します。
- 2) キャリブレーション動作を実行します。

スピードドームを移動したり、ズームイン/ズームアウトしたりして、ドームとカメラのライブビューがほぼ同じであることを確認します。

- 3) **保存**をクリックして、キャリブレーション設定を保存します。

マニュアルキャリブレーションの場合:

- 1) キャリブレーションリストからマニュアルキャリブレーションを選択します。
- 2) リストから No.1 を選択して  クリックすると、ライブビューページの中央に青い十字が表示され、選択したサイトのデジタルズーム表示が右側に表示されます。
- 3) No. 2～No. 4 を選択し、上記の手順を繰り返してマニュアルキャリブレーションサイトを追加します。



- 4) キャリブレーション動作を実行します。

ライブビューページで、4つのキャリブレーションサイト間の距離を均等に調整します。キャリブレーションサイト No.1 を選択すると、右側にサイト No. 1 のデジタルズームが表示されます。スピードドームを移動したり、ズームイン/ズームアウトしたりして、ドームのライブビューと選択されたサイトのデジタルズームビューがほぼ同じ

であることを確認します。 をクリックして、現在のサイトの位置情報を保存します。

7. カメラのライブビューウィンドウを右クリックしてメニューを表示し、「マスタースレーブトラッキングを有効にする」をクリックします。
8. 設定された VCA ルールがターゲットによってトリガされると、スピードドームは自動マスタースレーブトラッキングを実行し、ターゲットフレームは緑色から赤色に変わります。

4.9 ライブビューのその他の機能

ライブビューでは、デジタルズーム、双方向オーディオ、カメラステータス、同期などの機能がサポートされています。

補助画面のプレビュー

ライブビデオは、異なる補助画面に表示して、複数のモニタリングシーンを簡単にプレビューすることができます。最大 3 つの補助画面がサポートされています。

デジタルズーム

マウスの左キーを使用して、右下/左上の方向に矩形領域をドラッグすると、矩形領域が拡大/縮小されます。また、マウスホイールを使用して、デジタルズームモードでビデオをズームインまたはリストアすることもできます。

チャネルーゼロ

デバイスのチャネルーゼロについては、Ctrl キーを押しながらダブルクリックすると、特定のチャネルが表示されます。Ctrl キーを押しながらもう一度ダブルクリックすると、復元できます。

双方向オーディオ

双方向オーディオ機能により、カメラの音声通話が可能になります。ライブビデオだけでなく、カメラからのリアルタイムオーディオも取得できます。デバイスに複数の双方向オーディオチャンネルがある場合、チャンネルを選択して双方向オーディオを開始することができます。

双方向オーディオは、一度に 1 台のカメラにしか使用できません。

カメラステータス

録画状態、信号状態、接続番号などのカメラの状態を検知して確認することができます。ステータス情報は 10 秒ごとに更新されます。

同期

同期機能は、クライアントソフトウェアを実行する PC とデバイスロックを同期させる方法を提供します。

第 5 章 リモートストレージスケジュールの設定と再生

ビデオ ストレージ デバイスがローカル デバイス上の HDD、Net HDD、SD/SDHC カード または接続されたリモート ストレージ サーバである場合、カメラの録画スケジュール またはキャプチャー スケジュールを設定し、連続的、アラーム契機またはコマンド契機による録画またはキャプチャーを行わせることができます。また、ビデオ ファイル はリモート再生用に検索することもできます。

5.1 リモートストレージ

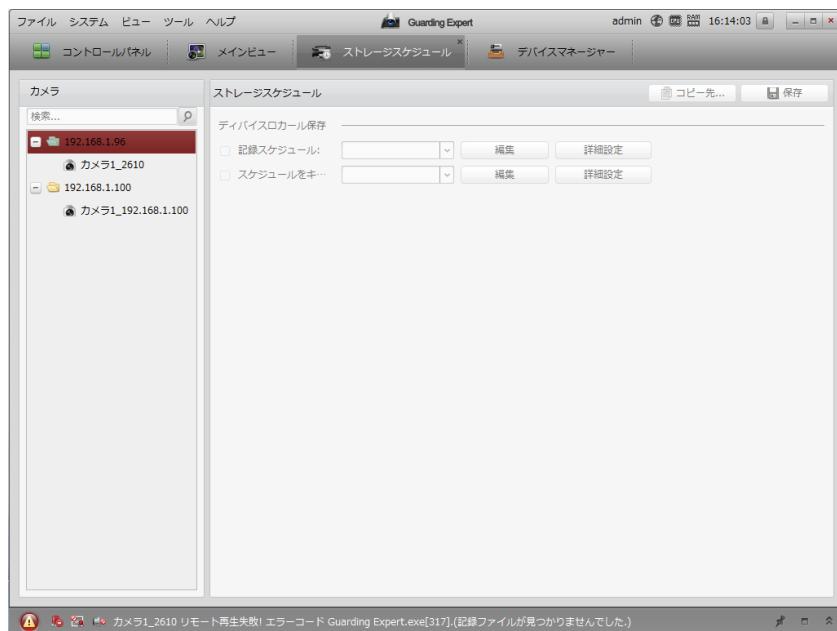
目的:

ビデオファイルとキャプチャーされた画像は、HDD、Net HDD、ローカルデバイスの SD / SDHC カード、または接続されたストレージサーバに保存できます。



コントロールパネルのアイコン をクリックします。

または、ツール>ストレージスケジュールをクリックして、「ストレージスケジュール」 ページを開きます。



5.1.1 DVR、NVR、またはネットワークカメラへの保存

目的 :

DVR、NVR、およびネットワークカメラを含む一部のローカルデバイスは、ビデオファイル用の HDD、Net HDD、SD / SDHC カードなどのストレージデバイスを提供します。ローカルデバイスのチャンネルの録画スケジュールまたはキャプチャスケジュールを設定できます。

注意:

キャプチャスケジュールでキャプチャーされた画像は、ローカルデバイスに保存され、デバイスのリモート設定ページで検索できます。

始める前に:

新たにインストールされたストレージ デバイスはフォーマットする必要があります。リモート設定ページから、ストレージ>一般をクリックし、HDD をまたは SD/SDHC カードを選択します。フォーマットをクリックし、選択したストレージ デバイスを初期化します。

手順:

1. 録画スケジュールページを開きます。
2. カメラグループリストでカメラを選択します。
3. エンコーディング サーバのストレージの「録画スケジュール/キャプチャー スケジュール」チェックボックスをチェックし、デバイス ローカルの録画またはキャプチャーを有効化します。



4. ドロップダウンリストから録画またはキャプチャスケジュールテンプレートを選択します。

終日テンプレート: 終日連続録音用。

平日テンプレート: 午前 8 時から午後 8 時までの勤務時間連続録画用。

イベントテンプレート: イベントがトリガされた録画用。

テンプレート 01~08: 特定のスケジュールの固定テンプレート。必要に応じてテンプレートを編集できます。

カスタム: 必要に応じてカスタマイズできます。

テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「録画スケジュールテンプレートの設定」を参照してください。

5. **詳細設定**をクリックして、記録パラメータを設定します。詳細は、表 5-1 詳細録画設定および表 5-2 詳細キャプチャー設定を参照してください。

注意: 表示される項目はデバイスによって異なります。

6. 必要に応じて、**コピー先にコピー**をクリックして、録画スケジュールの設定を他のチャンネルにコピーします。
7. **保存**をクリックして設定を保存します。

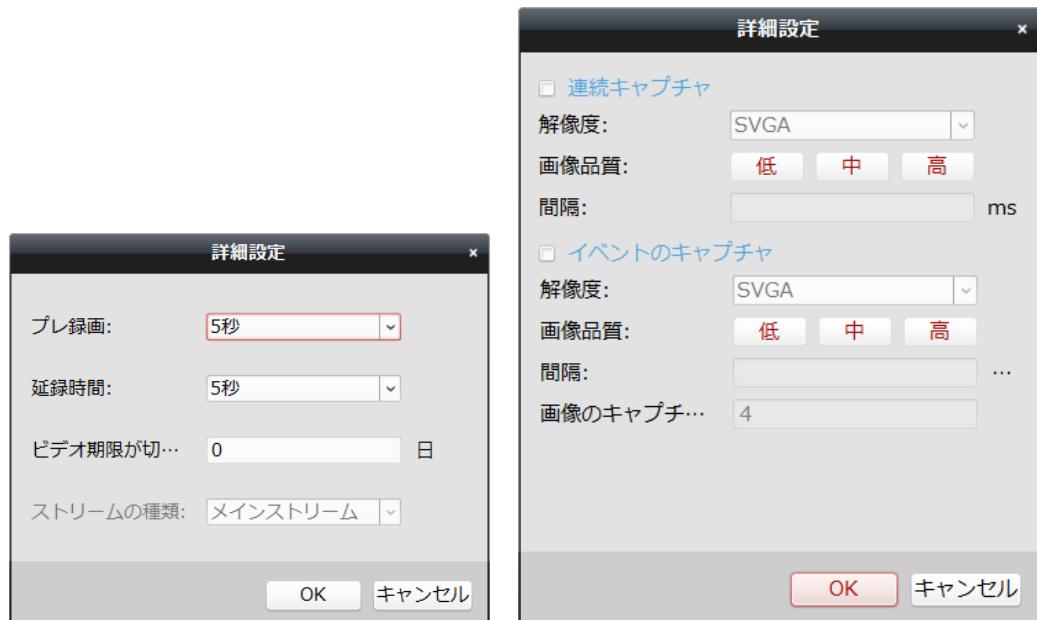


表 5-1 詳細録画設定

パラメータ	説明
録画前	通常、イベントが発生する前に記録する場合は、イベントをトリガした録画に使用されます。

録画後	イベント終了後、一定時間録画することもできます。
冗長レコードのレコードファイルを保持する	ストレージデバイスにビデオファイルを保存する時間が経過すると、ファイルは削除されます。値が 0 に設定されている場合、ファイルは永続的に保存されます。R / W HDD だけでなく、冗長 HDD にもビデオファイルを保存します。
オーディオの録音	ビデオファイルをオーディオで録画するかどうかを記録します。
ビデオストリーム	録画のストリームタイプを選択します。 注意: 特定の種類のデバイスでは、デュアルストリームを選択して、カメラのメインストリームとサブストリームの両方を記録します。このモードでは、リモート再生中にストリームタイプを切り替えることができます。再生中のストリームスイッチについては、「5.2.1 通常再生」を参照してください。

表 5-2 詳細キャプチャー設定

パラメータ	説明
解像度	連続またはイベント撮影した画像の解像度を選択します。
画質	連続またはイベント撮影した画像のための品質を設定します。
間隔	2 つのキャプチャーアクション間の時間を規定する間隔を選択します。
キャプチャーした画像の数	イベントキャプチャーの画像の数を設定します。

録画スケジュールテンプレートの設定

録画スケジュールテンプレートを設定するには、次の手順を実行します。

ドロップダウンリストからテンプレート 01~08 が選択されている場合は、手順 1 から開始します。

ドロップダウンリストからカスタムを選択した場合は、手順 2 から開始します。

1. 編集をクリックして、「テンプレート管理」インターフェイスに入ります。設定するテンプレートを選択して、テンプレート名を編集できます。
2. 選択したテンプレートのタイムスケジュールを設定します。

 連続 は通常のスケジュール記録を表します。スケジュールタイムバーには  が付いています。

 イベント録画 はイベントのスケジュールレコードを表します。スケジュールタイムバーには  が付いています。

 コマンド はコマンドによってトリガされたスケジュールレコードを表します。スケジュールタイムバーには  が付いています。

注意: コマンド トリガによる録画は、ATM DVR を IVMS-4200 に追加した際の ATM トランザクションに対してのみ利用可能です。

カーソルが  に変わると、時間を設定できます。

カーソルが  に変わると、編集したばかりのタイムバーを移動することができます。表示された時刻ポイントを編集して正確な時間帯を設定することができます。

カーソルが  に変わると、選択したタイムバーを長くまたは短くすることができます。

3. 必要に応じて、スケジュールタイムバーを選択して、アイコン  をクリックして

選択したタイムバーを削除し、アイコン  をクリックすると、すべてのタイム

バーが削除され、アイコン  をクリックすると、タイムバーの設定が他の日付に
コピーされます。

4. OK をクリックして設定を保存します。

カスタムスケジュールインターフェイスでスケジュールテンプレートとして保存をクリックすると、カスタムテンプレートをテンプレート 01~08 として保存できます。

注意:

録画スケジュールでは、1 日に最大 8 つの時間帯を設定できます。





5.1.2 ストレージデバイスへの保存

目的:

ビデオ ファイルおよび追加されたエンコーディング デバイスの画像を保存するために、ストレージ デバイスをクライアントに追加することができます。ファイルはリモート再生のために検索することもできます。ストレージ デバイスはストレージ デバイス、CVR またはその他の NVR である場合もあります。ここでは例としてストレージ サーバの追加を取り上げます。

始める前に:

ストレージサーバのアプリケーションソフトウェアをインストールする必要があり、IVMS-4200 ソフトウェアパッケージにパックされています。IVMS-4200 をインストールする場合は、「ストレージサーバ」チェックボックスをオンにして、ストレージサーバのインストールを有効にします。

ストレージサーバの追加

手順:



1. デスクトップ上のショートカットアイコン をクリックして、ストレージサーバを起動します。

注意:

- 他の PC にインストールされているストレージサーバにビデオファイルを保存することもできます。
 - ストレージ サーバのポート番号(値:8000)が他のサービスに占有されている場合、ダイアログ ボックスがポップアップします。ポート番号を他の数字に変更し、ストレージ サーバが適正に動作するようにしてください。
2. 「デバイス管理」ページを開き、**デバイスタブ**をクリックします。
 3. **デバイス**をクリックすると、デバイスのリストが表示されます。ストレージサーバの追加については、「3.1 デバイスの追加」を参照してください。

HDD のフォーマット

ストレージサーバの HDD は、ビデオファイルとピクチャストレージ用にフォーマットする必要がります。

手順:

1. リストから追加したストレージサーバを選択し、**リモート設定**をクリックします。
2. **ストレージ>一般**をクリックして、「HDD フォーマット」インターフェイスに入ります。
3. リストから HDD を選択し、**フォーマット**をクリックします。フォーマットプロセスはプロセスバーから確認することができ、フォーマットされた HDD の状態はフォーマットされていない状態から通常の状態に変わります。

注意: HDD のフォーマットは、ディスクの容量をストレージに事前配分することであり、フォーマットされる HDD の元のデータが削除されるわけではありません。



SAN と CVR の設定

目的:

クライアントは SAN 設定と CVR 設定を提供し、CVR デバイスの論理ボリュームと CVR 機能を便利に設定できます。SAN 設定と CVR 設定の詳細については、CVR のユーザマニュアルを参照してください。

注意:

この機能は、デバイスでサポートされている必要があります。

リストから追加した CVR を選択し、**CVR 設定**または**SAN 設定**をクリックします。

ストレージスケジュールの設定

始める前に:

ストレージサーバをクライアントソフトウェアに追加する必要があります、HDD をビデオファイルストレージ用にフォーマットする必要があります。

手順 :

1. 「ストレージのスケジュール」ページを開きます。

2. カメラグループリストからカメラを選択します。
3. ストレージサーバドロップダウンリストからストレージサーバを選択します。

注意:

ストレージサーバ管理をクリックして、ストレージサーバを追加、編集、または削除することができます。

4. 「録画スケジュール」チェックボックスをオンにして、ビデオファイルの保存を有効にします。

イベントが発生したときにカメラのアラーム画像を保存するには、「ピクチャストレージ」チェックボックスをオンにすることもできます。

ヒートマップまたは人数をカウントする機能を備えたネットワークカメラの場合、「追加情報ストレージ」チェックボックスが使用できます。VCA 設定をクリックしてカメラの VCA ルールを設定することができます。「追加情報ストレージ」チェックボックスをチェックすると、ヒートマップ、人数カウントデータおよび道路通行量データがストレージサーバにアップロードされるようになります。データのチェックについては「19.1 エラー! 参照元が見つかりません。」、「19.2 エラー! 参照元が見つかりません。」および「19.4 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。

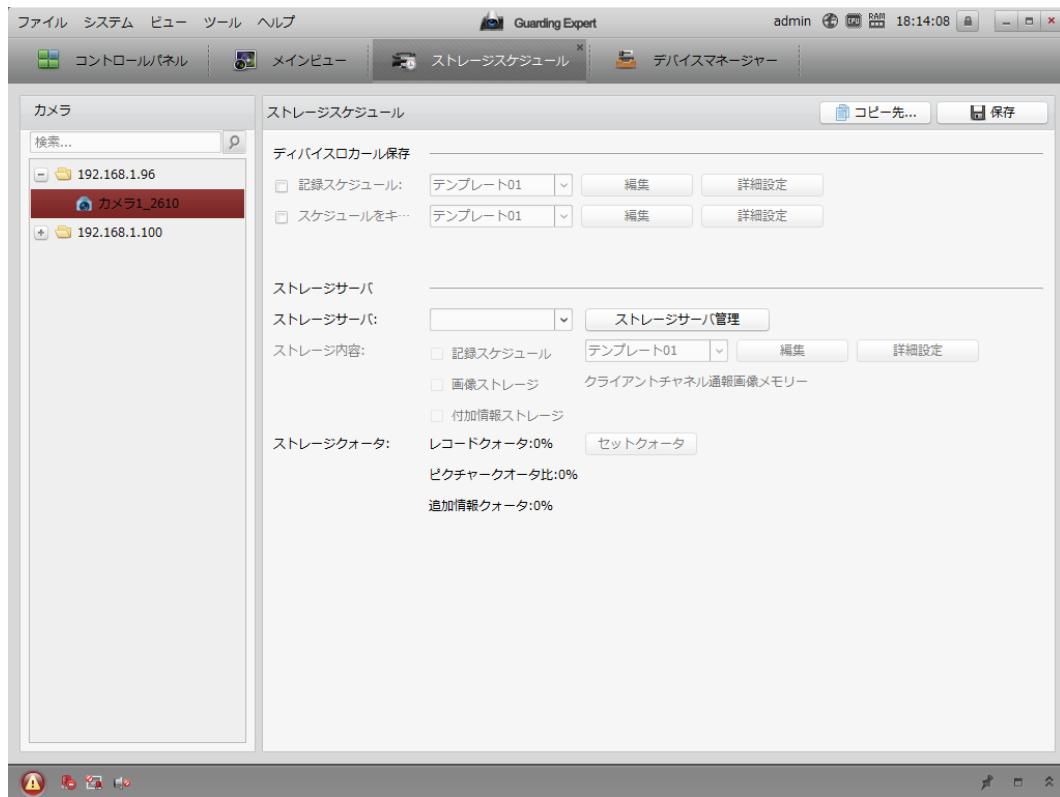
注意:

VCA ルールの詳細設定については、カメラのユーザマニュアルを参照してください。

5. ドロップダウンリストから、録画するスケジュールテンプレートを選択します。

テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「録画スケジュールテンプレートの設定」を参照してください。

6. 詳細設定をクリックして、事前録画の時間、事後録画の時間、およびその他の録画パラメータを設定します。
7. クオータの設定をクリックして、「ストレージサーバの HDD 管理」インターフェイスに入ります。録画、画像、追加情報に対応するクオータレートを設定することができます。
例:レコードクオータを 60%に設定すると、ストレージスペースの 60%をビデオファイルの保存に使用できます。
8. 保存をクリックして設定を保存します。



注意:ストレージ サーバはラインクロス検知アラーム、侵入検知アラーム、領域進入検知アラーム、領域退出検知アラーム、高速移動検知アラーム、人物集合検知アラーム、徘徊検知アラーム、駐車検知アラーム、物体除去アラームおよび放置荷物検知アラーム録画の保存をサポートしています。詳細は、「6 イベント管理」を参照してください。

5.2 リモート再生

目的:

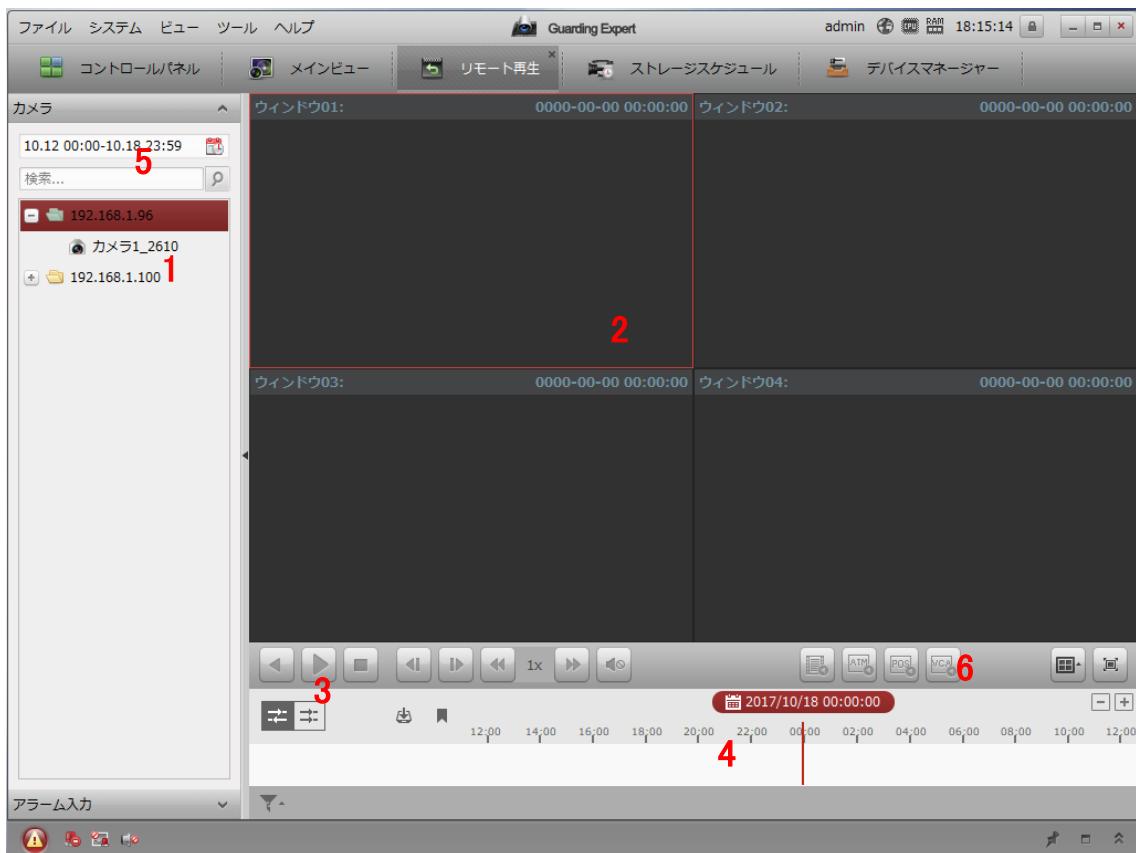
ローカルデバイスまたはストレージサーバに保存されたビデオファイルは、カメラまたはトリガーアイベントによって検索され、リモートで再生することができます。

始める前に:

ローカルデバイス、ストレージサーバ、またはストレージサーバとローカルデバイスの両方に保存されているビデオファイルを再生するように設定できます。詳しくは、「18.2.2 ライブビューと再生設定」を参照してください。オプションで、グループ管理で再生するカメラの回転方向を設定できます。「3.2 グループ管理」のグループ/カメラの変更を参照してください。



コントロールパネルの アイコンをクリックします。または、ビュー>リモート再生をクリックして、「リモート再生」ページを開きます。



リモート再生ページ

1. カメラリスト
2. 再生の表示ウィンドウ
3. 再生コントロールボタン
4. タイムライン
5. カレンダー
6. 検索条件

5.2.1 通常の再生

目的:

ビデオファイルは、通常再生のカメラまたはグループ名で検索できます。

再生用のビデオストリームの切り替え

目的:

オプションで、再生のためにメインストリームとサブストリームを切り替えることができます。

始める前に:

デュアルストリームとして録画するビデオストリームを設定します。詳細は、「5.1.1 DVR、NVR、またはネットワークカメラに保存する」の手順 5 を参照してください。

注意:

この機能は、デバイスがサポートする必要があります。

手順:

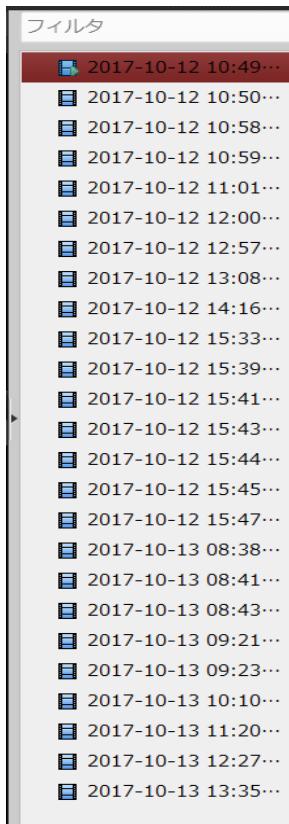
1. リモート再生ページを開きます。

2. カレンダーアイコン  をクリックして、カレンダーダイアログをアクティブにします。

開始日と終了日を選択し、正確な時刻を設定します。

OK をクリックして、検索期間を保存します。

3. カメラまたはグループをクリックして表示ウィンドウにドラッグするか、カメラまたはグループをダブルクリックして再生を開始します。
4. 選択されたグループまたはカメラの見つかったビデオファイルはインターフェイスの右側に時系列で表示されます。「フィルタ」テキストフィールドで結果をフィルタリングできます。最初のビデオファイルは、デフォルトで自動的に再生されます。



注意:

- 最大 16 台のカメラを同時に検索できます。
- カレンダー上では、スケジュールによる録画がある日は▲でマークされ、イベントによる録画がある日は■でマークされます。

ビデオファイルの再生

ビデオファイルの通常再生を検索した後、次の 2 つの方法でビデオファイルを再生できます。

- ファイルリストによる再生

検索結果リストからビデオ ファイルを選択し、ビデオ ファイル上の▶アイコンをクリックするか、ビデオ ファイルをダブルクリックして再生表示ウィンドウにビデオを再生します。

または表示ウィンドウを選択し、ツールバー上の▶アイコンをクリックして対応するビデオ ファイルを再生します。

- タイムラインによる再生

タイムラインはビデオ ファイルの再生時間を表しており、ビデオ ファイルの種別ごとに色分けされます。タイムラインをクリックすることでビデオ ファイルの特定の時間を再生することができます。

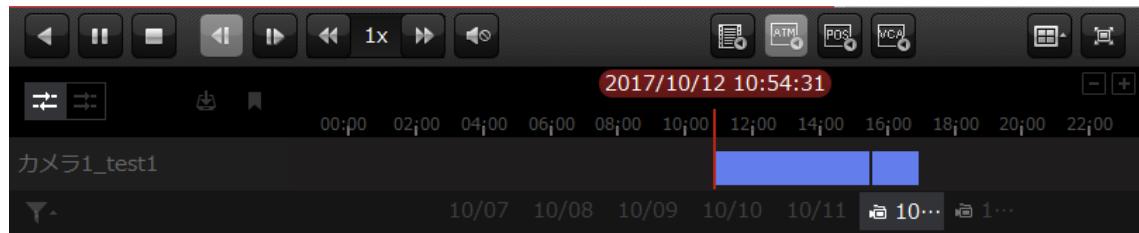
+ または - クリックして、タイムライン バーを拡大または縮小することができます。

タイムライン バーをドラッグすることで、前後の時間帯に移動することができます。

マウスホイールを利用してタイムラインに対するズーム インまたはズーム アウトを行うことができます。



通常の再生ツールバー:



「標準再生」ページでは、次のツールバー ボタンを使用できます。

	リバース再生	ビデオファイルをリバース再生します。
	再生の一時停止/開始	ビデオファイルの再生を一時停止/開始します。
	再生の停止	すべてのカメラの再生を停止します。
	シングルフレーム (リバース)	フレームごとにビデオファイルをリバース再生します。マウスホイールを下にスクロールして、フレームごとにビデオファイルをリバース再生することもできます。
	シングルフレーム	フレームごとにビデオファイルを再生します。マウスホイールを下にスクロールして、フレームごとにビデオファイルを再生することもできます。
	スロー再生/ 早送り	再生速度を遅く/速くします。
	ボリューム	クリックしてオーディオをオン/オフし、オーディオ音量を調整します。

	イベント再生	動体検知、ビデオロス、ビデオタンパーなど、イベントによってトリガされた録画を検索します。
	ATM 再生	ATM デバイスの録画を検索します。
	POS 再生	POS 情報を含む録画を検索します。
	VCA 再生	VCA 検索、侵入、ラインクロスなどの VCA イベントが発生したビデオ ファイルを検索し、VCA ルールを設定します。
	ウィンドウ分割	ウィンドウ分割を設定します。
	全画面表示	全画面モードでビデオ再生を表示します。ESC を押して終了します。
	非同期/同期 再生	クリックすると、ビデオファイルを非同期/同期に再生します。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードすると、ビデオファイルは PC に保存されます。ファイル、日付、またはタグでダウンロードを選択できます。
	タグ	ビデオ ファイルにデフォルトタグを追加し、重要なビデオポイントをマークします。タグを編集すること、または右クリックからタグポジションに移動することができます。
	filtrta	必要に応じてレコードタイプを表示します。例: イベント録画のみを表示するように選択できます。

2016/05/31 10:39:37	正確なポジショニング	正確な時刻を設定して、ビデオファイルを再生します。
09/13 09/14	日付	ビデオファイルがある日には  とマークされます。

再生時に表示ウィンドウを右クリックして、再生管理メニューを開きます。



右クリックの「再生管理」メニューでは、次の項目を使用できます。

	リバース再生	ビデオファイルをリバース再生します。
---	--------	--------------------

	一時停止/開始	再生を一時停止/開始します。
	停止	再生を停止します。
	早送り	ビデオファイルをより速い速度で再生します。
	スロー再生	より遅い速度でビデオファイルを再生します。
	シングルフレーム (リバース)	ビデオファイルをフレームごとに(リバース)再生します。
	デジタルズームを開く	デジタルズーム機能を有効にします。機能を無効にするにはもう一度クリックします。
	温度情報の表示/非表示	サーマルカメラの場合、クリックするとライブビュー画像上に温度を表示または非表示にします。
	タグコントロール	ビデオファイルのデフォルト(デフォルトタグ名TAG)またはカスタムタグ(カスタマイズされたタグ名)を追加し、重要なビデオポイントをマークします。また、タグを編集したり、タグの位置に移動したりすることもできます。
	正確なポジショニング	正確な時刻を設定して、ビデオファイルを再生します。
	キャプチャー	再生プロセスで画像をキャプチャーします。

	他のキャプチャーモード	キャプチャされた画像をプリントする: 画像をキャプチャしてプリントします。キャプチャした画像を添付することができます。 カスタムキャプチャ: 現在の画像をキャプチャします。名前を編集して保存することができます。
	録画の開始/停止	手動録画を開始/停止します。ビデオファイルは PC に保存されます。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードして、ビデオファイルは PC に保存されます。ファイルまたは日付でダウンロードするように選択できます。
	オーディオを有効/無効にする	クリックすると、再生時にオーディオを有効/無効にします。
	フィッシュアイ拡張	フィッシュアイ再生モードに入ります。詳しくは、「5.2.8 フィッシュアイ再生」を参照してください。
	全画面表示	全画面表示モードで再生を表示します。アイコンをもう一度クリックするか、Esc キーを押して終了します。

ファイルによるダウンロード

再生中にツールバーの  をクリックすると、カメラのビデオファイルをローカル PC にダウンロードできます。ファイル、日付、またはタグでダウンロードを選択できます。

ファイルからダウンロード

手順:

1. 「ファイルのダウンロード」インターフェイスのファイルからダウンロードタブをクリックします。選択したカメラのビデオファイル情報を表示できます。
2. 「ビデオファイル」チェックボックスをオンにすると、選択したファイルの合計サイズを以下に示します。
3. ダウンロードをクリックすると、ファイルがローカル PC にダウンロードされます。ロー(0 ~32768 kbps)を入力し、設定をクリックしてダウンロード速度を制御できます。
4. 必要に応じて、停止をクリックして手動でダウンロードを停止することもできます。



日付によるダウンロード

手順:

1. 「ファイルダウンロード」インターフェイスの日付でダウンロードタブをクリックします。

2. 継続時間のチェックボックスをオンにして、有効にします。 をクリックして開始時刻と終了時刻を設定します。
3. ダウンロードをクリックすると、ファイルがローカル PC にダウンロードされます。プログレスバーにダウンロードプロセスが表示されます。
フロー(0~32768 kbps)を入力して、設定をクリックすると、ダウンロード速度を制御できます。
4. オプションで、停止をクリックして手動でダウンロードを停止することもできます。



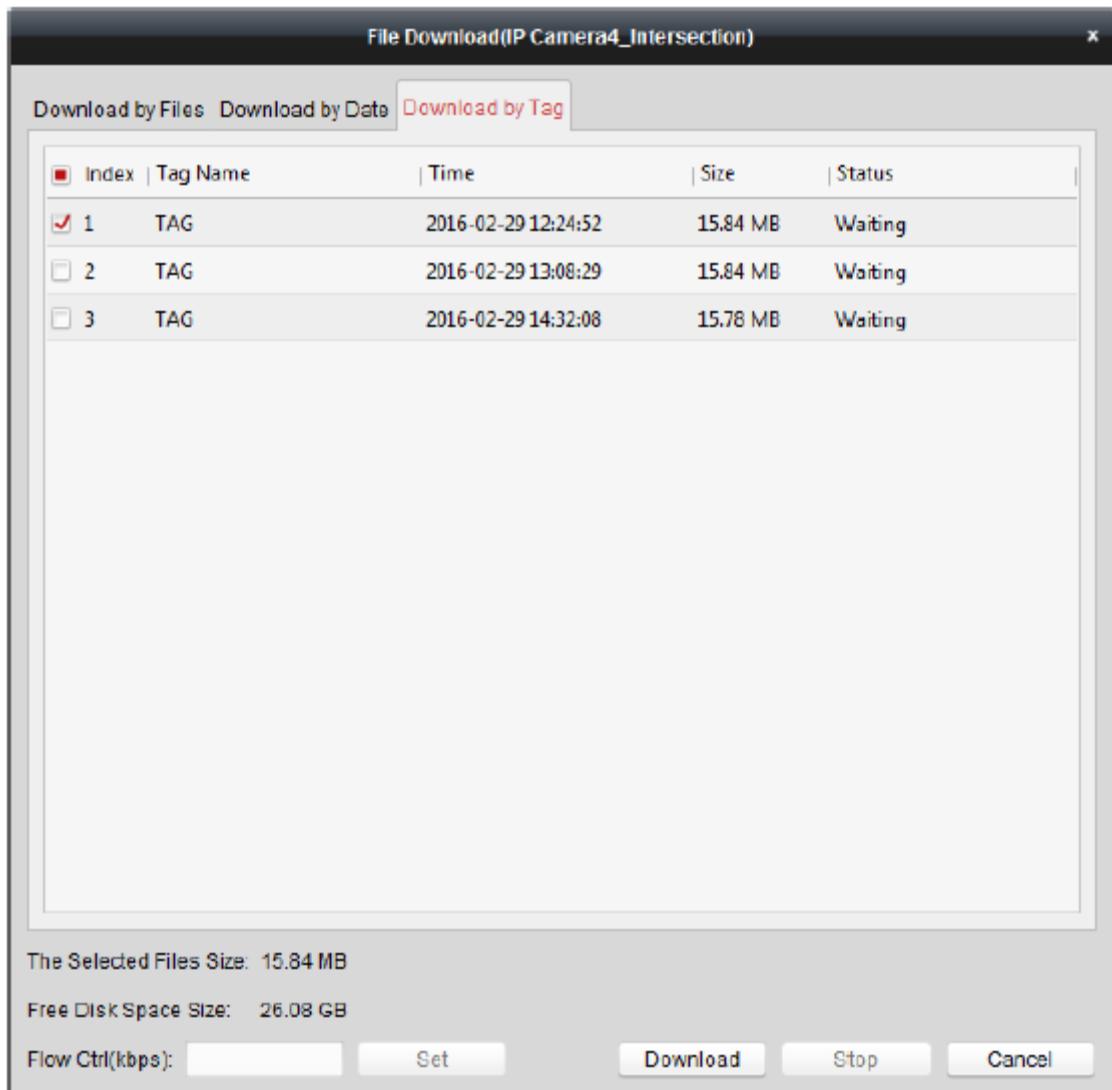
注意:

1つ継続時間のビデオファイルをダウンロードするときに、ビデオファイルをマージするように設定できます。設定された時間内のビデオファイルをマージしてダウンロードすることができます。マージされたダウンロードビデオファイルを設定するについては、「18.2.2 ライブビューと再生設定」を参照してください。

タグによるダウンロード

手順:

1. 「ファイルダウンロード」インターフェイスのタグでダウンロードタブをクリックします。追加されたタグが表示されます。
2. タグのチェックボックスをオンにすると、選択したファイルの合計サイズを以下に示します。
3. ダウンロードをクリックすると、選択したファイルのダウンロードが開始されます(選択したタグの 30 秒前からタグの 30 秒後まで)。フロー(0~32768 kbps)を入力して、設定をクリックすると、ダウンロード速度を制御できます。
4. 必要に応じて、停止をクリックして手動でダウンロードを停止することもできます。



5.2.2 アラーム入力の再生

目的:

アラーム入力がトリガされ、リンクされたビデオでアラーム入力の再生が検索され、この機能が接続されたデバイスのサポートを必要とする場合。

アラーム入力再生用のビデオファイルの検索

手順:

1. 「リモート再生」ページを開きます。

2.  をクリックすると、左にアラーム入力パネルが表示されます。
3. (オプション) カレンダーアイコン  をクリックして、カレンダーダイアログをアクティブにします。開始日と終了日を選択して正確な時刻を設定し、OK をクリックします。
4. アラーム入力を表示ウィンドウにクリックまたはドラッグするか、アラーム入力をダブルクリックして再生を開始します。
5. 選択されたアラーム入力の検出されたビデオファイルがインターフェイスの右側に表示されます。「フィルタ」テキストフィールドで結果をフィルタリングできます。

ビデオファイルの再生

アラーム入力によってトリガされたビデオファイルを検索した後、次の 2 つの方法でビデオファイルを再生できます。

- **ファイルリストによる再生**

検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルのアイコン  をクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生の表示ウィンドウでビデオを再生します。表示ウィンドウを選択し、ツールバーのアイコン  をクリックして、対応するビデオファイルを再生することもできます。

- **タイムラインによる再生**

タイムラインは、ビデオファイルの継続時間を示しており、異なるタイプのビデオファイルが色分けされています。タイムラインをクリックして、特定の時間のビデオを再生します。

 または  クリックして、タイムラインバーをスケールアップまたはスケールダウンすることができます。

タイムラインバーをドラッグすると、前または次の期間に移動できます。

マウスホイールを使用して、タイムラインを拡大または縮小できます。

再生コントロールツールバーと右クリックメニューの説明については、「5.2.1 通常再生」を参照してください。

5.2.3 イベント再生

目的:

動体検知、VCA 検知、動作解析などのイベントによってトリガされた録画は、イベント再生を検索することができ、この機能は接続されたデバイスのサポートを必要とします。

イベント再生用のビデオファイルの検索

手順:

1. リモート再生ページを開きます。
2. カメラを選択し、通常の再生を開始します。「5.2.1 通常再生」を参照してください。

3.  をクリックすると、動体検知トリガされた録画がデフォルトで検索されます。

4. カレンダーアイコン  をクリックして、カレンダーダイアログボックスをアクティブにします。

開始日と終了日を選択し、正確な時刻を設定します。

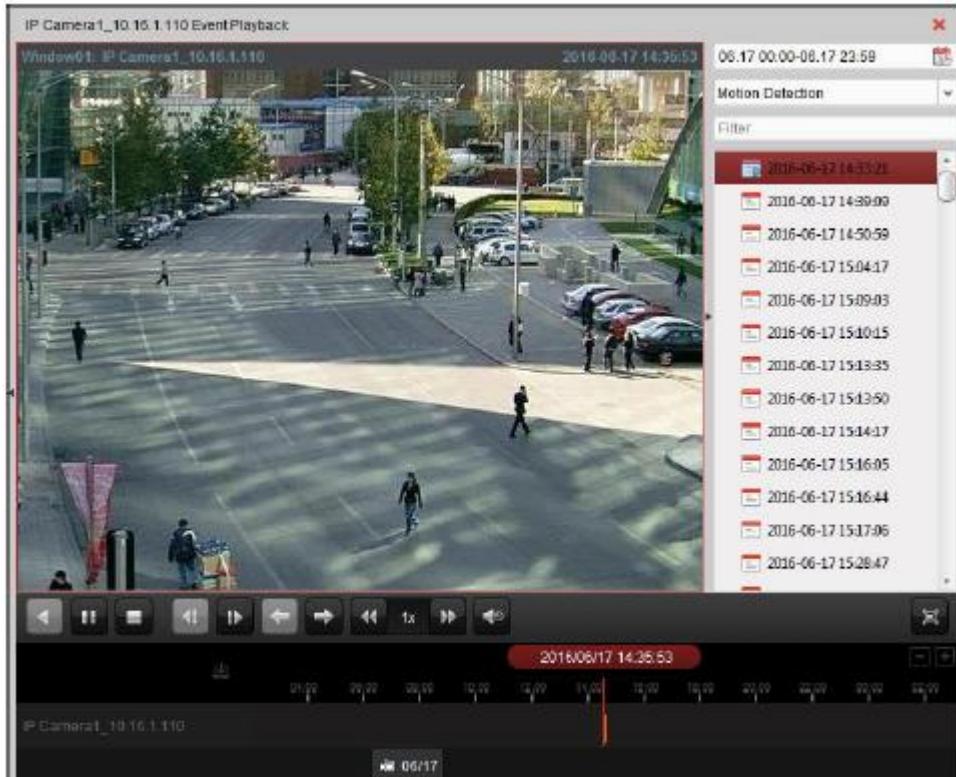
OKをクリックして、検索期間を保存します。

注意:

カレンダー上では、スケジュールによる録画がある日は  でマークされ、イベントによる録画がある日は  でマークされます。

5. ドロップダウンリストからイベントのタイプを選択すると、見つかったビデオファイルが表示されます。「フィルタ」テキストフィールドにキーワードを入力して、結果をフィルタリングできます。または  をクリックすると、通常の再生に戻ることができます。

6. 検索結果リストからビデオファイルを選択し、ビデオファイルのアイコン  をクリックするか、またはビデオファイルをダブルクリックして、再生の表示ウィンドウでビデオを再生します。



ビデオファイルの再生

イベントによってトリガされた録画を検索した後、次の 2 つの方法でビデオファイルを再生できます。

- ファイルリストによる再生

検索結果リストからビデオファイルを選択し、ツールバーのアイコン  をクリックする

か、ビデオファイルのアイコン  をクリックするか、ビデオファイルをダブルクリックして再生の対応する表示ウィンドウでビデオを再生します。

- タイムラインによる再生

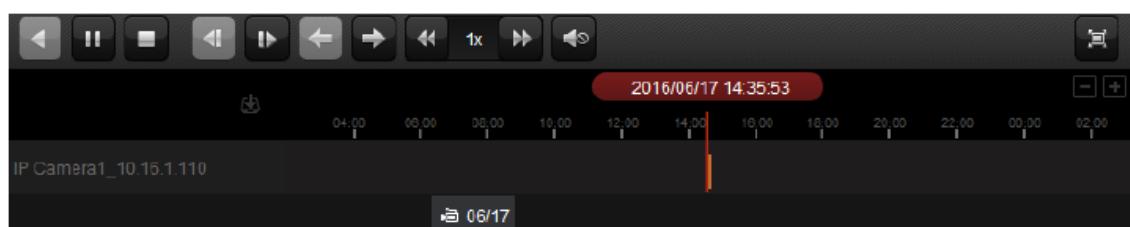
タイムラインは、ビデオファイルの継続時間を示しており、異なるタイプのビデオファイルが色分けされています。タイムラインをクリックして、特定の時間のビデオを再生します。

 または  クリックして、タイムラインバーをスケールアップまたはスケールダウンすることができます。

タイムラインバーをドラッグすると、前または次の期間に移動できます。

マウスホイールを使用して、タイムラインを拡大または縮小できます。

イベント再生ツールバー:



「リモート再生」ページでは、次のツールバー ボタンを使用できます。

	リバース再生	ビデオファイルをリバース再生します。
	再生の一時停止 /開始	ビデオファイルの再生を一時停止/開始します。
	再生の停止	すべてのカメラの再生を停止します。
	シングルフレーム (リバース)	フレームごとにビデオファイルをリバース再生します。
	シングルフレーム	フレームごとにビデオファイルを再生します。

	前のイベント	前のイベントの再生に移動します。
	次のイベント	次のイベントの再生に移動します。
	スロー再生/早送り	再生速度を遅く/速くします。
	ボリューム	クリックしてオーディオをオン/オフし、オーディオ音量を調整します。
	全画面表示	全画面モードでビデオ再生を表示します。 ESC を押して終了します。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードすると、ビデオファイルは PC に保存されます。
	正確なポジショニング	正確な時刻を設定して、ビデオファイルを再生します。
	日付	ビデオファイルがある日には とマークされます。

右クリックメニューの説明については、「5.2.1 標準再生」を参照してください。イベントの再生に使用できないアイコンもあります。

注意:

「システム設定」でイベント再生の事前再生時間を設定できます。デフォルトでは 30 秒です。事前再生時間の設定については、「18.2.2 ライブビューと再生設定」を参照してください。

5.2.4 ATM 再生

目的:

ビデオファイルで ATM DVR を検索します。

注意:

この機能はデバイスでサポートされている必要があります、デバイスは取引ルールで設定する必要があります。

ATM 再生用のビデオファイルの検索

手順:

1. リモート再生ページを開きます。
2. ATM DVR のカメラを選択し、通常の再生を開始します。「5.2.1 通常再生」を参照してください。
3.  をクリックして、「ATM 再生」インターフェイスに入ります。
4. 検索条件を入力します。

  : ATM 情報に含まれるカード番号を入力します。

  : チェックボックスをオンにしてクエリの取引タイプを選択し、関連する取引量を入力します。

ファイルタイプ: 検索するビデオファイルのタイプを選択します。

5. カレンダーアイコン  をクリックして、カレンダーダイアログをアクティブにします。

開始日と終了日を選択し、正確な時刻を設定します。

OK をクリックして、検索期間を保存します。

6. 検索をクリックすると、一致するファイルが表示されます。「フィルタ」テキストフィールドで結果をフィルタリングできます。

7. 再生するファイルをダブルクリックします。または  をクリックすると、通常の再生に戻ることができます。

ビデオファイルの再生

録画を検索した後、次の 2 つの方法でビデオファイルを再生できます。

- ファイルリストによる再生

検索結果リストからビデオファイルを選択し、ツールバーのアイコン  をクリックするか、ビデオファイルのアイコン  をクリックするか、ビデオファイルをダブルクリックして再生の対応する表示ウインドウでビデオを再生します。

- タイムラインによる再生

タイムラインは、ビデオファイルの継続時間を示しており、異なるタイプのビデオファイルが色分けされています。タイムラインをクリックして、特定の時間のビデオを再生します。

 または  をクリックして、タイムラインバーをスケールアップまたはスケールダウンすることができます。

タイムラインバーをドラッグすると、前または次の期間に移動できます。

マウスホイールを使用して、タイムラインを拡大または縮小できます。

再生コントロールツールバーと右クリックメニューの説明については、「5.2.1 通常再生」を参照してください。一部のアイコンは、ATM 再生に使用できない場合があります。

5.2.5 POS 再生

目的:

POS 情報を含むビデオファイルを検索します。

注意:

この機能はデバイスでサポートされている必要があります。デバイスは POS テキストオーバーレイで設定する必要があります。詳細は、デバイスのユーザマニュアルを参照してください。

POS 再生用のビデオファイルの検索

手順:

1. リモート再生ページを開きます。
2. カメラを選択し、通常の再生を開始します。「5.2.1 通常再生」を参照してください。
3.  クリックして、「POS 再生」インターフェイスに入ります。
4. 検索条件を入力します。

キーワード: POS 情報に含まれるキーワードを入力します。カンマで区切って、3 つまで入力できます。

フィルタ: クエリに複数のキーワードを入力する場合は、“または(|)”を選択してキーワードを含む POS 情報を検索するか、“および(&)”を選択してすべてのキーワードを含む POS 情報を検索できます。

大文字と小文字を区別: このチェックボックスをオンにして、大文字小文字を区別して POS 情報を検索します。

5. カレンダーアイコン  をクリックして、カレンダーダイアログをアクティブにします。
開始日と終了日を選択し、正確な時刻を設定します。
OK をクリックして、検索期間を保存します。
6. 検索をクリックすると、一致するファイルが表示されます。「フィルタ」テキストフィールドで結果をフィルタリングできます。
7. 再生するファイルをダブルクリックします。または、 をクリックすると、通常の再生に戻ることができます。

ビデオファイルの再生

録画を検索した後、次の 2 つの方法でビデオファイルを再生できます。

- ファイルリストによる再生

検索結果リストからビデオファイルを選択し、ツールバーのアイコン  をクリックする

か、ビデオファイルのアイコン  をクリックするか、ビデオファイルをダブルクリックして再生の対応する表示ウィンドウでビデオを再生します。

- タイムラインによる再生

タイムラインは、ビデオファイルの継続時間を示しており、異なるタイプのビデオファイルが色分けされています。タイムラインをクリックして、特定の時間のビデオを再生します。

 または  をクリックして、タイムラインバーをスケールアップまたはスケールダウンすることができます。

タイムラインバーをドラッグすると、前または次の期間に移動できます。

マウスホイールを使用して、タイムラインを拡大または縮小できます。

再生コントロールツールバーと右クリックメニューの説明については、「5.2.1 通常再生」を参照してください。一部のアイコンは、POS 再生に使用できない場合があります。

5.2.6 同期再生

目的:

同期再生では、ビデオファイルを同期して再生することができます。

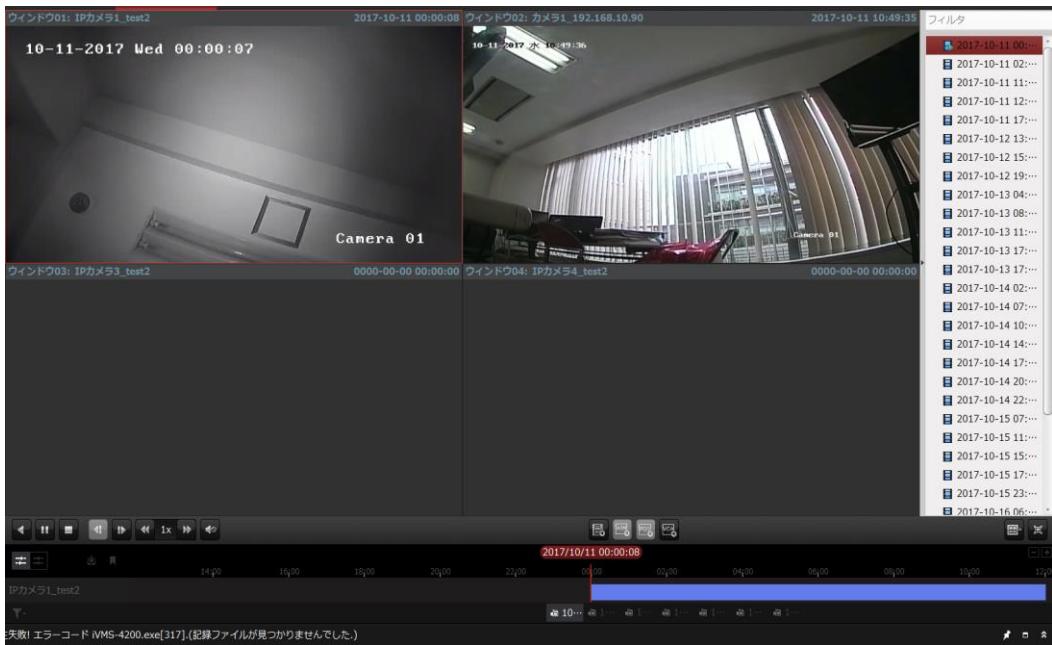
注意:

最大 16 台のカメラからのビデオファイルを同時に再生することができます。

手順:

1. ビデオファイルで通常の再生を検索します(第 5.2.1 節の通常再生)。少なくとも 2 台のカメラが再生中です。

2. ツールバーの  をクリックして、同期再生を有効にします。再生中のカメラが同期再生を開始します。



3. 同期再生を無効にするには、アイコン  をクリックします。

5.2.7 VCA 再生

目的:

検索されたビデオファイルに VCA ルールを設定し、VCA イベント、VCA 検索、侵入およびラインクロスを含むビデオを見つけることができます。この機能は、関心のある可能性のあるビデオを検索し、赤い色でマークするのに役立ちます。

- **VCA 検索:**事前定義された領域で発生したすべての関連する動体検知イベントを取得します。
- **侵入検知:**事前定義された領域に人、車両、その他の移動オブジェクトが侵入していないかどうかを検出します。

- **ラインクロス検知:**仮想線を横切る人、車両、その他の移動オブジェクトを双方向に検出します。

注意:

一部のデバイスでは、人間の性別や年齢、メガネを着用しているかどうかなどの高度な属性を設定して、検索したビデオファイルをフィルタリングできます。

手順:

1. リモート再生ページを開きます。
2. カメラを選択し、通常の再生を開始します。「5.2.1 通常再生」を参照してください。
3.  をクリックして、「VCA 再生」インターフェイスに入ります。
4. VCA タイプを選択し、検知領域を描き、感度を設定します。

注意:

- VCA 検索の場合、 をクリックし、再生ウィンドウをクリックして移動して、検出領域としてグリッド矩形を設定します。または、 をクリックすると、カメラで撮影したすべての領域が検知領域に設定されます。
- 侵入の場合は、 をクリックし、再生ウィンドウをクリックして検知領域の頂点を設定します。
- ラインクロスの場合、 をクリックし、再生ウィンドウをクリック&ドラッグして検知ラインを設定します。

注意:

侵入とラインクロスの場合、[詳細属性]をクリックして、人間の性別や年齢、メガネを着用するかどうかなどの目標文字を設定して、検索したビデオファイルをフィルタリングするチェックボックスをオンにすることができます。

- 描画された領域または線を削除するには、 をクリックして削除します。

- カレンダーアイコン  をクリックして、カレンダーダイアログボックスをアクティブにします。

開始日と終了日を選択し、正確な時刻を設定します。

OK をクリックして、検索期間を保存します。

- 検索をクリックすると、定義された領域で発生した VCA イベントがタイムライン上に赤色で表示されます。デフォルトでは、該当するビデオの再生速度は 1 倍になり、無関係なビデオの再生速度は 8 倍になります。

注意:

「システム設定」で VCA 再生中に無関係のビデオをスキップするように設定することができ、VCA 再生中に無意味なビデオは再生されません。「18.2.2 ライブビューと再生設定」を参照してください。



ビデオファイルの再生

録画を検索した後、次の 2 つの方法でビデオファイルを再生できます。

- ファイルリストによる再生

検索結果リストからビデオファイルを選択し、ツールバーのアイコン  をクリックするか、

ビデオファイルのアイコン  をクリックするか、ビデオファイルをダブルクリックして再生の対応する表示ウインドウでビデオを再生します。

- タイムラインによる再生

タイムラインは、ビデオファイルの継続時間を示しており、異なるタイプのビデオファイルが色分けされています。タイムラインをクリックして、特定の時間のビデオを再生します。

 または  をクリックして、タイムラインバーをスケールアップまたはスケールダウンすることができます。

タイムラインバーをドラッグすると、前または次の期間に移動できます。

マウスホイールを使用して、タイムラインを拡大または縮小できます。

再生コントロールツールバーと右クリックメニューの説明については、「5.2.1 通常再生」を参照してください。一部のアイコンは、VCA 再生に使用できない場合があります。

5.2.8 フィッシュアイ再生

目的:

ビデオファイルはフィッシュアイ拡張モードで再生できます。

手順:

1. リモート再生ページを開きます。
2. カメラを選択し、通常の再生を開始します。「5.2.1 通常再生」を参照してください。
3. 再生ビデオを右クリックし、**フィッシュアイ拡張**を選択してフィッシュアイ拡張モードに入ります。

注意:

ライブビューのマウントタイプに応じて、再生時のフィッシュアイ拡張のマウントタイプが設定されます。詳しくは、「4.7 フィッシュアイのライブビュー」を参照してください。

4. 必要に応じて再生のために拡大モードを選択することができます。

- **フィッシュアイ:** フィッシュアイビューモードでは、カメラの全広角ビューが表示されます。この視点モードは魚眼レンズの視線に近似するため、フィッシュアイと呼ばれます。レンズは、画像内の物体の視点および角度を歪ませながら、広い領域の曲線画像を生成します。
- **パノラマ/ デュアル-180° パノラマ/ 360° パノラマ:** パノラマ表示モードでは、いくつかの較正方法によって、歪んだフィッシュアイ画像が通常の透視画像に変換されます。
- **PTZ:** PTZ ビューは、フィッシュアイビューまたはパノラマビューのいくつかの定義された領域のクローズアップビューです。 e-PTZ とも呼ばれる電子 PTZ 機能をサポートしています。

注意:

各 PTZ ビューは、特定のナビゲーションボックスでフィッシュアイビューとパノラマビューの上にマークされています。フィッシュアイビューまたはパノラマビューのナビゲーションボックスをドラッグして PTZ ビューを調整するか、または PTZ ビューをドラッグしてビューを希望の角度に調整できます。



再生中のウィンドウを右クリックすると、選択したウィンドウを全画面モードに切り替えることができます。キーボードの ESC キーを押すか、ウィンドウを右クリックして全画面終了を選択すると、全画面モードが終了します。

「標準再生」ページでは、次のツールバー ボタンを使用できます。

	リバース再生	ビデオファイルをリバース再生します。
	再生の一時停止 /開始	ビデオファイルの再生を一時停止/開始します。
	シングルフレーム (リバース)	フレームごとにビデオファイルをリバース再生します。

	シングルフレーム	フレームごとにビデオファイルを再生します。
	スロー再生/早送り	再生速度を遅く/速くします。
	ボリューム	クリックしてオーディオをオン/オフし、オーディオ音量を調整します。
	全画面表示	全画面モードでビデオ再生を表示します。 ESC を押して終了します。

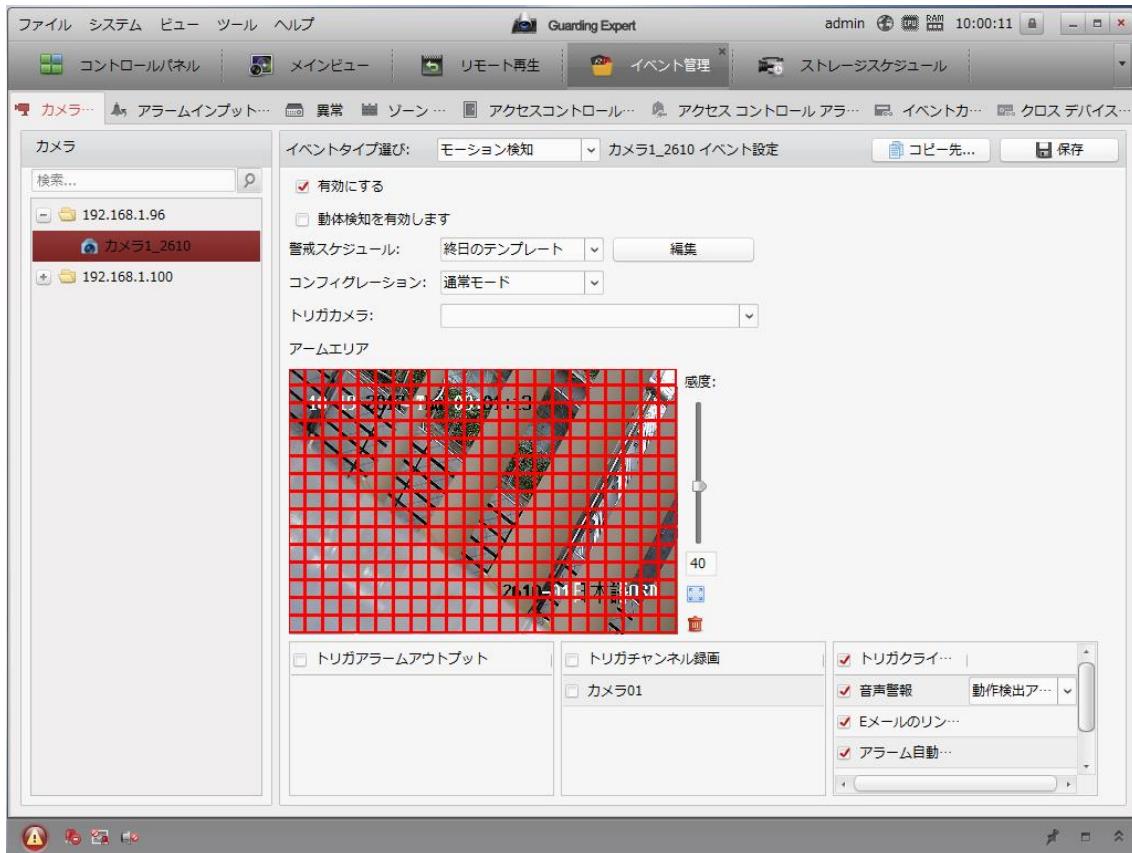
第 6 章 イベント管理

目的 :

IVMS-4200 クライアントソフトウェアでは、トリガとリンクエージアクションのルールを設定できます。ルールを設定することで、トリガにリンクエージアクションを割り当てることができます。例えば、動体が検知されたときに、可聴警告が表示され、他のリンクエージアクションが起こります。



コントロールパネルの アイコンをクリックするか、ツール>イベント管理をクリックして、イベント管理ページを開きます。



次のトリガに対して、異なるリンクエージアクションを設定できます。

注意:

イベント検出は、デバイスを設定する前にサポートする必要があります。

- カメライベント
- アラーム入力
- 異常
- ゾーンイベント(詳細は、「13.1 ゾーンイベントの設定」を参照してください。)
- アクセス制御イベント(詳細は、「14.7.1 アクセス制御イベントリンクエージ」を参照してください。)
- アクセス制御アラーム入力(詳細は、「14.7.2 アクセス制御アラーム入力リンクエージ」を参照してください。)
- イベントカードリンクエージ(詳細は、「14.7.3 イベントカードリンクエージ」を参照してください。)
- クロスデバイスリンクエージ(詳細は、「14.7.4 クロスデバイスリンクエージ」を参照してください。)

注意:

カメライベントのイベントタイプは、デバイスによって異なります。ここでは、いくつかのイベントタイプの設定を例として取り上げます。他のタイプについては、デバイスのユーザマニュアルを参照してください。

6.1 動体検知アラームの設定

目的:

クライアントソフトウェアが定義された領域内で動作を検出すると、動体検知アラームがトリガされます。アラーム出力、チャンネル録画、クライアントアクションなどのリンクエージアクションを設定できます。

注意:

設定はデバイスによって異なります。詳細は、各デバイスのユーザマニュアルを参照してください。

手順:

1. 「イベント管理」ページを開き、**カメライベントタブ**をクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントの種類として**動体検知**を選択します。
3. チェックボックスをオンにして、動体検知の機能を有効にします。「動的分析を有効にする」チェックボックスをオンにすると、検出されたオブジェクトがライブビューと再生で緑色の四角形でマークされます。
4. ドロップダウンリストからアーミングスケジュールテンプレートを選択します。

終日のテンプレート: 終日連続のアーミング。

平日のテンプレート: 午前 8 時から午後 8 時までの連続アーミング。

テンプレート 01~09: 特別なスケジュールのために修正されたテンプレート。必要に応じてテンプレートを編集できます。

カスタム: 必要に応じてカスタマイズできます。

テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「アーミングスケジュールテンプレートの設定」を参照してください。

5. 必要に応じて設定を選択します。

注意:

一部のカメラでは、設定タイプとして**標準**または**エキスパート**を選択できます。エキスパートモードは主に、昼夜の切り替えが異なるエリアごとのオブジェクトの感度と割合を設定するため使用されます。詳細は、デバイスのユーザマニュアルを参照してください。

6. トリガされたカメラを選択します。動体検知アラームが発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオウォール上に表示されます。
選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーするには、キャプチャスケジュールとストレージを「ストレージスケジュール」で設定することもできます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。
7. マウスをクリックしてドラッグすると、アーミング領域の定義された領域が描画されます。

アイコン  をクリックしてビデオエリア全体を検出エリアに設定するか、アイコン  をクリックしてすべての検出エリアをクリアします。

8. 感度バーのスライダをドラッグして、動体検知の感度を調整します。値が大きいほど検出感度が高くなります。
9. チェックボックスをオンにして、リンクージアクションを有効にします。詳細は、表 6-1 モーション検出アラームのリンクージアクションを参照してください。
10. 必要に応じて、**コピー先**をクリックして、イベントパラメータを他のチャネルにコピーします。
11. **保存**をクリックして設定を保存します。

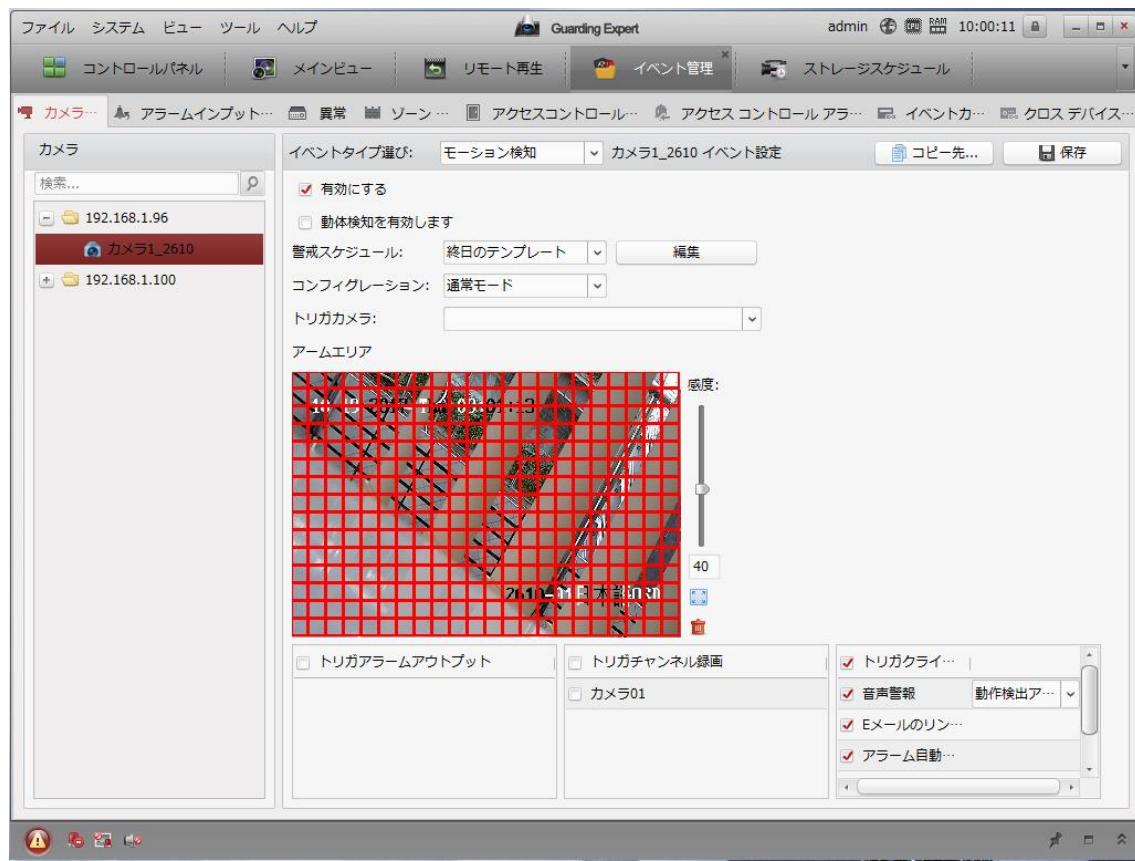


表 6-1 動体検知アラームのリンクエージアクション

リンクエージアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。
チャンネル録画	アラームが発生したときに、選択したカメラの録画を開始します。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴ら

	すことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。
電子メールのリンクエージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

アーミングスケジュールテンプレートの設定

アーミングスケジュールテンプレートを設定するには、次の手順を実行します。

ドロップダウンリストでテンプレート 01~09 が選択されている場合は、手順 1 から開始します。

ドロップダウンリストでカスタムを選択した場合は、手順 2 から開始します。

手順 :

1. 編集をクリックして、「テンプレート管理」インターフェイスに入ります。設定するテンプレートを選択すると、テンプレート名を編集できます。
2. 選択したテンプレートのタイムスケジュールを設定します。

カーソルが  に変わると、時間を設定できます。

カーソルが  に変わると、編集したばかりのタイムバーを移動することができます。表示された時刻を編集して、正確な時間を設定することもできます。

カーソルが  に変わると、選択したタイムバーを長くまたは短くすることができます。

3. 必要に応じて、スケジュールタイムバーを選択して、アイコン  をクリックして選択したタイムバーを削除し、アイコン  をクリックすると、すべてのタイムバーが削除され、アイコン  をクリックすると、タイムバーの設定が他の日付にコピーされます。
4. OK をクリックして設定を保存します。

注意:

アーミングスケジュールテンプレートでは、1 日に最大 8 つの期間を設定できます。



6.2 ビデオタンパーアラームの設定

目的 :

カメラが覆われていて、監視領域を見ることができないときに、ビデオのタンパーアラームが発生します。アラーム出力とクライアントアクションを含むリンクージアクションを設定できます。

手順 :

1. 「イベント管理」ページを開き、**カメライベント**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントの種類として「ビデオタンパー検知」を選択します。
3. 有効にするチェックボックスをオンにすると、ビデオタンパー機能が有効になります。
4. ドロップダウンリストからアーミングスケジュールテンプレートを選択します。

テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「アーミングスケジュールテンプレートの設定」を参照してください。

5. トリガされたカメラを選択します。ビデオの改ざんアラームが発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオウォール上に表示されます。

選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーするには、キャプチャスケジュールとストレージを「ストレージスケジュール」で設定することもできます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。

6. マウスをクリックしてドラッグすると、アーミング領域の定義された領域が描画されます。

アイコン  をクリックしてビデオエリア全体を検出エリアに設定するか、アイコン  をクリックしてすべての検出エリアをクリアします。

7. 感度バーのスライダをドラッグして、タンパーアラームの感度を調整します。
8. チェックボックスをオンにして、リンクージアクションを有効にします。詳細は、表 6.2「タンパーアラームのリンクージアクション」を参照してください。

9. 必要に応じて、**コピー先**をクリックして、イベントパラメータを他のチャネルにコピーします。

10. **保存**をクリックして設定を保存します。

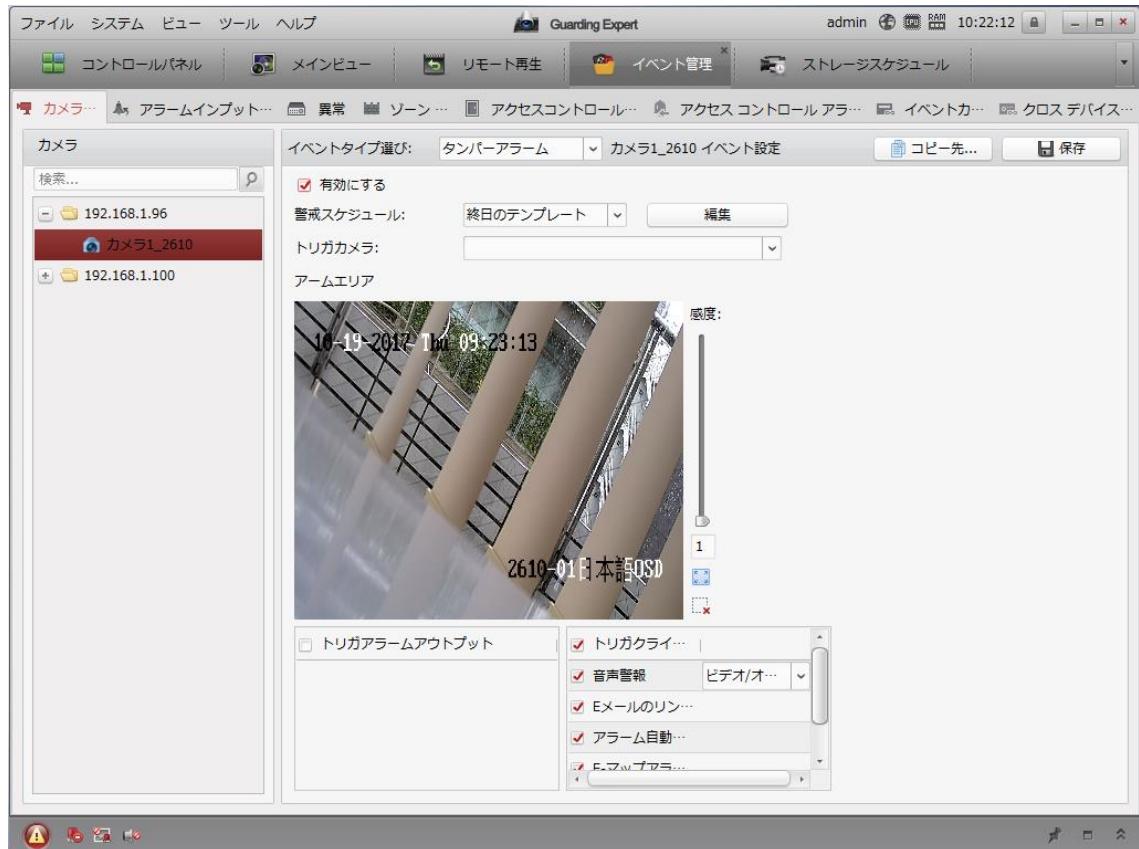


表 6-2 タンパーアラームのリンクージアクション

リンクージアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。

電子メールのリンクエージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

6.3 ビデオロスアラームの設定

目的 :

クライアントソフトウェアがフロントエンドデバイスからビデオ信号を受信できない場合、ビデオ損失アラームがトリガされます。アラーム出力とクライアントアクションを含むリンクージアクションを設定できます。

手順 :

1. 「イベント管理」ページを開き、**カメライベントタブ**をクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントの種類として**ビデオロス**を選択します。
3. チェックボックスをオンにして、ビデオロスアラームの機能を有効にします。
4. ドロップダウンリストからアーミングスケジュールテンプレートを選択します。テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「アーミングスケジュールテンプレートの設定」を参照してください。
5. トリガされたカメラを選択します。ビデオロスアラームが発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオウォール上に表示されます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。
6. チェックボックスをオンにして、リンクージアクションを有効にします。詳細は、表 6-3 ビデオロスアラームのリンクージアクションを参照してください。
7. 必要に応じて、**コピー先**をクリックして、イベントパラメータを他のチャネルにコピーします。
8. **保存**をクリックして新しい設定を保存します。

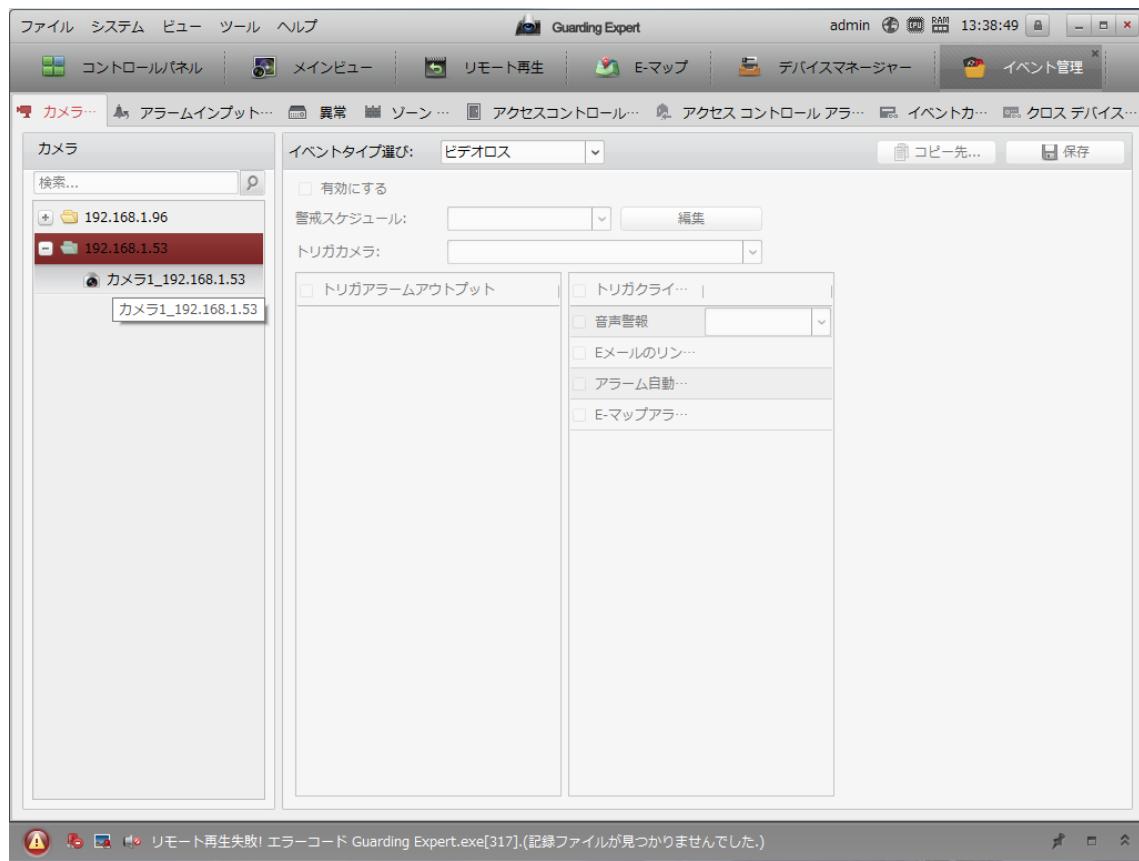


表 6-3 ビデオロスアラームのリンクージアクション

リンクージアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。
電子メールのリンクージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。

E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

6.4 音声異常アラームの設定

目的:

無音状態検知、環境ノイズ検知、電流ノイズ検知などの異常音を検知することができます。

音声入力検知を有効にすると、音声入力状態についての異常を検知できます。

急激な音量上昇を有効にすると、音量の急激な上昇を検知します。以下の 2 つの設定で構成されます。

- 感度:範囲は「1~100」で、値が低いほど検知をトリガするのにより大きな変化が必要になります。
- 音響強度しきい値:範囲は[1~100]で、環境内の音声をフィルタでき、環境音が大きいほど、値を高くする必要があります。実際の環境に合わせて調整できます。

急激な音量低下を有効にすると、音量の急激な低下を検知し、異常な静寂状態を検出することができます。例:発電機は稼働中に大きな音を発生します。この大きな音が突然消えた場合には注意を払う必要があります。

実際の環境に応じて、感度レベルを「0~100」の範囲で設定できます。

注意:音声異常機能は接続されたデバイス側でサポートされている必要があります。

手順 :

1. 「イベント管理」ページを開き、**カメライベントタブ**をクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、イベントタイプとして**音声異常検知**を選択します。
3. 関連するチェックボックスをチェックして、音声検知アラームの関連機能を有効にします。
4. 感度と音の強さのしきい値を設定します。
5. ドロップダウンリストからアーミングスケジュールテンプレートを選択します。

テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「アーミングスケジュールテンプレートの設定」を参照してください。

6. トリガされたカメラを選択します。音声異常アラームが発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオウォール上に表示されます。選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーする

には、キャプチャスケジュールとストレージを「ストレージスケジュール」で設定することもできます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。

7. チェックボックスをチェックしてリンク アクションをアクティベートします。詳細は表 6-4 音声検知アラームのリンクエージアクションを参照してください。
8. オプションとして、**コピー先**をクリックし、イベント パラメータを他のカメラにコピーできます。
9. **保存**をクリックし、新しい設定を保存します。

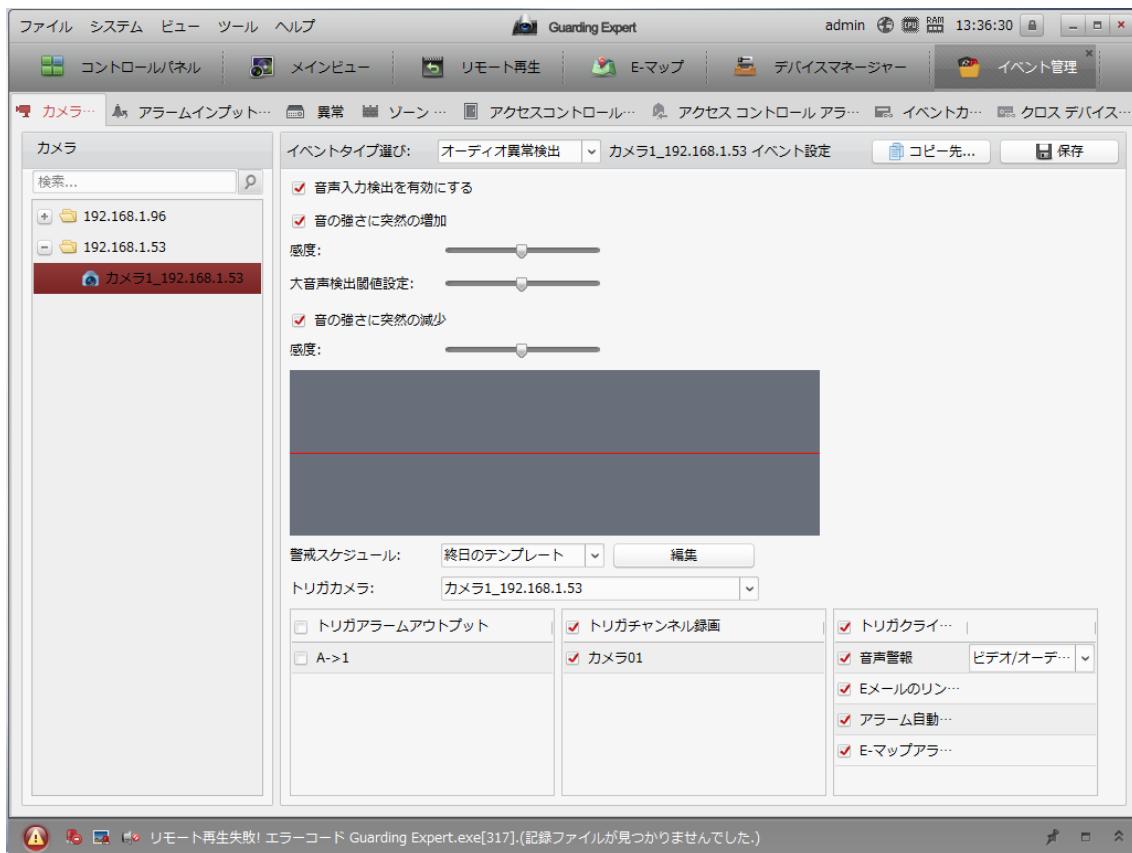


表 6-4 音声検知アラームのリンクエージアクション

リンクエージアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。

チャンネル録画	アラームが発生したときに、選択したカメラの録画を開始します。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。
電子メールのリンクエージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

6.5 顔検知アラームの設定

目的 :

この機能を有効にすると、カメラは自動的に監視領域内の人の顔を検知します。このアラームがトリガされた場合、一連のアラーム アクションをトリガされます。

注意:顔検出機能は接続されたデバイス側でサポートされている必要があります。

手順 :

1. 「イベント管理」ページを開き、**カメライベント**タブをクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、「顔検出」をイベント種別として選択します。
3. 「有効化」チェックボックスをチェックして顔検出アラーム機能を有効化します。
4. ドロップダウンリストから、アーミングスケジュールテンプレートを選択します。テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「アーミングスケジュールテンプレートの設定」を参照してください。
5. トリガしたカメラを選択します。顔検出アラームが発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオ ウォール上に表示されます。選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーするには、キャプチャスケジュールとストレージを「ストレージスケジュール」で設定することもできます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。
6. 顔検知の感度を設定します。
7. 「顔検知の動的分析を有効にする」チェックボックスをオンにして、ライブビューで検知された顔が矩形でマークされるようにします。
8. チェックボックスをオンにして、リンクージアクションを有効にします。 詳細は、表 6-5 顔検知アラームのリンクージアクションを参照してください。
9. オプションとして、**コピー先**をクリックし、イベント パラメータを他のカメラにコピーできます。
10. **保存**をクリックし、新しい設定を保存します。

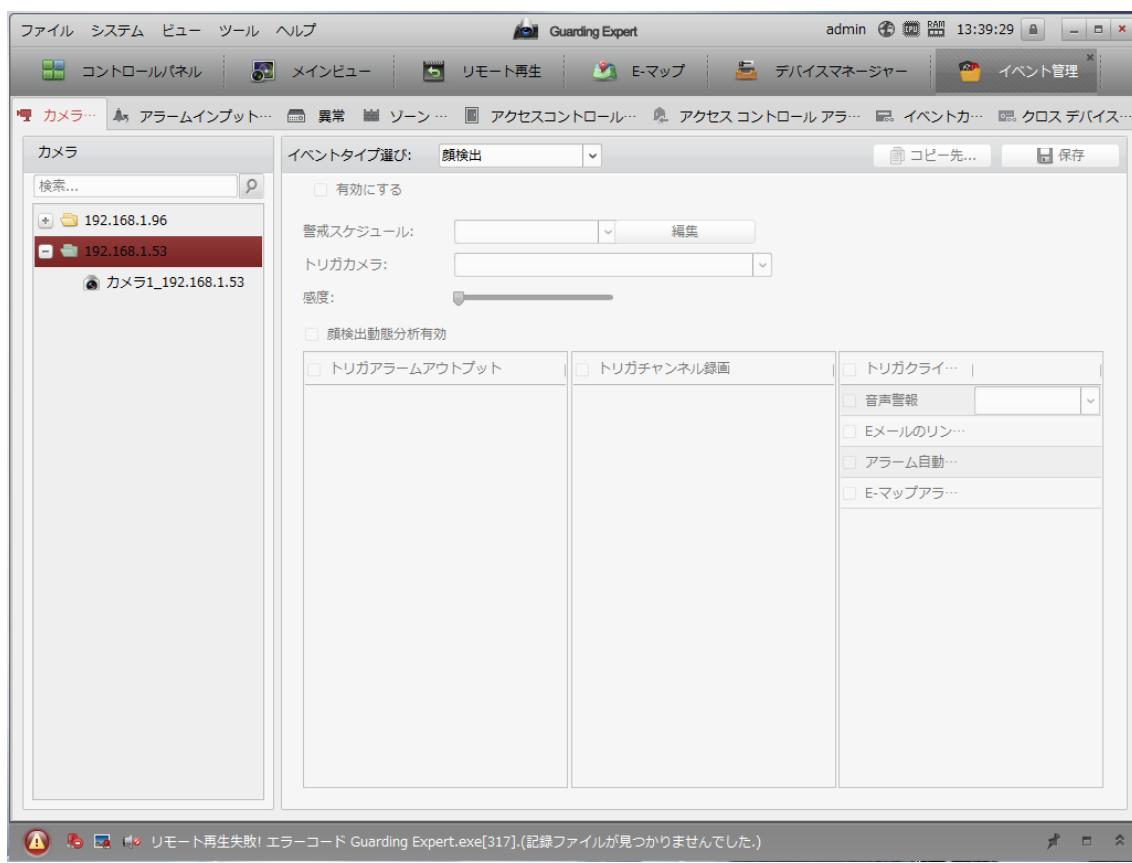


表 6-5 顔検知アラームのリンクアクション

リンクアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。
チャンネル録画	アラームが発生したときに、選択したカメラの録画を開始します。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。

電子メールのリンクエージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

6.6 ラインクロス検知アラームの設定

目的 :

この機能は、事前定義されたバーチャルラインを横断する人物、車両およびオブジェクトを検知するために使用できます。クロッシング検知は、左から右や、右から左の双方向で設定可能です。何らかの物体が検知された場合は一連のリンク メソッドがトリガされます。

注意:

ラインクロス検知機能は接続されたデバイス側でサポートされている必要があります。

手順 :

1. 「イベント管理」ページを開き、**カメライベントタブ**をクリックします。
2. 設定するカメラを選択し、「ラインクロス検知」をイベント種別として選択します。
3. 「有効化」チェックボックスをチェックして機能を有効化します。

注意:

特定のスピードドームについては、ロックをクリックすることで、設定を行っている間、スピードドームが自動的に動くのを防ぐことができます。

4. ドロップダウンリストから、アーミングスケジュールテンプレートを選択します。テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。
5. トリガしたカメラを選択します。ラインクロス検知アラームが発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオウォール上に表示されます。

選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーするには、キャプチャスケジュールとストレージを「ストレージスケジュール」で設定することもできます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。

6. アーミング領域を設定します。

バーチャルライン ID:ドロップダウンリストをクリックして、バーチャルラインの ID を選択します。

注意:

特定のスピード ドームでは、PTZ をクリックし、スピードドームをバーチャルライン iD に対応する任意のシーンに移動させることができます。このようにして複数のビューに対して異なるラインクロス検知アラームを設定することができます。

仮想ラインの方向:方向を A<->B、A->B、B->A のいずれかから選択できます。

- **A<->B:** 双方向でラインを横断するオブジェクトを検知でき、アラームを起動することを示しています。
- **A->B:** A 側から B 側の方向へバーチャルラインを横断するオブジェクトのみ検知できます。
- **B->A:** B 側から A 側の方向へバーチャルラインを横断するオブジェクトのみ検知できます。

7. 感度を「1~100」で設定します。
8. をクリックして、プレビューウィンドウ上でバーチャルラインを指定することができます。オプションとして、をクリックして、バーチャルラインをドラッグして位置を調整したり、をクリックして選択したラインを削除したりできます。
9. チェックボックスをチェックして、リンクージアクションをアクティベートします。詳細については **エラー! 参照元が見つかりません。** を参照してください。
10. オプションとして、**コピー先**をクリックし、イベント パラメータを他のカメラにコピーできます。
11. **保存**をクリックし、新しい設定を保存します。

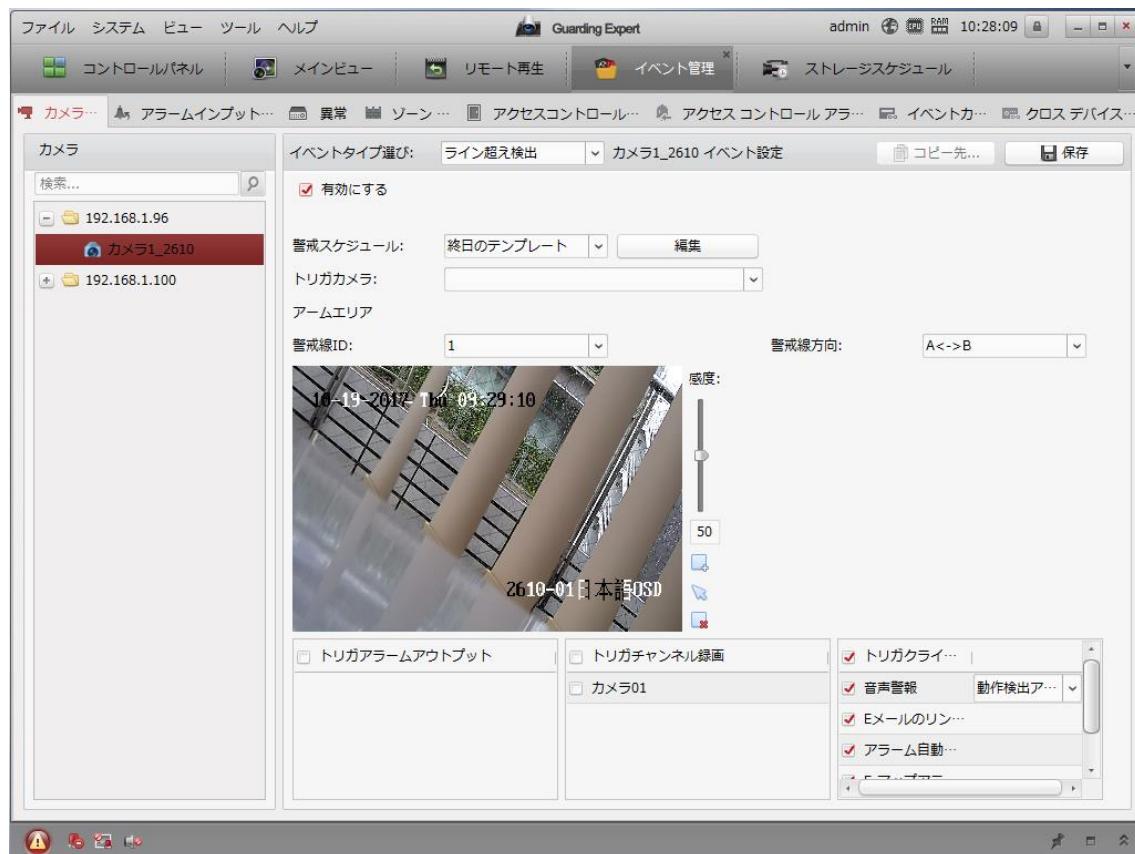


表 6-6 ラインクロス検知アラームのリンクエージアクション

リンクエージアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。
チャンネル録画	アラームが発生したときに、選択したカメラの録画を開始します。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。

電子メールのリンクエージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

6.7 アラーム入力リンクージの設定

目的 :

デバイスのアラーム入力ポートが煙感知器、ドアベルなどの外部のアラーム デバイスから信号を受けた場合、通知のためにアラーム入力リンクージアクションがトリガされます。

始める前に :

クライアントにアラーム入力を追加し、「グループ管理」インターフェイスでインポートをクリックし、アラーム入力タブをクリックしてアラーム入力をグループの管理用にインポートします。

手順 :

1. 「イベント管理」ページを開き、アラーム入力タブをクリックします。
2. 設定するアラーム入力チャネルを選択します。
3. 「有効にする」チェックボックスをオンにします。
4. 内容がわかるようなアラームの名前を入力します。
5. アラーム入力デバイスに応じてアラーム状態を設定します。
6. ドロップダウンリストからアーミングスケジュールテンプレートを選択します。
テンプレートを編集またはカスタマイズする必要がある場合は、「アーミングスケジュールテンプレートの設定」を参照してください。
7. トリガーされたカメラを選択します。アラーム入力が発生すると、トリガしたカメラからの画像やビデオがポップアップまたはビデオウォール上に表示されます。
選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーするには、キャプチャスケジュールとストレージを「ストレージスケジュール」で設定することもできます。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。
8. チェックボックスをオンにして、リンクージアクションを有効にします。詳細は、表 6-7 アラーム入力のリンクージアクションを参照してください。
9. オプションとして、**コピー先**をクリックし、イベント パラメータを他のカメラにコピーできます。
10. **保存**をクリックし、新しい設定を保存します。

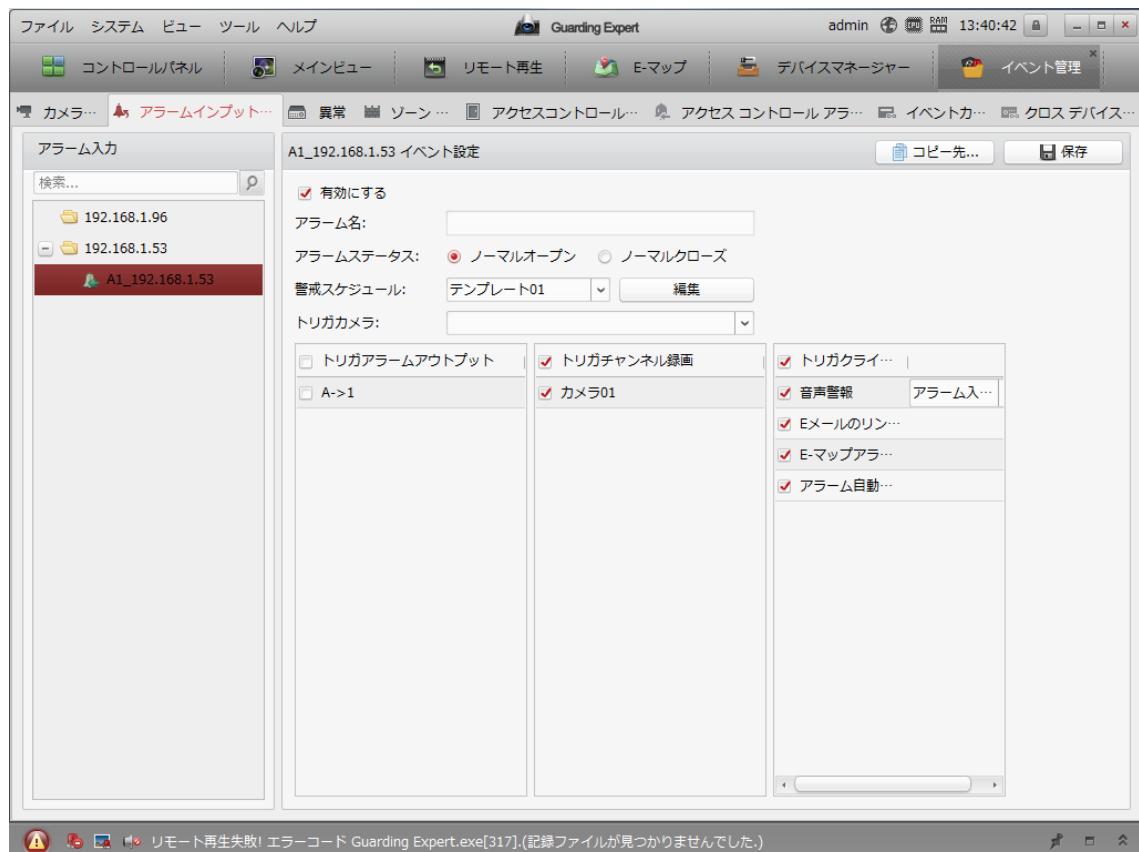


表 6-6 アラーム入力のリンクエージアクション

リンクエージアクション	説明
アラーム出力	アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。
チャンネル録画	アラームが発生したときに、選択したカメラの録画を開始します。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。

電子メールのリンクエージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

6.8 デバイス異常リンクージの設定

手順：

1. 「イベント管理」ページを開き、**異常**タブをクリックします。
2. 設定するデバイスを選択します。
3. HDD フル、HDD 異常、不正なログイン、デバイスのオフラインなど、デバイスの異常タイプを選択してください。
4. 「有効にする」チェックボックスをオンにします。
5. チェックボックスをオンにして、リンクージアクションを有効にします。 詳細は表 6-8 デバイス異常のリンクージアクションを参照してください。
6. オプションとして、**コピー先**をクリックし、イベント パラメータを他のカメラにコピーできます。
7. **保存**をクリックして設定を保存します。

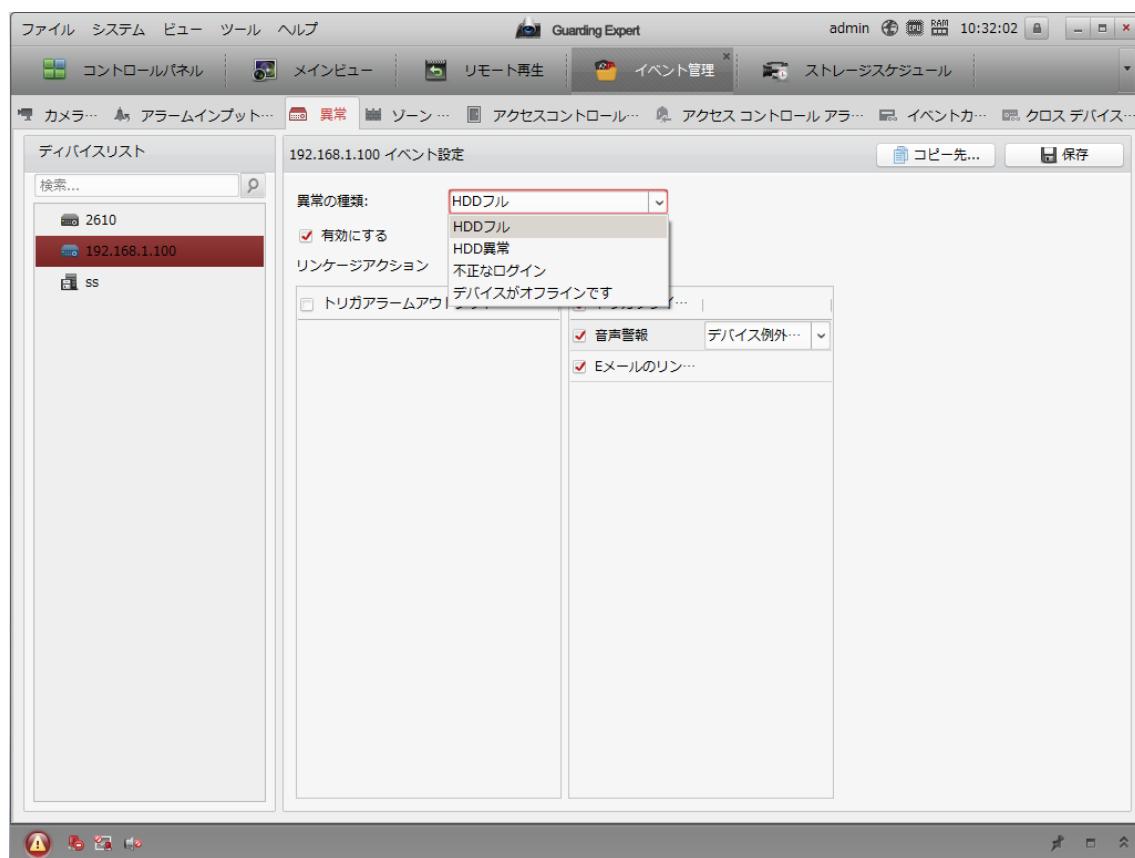


表 6-8 デバイス異常のリンクージアクション

リンクージアクション	説明
アラーム出力	<p>アラーム出力機能を有効にします。アラーム出力ポートを選択すると、ポートに接続されている外部デバイスを制御できます。</p> <p>注意: デバイスオフライン異常ではアラーム出力を使用できません。</p>
チャンネル録画	アラームが発生したときに、選択したカメラの録画を開始します。
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。
電子メールのリンクージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

第 7 章 アラームとイベントセンター

目的 :

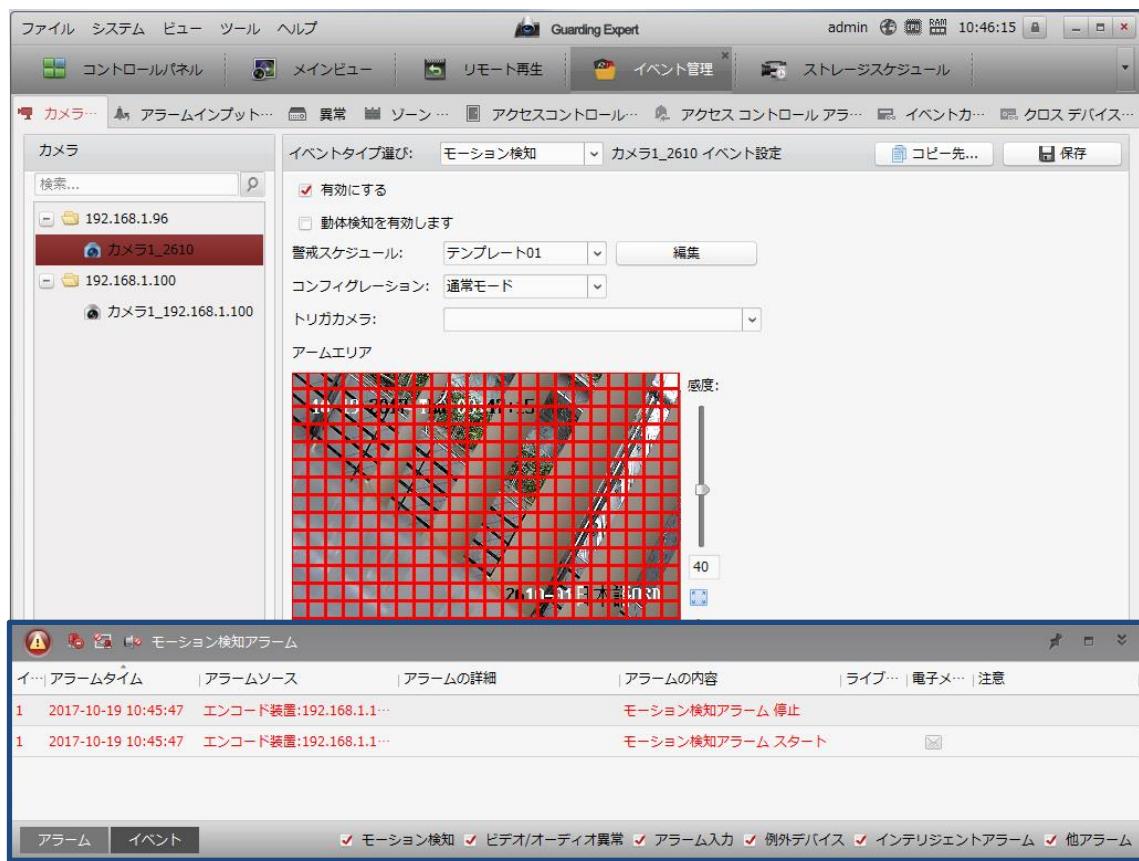
追加されたすべてのデバイスの最新の受信したアラームおよびイベントを表示できます。

注意:

デバイスからアラーム情報を受信する前に、ツール>デバイスマーミング制御をクリックし、対応するチェックボックスをチェックしてデバイスをアームする必要があります。アラームが発生すると、アラーム情報がクライアントソフトウェアに自動的にアップロードされます。

手順 :

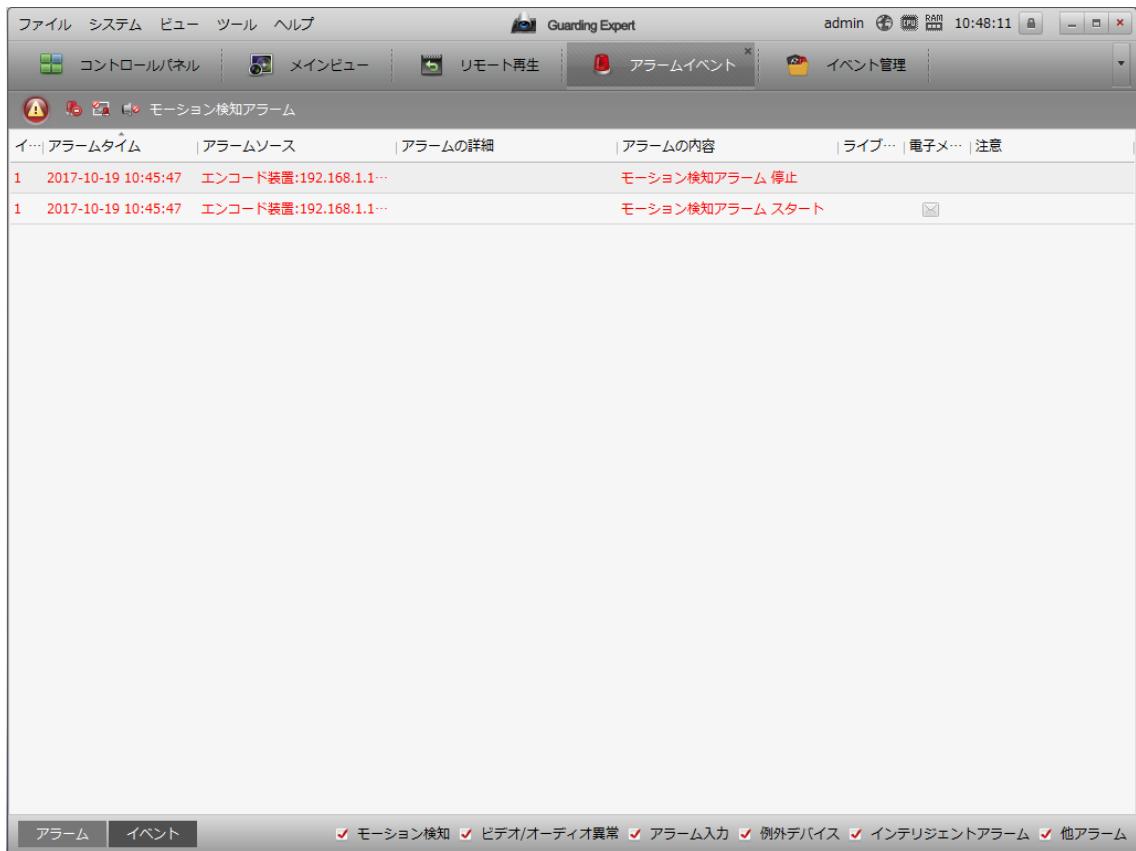
1. アラームとイベントツールバーのアイコン  をクリックすると、アラームとイベントパネルが表示されます。



2.  をクリックすると、「アラームイベント」インターフェイスが表示されます。ま



たは、コントロールパネルのアイコン  をクリックして、「アラームイベント」インターフェイスに入ります。



「アラームとイベント」パネルには、次のツールバーボタンがあります。

	情報をクリアする。	リストに表示されているアラームとイベントの情報をクリアします。
	アラームトリガされたポップアップイメージを有効または無効にする。	アラームが発生したときに画像ポップアップ有効/無効にする場合にクリックします。
	オーディオを有効/無効にする。	アラームのオーディオ警告を有効または無効にする場合にクリックします。

	自動非表示/ロック。	クリックするとアラーム/イベントパネルが自動的に非表示/ロックされます。
	最大化する	新しいタブページで「アラームとイベント」パネルを最大化します。
	表示/非表示	アラームとイベントパネルを表示/非表示にする場合にクリックします。

7.1 アラーム情報の表示

目的 :

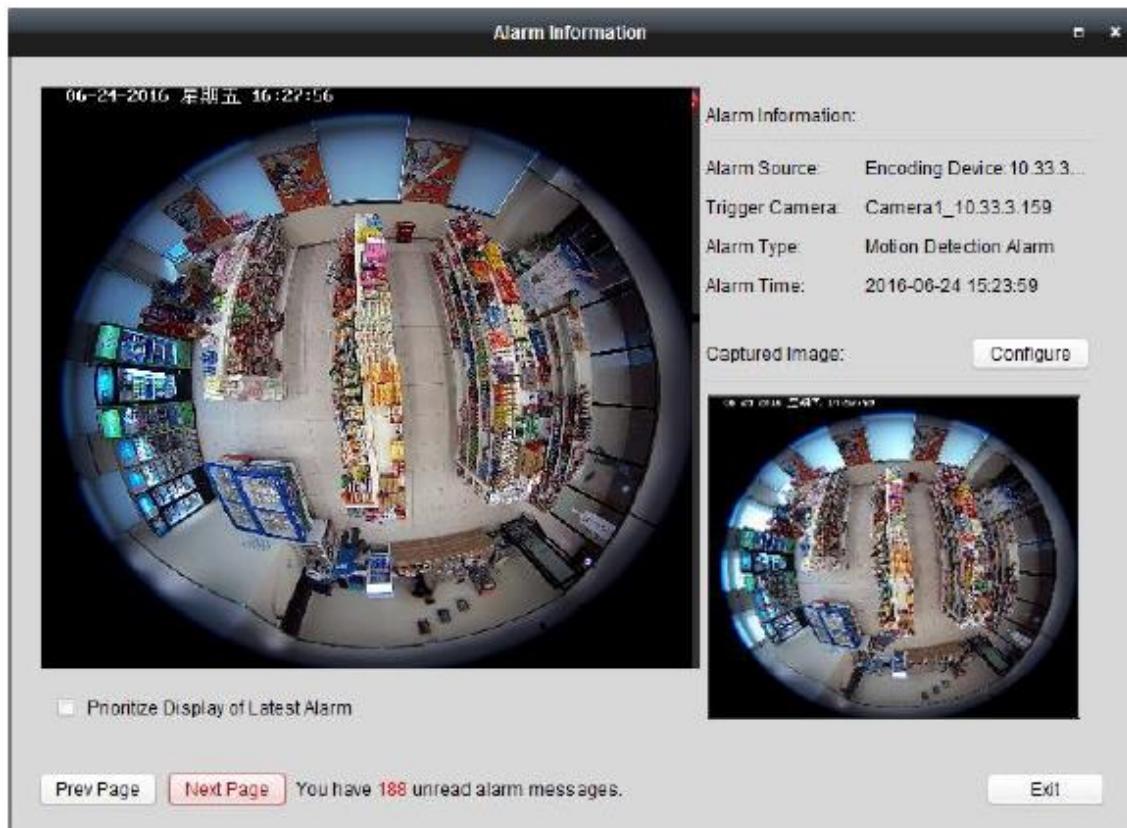
動体検知、ビデオ/オーディオ異常、アラーム入力、デバイス異常、VCA アラーム、CiD アラーム、アクセスコントロールアラーム、その他のアラームなど、さまざまなアラームタイプをパネルに表示できます。チェックボックスをオンにすると、そのタイプのアラームの表示を有効にすることができます。

始める前に:

アラームを表示するには、イベントパラメータを設定する必要があります。

手順 :

1. アラームタブをクリックします。
2. さまざまな種類のアラームのチェックボックスをオンにします。
3. アラームが発生すると、アイコン  が点滅して注意を喚起します。時間、ソース、詳細、内容を含むアラーム情報が表示されます。
4.  クリックすると、アラームが発生したカメラのライブビューが表示されます。



トリガされたカメラのライブビデオを表示できます。前ページまたは次ページボタンをクリックすると、前または次のアラーム情報を表示できます。

注意:

- カメラのアラーム画像をストレージ サーバに保存する場合、「画像ストレージ」をチェックしておく必要があります。設定をクリックするとパラメータを設定できます。詳細は、「3.1.2 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。
- **最新のアラームの優先表示**は、デフォルトではオフになっています。

このチェックボックスをオンにすると、最新のトリガアラームを表示するように切り替えることができます。アラームウィンドウは 4 ウィンドウ分割されています。最新のアラームは、表示された 4 つのウィンドウの最も早いアラームウィンドウを置き換えます。

5. 電子メール設定が適切に設定されている場合は、 をクリックして 1 つまたは複数の受信者にアラームの電子メール通知を送信します（「18.2.8 電子メール設定」）。

6.  をクリックすると、アラームが発生したカメラのビデオがビデオウォールに表示されます。「ビデオウォール」インターフェイスに入り、アラームウィンドウとして設定された画面上でアラームトリガされたビデオの再生を確認できます。物理的なビデオウォールにもビデオが表示されます。

注意:

デコーディングデバイスを追加し、ビデオウォールを設定する必要があります。詳細は、「12 ビデオウォールのデコードと表示」を参照してください。

アラームの説明を入力するには、「注記」欄の下をクリックします。

7. アラーム情報をクリアするには、アイコン  をクリックするか、アラームログを右クリックして、クリアをクリックします。

7.2 イベント情報の表示

目的:

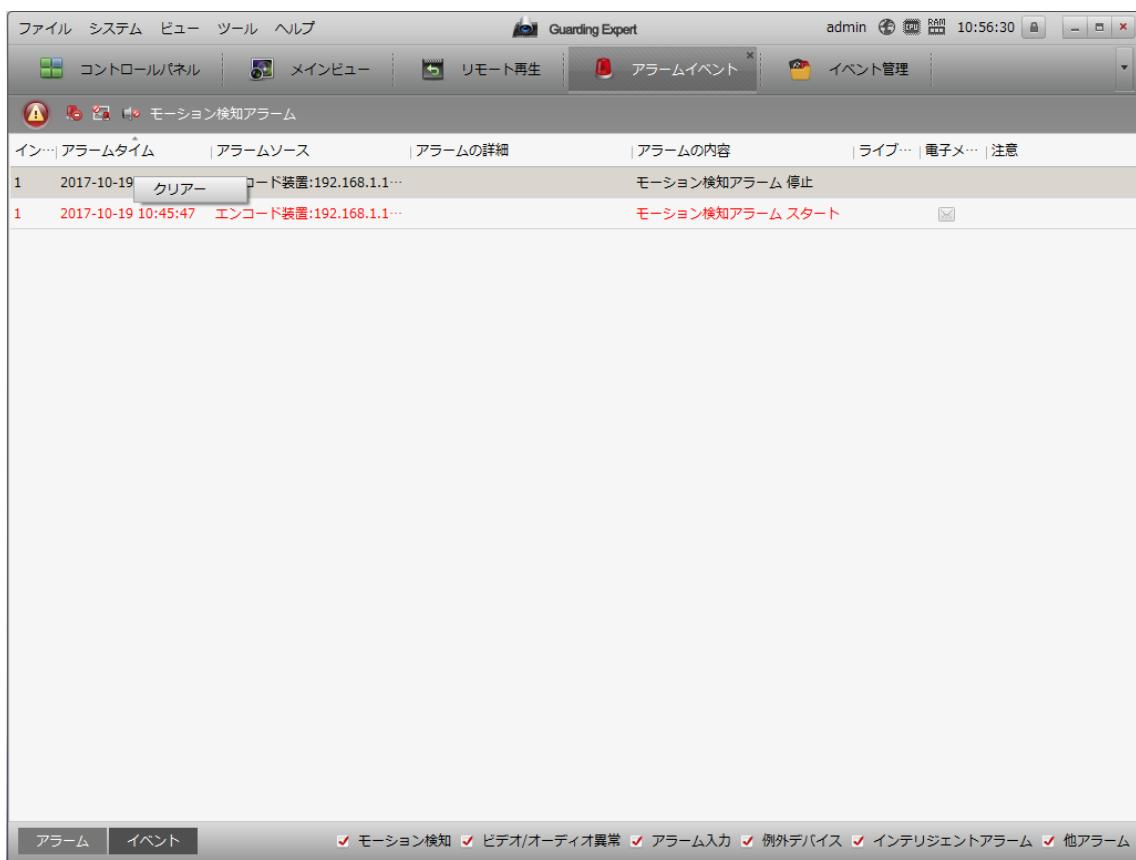
ライブビューの失敗、デバイスの切断などのクライアントソフトウェアの異常なイベントも表示できます。

手順:

1. イベントタブをクリックします。

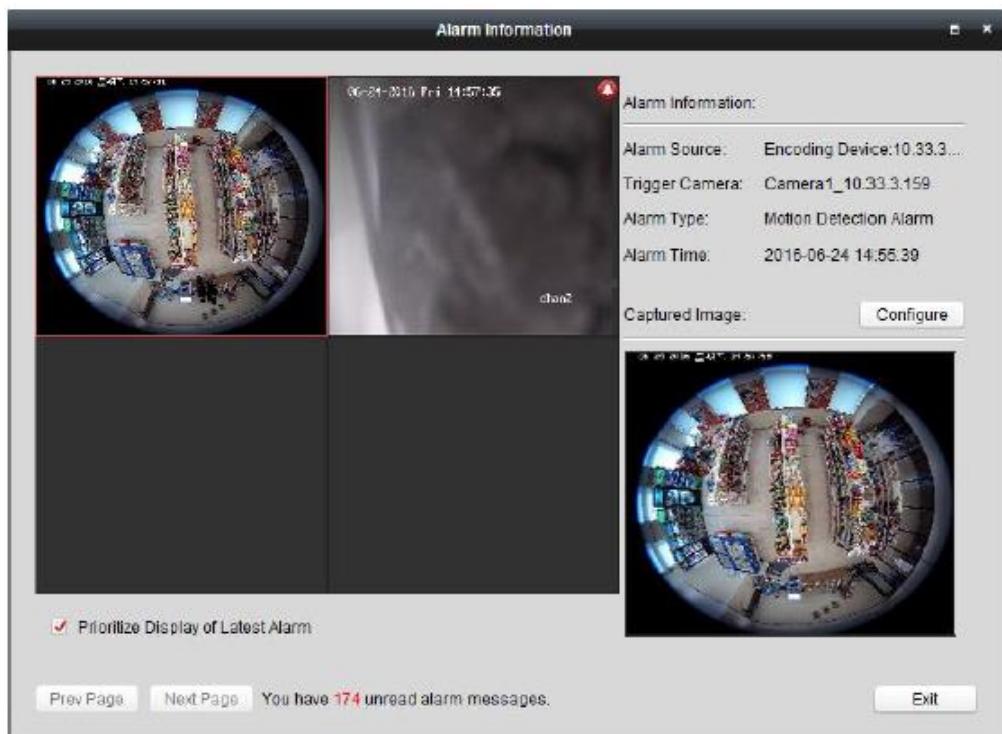
時間と詳細な説明を含むイベント情報が表示されます。

2. イベント情報を消去するには、アイコン  をクリックするか、イベントログを右クリックしてクリアをクリックします。



7.3 ポップアップアラーム情報の表示

アラームトリガポップアップイメージのイベントリンクージを有効にし、クライアントでアラームトリガポップアップイメージ機能を有効にする場合、対応するイベント/アラームがトリガされる時に、アラームイメージがポップアップ表示されます。



トリガされたカメラのライブビデオを表示できます。右のパネルでは、アラーム画像が表示されます。

注意:

- カメラのアラームピクチャをストレージサーバに保存するため、ピクチャストレージはチェックする必要があります。設定をクリックして、パラメータを設定できます。詳細は、「5.1.2 ストレージデバイスへの保存」を参照してください。
- デフォルトで最新のアラームの表示の優先順位付けがオンになっています。アラームウィンドウは4 ウィンドウ分割されています。最新のアラームは、表示された4つのウィンドウの最も早いアラームウィンドウを置き換えます。

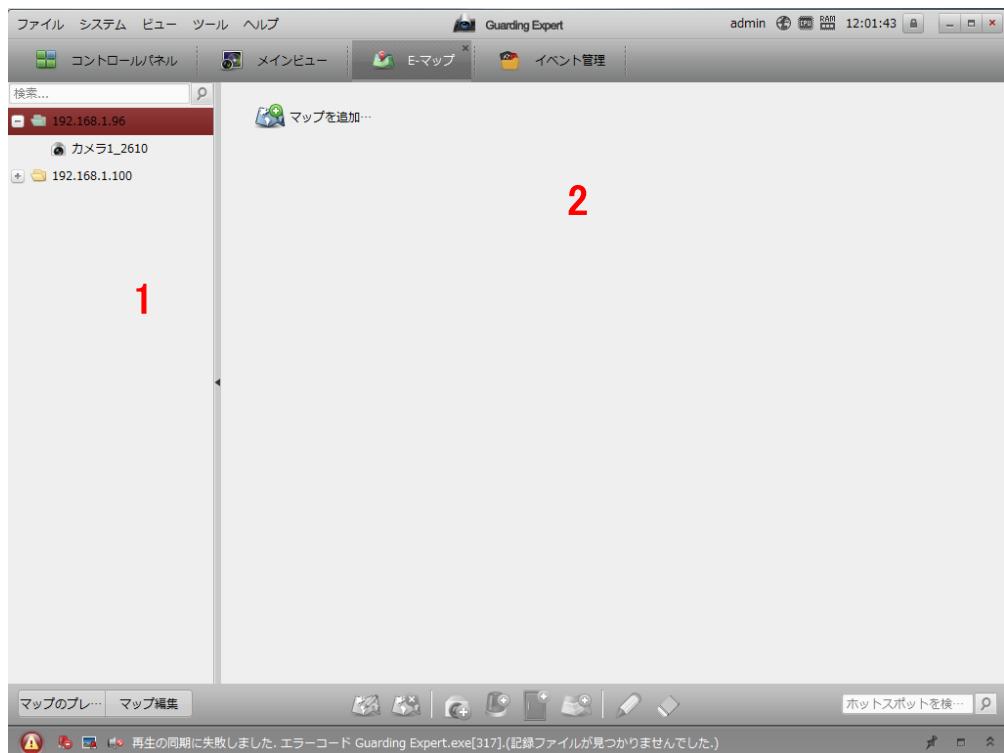
このチェックボックスをオフにすると、現在のトリガアラームを表示するように切り替えることができます。前ページまたは次ページボタンをクリックすると、前または次のアラーム情報を表示できます。

第 8 章 E-マップ管理

目的 :

E-マップ機能は設置されたカメラおよびアラーム入力デバイスの位置や分布についての視覚的な全体像を提供します。地図上でカメラのライブ ビューを確認することができ、アラームがトリガされた場合には地図から通知メッセージが受け取れます。ドアの開閉など、E-マップ上のアクセスコントロールポイントを制御することもできます。

コントロールパネルのアイコン  をクリックします。または、表示>E-マップをクリックして E-マップページを開きます。



E-マップページ

1. グループリスト
2. 地図表示エリア
3. E-マップツールバー

8.1 E-マップの追加

目的:

ホットスポットおよびホットリージョンの親マップとして E-マップを追加する必要があります。

手順:

1. E-マップページを開きます。
2. マップを追加するグループを選択します。
3. マップ表示エリアのアイコン  をクリックすると、マップ追加ダイアログボックスが開きます。
4. 必要に応じて、追加されたマップのわかりやすい名前を入力します。
5. アイコン  をクリックし、ローカルパスからマップファイルを選択します。
6. OK をクリックして設定を保存します。

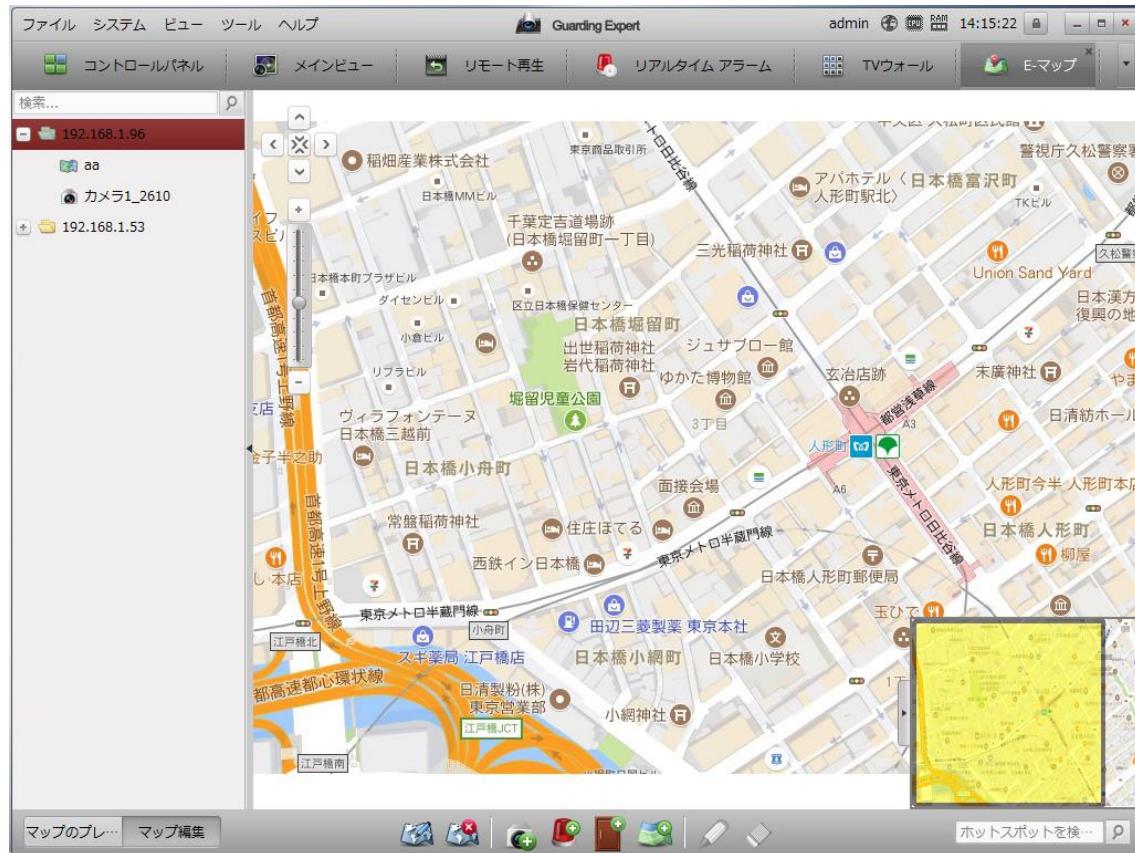
注意:

- マップの画像フォーマットは、*.png、*.jpg、*.bmp のいずれかのみです。
- 1 つグループに追加できるマップは 1 つのみです。



追加マップは、マップの表示領域に表示されています。マウスホイールを使用するか、 または

 をクリックして、マップ上でズームインまたはズームアウトします。右下にある黄色のウインドウをクリック＆ドラッグするか、方向ボタンとズームバーを使用して表示するマップ領域を調整できます。



E-マップツールバーのマップ編集またはマッププレビューボタンをクリックして、マップ編集モードまたはマッププレビューモードに入ります。

マップ編集モードの E-マップツールバー:



マッププレビューモードで E-マップツールバー:



「E-マップ」ページで、以下のツールバーボタンがあります。



マップの変更

マップ名とファイルパスを含むマップ情報を変更します。



地図の削除

現在のマップを削除します。



カメラの追加

マップ上のホットスポットとしてカメラを追加します



アラーム入力の追加

アラーム入力センサーをマップ上のホットスポットとして追加します。



アクセスコントロールポイントの追加

マップ上のホットスポットとしてアクセスコントロールポイントを追加します。



ゾーンの追加

マップ上にホットスポットとしてゾーンを追加します。



ホットリージョンの追加

現在のマップ上のホットリージョンとしてマップを追加します。



変更

選択したホットスポットまたはホットリージョンの情報を変更します。



削除

選択したホットスポットまたはホットリージョンを削除します。



クリアアラーム情報

マップに表示されているアラーム情報をクリアします。



親マップに戻る

親マップに戻ります。

8.2 ホットスポット機能

目的:

カメラとアラーム入力はマップ上に追加することができ、ホットスポットと呼ばれます。ホットスポットはカメラおよびアラーム入力の位置を示します。またホットスポットを通じて、監視シナリオに含まれるライブビューやアラーム情報を取得できます

注意:

- アクセスコントロールポイントのホットスポットの管理とプレビューについては、「14.9 E-マップのアクセスコントロールポイントの表示」を参照してください。
- ゾーンホットスポットの管理とプレビューについては、「13.3 E-マップ上のゾーンの表示」を参照してください。

8.2.1 ホットスポットの追加

カメラをホットスポットとして追加する

手順:

1. E-マップツールバーのマップの編集ボタンをクリックして、マップ編集モードに入ります。
2. ツールバーのアイコンをクリックして、ホットスポットの追加ダイアログボックスを開きます。
3. チェックボックスをオンにして、追加するカメラを選択します。
4. オプションで、ホットスポット名を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックしてホットスポットアイコンを選択することができます。
5. OKをクリックして設定を保存します。カメラのアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、追加されたカメラのアイコンがグループリストのからに変わります。カメラのアイコンをクリックしてドラッグすると、ホットスポットが目的の場所に移動します。また、グループリストからカメラアイコンを直接クリックしてドラッグして、ホットスポットを追加できます。



アラーム入力をホットスポットとして追加する

手順:

1. E-マップツールバーのマップの編集ボタンをクリックして、マップ編集モードに入ります。
2. ツールバーのアイコン  をクリックして、ホットスポットの追加ダイアログボックスを開きます
3. チェックボックスをオンにして、追加するアラーム入力を選択します。
4. オプションで、ホットスポット名を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックしてホットスポットアイコンを選択することができます。
5. OK をクリックして設定を保存します。アラーム入力のアイコンがホットスポットとしてマップに追加され、追加されたアラーム入力のアイコンがグループリストの  から  に変わります。アラーム入力のアイコンをクリックしてドラッグすると、ホットスポットが目的の場所に移動します。また、グループリストからアラーム入力のアイコンを直接クリックしてドラッグして、ホットスポットを追加できます



8.2.2 ホットスポットの変更

目的:

追加されたホットスポットの情報は、マップ上で名前、色、アイコンなどを変更することができます。

手順:

1. E-マップツールバーのマップの編集ボタンをクリックして、マップ編集モードに入ります。
2. マップ上のホットスポットアイコンを選択し、ツールバーの をクリックし、ホットスポットアイコンを右クリックして **変更**を選択します。または、マップ上のホットスポットアイコンをダブルクリックして、ホットスポットの修正ダイアログボックスを開きます。
3. テキストフィールドでホットスポット名を編集し、色、アイコン、リンクされたカメラまたはアラーム入力を選択できます。
4. OKをクリックして新しい設定を保存します。

ホットスポットを削除するには、ホットスポットアイコンを選択してツールバーの をクリックするか、ホットスポットアイコンを右クリックして **削除**を選択します。



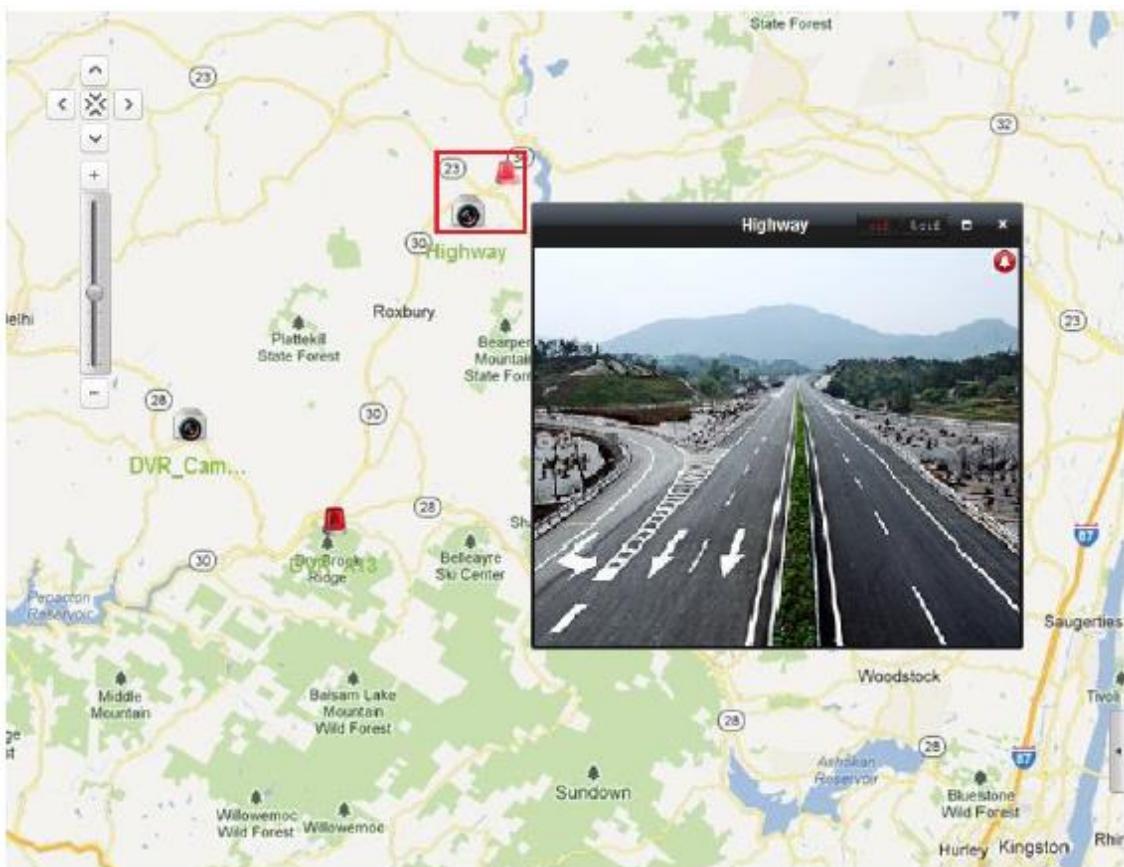
8.2.3 ホットスポットのプレビュー

手順:

1. E-マップツールバーのマッププレビューボタンをクリックして、マッププレビューモードに入ります。
2. カメラのホットスポットをダブルクリックするか、右クリックして「ライブビュー」を選択すると、カメラのライブビューが表示されます。
3. アラームがトリガされた場合は、アイコン  は表示され、ホットスポットのそばで点滅します。(10秒間点滅します。) アラームアイコンをクリックすると、アラームの種類やトリガ時間などのアラーム情報を確認できます。

注意:

マップ上にアラーム情報を表示するには、E-マップ機能上のアラーム機能をアラームリンクエディアクションとして設定する必要があります。詳細は、「6 イベント管理」を参照してください。



8.3 ホットリージョン機能

目的:

ホットリージョン機能はマップを別のマップにリンクします。ホットリージョンとして別のマップにマップを追加する場合、追加されたマップへのリンクのアイコンがメインマップに表示されます。追加されたマップは子マップと呼ばれ、ホットリージョンを追加するマップは親マップです。

注意:

マップはホットリージョンとして一度だけ追加することができます。

8.3.1 ホットリージョンの追加

始める前に:

別のグループにマップを追加します。

手順:

1. E-マップツールバーのマップの編集ボタンをクリックして、マップ編集モードに入ります。
2. 追加したマップを親マップとして選択します。
3. ツールバーのアイコン  をクリックして、「ホットリージョンを追加」ダイアログボックスを開きます。
4. チェックボックスをオンにして、リンクする子マップを選択します。
5. オプションで、ホットリージョン名を編集し、対応するフィールドをダブルクリックしてホットリージョンの色とアイコンを選択することができます。
6. OK をクリックして設定を保存します。子マップのアイコンは親マップ上のホットリージョンとして追加されます。子マップのアイコンをクリックしてドラッグすると、ホットリージョンを目的の場所に移動できます。



8.3.2 ホットリージョンの変更

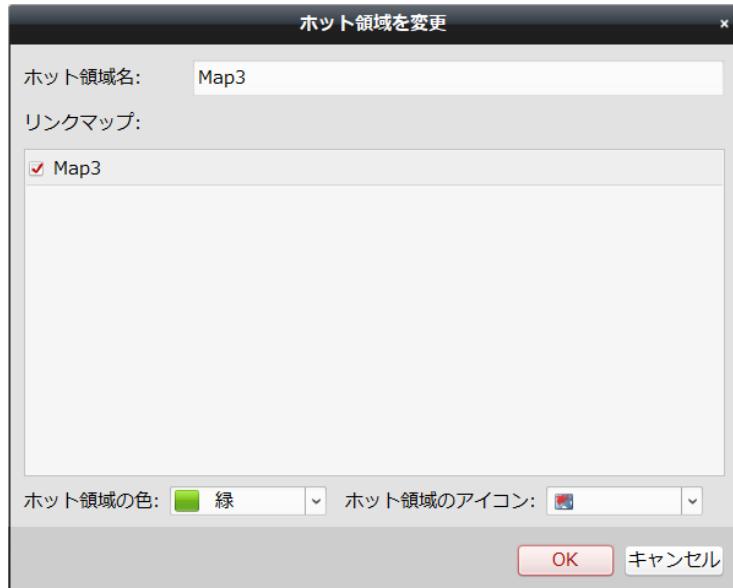
目的:

名前、色、アイコンなど、親地図のホットリージョンの情報を変更することができます。

手順:

1. E-マップツールバーのマップの編集ボタンをクリックして、マップ編集モードに入ります。
2. マップ上のホットスポットアイコンを選択し、ツールバーの をクリックし、ホットスポットアイコンを右クリックして **変更**を選択します。または、マップ上のホットスポットアイコンをダブルクリックして、ホットスポットの修正ダイアログボックスを開きます。
3. テキストフィールドでホットスポット名を編集し、色、アイコン、リンクされたカメラまたはアラーム入力を選択できます。
4. OKをクリックして新しい設定を保存します。

ホットスポットを削除するには、ホットスポットアイコンを選択してツールバーの をクリックするか、ホットスポットアイコンを右クリックして **削除**を選択します。



8.3.3 ホットリージョンのプレビュー

手順:

1. E-マップツールバーのマッププレビューボタンをクリックして、マッププレビューモードに入ります。
2. ホットリージョンアイコンをクリックして、リンクされた子マップに移動します。
3. ホットスポットはホットリージョンに追加することもできます。
4. ツールバーのアイコンをクリックすると、親地図に戻ることができます。

ツールバーのアイコンをクリックして、アラーム情報をクリアすることもできます。



第9章 VCA デバイス管理

目的 :

VCA リソースの割り当て、ルール設定、VQD(ビデオ品質診断)などの VCA 設定用の VCA(ビデオコンテンツ分析)デバイスをクライアントに追加することができます。

VCA リソースの割り当て

始める前に :

VCA デバイスをソフトウェアに追加する必要があります。「3.1 VCA デバイスを追加」を参照して、デバイスを追加します。

目的 :

追加されたデバイスの VCA 設定を設定する前に、デバイスの VCA リソースを設定する必要があります。これは対応するカメラの VCA 機能の有効化を意味します。

手順 :

1. 「デバイス管理の設定」インターフェイスで、**サーバタブ**を選択します。
2. クリックして VCA デバイスを選択し、**リモート設定**をクリックして「リモート設定」ウィンドウをアクティブにします。
3. 「リモート設定」ウィンドウで、VCA 設定をクリックして VCA 設定リストを展開します。カメラのドロップダウンリストで、VCA リソース割り当てを選択して、VCA リソースを割り当てます。
4. リソース情報領域では、デバイスの VCA タイプと VCA リソースの使用状況を表示できます。

例: 下記の図では、デバイスの VCA タイプがヒートマップで、4 台のカメラを使用して VCA 設定を構成しています。カメラ 1 は VCA 機能で有効になっています。



5. VCA リソース割り当てパネルで、チェックボックス をチェックして、カメラの VCA 機能を有効にします。
6. 保存をクリックして設定を保存します。

VCA の設定

VCA リソースを割り当てた後、カメラの VCA 設定を構成できます。

手順:

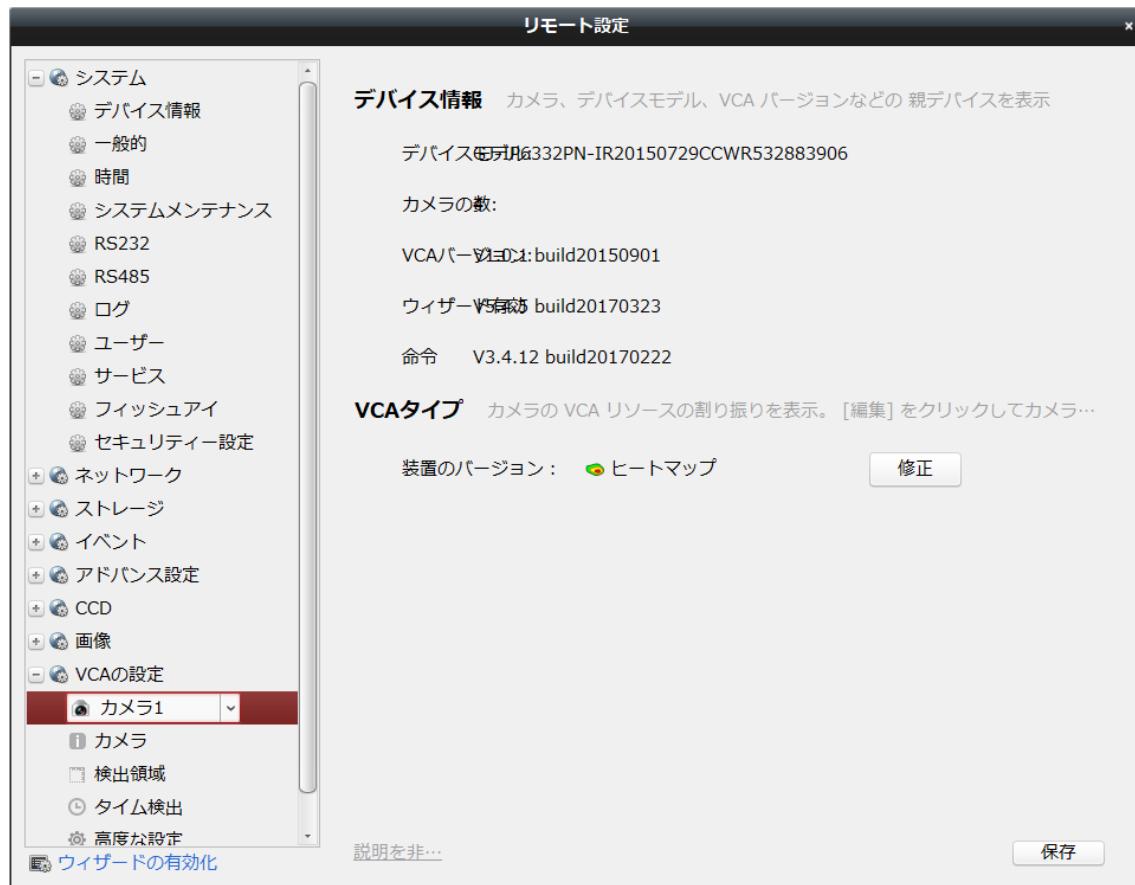
1. 「デバイス管理の設定」インターフェイスで、**サーバタブ**を選択します。
2. クリックして VCA デバイスを選択し、**リモート設定**をクリックして「リモート設定」ウィンドウをアクティブにします。
3. 「リモート設定」ウィンドウで、**VCA 設定**をクリックして VCA 設定リストを展開します。

注意:

VCA の設定リストは、さまざまな VCA デバイスによって異なります。

提供されている指示に従って、カメラの VCA 設定を構成することができます。

「**ウィザードを有効にする**」をクリックすると、カメラのクイック VCA 設定を構成するウィザードが表示されます。



第 10 章 ストリームメディアサーバを経由したビデオストリームの転送

目的:

デバイスのリモートアクセス番号には常に制限があります。ライブビューを取得するためにデバイスにリモートアクセスするユーザが多い場合は、ストリームメディアサーバを追加してストリームメディアサーバからビデオデータストリームを取得することで、デバイスの負荷を軽減できます。

10.1 ストリームメディアサーバの追加

始める前に :

ストリーム メディア サーバのアプリケーション ソフトウェアがインストールされており、それは IVMS-4200 ソフトウェア パッケージに同梱されているものである必要があります。IVMS-4200 ソフトウェアのインストール時に、「ストリームメディアサーバ」チェックボックスをチェックし、ストリーム メディア サーバのインストールを有効にしてください

手順:



1. デスクトップ上のショートカットアイコン  をクリックして、ストリームメディアサーバを実行します。

注意:

- 他の PC にインストールされているストリームメディアサーバを経由してビデオを転送することもできます。
- ストリームメディアサーバーポート(値: 554)が他のサービスによって占有されている場合、ダイアログボックスがポップアップします。ポート番号を他の数字に変更し、ストリームメディアサーバが適正に動作するようにしてください。

2. 「デバイス管理」ページを開き、デバイスタブをクリックします。
3. 「新しいデバイスタイプの追加」をクリックし、ストリームメディアサーバを選択して OK をクリックします。

4. リストの「ストリームメディアサーバ」をクリックし、追加をクリックします。

ストリームメディアサーバを追加するには、次の 2 つの方法があります。

- IP アドレスによるストリームメディアサーバの追加

ストリームメディアサーバを追加するには、次の手順を実行します。

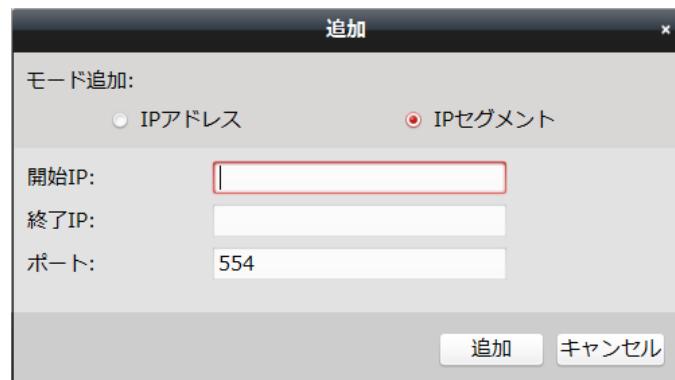
- 1) IP アドレスを追加モードとして選択します。
- 2) ストリームメディアサーバのニックネームと IP アドレスを入力します。デフォルトのポート値は 554 です。
- 3) 追加をクリックして、ストリームメディアサーバをクライアントソフトウェアに追加します。



- IP セグメントによるストリームメディアサーバの追加

IP セグメントでストリームメディアサーバを追加するには、次の手順を実行します。

- 1) IP セグメントを追加モードとして選択します。
- 2) 開始 IP と終了 IP を入力します。デフォルトのポート値は 554 です。
- 3) 追加をクリックして、ストリームメディアサーバをクライアントソフトウェアに追加します。IP アドレスが開始 IP と終了 IP の間にあるストリームメディアサーバがクライアントに追加されます。



注意:

1 つのクライアントに対して、最大 16 のストリームメディアサーバを追加できます。

10.2 ビデオストリームを転送するためのストリームメディアサーバへのカメラの追加

目的 :

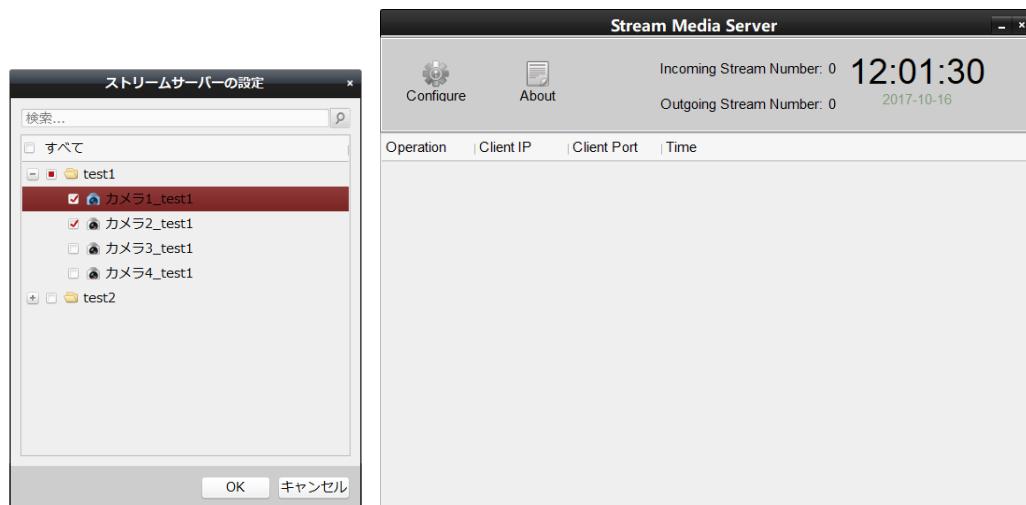
ストリームメディアサーバ経由でカメラのビデオストリームを取得するには、カメラをストリームメディアサーバに接続する必要があります。

手順:

1. リストからストリームメディアサーバを選択します。
2. 設定をクリックして、「ストリームメディアサーバの設定」インターフェイスに入ります。
3. ストリームメディアサーバ経由したビデオストリームを転送するカメラを選択します。
4. OKをクリックして新しい設定を保存します。
5. メインビューページに移動して、カメラのライブビューをもう一度開始します。ストリームメディアサーバから転送された、またはストリームメディアサーバから送信されたビデオストリームのチャネル番号を確認できます。

注意:

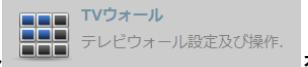
- 1つのストリームメディアサーバに対して、最大 64 チャンネルのビデオストリームを転送でき、最大 200 チャンネルまでのビデオストリームをクライアントからクライアントに送信できます。
- カメラがオフラインの場合でも、クライアントはストリームメディアサーバ経由でライブビデオを取得できます。



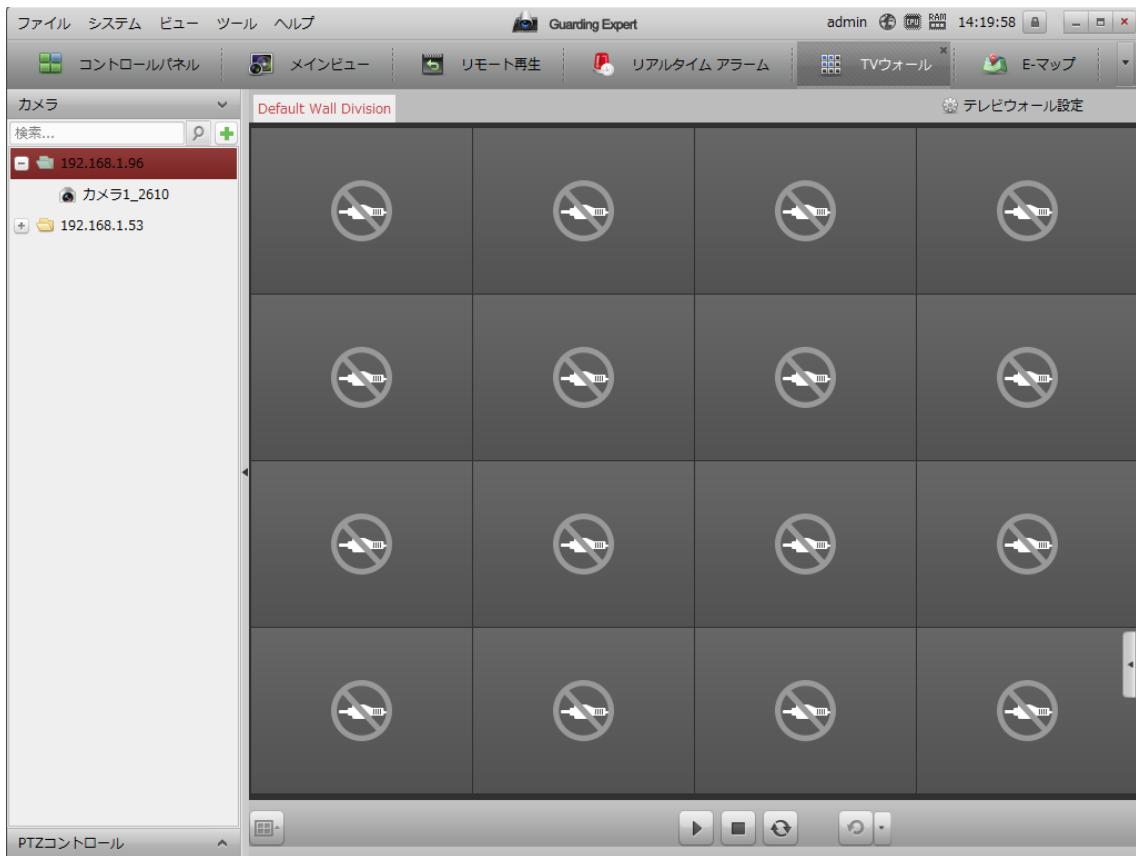
第 11 章 ビデオウォール上でのビデオのデコーディングと表示

目的 :

ビデオウォールモジュールはビデオデコード機能を提供し、デコードされたビデオはビデオウォールに表示され、注目度の高いパフォーマンスが得られます。

コントロールパネルのアイコン  をクリックするか、

ビュー>ビデオウォールをクリックして「ビデオウォール」ページを開きます。



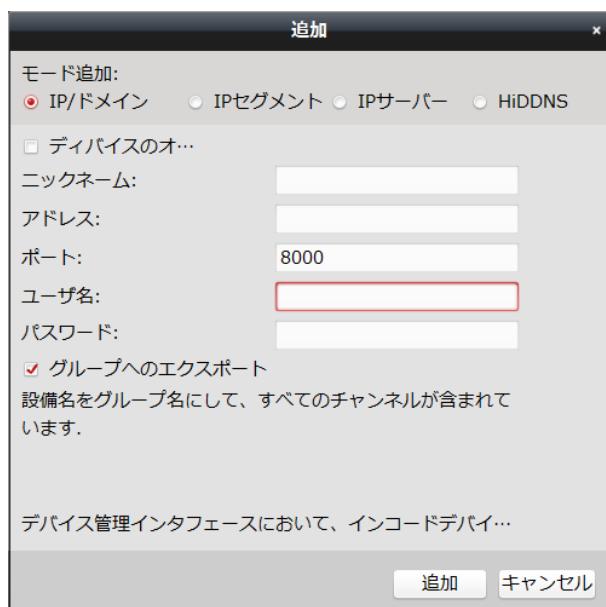
11.1 エンコーディングデバイスの追加

目的 :

デコードして表示するエンコードデバイスをビデオウォールに追加する必要があります。「デバイス管理」ページでエンコーディングデバイスを追加しない場合は、「ビデオウォール」ページで追加できます。

手順:

1. カメラエリアで、 をクリックしてデバイスの追加ウィンドウをアクティブにします。



2. 追加モードを選択し、デバイスの対応する設定を構成します。

4つの追加モードについての詳細な設定については、以下の章を参照してください。

- デバイスの IP アドレスを指定するには、「3.1.3 IP またはドメイン名によるデバイスの追加」を参照してください。
- IP セグメントを指定する方法は、「3.1.4 IP セグメントによるデバイスを追加する」を参照してください。
- IP サーバでは、「3.1.8 IP サーバによるデバイスの追加」を参照してください。

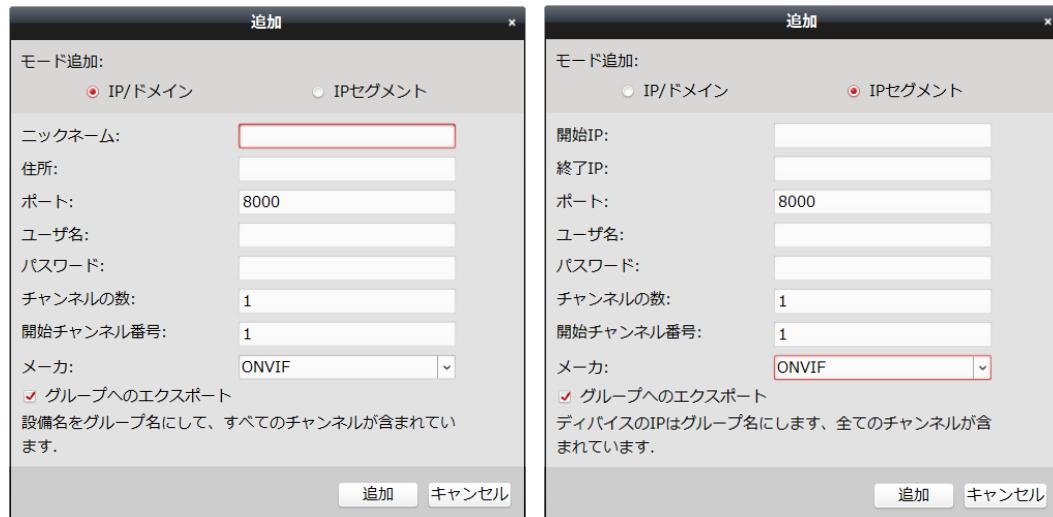
- HiDDNS では、「3.1.9 HiDDNS によるデバイスの追加」を参照してください。

(オプション) サードパーティ製のエンコードデバイスを追加する場合は、次の手順を実行してください。

手順:

1. 「デバイス管理」ページに移動し、**デバイスタブ**をクリックします。
 2. 「新しいデバイスの種類の追加」をクリックし、「サードパーティエンコーディングデバイス」を選択して、OKをクリックします。
 3. デバイスタイプパネルで「サードパーティエンコーディングデバイス」を選択し、**追加**をクリックして「デバイスの追加」ウィンドウをアクティブにします。
- **IP /ドメインの場合:**ニックネーム、IP アドレス/ドメイン名、ポート番号、ユーザ名、パスワード、チャネル番号、起点、プロトコルを編集します。
 - **IP セグメントの場合:**デバイスの開始 IP、終了 IP、ポート番号、ユーザ名、パスワード、チャネル番号、起点、プロトコルを編集します。

例:「起点」フィールドに 4 を入力すると、開始チャンネル番号が 4 であることを意味します。



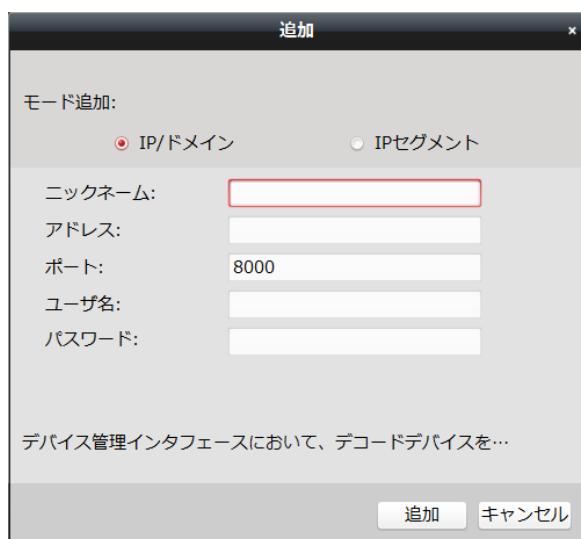
11.2 デコーディングデバイスの追加

目的:

エンコードデバイスのビデオをデコードし、デコードされたビデオをビデオウォールに表示するには、デコーディングデバイスをクライアントに追加する必要があります。

手順:

1. 「ビデオウォール設定に入る」をクリックして、「デコーディングデバイスとビデオウォール設定」インターフェイスに入ります。
2. 「デコーディング出力」エリアで、 をクリックして、「デコーディングデバイスのクイック追加」ウィンドウをアクティブにします。



3. 利用可能な追加モードは 2 つあります。追加モードを選択し、デバイスの対応する設定を構成します。

2 つの追加モードに関する詳細な設定については、以下の章を参照してください。

- デバイスの IP アドレスまたはドメインを指定する方法は、「3.1.3 IP またはドメイン名によるデバイスの追加」を参照してください。
- IP セグメントを指定する方法は、「3.1.4 IP セグメントによるデバイスを追加する」を参照してください。

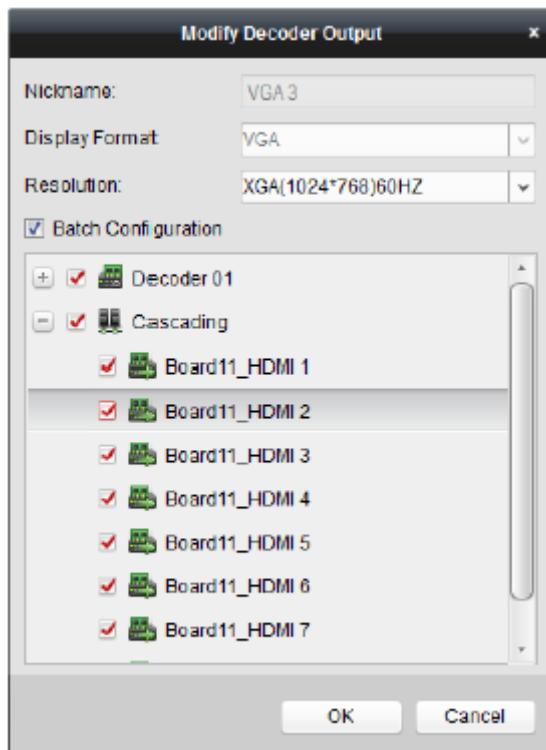
デコーディングデバイスの出力を編集する

手順：

1. デコーディングデバイスが出力のリストを表示する前に、「デコーディング出力」
エリアで  をクリックしてください。
2. 出力をダブルクリックすると、そのパラメータを編集できます。または、ビデオウ
ォールエリアのデコーディング出力を右クリックし、「デコーディング出力の設定」を選択し
てそのパラメータを編集することもできます。

注意：

- HDMI および VGA 出力の場合、解像度を設定できます。BNC 出力の場合、ビデオ規格
を設定することができます。
3. (オプション) バッチ設定のチェックボックスをオンにし、他の出力を選択して設定をコピー
することができます。
 4. OK をクリックして設定を保存します。



注意：

拡張 HDMI 出力ボードがある場合、NVR もデコーディング機能をサポートします：

- ビデオ入力をリンクし、デコーディングデバイスを経由せずに、ビデオウォール上に表示することができます。
- HDMI 出力を直接経由したカメラの映像のビデオウォール表示、ウィンドウ表示、浮動ウィンドウを実現できます。
- デコーディング出力のパラメータを変更することもできます。
- 詳細については NVR のユーザ マニュアルを参照してください。

11.3 ビデオウォールの設定

目的:

エンコーディングデバイスとデコーディングデバイスを追加した後、Video Wall のパラメータをビデオ表示用に設定する必要があります。

11.3.1 ビデオウォールとデコーディング出力のリンク

手順:

1. 「ビデオウォール設定に入る」をクリックして、「デコーディングデバイスとビデオウォール設定」インターフェイスに入ります。
2. デフォルトビデオウォール ビューは 4x4 に分割されたウィンドウを提供します。デフォルトビデオウォールを編集したり、必要に応じて新しいビデオウォールを追加したりできます。

タスク 1:ビデオウォールの追加

- 1) ビデオウォールを右クリックし、ビデオウォールの追加を選択するか、 をクリックしてビデオウォールの追加ウィンドウをアクティブにします。
- 2) ビデオウォールの名前、行数、列数、および割合を入力します。



- 3) **追加**をクリックします。

タスク 2:ビデオウォールの編集

- 1) ビデオウォールを右クリックし、「ビデオウォールの変更」を選択して編集します。
- 2) ポップアップウィンドウでは、ビデオウォールの名前、行数、列数、および割合を編集できます。

注意 :

マウスをドラッグして必要なビデオウォールを設定することもできます。

- 3) **変更**をクリックして設定を保存します。

タスク 3:ビデオウォールの削除

ビデオウォールを削除するには、ビデオウォールを右クリックし、**削除ビデオウォール**を選択

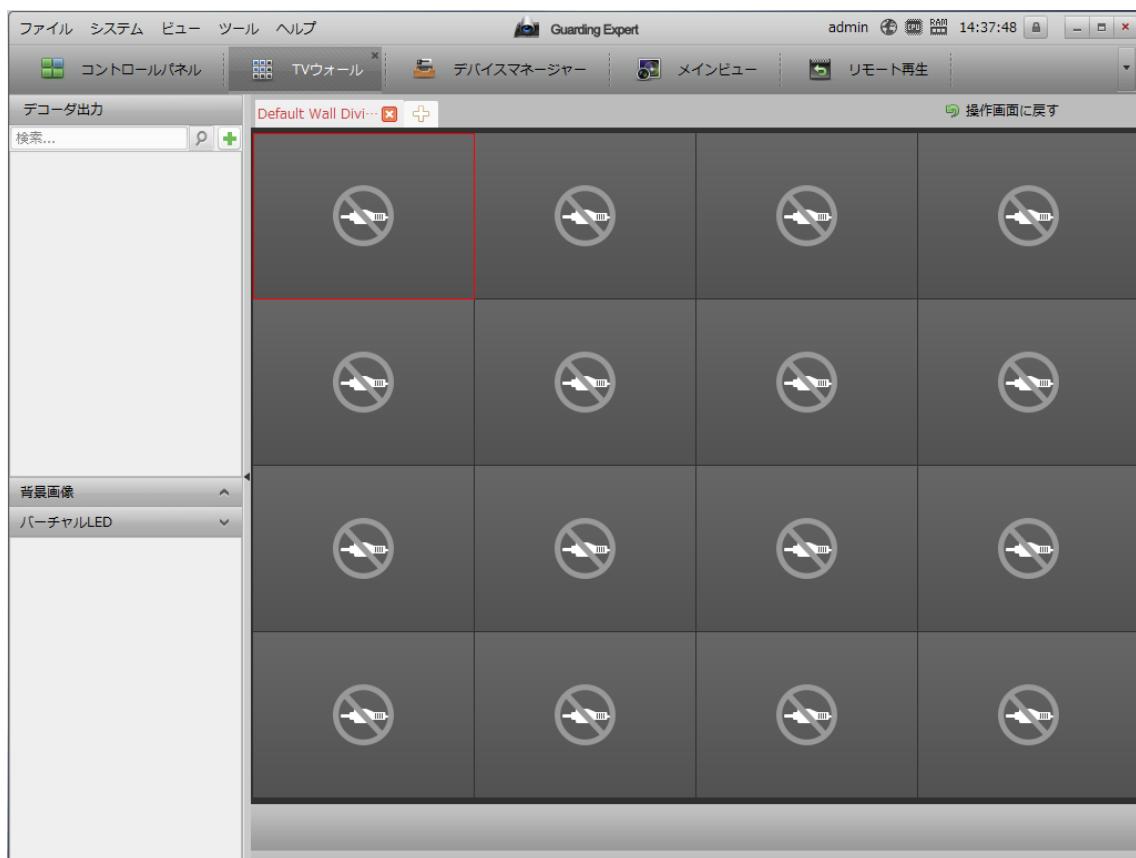
するか、ビデオウォールの  をクリックします。

3. 左側のリストからデコーディング出力をビデオウォールの表示ウィンドウにクリックしてドラッグし、1対1の対応を設定します。また、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら複数の出力

を選択し、それらをビデオウォールにドラッグすると、リンクージを一括して設定できます。表示ウィンドウの右上隅にある  をクリックすると、リンクージが解除されます。

注意:

- 最大 4 つのビデオウォールをクライアントソフトウェアに追加できます。
- ビデオウォールの表示ウィンドウの総数は 100 より多くはできません。
- 行数と列数の範囲は、いずれも 1~10 です。



11.3.2 マルチスクリーンディスプレイ

目的:

DS-6400HDI-T シリーズおよび DS-6900UDI シリーズデコーダでは、複数の画面を 1 つのウィンド

ウとして結合することができます。このようにして、1台のカメラのデコードされたビデオを結合されたウィンドウに表示することができます。

始める前に:

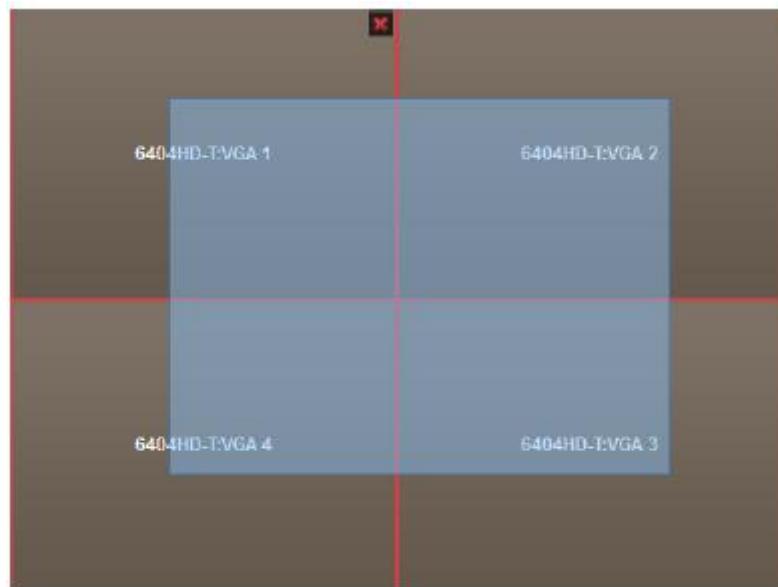
DS-6400HDI-T シリーズと DS-6900UDI シリーズデコードデバイスをクライアントに追加する必要があります。デコーディングデバイスの追加については、第 12.2 項「デコードデバイスの追加」を参照してください。

手順:

1. 「12.3.1 ビデオウォールとデコーディング出力のリンク」の手順 3 を実行して、デコーダとビデオウォールの間のリンクを設定します。
2. マウスをクリックしてドラッグすると、隣接する表示ウィンドウが結合されます。

注意:

- 同じ出力インターフェイスだけが 1 つのウィンドウに結合できます。例: 4 つの VGA インターフェイスだけ、または HDMI インターフェイスだけが結合できます。
- BNC インターフェイスは結合をサポートしていません。

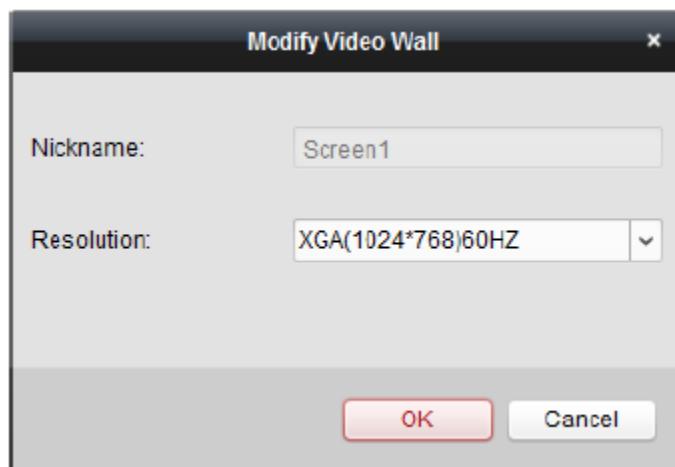


3. をクリックして画面の結合を確認します。



4. (オプション)結合されたウィンドウを右クリックして、解像度の設定を行うことができます。

マルチスクリーン表示をキャンセルするには、表示ウィンドウの右上隅にある  をクリックします。



11.3.3 背景の設定

目的:

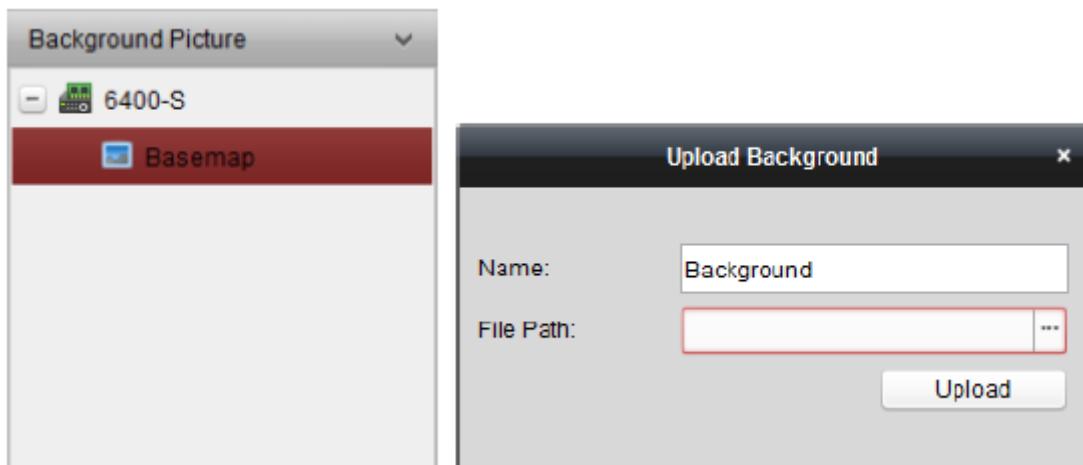
ビデオウィンドウの背景として表示する画像をアップロードできます。

注意:

この機能はデバイスがサポートしている必要があります。

手順:

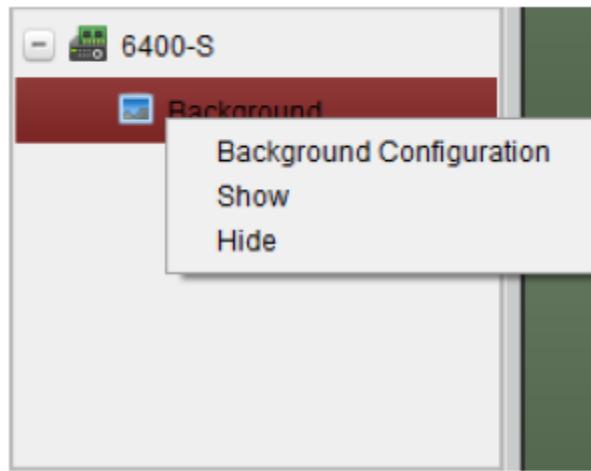
1.  をクリックして背景画像パネルを展開します。
2. 背景画像を選択してダブルクリック(または右クリックして**背景設定**を選択)し、背景アップロードウィンドウを有効にします。



3. 背景画像のユーザ定義名を設定し、 をクリックして画像ファイルを選択します。
4. アップロードをクリックして写真をアップロードします。
5. 設定した背景画像をクリックしてドラッグして、ビデオウォールの任意の位置に移動します。
6. カーソルがになるとウィンドウを移動し、カーソルが方向矢印になるとサイズを調整できます。背景画像を右クリックし、**表示**または**非表示**を選択して背景画像を表示または非表示にします。

注意:

背景をアップロードした後、画像が物理的なビデオウォールに表示されます。



11.3.4 バーチャル LED の設定

目的 :

バーチャル LED を使用してビデオウォールに必要なコンテンツを表示することができます。

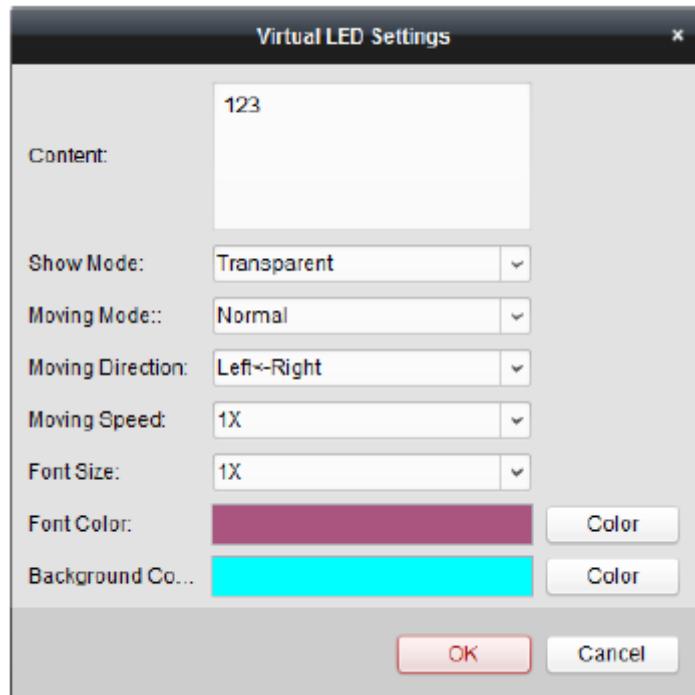
注意:

この機能はデコーディングデバイスによってサポートしている必要があります。

手順:

1. 「ビデオウォール設定に入る」をクリックして、設定インターフェイスに入ります。
2.  をクリックしてバーチャル LED パネルを表示し、 をクリックして、追加されたデコードデバイスを展開します。
3. ビデオウォールにバーチャル LED をクリックしてドラッグします。
4. カーソルが  になるとウインドウを移動し、カーソルが方向矢印になるとサイズを調整できます。
5. パネル内のバーチャル LED を右クリックし、「バーチャルLED設定」を選択してパラメータを設定します。

- **コンテンツ**:ビデオウォールに表示するコンテンツを設定します。
- **表示モード**:必要に応じてバーチャル LED のモードを選択します。
- **移動モード**:表示テキストのスクロール効果を設定します。
- **移動方向**:表示テキストのスクロール方向を設定します。
- **移動速度**:表示テキストの移動速度を設定します。
- **フォントサイズ**:表示テキストのサイズを設定します。
- **フォントカラー**:カラーをクリックして、表示テキストの色を設定します。
- **背景色**:カラーをクリックして、背景の色を設定します。



11.4 ビデオウォールでのビデオの表示

目的 :

エンコードデバイス、デコードデバイス、およびビデオウォールの設定後、エンコードデバイスからのビデオストリームをデコードしてビデオウォールに表示することができます。

注意:

- デコーディングと表示を有効化すると、エンコーディング デバイスからのビデオのキャプチャー画像がビデオ ウォール インターフェイスに表示されます。物理的なビデオ ウォールにはリアルタイム ライブ ビューが表示されます。
- いくつかの種類のデコーダでは、信号源(ローカルインターフェースを経由でデコーダに接続されたビデオ信号(例えば、PC)を参照する)からのビデオストリームをビデオウォール上に表示することもできる。

11.4.1 デコードデイングと表示

手順:

1. 操作ページに戻るをクリックして、「ビデオウォール操作」インターフェイスに戻ります。
2. クリックすると、現在のシーンのリンクエージ設定が保存されます。または(横)をクリックし、シーンを選択して設定を保存します。

注意:

- ビデオウォールには 8 つのシーンを設定できます。各シーンは、異なるリンクエージ設定とウィンドウ分割で構成することができます。
- シーンの名前を編集するには、シーンを選択し、をクリックして新しい名前を定義します。をクリックしてシーンのすべての設定をクリアすることもできます。

3. リンクエージ設定で設定されたシーンを選択し、をクリックしてシーンを有効にします。
4. 左側のリストのカメラをビデオウォールの表示ウィンドウにクリック & ドラッグします。カメラからのビデオストリームがデコードされ、ビデオウォールに表示されます。デコードウィンド

ウを選択し、カメラをダブルクリックしてビデオをデコードして表示することもできます。また、Ctrl キーまたは Shift キーを押したままにして、複数のカメラを選択してビデオウォールにドラッグすることもできます。

注意:

DS-6400HDI-T および DS-6900UDi デコーダの場合、信号源パネルでビデオウォール表示用の信号ソースを選択できます。

5. 再生ウィンドウを選択し、アイコン  をクリックすると、画面の右下にビデオのプレビューが表示されます。または、ライブビューのプレビューウィンドウにカメラを直接ドラッグすることもできます。プレビューウィンドウをダブルクリックして全画面表示にすることもできます。

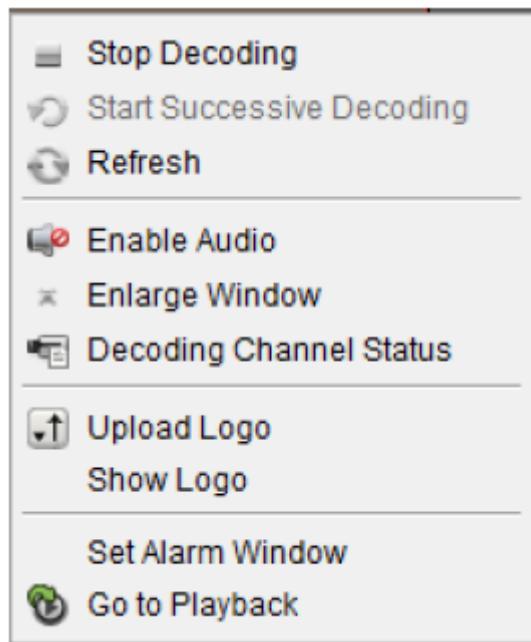
注意:

マウスをウィンドウに移動し、右下隅の  をクリックしてデコードを停止することができます。

6. (オプション) デコードウィンドウを選択してクリックすると、ウィンドウ分割が設定されます。
 をクリックして、現在のシーンの設定を保存します。または  ( の横にある) をクリックし、シーンを選択して設定を保存します。
7. デコードされたカメラが PTZ コントロールをサポートしている場合は、PTZ の横の  をクリックして PTZ コントロールパネルをアクティブにすることができます。詳細な設定については、「4.3 ライブビューでの PTZ コントロール」を参照してください。
8. 再生ウィンドウを右クリックすると、次のようにデコード管理メニューがアクティブになります。

注意:

メニューはデバイスによって異なります。



停止/開始デコード：デコードを停止/開始します。

連続デコーディングの開始/一時停止:周期的デコーディングを開始/一時停止します。
この機能はデコーダでのみサポートされます。

更新:デコーディングを更新します。

デジタル ズームを開く/閉じる:デジタルズームを有効化/無効化します。

音声有効化:デコーディング ビデオの音声をオン/オフにします。

ウィンドウ拡大:ウィンドウを全画面モードで表示します。

デコーディング チャンネル ステータス:デコーディング ステータス、ストリーム種別などのデコーディング チャンネルのステータスを表示します。

ロゴのアップロード:ビデオ ウィンドウのロゴとなる画像をアップロードし、その表示パラメータを設定します。設定後、ロゴが物理ビデオ ウォール上のウィンドウの指定した位置に表示されます。

ロゴの表示/非表示:ロゴを表示/非表示にします。

トップに固定:ウィンドウを常に一番上のレイヤーに固定します。この機能はカスケーディング サーバでのみサポートされます。

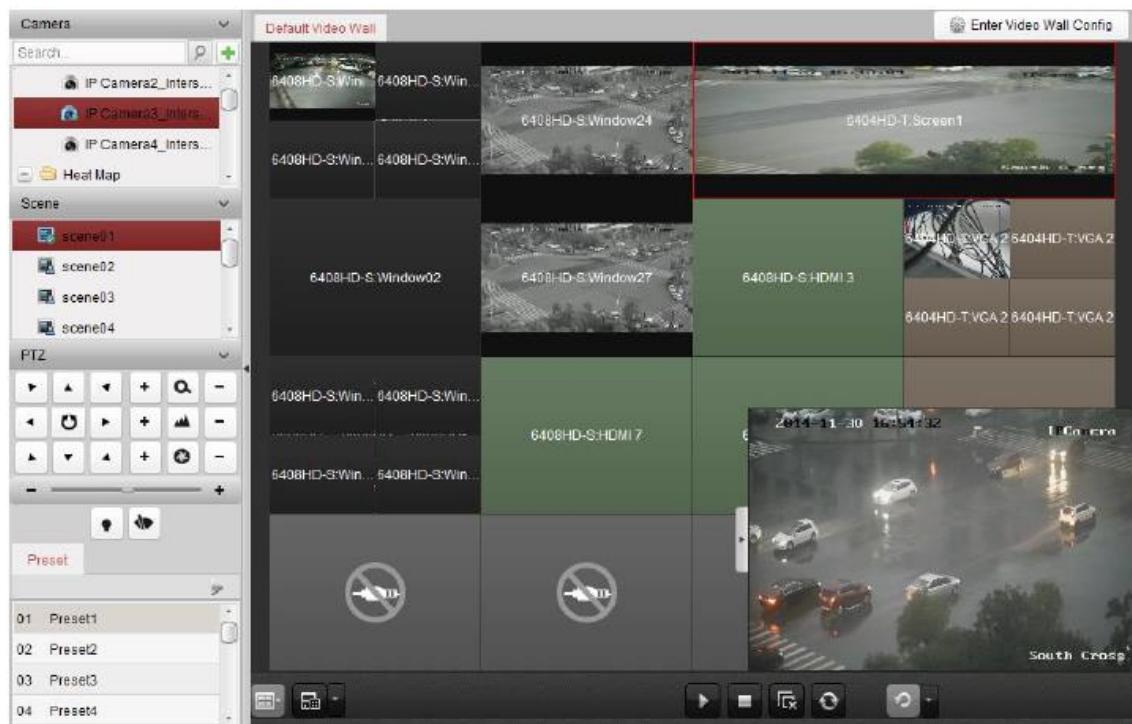
ボトムに固定: ウィンドウを常に一番下のレイヤーに固定します。この機能はカスケーディング サーバでのみサポートされます。

ロック: ウィンドウをロックし、浮動化機能を無効化します。

アラーム ウィンドウの設定: イベントまたはアラーム出力によってトリガされたビデオを、ビデオ ウォール上に表示します。

デコーディング遅延: 実際の必要に応じて、デコーディングの遅延の度合いを設定します。この機能はカスケーディング サーバでのみサポートされます。

再生に移動: 再生モードになります。この機能はデコーダでのみサポートされます。



アイコン	説明
	すべてのデコーディングを開始
	すべてのデコーディングを停止

	すべての浮動化ウィンドウを停止
	すべてのデコーディング ウィンドウを更新
	周期デコーディングと切り替え周期を設定

11.4.2 ウィンドウとローミングの設定

目的:

ウィンドウ化とは、画面(複数可)上に新しいウィンドウを開くことです。ウィンドウは 1 つの画面内に収まるか、または複数の画面にまたがることができます。ビデオ ウォール内で、再生ウィンドウを自由に移動することができます。この機能をローミングと呼びます。

注意:

ウィンドウ化およびローミング機能はデコーディング デバイスがサポートしている必要があります。

手順:

1. デコーディング出力にリンクされた画面上でクリック アンド ドラッグし、ウィンドウを開きます。 ウィンドウは 1 つの画面内に収まるか、または複数の画面にまたがることができます。開いた ウィンドウ上でウィンドウを開きたい場合、Ctrl キーを押したままクリック アンド ドラッグする ことで新規作成できます。ロックされたウィンドウでは(ステップ 6 参照)、クリック & ドラッグで新 しいウィンドウを作成できます。

注意:

ウィンドウを開く前に、少なくとも 1 つのカメラを選択しておく必要があります。



2. カーソルが■になつたらウインドウを移動できます。カーソルが方向矢印になつたらサイズの調整ができます。Shift キーを押したままにして、ウインドウの比率を保つてサイズを変えることもできます。
3. ウィンドウを動かしている間、境界線が点線で表示されます。ウィンドウは点線表示の境界線の近くに移動された場合、境界線に沿って調整されます。



4. ウィンドウをダブルクリックすると、ウィンドウはまたがっている画面を埋め尽くすように拡大され、一番上のレイヤーに表示されます。再度ダブルクリックすると元に戻せます。



5. (オプション) ウィンドウを選択し、をクリックしてウィンドウ分割を設定します。をクリックしてその設定を保存します。
6. ウィンドウを右クリックし、右クリック メニューから`ロック`を選択して浮動化機能を無効にします。アイコンがウィンドウの右上隅に表示されます。このようにすると、ウィンドウは移動もサイズ変更もできません。ウィンドウを右クリックして、右クリック メニューから`[アンロック]`を選択すると、浮動化機能を有効にできます。
7. ウィンドウを右クリックして、右クリック メニューから`[デコーディングの停止]`を選択するか、マウスをウィンドウに動かして、右上隅のをクリックすると、ウィンドウのデコーディングが停止され、ウィンドウが閉じられます。をクリックしてすべての浮動ウィンドウを閉じることができます。
8. ウィンドウはデコードされたビデオからキャプチャーした画像のみを表示します。ウィンドウを右クリックして、右クリック メニューから`[更新]`を選択するか、マウスをウィンドウに動かして、右下隅のをクリックすると、デコードされたビデオの最新の画像がキャプチャーされ、ウィンドウに表示されます。
9. ビデオの特定の部分を詳細に見たい場合は、ウィンドウを右クリックし、右クリック メニューから(利用可能な場合)`[デジタルズームを開く]`を選択すると、カーソルがになります。マウスをビデオ上でドラッグして、デジタル ズームを有効にします。物理的ビデオ ウォール上で効果を確認できます。
10. 再生するウィンドウを選択し、アイコンをクリックしてビデオのプレビューを画面の右下隅に表示します。または、カメラを直接、ライブ ビュー用のプレビュー ウィンドウにドラッグすることもできます。プレビュー ウィンドウをダブルクリックして全画面表示にすることもできます。
11. 再生中のウィンドウで右クリックし、右クリック メニューからデコーディング管理を操作できます。

11.4.3 再生の設定

目的:

ビデオ ファイルはビデオ ウォール上で再生できるようになっています。

注意:

再生機能はデコーダでのみサポートされます。

手順:

1. 左側のリストからカメラをビデオ ウォールの表示ウィンドウにクリック アンド ドラッグします。または、サポートされている場合、ウィンドウを開くこともできます。
2. マウスをウィンドウに動かし、右上隅の■をクリックします。または、ウィンドウを右クリックし、右クリック メニューから[再生に移動]を選択します。
3. 当日のビデオ ファイルがあれば、そのビデオ ファイルが自動的に再生されます。そうでない場合、検索条件をインターフェイスの左側のエリアにある検索パネル上で設定し(▼をクリックしてより多くの検索オプションを表示し、[検索]アイコンをクリックして検索範囲の開始時間と終了時間を指定します)、[検索]をクリックしてビデオ ファイルを検索します。
4. 再生ウィンドウを右クリックし、右クリック メニューから一時停止、停止、高速再生、スロー再生、キャプチャー、録画開始、全画面再生などの再生操作を行うことができます。

注意:

キャプチャー画像および録画ファイルの保存パスはシステム設定ページで設定できます。

詳細な設定についてはエラー! 参照元が見つかりません。章 エラー! 参照元が見つかりません。を参照してください。

マウスを画面に移動すると、以下のようなアイコンが表示されます。



アイコン	説明
	再生の一時停止
	再生の停止
	再生中のビデオのキャプチャー
	再生中のビデオの録画
	ライブ ビュー モードへの復帰
	再生速度

11.4.4 周期的デコードの設定

目的:

周期的デコーディングでは、エンコーディングデバイスの複数のビデオ ストリームを一つのデコーディング出力に設定し、デコーディングの切り替え周期を設定できます。

注意:

周期的デコーディング機能はデコーダでのみサポートされます。

手順:

- 1.
 - 2.
1. の横にある をクリックし、周期的デコーディングの切り替え周期を設定します。
2. 左側のリストからカメラをビデオウォールの表示ウィンドウにクリック & ドラッグします。または、サポートされている場合、ウィンドウを開くこともできます。

注意:

周期的デコーディングは、DS-6400HDI-T および DS-6900UDI のシグナルソースではサポートされません。

3. マウスをグループ ノードに動かし、をクリックして周期的デコーディング(周期的デコーディングに含まれるデコーディング出力はでマークされます)を開始します。ウィンドウで右クリックし、右クリック メニューからデコーディング管理を操作できます。



第 12 章 セキュリティコントロールパネル

目的:

セキュリティコントロール パネル モジュールは IVMS-4200 クライアントソフトウェアを通じてリモート操作と設定を提供します。

注意:

セキュリティコントロールパネルの権限を持つユーザの場合は、セキュリティコントロールパネルと実時間アラームを管理するために、セキュリティコントロールパネルモジュールに入ることができます。セキュリティコントロールパネルモジュールのユーザ権限の設定については、「18.1 アカウント管理」を参照してください。

始める前に:

リモートでセキュリティコントロールパネルを設定および制御するには、デバイスをソフトウェアに追加する必要があります。セキュリティコントロールパネルの追加の詳細については、「3.1 デバイスの追加」を参照してください。

12.1 ゾーンイベントの設定

目的:

セキュリティコントロールパネルのゾーンには、サイレン、リレー、クライアントリンクージ、トリガカメラなどのイベントリンクージを設定できます。

注意:

ゾーンは、ゾーンイベントリンクージを設定する前に解除する必要があります。

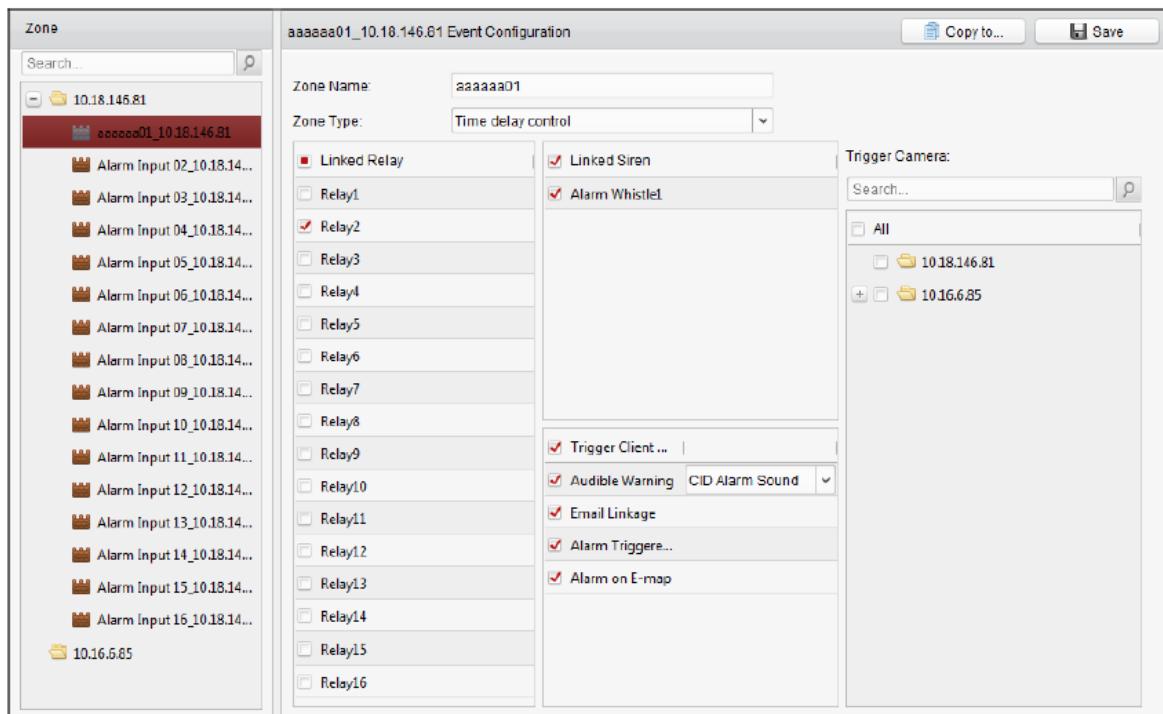
手順:



1. コントロールパネルの  をクリックするか、ツール>イベント管理をクリックして、イベント管理ページを開きます。
2. ゾーンイベントタブをクリックします。

3. アイコン  をクリックすると、左パネルのセキュリティコントロールパネルのゾーンリストが展開されます。

4. リストのゾーン名をクリックして、ゾーンイベントの設定を有効にします。



5. ゾーンの名前、タイプ、イベントのリンクを設定します。

- 1) 「ゾーン名」フィールドでゾーン名を編集します。
- 2) 「ゾーンタイプ」フィールドのドロップダウンリストを展開し、タイプを選択します。
- 3) チェックボックスをオンにして、リンクリレーパネルでリンクされたリレーを選択します。
- 4) チェックボックスをオンにして、リンクサイレンパネルでリンクされたサイレンを選択します。
- 5) チェックボックスをオンにして、トリガークライアントアクションパネルでリンクアクションを有効にします。

以下の詳細なアクションを参照してください。

リンクージアクション	説明
可聴警告	クライアントソフトウェアは、アラームが発生したときに警告音を鳴らします。アラーム音を選択して警告音を鳴らすことができます。アラーム音の設定については、「18.2.7 アラーム音の設定」を参照してください。
電子メールのリンクージ	1つまたは複数の受信者にアラーム情報の電子メール通知を送信します。
E-マップ上のアラーム	E-マップにアラーム情報を表示します。
アラームトリガポップアップイメージ	アラームが発生すると、アラーム情報を含む画像がポップアップ表示されます。
アラームトリガビデオウォールディスプレイ	アラームが発生したときにビデオウォールにビデオを表示します。

- 6) トリガーカメラパネル上のカメラを選択して、画像がポップアップするように、またはアラームがトリガされたときにビデオウォールに表示するようにトリガします。
- 選択したイベントが発生したときにトリガされたカメラの画像をキャプチャーするには、キャプチャスケジュールとストレージを[ストレージスケジュール]に設定する必要があります。詳細は、「5.1 リモートストレージ」を参照してください。
6. オプションとして、**コピー先**をクリックし、イベント パラメータを他のカメラにコピーできます。
 7. **保存**をクリックして設定を保存します。

12.2 リモートコントロール

目的:

このセクションでは、セキュリティ制御パネルをリモートで制御して、パーティションやゾーンの両方に対してアーミング、ディスアーミング、バイパス、グループバイパスなどの操作を実行できます。



コントロールパネルの をクリックするか、表示>セキュリティコントロールパネルをクリックして、セキュリティコントロールパネルページを開きます。

Status	Partition	Arming Status	Linked Zone
!	P1	Disarm	View
	P2	Away Arming	View
	P3	Disarm	View
	P4	Disarm	View
	P5	Away Arming	View
	P6	Away Arming	View
	P7	Away Arming	View
	P8	Away Arming	View

ネットワークセキュリティコントロールパネル、ビデオセキュリティコントロールパネル、またはパニックアラームステーションのチェックボックスをオンにすると、セキュリティコントロールパネルがタイプ別に表示されます。または、検索フィールドにキーワードを入力して、目的のパネルを検索することもできます。リフレッシュをクリックして、セキュリティ制御パネルのステータスを更新します。

12.2.1 ディスプレイモード

目的:

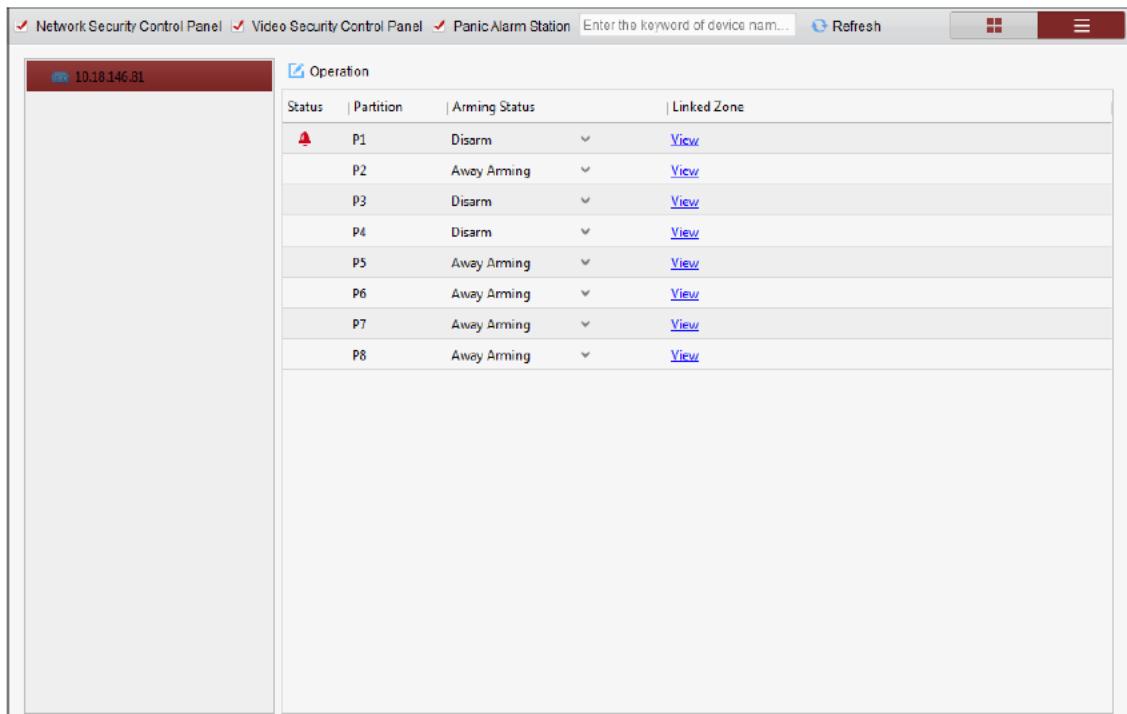
セキュリティコントロールパネルモジュールには、リストモードとタイルモードを含む追加のセキュリティコントロールパネルを表示するための 2 つの表示モードがあります。デフォルトでは、

パネルはリストモードで表示されます。ページの右上にあるアイコン  または  をクリックすると、表示モードをタイルモードまたはリストモードに切り替えることができます。

リストモード

アイコン  をクリックすると、セキュリティコントロールパネルがページの左パネルに一覧表示されます。

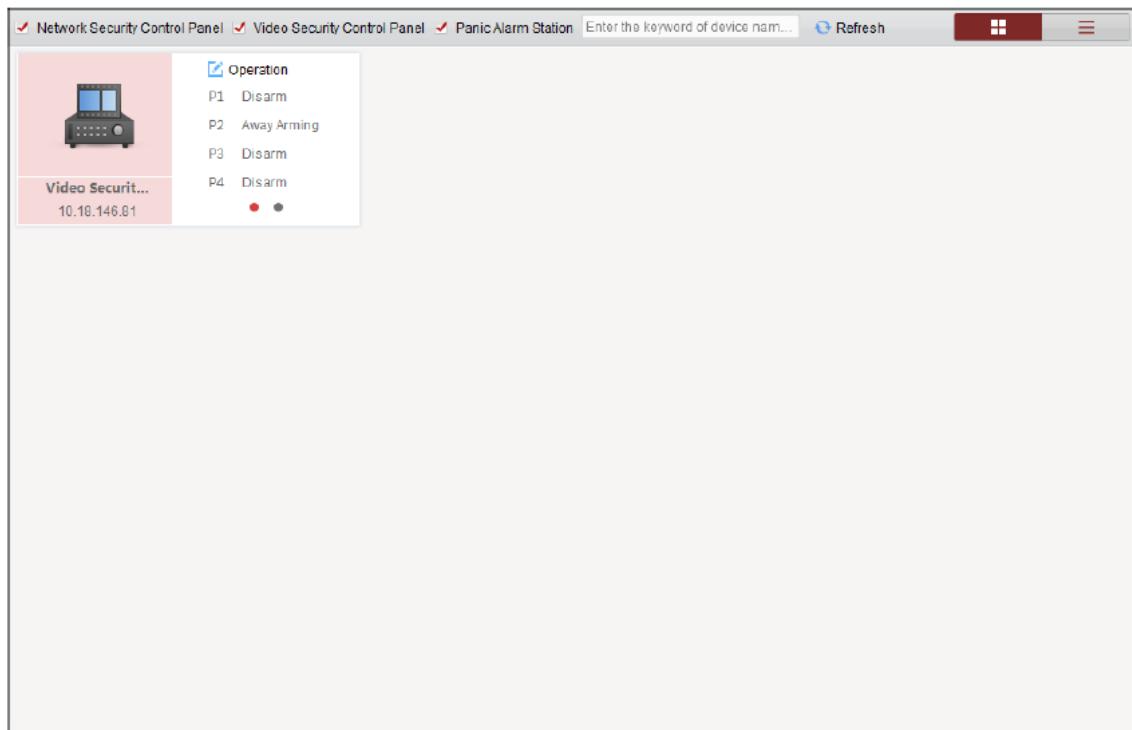
また、リスト内のパネル名をクリックすると、右側のパネルにデバイスのパーティションとゾーンの詳細が表示されます。



Status	Partition	Arming Status	Linked Zone
 P1	Disarm		View
 P2	Away Arming		View
 P3	Disarm		View
 P4	Disarm		View
 P5	Away Arming		View
 P6	Away Arming		View
 P7	Away Arming		View
 P8	Away Arming		View

タイルモード

アイコン  をクリックすると、セキュリティコントロールパネルがページ上のアイコン、タイプ、名前、パーティション、ゾーンでタイル表示されます。  をクリックすると、異なるパーティションを表示できます。



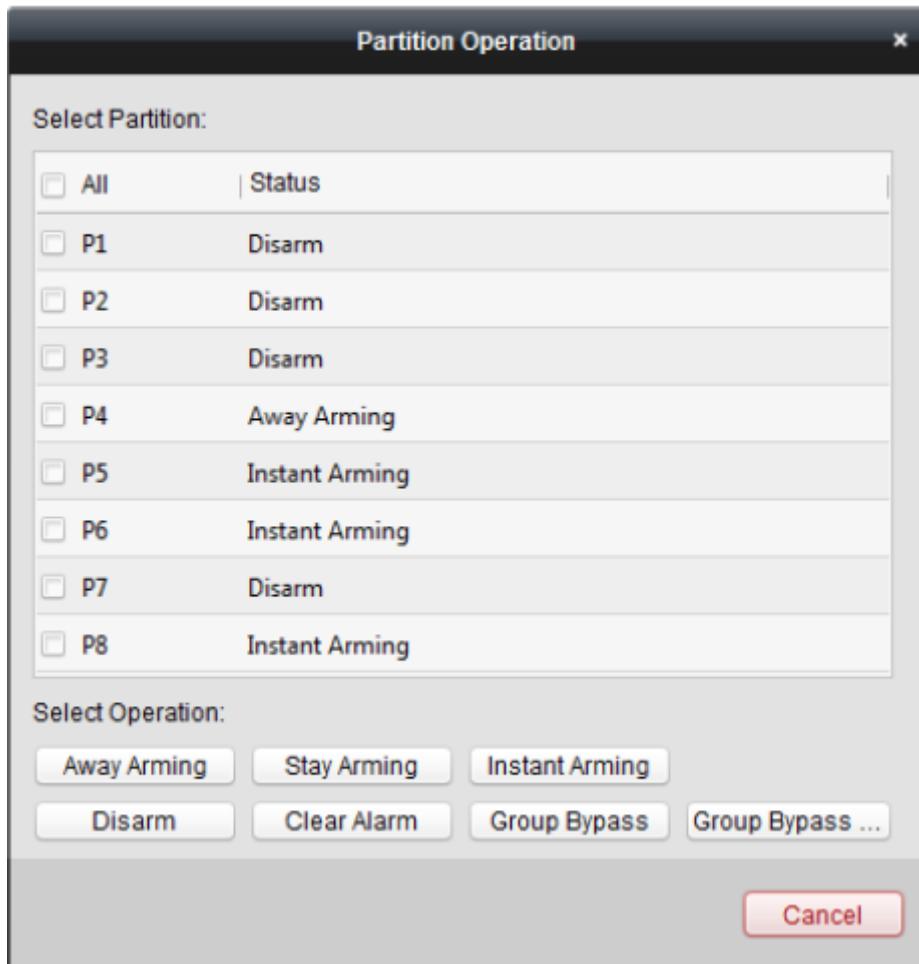
12.2.2 パーティションリモートコントロール

目的:

設定されたパーティションのアウェイ、アーミング、インスタントアーミング、アラーム解除、グループバイパス、グループバイパスの復旧の操作をリモートで実行できます。

手順:

- 操作(リストモード)または  (タイルモード)をクリックして、パーティション操作ウィンドウをポップアップし、パーティションを一括して制御します。



2. チェックボックスをオンにしてパーティションを選択するか、[すべて]チェックボックスをオンにしてすべてのパーティションを選択します。
3. 選択されたパーティションを制御するために、操作ボタン(例えば、アウェイアーミング、ステアーミング、インスタントアーミング、ディスマーム、アラームクリア、グループバイパスまたはグループバイパスリカバリ)をクリックします。
(オプション) キャンセルをクリックして操作の適用を取り消し、「パーティション操作」ウィンドウを閉じることができます。

セキュリティコントロールパネルページのステータス列(リストモード)のアイコン またはパーティション名の右側のエリア(タイルモード)をクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、単一のパーティションを操作する操作を選択することもできます。

12.2.3 ゾーンリモートコントロール

目的:

リモートでバイパスを実行したり、ゾーンのバイパスを回復したりできます。

手順:

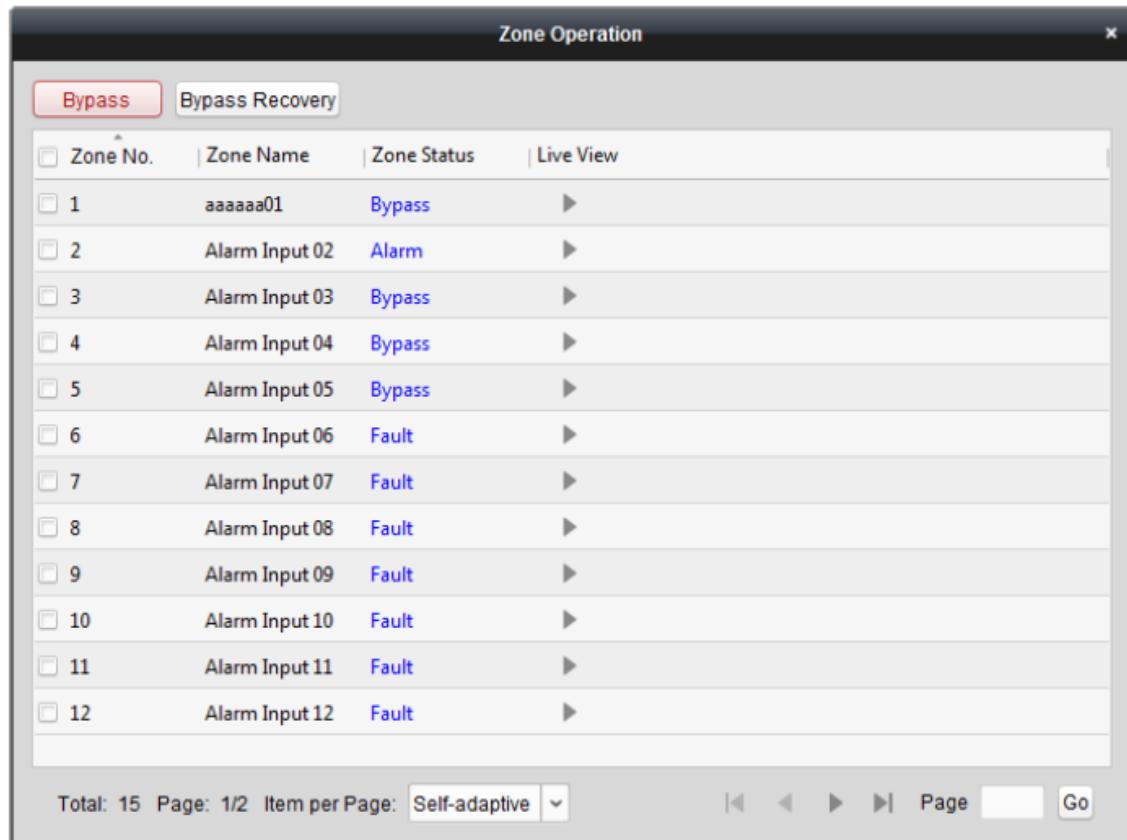
- リンクされたゾーン列(リストモード)またはパーティション名(タイルモード)でビューをクリックすると、「ゾーン操作」ウィンドウがポップアップします。

このウィンドウでパーティションのすべてのリンクされたゾーンを表示し、ゾーンの状態を確認できます。

注意:

パーティションに障害ゾーンがある場合、またはゾーンアラームが発生した場合は、アイコ

 ン がパーティション名の左側の「ステータス」列に表示されます。詳細なゾーンステータスを表示するには、アイコンにカーソルを移動します。トリガゾーンアラームの詳細については、「13.4 アラームの処理」を参照してください。



2. チェックボックスをオンにしてゾーンを選択するか、ゾーン番号チェックボックスをオンにしてすべてのゾーンを選択します。
3. ウィンドウの左上隅にある**バイパス**または**バイパス回復**をクリックして、選択したゾーンを制御します。
4. ライブビュー列のアイコン  をクリックすると、ゾーン内でトリガされたカメラのライブビューが表示されます。

注意:

イベント管理モジュールで、ゾーンのトリガカメラを設定できます。詳細は、「13.1 ゾーンイベントの設定」を参照してください。

12.3 E-マップ上でのゾーンの表示

目的:

ゾーンを E-マップに追加することができます。ゾーンのアラームがトリガされると、E-マップ上でアラーム通知を表示し、アラームの詳細を確認できます。

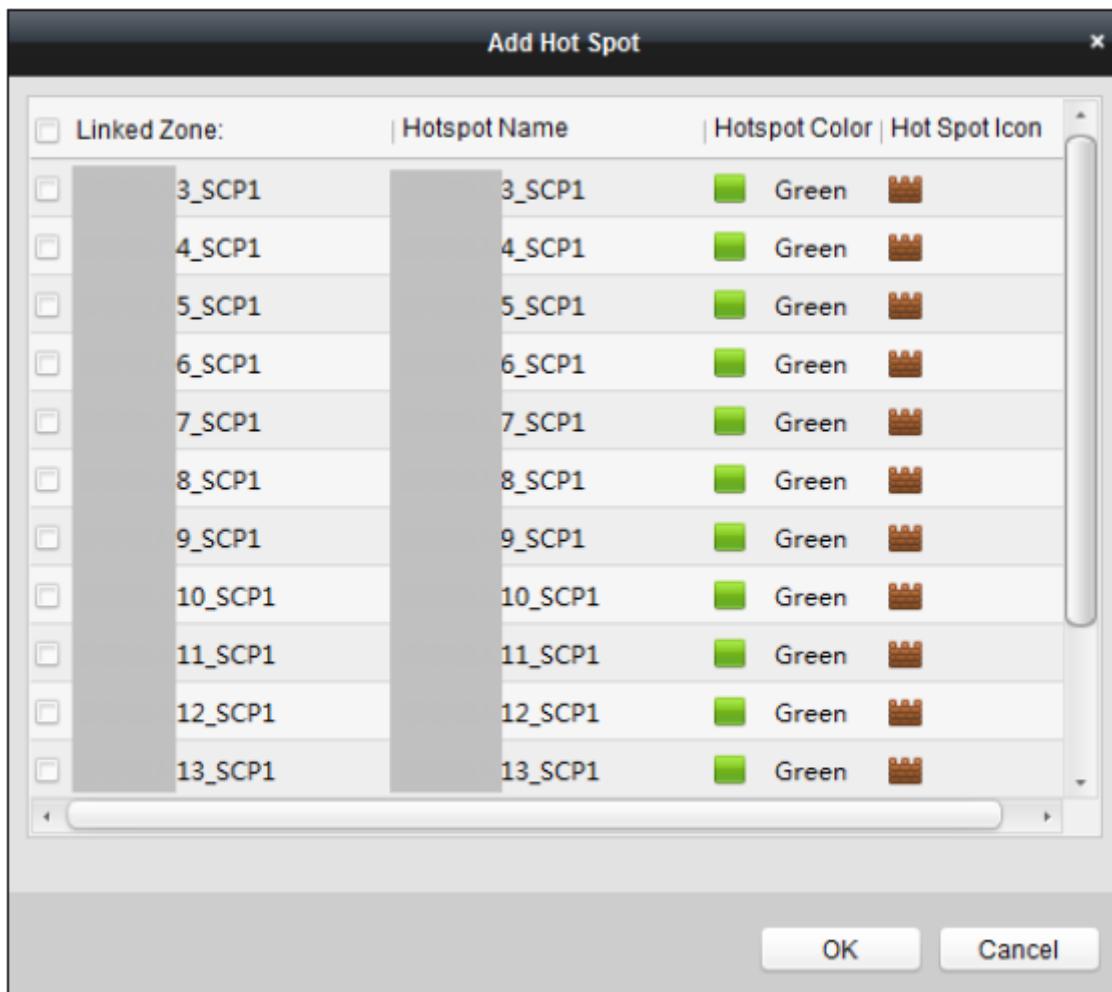
注意:

E-マップの詳細な操作については、「8 E-マップ管理」を参照してください。

ホットスポットとしてゾーンを追加する

手順:

1. E-マップモジュールで、左下隅の「マップの編集」タブをクリックして、マップ編集モードに入ります。
2. E-マップツールバーのアイコン  をクリックして、ホットスポットの追加ダイアログを開きます。または、E-マップページの左側のパネルのグループリストからゾーンアイコンをマップに直接ドラッグして、ホットスポットを追加することもできます。



3. チェックボックスをオンにして、追加するゾーンを選択します。

オプションで、ホットスポット名を編集し、名前の色を選択し、対応するフィールドをダブルクリックしてホットスポットアイコンを選択することができます。

4. OK をクリックして設定を保存します。

ゾーンアイコンがホットスポットとして地図に追加され、左側のパネルのグループリストに追加

されたゾーンのアイコンが  から  に変わります。ゾーンアイコンをドラッグすると、ホットスポットを目的の場所に移動できます。

ホットスポットの変更

目的:

追加されたホットスポットの情報は、マップ上で名前、色、アイコンなどを変更することができます。

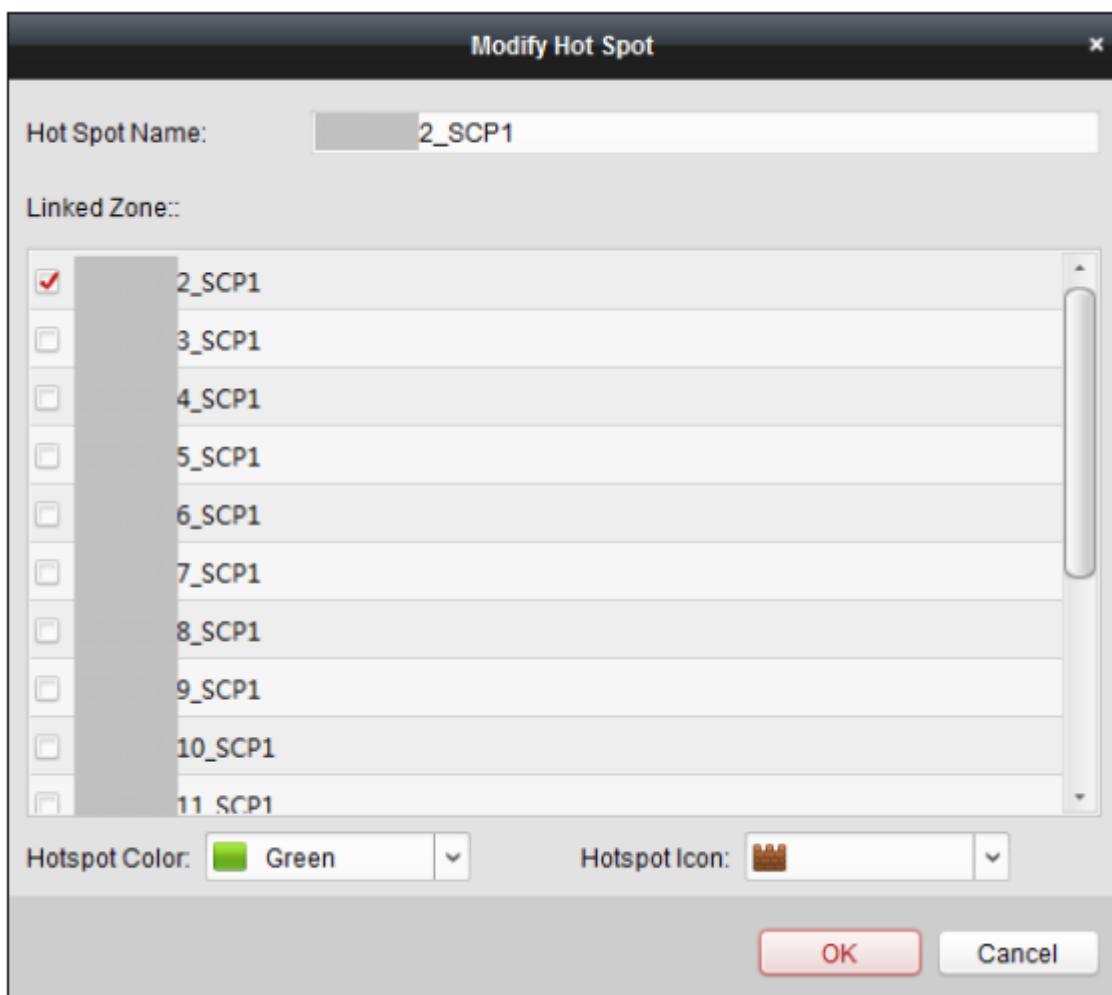
手順:

1. E-マップモジュールで、左下隅の「マップの編集」タブをクリックして、マップ編集モードに入ります。

2. マップ上のホットスポットアイコンを選択し、E マップツールバー  をクリックして「ホットスポットの変更」ダイアログを開きます。

または、マップ上のホットスポットアイコンを右クリックし、右クリックメニューの「変更」を選択すると、「ホットスポットの変更」ダイアログが開きます。

または、マップ上のホットスポットアイコンをダブルクリックすると、「ホットスポットの変更」ダイアログがポップアップします。



テキストフィールドでホットスポット名を編集し、色、アイコン、およびリンクされたゾーンを選択できます。

3. OK をクリックして設定を保存します。

ホットスポットを削除するには、ホットスポットアイコン  を選択してツールバーをクリックするか、ホットスポットアイコンを右クリックして削除を選択します。

ホットスポットのプレビュー

④ マップモジュールでは、左下隅のマッププレビュータブをクリックしてマッププレビューモードに入ります。

ゾーン内でトリガされたアラームがある場合、アイコン  が表示され、ホットスポットの近くで点滅します。(10秒間点滅します。)アラームアイコンをクリックするか、ホットスポットアイコンを右クリックして「アラーム情報の表示」を選択すると、アラームの種類やトリガされた時間などのアラーム情報を確認できます。

注意:

- マップ上のアラーム情報を表示するには、E-マップ機能のアラームは、アラームリンクージアクションとして設定する必要があります。詳細は、「13.1 ゾーンイベントの設定」を参照してください。
- また、リアルタイムアラームモジュールでゾーンアラーム情報を確認することもできます。詳細は、「13.4 アラームの処理」を参照してください。

マップに表示されているアラーム情報をクリアするには、ツールバーの  をクリックするか、ゾーンアイコンを右クリックして「アラーム情報のクリア」を選択して、選択したゾーンのアラームをクリアします。

12.4 アラームの処理

目的:

このセクションでは、セキュリティ制御パネルのリアルタイムでトリガされた CiD アラーム情報を表示し、アラームを処理できます。また、履歴アラームを時間またはアラームタイプで検索することもできます。

12.4.1 リアルタイムアラーム

目的:

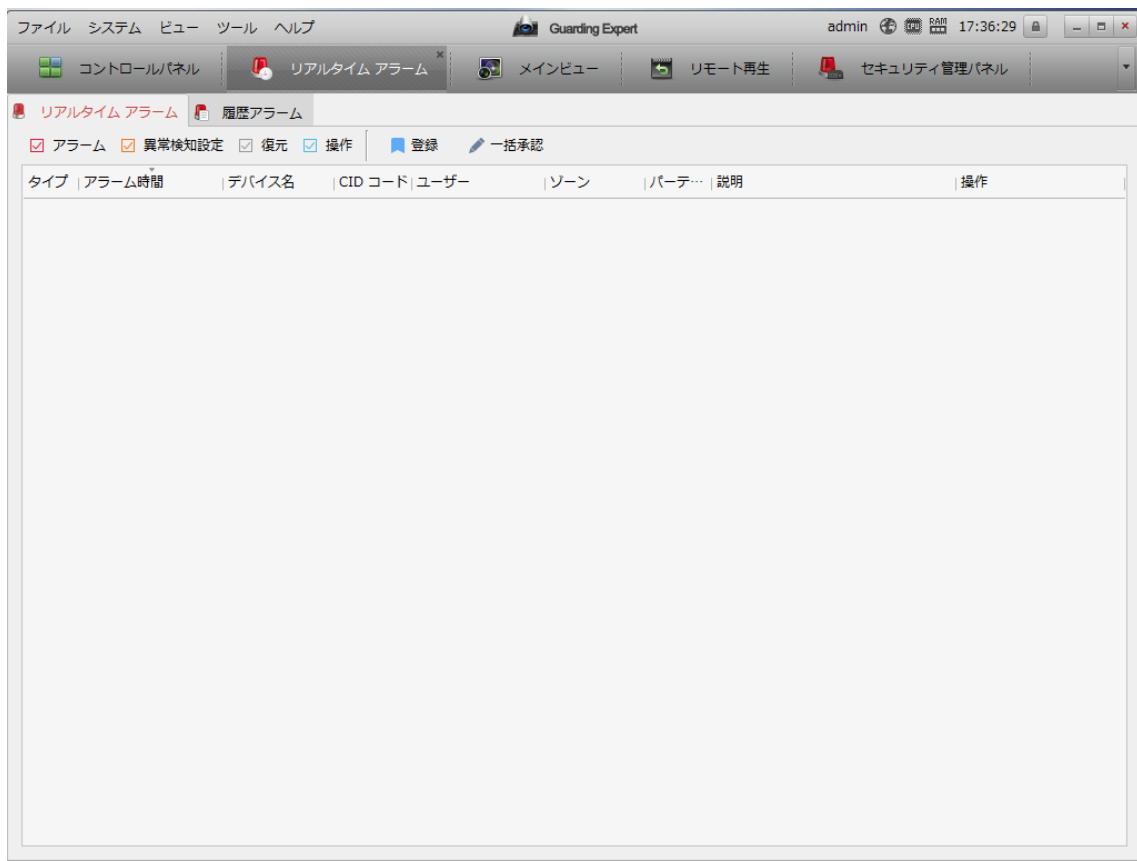
リアルタイムでトリガされたアラームタイプ、アラーム時刻、デバイス名、CiD コード、ゾーン、パーティション、アラームの説明などを含むアラーム情報を確認できます。また、アラームをもじ込んで認識したり、トリガされたカメラのライブビューを確認したり、E マップ上のリンクされたホットスポットを表示することもできます。

手順:



1. コントロールパネルの  をクリックするか、ビュー>リアルタイムアラームをクリックして、「リアルタイムアラーム」ページを開きます。

すべてのリアルタイムでトリガされたアラームがこのページに表示され、アラームの種類、アラーム時刻、デバイス名、ユーザ、CiD コード、ゾーン、パーティション、アラームの説明などを確認できます。



アラーム、異常、復元または操作のチェックボックスをチェックすると、対応するタイプのアラームを表示できます。

注意:

- アラームタイプは でマークされています。異常タイプは でマークされています。復元タイプは でマークされています。操作タイプには が付いています。
- アラームタイプの後の数字は、このタイプのアラーム数を示します。

- 「操作」列のアイコン をクリックして、選択したアラームを確認します。

または、一括認識ボタンをクリックして、リアルタイムでトリガされたすべてのアラームを認識することもできます。

認識されたアラームはリストから消えます。

3. (オプション)「操作」列のアイコン  をクリックすると、トリガされたカメラのライブビューが表示されます。

注意:

リンクされたライブビューを取得する前に、ゾーンのトリガされたカメラを設定する必要があります。起動されるカメラの設定の詳細については、「13.1 ゾーンイベントの設定」を参照してください。

4. (オプション)「操作」列のアイコン  をクリックして、ゾーンをマップ上のホットスポットとして確認します。

注意:

マップ上のゾーンを確認する前に、そのゾーンをホットスポットとしてマップに追加する必要があります。ホットスポットとしてゾーンを追加する方法については、「13.3 E マップ上でゾーンの表示」を参照してください。

5. (オプション)このモジュールのアラームタイプを申し込んで、希望のアラームを受信することもできます。

手順:

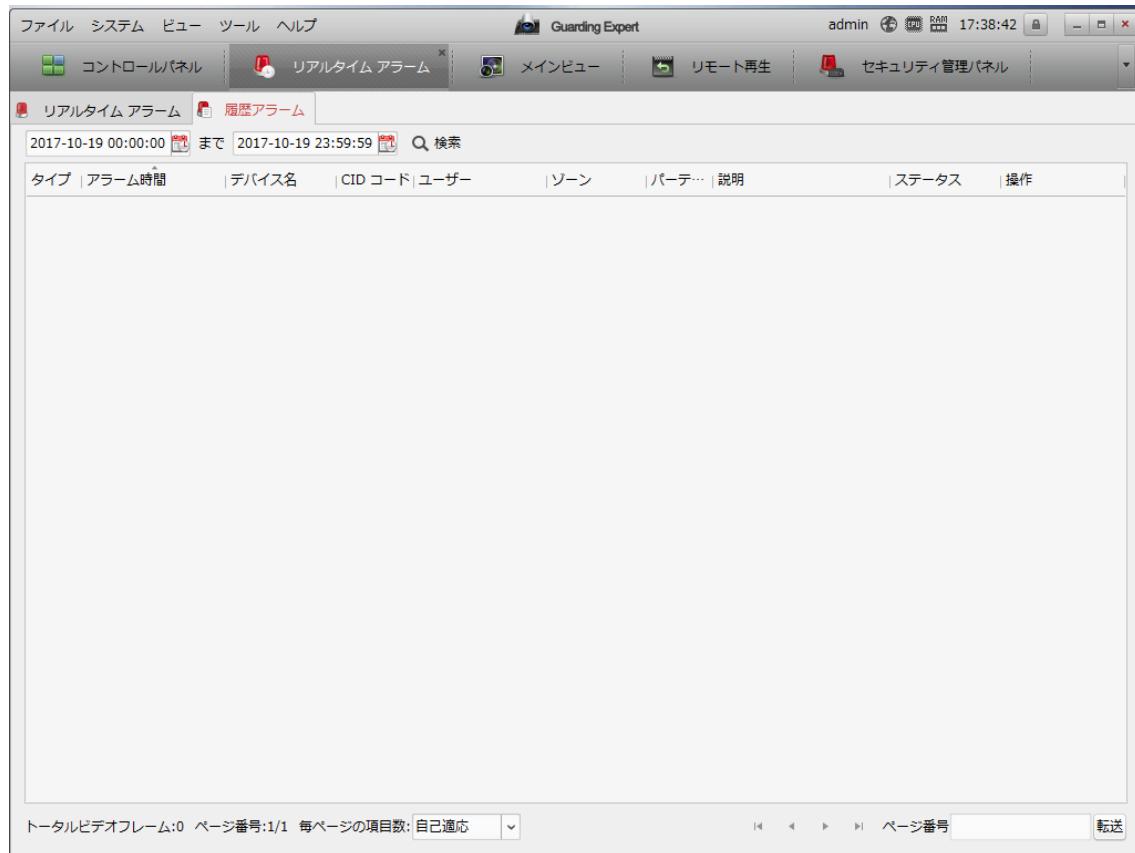
- 1) 申し込むボタンをクリックすると、「申し込み」ダイアログがポップアップします。
- 2) アラーム、異常、復元、または操作タブをクリックして、主要なアラームタイプを選択します。
- 3) タブの下にあるチェックボックスをオンにして、マイナーアラームの種類を選択します。すべてチェックボックスをオンにして、対応するメジャー・タイプのすべてのマイナータイプを選択できます。
- 4) OK をクリックして選択内容を保存します。

12.4.2 履歴アラームの検索

目的:

このセクションでは、履歴アラームを時間で検索し、検索結果をアラームタイプでフィルタリングすることができます。一致したアラームを処理することもできます。

リアルタイムアラームモジュールで、履歴アラームタブをクリックして、「履歴アラーム」ページに入ります。

**手順:**

1. アイコン  をクリックして、期間の開始時刻と終了時刻を設定します。
2. 検索ボタンをクリックすると、一致したアラームがこのページに表示されます。
3. (オプション)検索結果をアラームタイプでフィルタリングします。
 - 1) フィルタボタンをクリックすると、フィルタダイアログが表示されます。
 - 2) アラーム、異常、復元、または操作タブをクリックして、主要なアラームタイプを選択します。

注意:

アラームタイプは  でマークされています。異常タイプは  でマークされています。

す。復元タイプは  でマークされています。操作タイプには  が付いています。

- 3) タブの下にあるチェックボックスをオンにして、マイナーアラームの種類を選択します。
「すべて」チェックボックスをオンにして、対応するメジャー・タイプのすべてのマイナータイプを選択することができます。
 - 4) **OK** をクリックすると、アラームタイプによるフィルタリングが開始され、選択したタイプのアラームがこのページに表示されます。
4. (オプション)検索されたアラームについては、アイコン  をクリックするか、**一括認識**をクリックして、認識されてないアラームを認識します。認識されたアラーム項目はグレーに変わります。
- また、 と  をクリックして、アラームのリンクされたライブビューを確認し、リンクされたホットスポットを E マップで表示することもできます。

アラームの操作の詳細については、「13.4.1 リアルタイムアラーム」を参照してください。

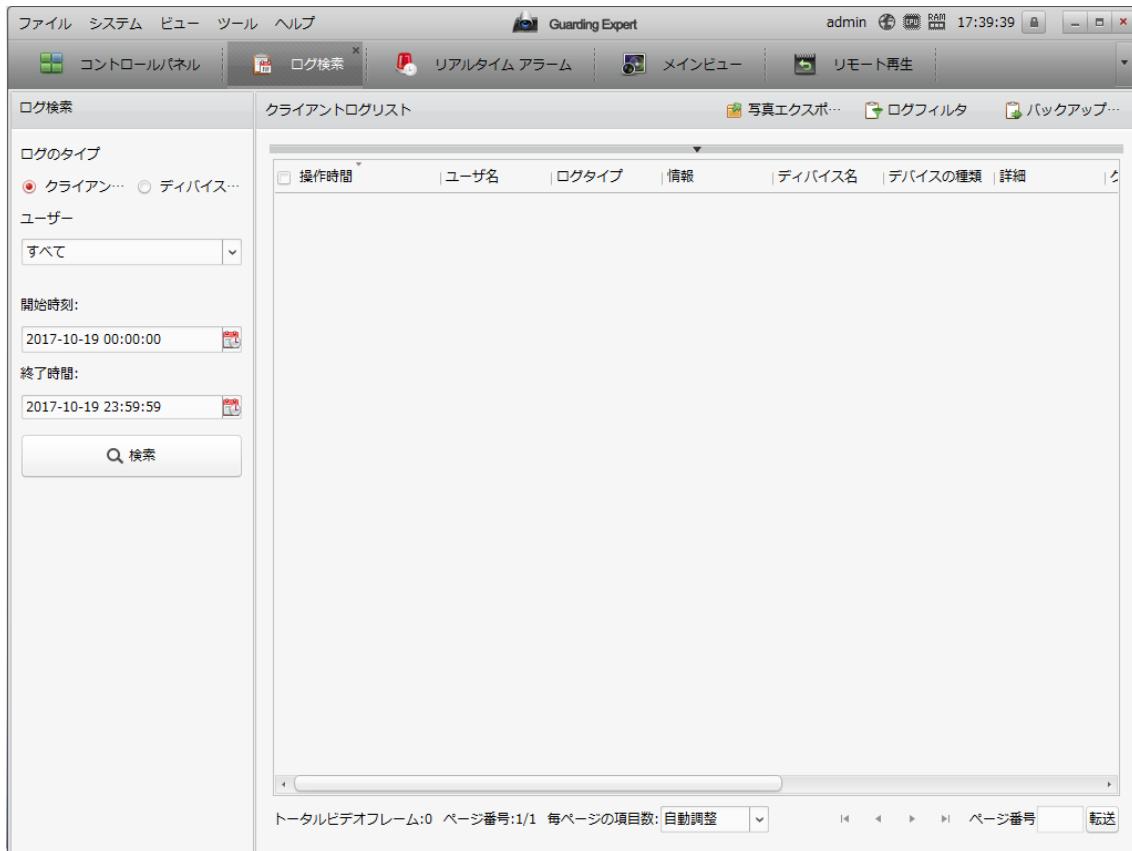
第 13 章 ログ管理

目的:

クライアントソフトウェアのログファイルは、ローカル PC に保存され、チェックするために検索することができます。2 種類のログが提供されます：クライアント ログおよびサーバ ログです。クライアント ログはクライアントのログ ファイルでローカル PC に保存されます；サーバ ログは接続されたデバイスのログ ファイルで、ローカル デバイスに保存されます。



コントロール パネルの アイコンをクリックし、ログ検索ページを開きます。



ログファイルの検索

手順:

1. ログ検索ページを開きます。
2. ログタイプを選択します。リモートログが選択されている場合は、クリックして検索するデバイスを指定します。

3. アイコン  をクリックして、開始時刻と終了時刻を指定します。

注意:

- 1ヶ月以内にログを検索することができます。
4. 検索をクリックします。開始時刻と終了時刻の間のログファイルがリストに表示されます。

ログの操作時間、タイプ、その他の情報を確認することができます。

注意:

ログファイルが多すぎる場合は、時間範囲を絞り込んだり、検索のログタイプをフィルタリングしたりしてください。

操作時間	ユーザ名	ログタイプ	情報	デバイス名	デバイスの種類	詳細
2017-10-19 17:31:16	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:31:14	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:29:15	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:28:24	admin	操作ログ	画像を見る	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:28:22	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:59	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:55	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:06	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:06	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:49	admin	操作ログ	イベントバラ...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:46	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:46	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:45	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:45	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:44	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:43	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:39	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1

ログファイルのフィルタリング

目的:

正常に検索された後は、キーワードまたは条件でログファイルをフィルタリングすることができます。必要に応じてログを見つけることができます。

手順:

1. 「ログフィルタ」または「ログ検索」ページのアイコン  をクリックして、「ログフィルタ」パネルを開きます。
2. キーワードフィルタを選択し、フィルタリングのキーワードをテキストフィールドに入力します。
または、条件によるフィルタを選択し、ドロップダウンリストでログのタイプを指定します。
3. 必要に応じて、「詳細...」をクリックしてログファイルをより正確にフィルタリングできます。
4. フィルタをクリックしてフィルタリングを開始します。「フィルタをクリア」をクリックすると、フィルタリングをキャンセルできます。

操作時間	ユーザ名	ログタイプ	情報	ディバイス名	デバイスの種類	詳細
2017-10-19 17:31:16	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:31:14	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:29:15	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:28:24	admin	操作ログ	画像を見る	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:28:22	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:59	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:55	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:06	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:27:06	admin	操作ログ	ライブビュー...	2610	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:49	admin	操作ログ	イベントバラ...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:46	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:46	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:45	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1
2017-10-19 17:26:45	admin	操作ログ	ライブビュー...	192.168.1.53	エンコード装置	1

ログファイルのバックアップ

目的:

クライアントログとサーバーログを含むログファイルをバックアップのためにエクスポートすることができます。

手順:

- 条件を設定し、ログファイルを検索します。
- バックアップログをクリックして、バックアップログダイアログボックスを開きます。
- アイコン  をクリックし、ローカル保存パスを選択し、ファイルの名前を設定します。
- バックアップをクリックして、選択したログファイルをバックアップ用にエクスポートします。

ファイル>ログファイルを開くをクリックすると、ローカル PC 上のバックアップログファイルの情報を確認できます。



画像のエクスポート

目的:

ストレージサーバに保存されているアラームピクチャは、ローカル PC にエクスポートできます。

手順:

1. アラーム画像を選択します。
2. 「エクスポート画像」をクリックして、「エクスポート画像」ダイアログボックスを開きます。
3. アイコン  をクリックし、ローカル保存パスを選択し、ファイルの名前を設定します。
4. エクスポートをクリックして、選択した画像をエクスポートします。

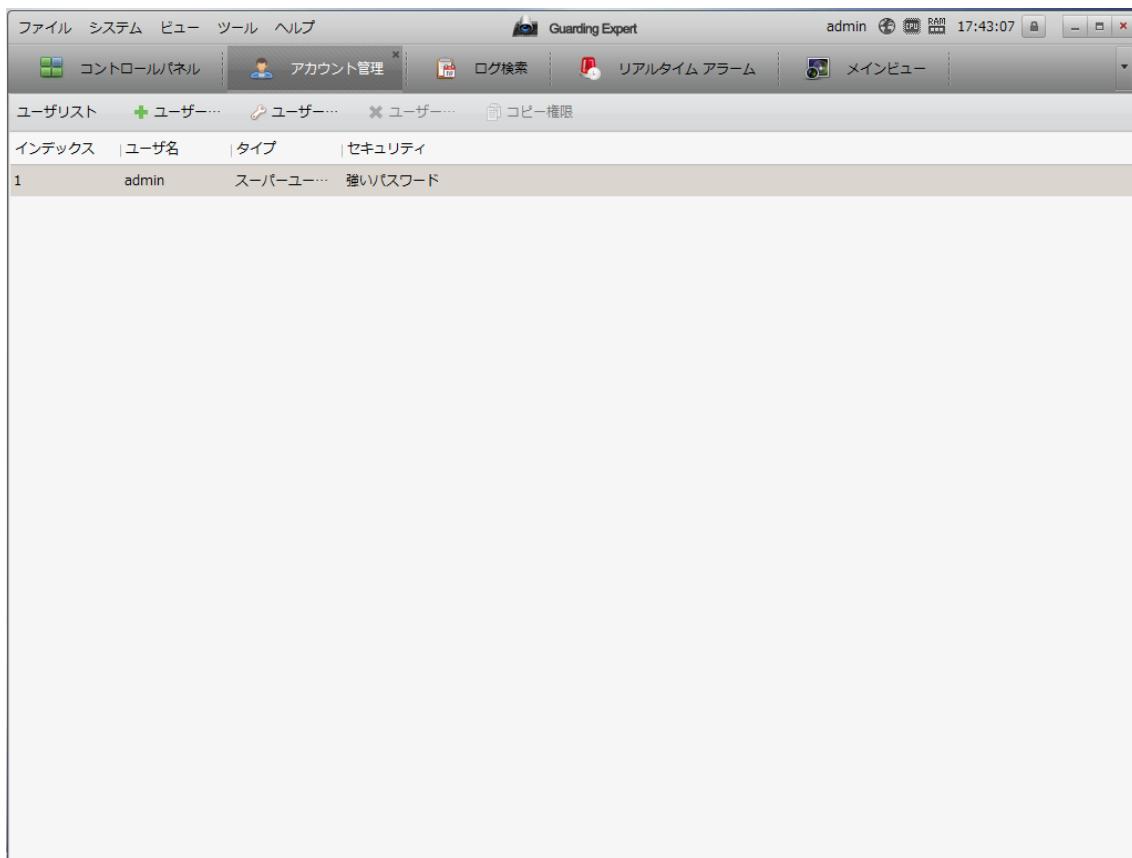
第 14 章 アカウント管理とシステム設定

14.1 アカウント管理

目的:

複数のユーザーアカウントをクライアントソフトウェアに追加することができ、必要に応じて異なるユーザに異なる権限を割り当てることができます。

コントロールパネルのアイコン  をクリックするか、またはツール>アカウント管理をクリックして、「アカウント管理」ページを開きます。



注意:

ソフトウェアにログインするために登録したユーザーアカウントは、スーパーユーザとして設定されています。

ユーザの追加

手順:

1. 「アカウント管理」ページを開きます。
2. 「ユーザの追加」をクリックして、「ユーザの追加」ダイアログボックスを開きます。
3. ドロップダウンリストからユーザタイプを選択します。2種類のユーザアカウントを選択できます。

管理者: 管理者アカウントはデフォルトですべての権限を持ち、すべての操作者と自分自身のアカウントのパスワードと権限を変更できます。

操作者: 操作者アカウントにはデフォルトでアクセス権限がなく、アクセス権限を手動で割り当てることができます。操作者は自分のアカウントのパスワードを変更することしかできません。

4. ユーザ名、パスワード、および必要に応じて確認パスワードを入力してください。ソフトウェアによって自動的にパスワード強度が判断されます。データセキュリティ向上させるために、強力なパスワードを使用するよう強くお勧めします。
5. チェックボックスをオンにして、作成されたユーザの権限を割り当てます。オプションで、「コピー元」ドロップダウンリストでユーザを選択して、選択したユーザの権限をコピーすることができます。
6. オプションで、「デフォルト権限」をクリックして、このユーザのデフォルト権限を復元できます。
7. 保存をクリックして設定を保存します。

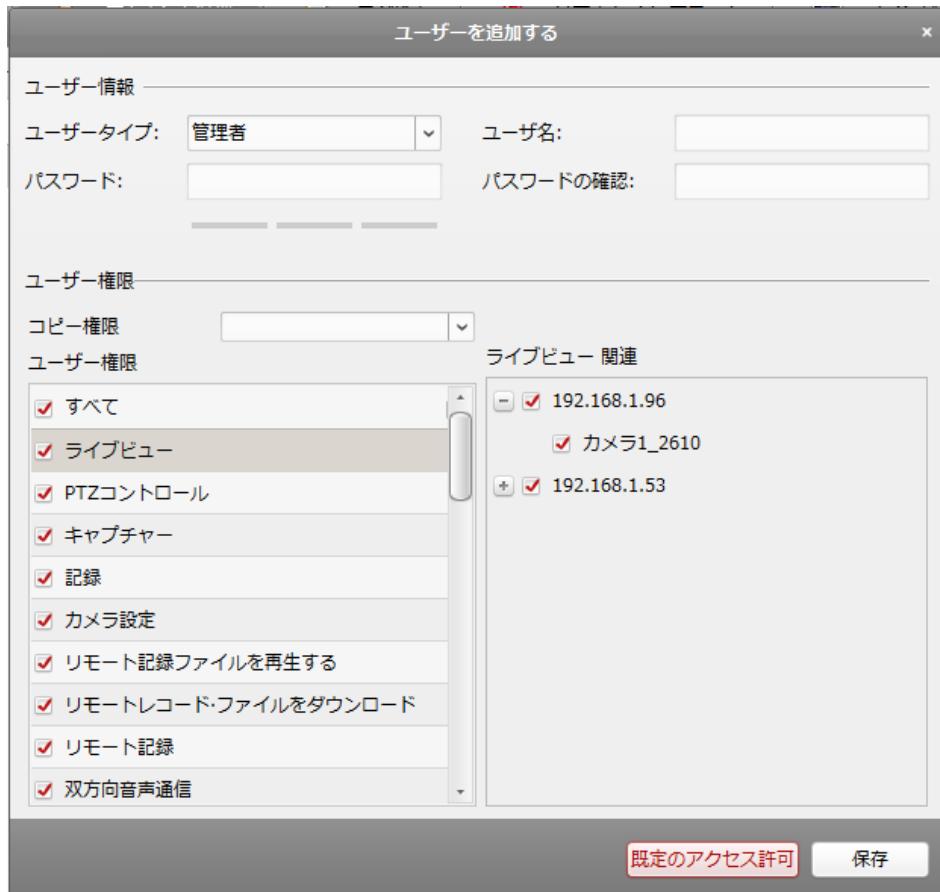


- ◆ ユーザ名には以下の文字を利用することはできません:/ ¥ :* ?“ < > | また、パスワードの長さは 6 文字未満にはできません。
- ◆ プライバシーのために、製品のセキュリティを向上できるように、パスワードをあなた自身が決めたもの(大文字、小文字、数字と記号を含め、最低でも 8 文字以上)に変更することを強く推奨します。
- ◆ すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、設置者および/またはエン

ドユーザの責任です。

注意:

最大 50 までのアカウントをクライアントソフトウェアに追加できます。



ユーザの管理

目的:

正常に作成されたユーザアカウントは、「アカウント管理」ページのユーザリストに追加されます。ユーザアカウントの情報を編集または削除できます。

ユーザの情報を編集するには、ユーザをリストから選択し、[ユーザを編集]をクリックします。

ユーザの情報を削除するには、ユーザをリストから選択し、[ユーザを削除]をクリックします。

スーパー ユーザおよび管理者ユーザの場合、[コピー先]をクリックして他のユーザ(複数可)に権限をコピーできます。

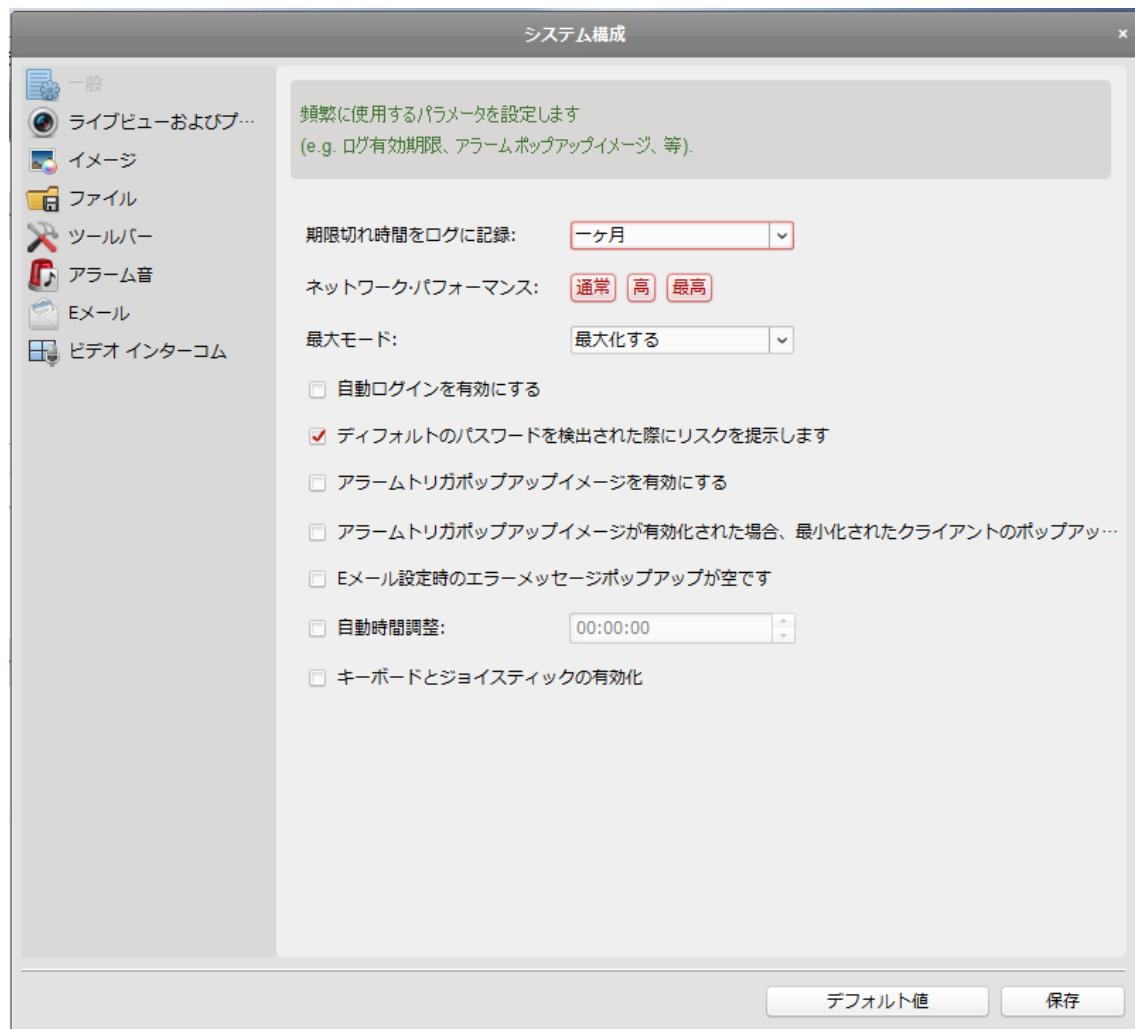
注意:

スーパーユーザは削除できず、スーパーユーザのパスワードだけが編集可能です。

14.2 システム設定

一般的なパラメータ、ライブビューと再生パラメータ、画像パラメータ、ファイル保存パス、ライブビューと再生ツールバー設定のアイコン、キーボードとジョイスティックのショートカット、アラーム音、電子メール設定、およびビデオインターモンターパラメータを設定できます。

コントロール パネル上の  アイコンをクリックするか、ツール>システム設定をクリックしてシステム設定ページを開きます。



注意:

デフォルト値をクリックすると、すべてのシステム設定のデフォルトを復元できます。

14.2.1 一般設定

目的:

ログの保持時間、ネットワークパフォーマンスなど頻繁に使用されるパラメータを設定できます。

手順:

1. 「システム設定」ページを開きます。
2. 一般タブをクリックして、「一般設定」インターフェイスに入ります。
3. 一般的なパラメータを設定します。 詳細は、表 15-1 一般パラメータを参照してください。
4. 保存をクリックして設定を保存します。

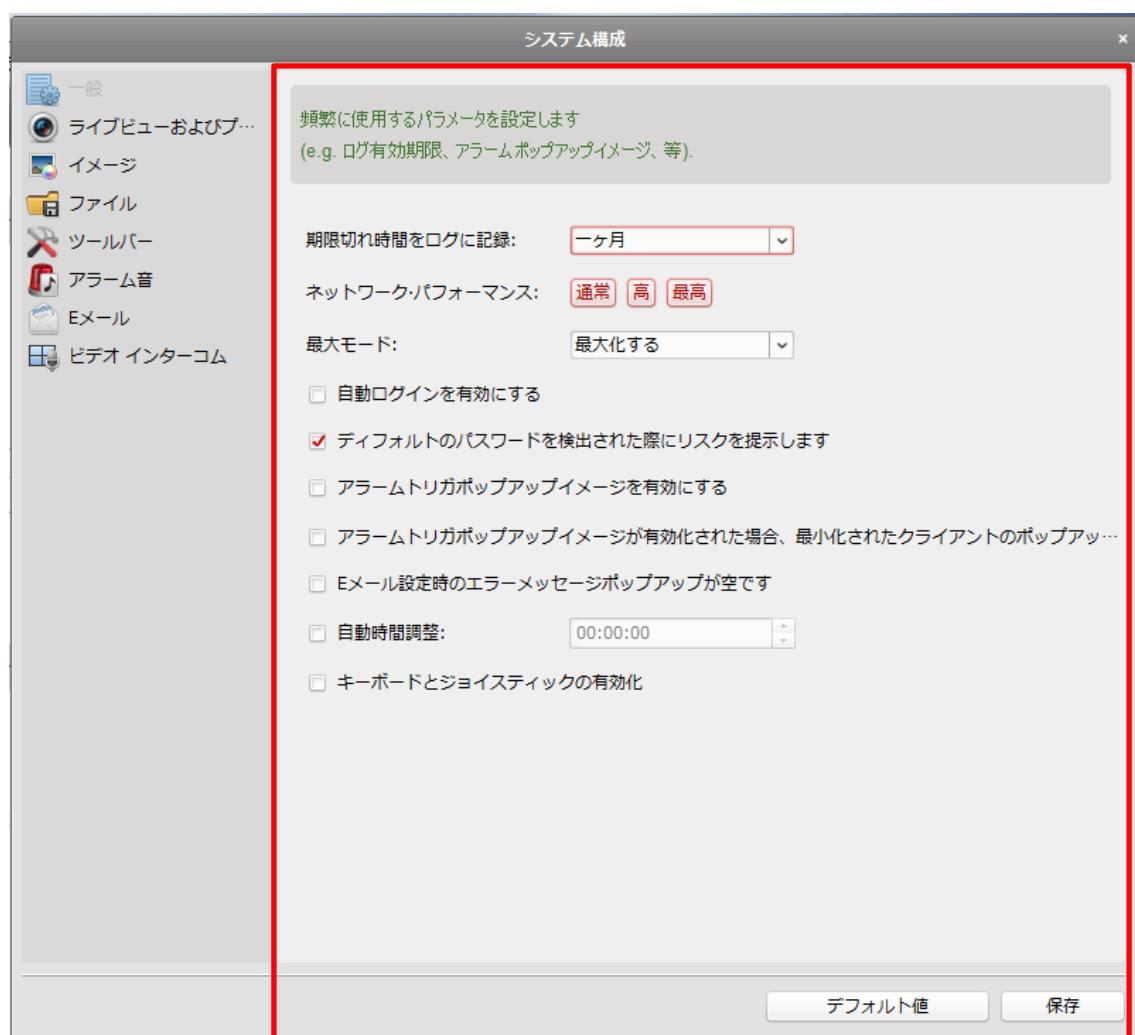


表 15-1 一般的なパラメータ

パラメータ	説明
ログ有効期限	一度ログファイルを保持する時間が経過すると、ファイルは削除されます。
ネットワークパフォーマンス	現在のネットワークの状態です。それは、標準、より良いまたは最高として設定することができます。
最大化モード	最大化モードを最大化または全画面から選択します。最大化を選択した場合、ソフトウェアは最大表示になり、タスクバーが表示されます。全画面を選択した場合、ソフトウェアは全画面モードで表示されます。
オートログインの有効化	クライアント ソフトウェアに自動ログインします。
デフォルトのパスワードを使用するときのセキュリティプロンプトのポップアップ	追加されたデバイスのデフォルトパスワードが変更されていない場合、通知のプロンプトがポップアップ表示されます。
アラームトリガポップアップイメージを有効にする	アラームが発生したときに画像ポップアップを有効にします。また、  または  をクリックして、「アラームイベント」インターフェイスでイメージポップアップを有効/無効にすることもできます。

<p>アラームトリガポップアップイメージが有効な場合、最小化されたクライアントのアラームイメージをポップアップする</p>	<p>アラームトリガポップアップイメージ機能が有効になっている場合に、クライアントが最小化されたときにアラーム画像がポップアップするようになります。</p> <p>アラームトリガポップアップイメージを有効にするには、「6 イベント管理」を参照してください。</p>
<p>電子メール設定が空の場合、ポップアップエラーメッセージが表示される</p>	<p>電子メールが設定されていない場合、クライアントがエラーメッセージを表示するかどうかを設定します。</p> <p>電子メールの設定については、「15.2.8 の電子メール設定」を参照してください。</p>
<p>自動時間調整</p>	<p>特定の時点において時刻を自動的に調整します。</p>
<p>キーボードとジョイスティックを有効にする</p>	<p>キーボードまたはジョイスティックを有効にするように設定します。有効にすると、キーボードとジョイスティックのショートカットを設定できます。詳細は、「18.2.6 キーボードとジョイスティックのショートカット設定」を参照してください。</p>

14.2.2 ライブビューと再生設定

目的:

ライブビューと再生のパラメータ(ピクチャフォーマット、プレプレイ時間など)を設定できます。

手順:

1. 「システム設定」ページを開きます。
2. ライブビューと再生タブをクリックして、「イブビューと再生パラメータ設定」インターフェイスに入ります。
3. ライブビューと再生パラメータを設定します。詳細は、表 18-2 ライブビューと再生パラメータを参照してください。
4. 保存をクリックして設定を保存します。

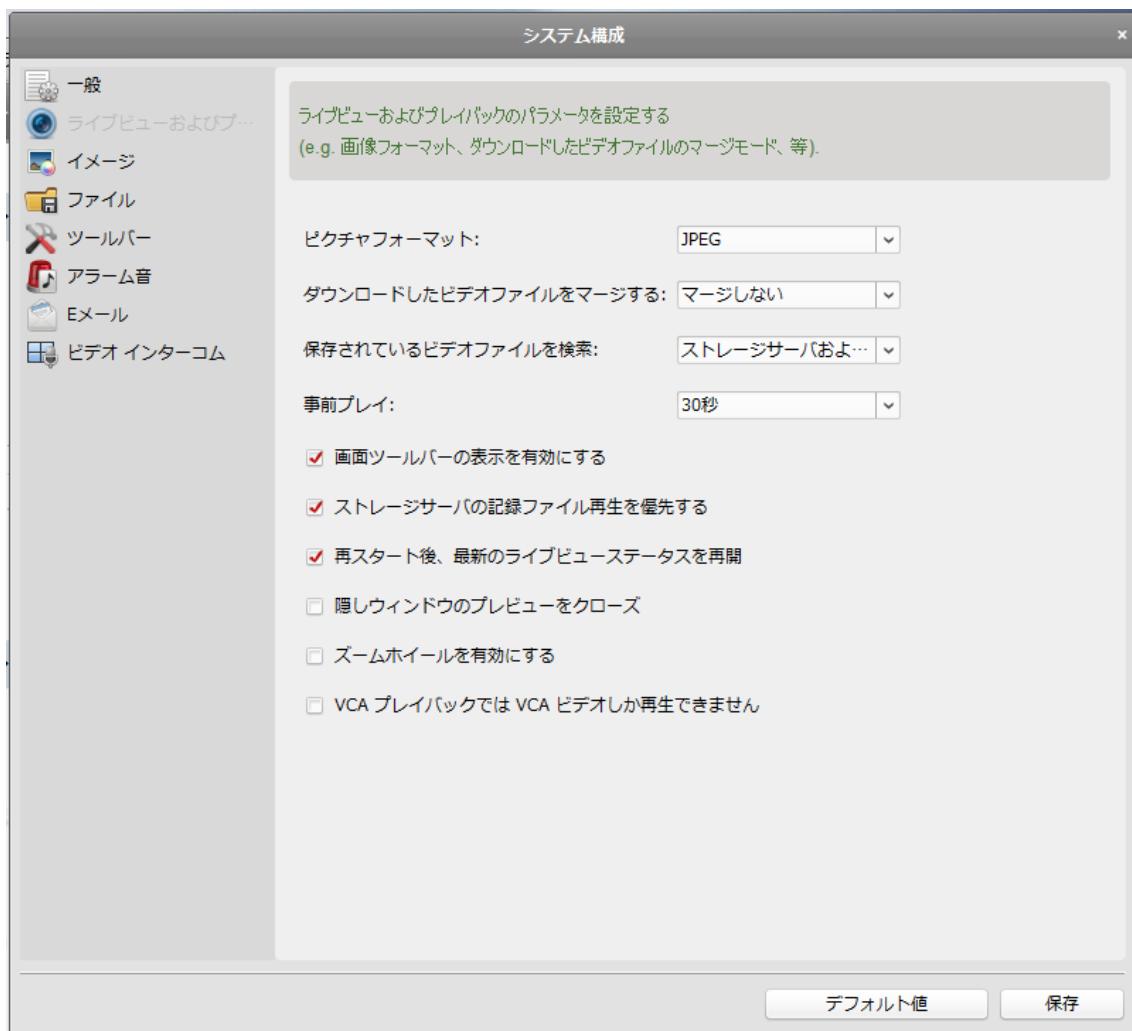


表 18-2 ライブビューと再生パラメータ

パラメータ	説明
-------	----

画像フォーマット	ライブビューまたは再生中にキャプチャーした画像のファイル形式を設定します。
ダウンロードしたビデオファイルをマージする	サンは、日付によってビデオファイルをダウンロードするための統合されたビデオファイルの最大サイズを設定します。
保存されているビデオファイルを検索する	再生のために、ローカルデバイス、ストレージサーバ、またはストレージサーバとローカルデバイスの両方に保存されているビデオファイルを検索するように設定します。
プレプレイ時間を設定	イベント再生のプレプレイ時間を設定します。デフォルトでは 30 秒です。
画面ツールバーの表示を有効にする	ライブビューまたは再生中に各ディスプレイウィンドウにツールバーを表示します。
ストレージサーバ上のビデオファイルの再生の優先順位付け	ストレージサーバに記録されたビデオファイルを優先的に再生します。それ以外の場合は、ローカルデバイスに記録されているビデオファイルを再生します。
再起動後に最新のライブビューステータスを再開する	再度クライアントにログインした後、最新のライブビューのステータスを再開します。
単一のライブビューでバックグラウンドビデオを切断する	マルチウィンドウ分割モードでは、ライブビデオをダブルクリックして 1 ウィンドウ分割モードで表示し、他のライブビデオはリソースの保存のために停止します。
ズーム用のホイールを有効にする	マウスホイールを使用して、PTZ モードでビデオを拡大または縮小したり、デジタルズームモードでビデオを拡大または元に戻

	したりすることができます。このようにして、マウスをスクロールしてライブビデオを直接拡大または縮小(または復元)することができます。
VCA 再生中に無関心なビデオをスキップする	VCA の再生中に無関心なビデオをスキップすることを有効にし、VCA の再生中に無関心なビデオは再生されません。

14.2.3 画像設定

目的:

ビュースケール、再生パフォーマンスなどのソフトウェア画像パラメータを設定することができます。

手順:

1. システム設定ページを開きます。
2. 画像をクリックして、「画像設定」インターフェイスに入ります。
3. 画像パラメータを設定します。詳細は、表 18-3 画像パラメータを参照してください。
4. 保存をクリックして設定を保存します。

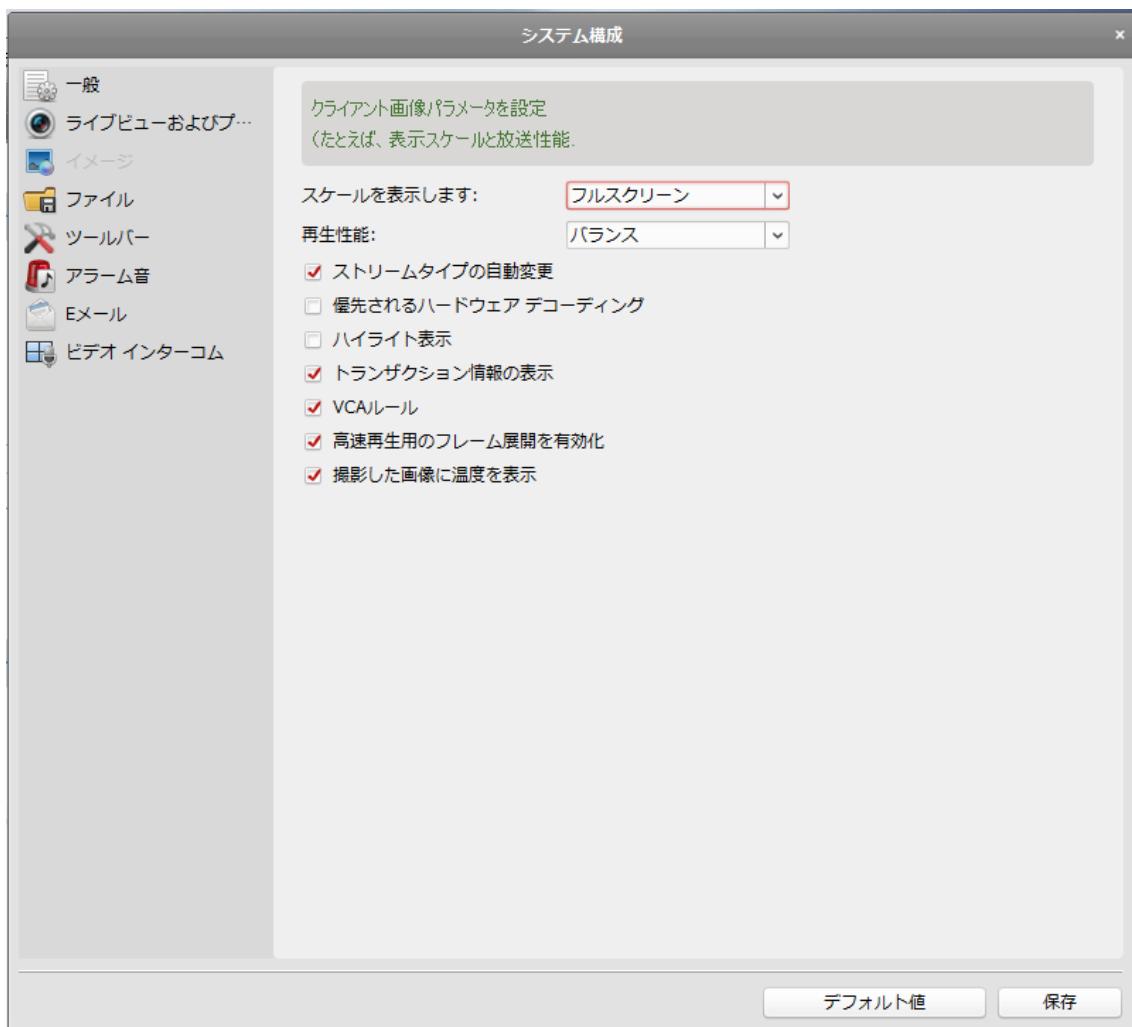


表 18-3 画像パラメータ

パラメータ	説明
ビュースケール	ライブビューまたは再生時のビデオの表示スケール。全画面、4:3、16:9 または元の解像度に設定できます。
再生パフォーマンス	ライブビデオの再生パフォーマンス。最短遅延、バランス、流暢のいずれかに設定できます。

ストリームタイプの自動変更	表示ウィンドウのサイズに応じて、ビデオストリーム(メインストリームまたはサブストリーム)をライブビューで自動的に変更します。
ハードウェアデコード優先	ライブビューと再生用のハードウェアによるデコードを有効にするように設定します。ライブビューまたは再生中に HD ビデオを再生する場合、ハードウェアデコードによってデコードパフォーマンスが向上し、CPU 使用率が低下する可能性があります。
ハイライトを有効にする	ライブビューと再生で、検出されたオブジェクトを緑の四角でマークします。
トランザクション情報の表示	ライブ情報にトランザクション情報を表示します。
VCA ルール	ライブビューに VCA ルールを表示します。
高速再生用のフレーム抽出を有効にする	ビデオを高速(8 倍速以上)で再生すると、この機能を無効にして、再生のイメージをより堪能にして詳細を表示することができます。
キャプチャーした画像の温度を表示する	サーマルデバイスの場合は、キャプチャーした画像の温度情報を表示するように設定します。

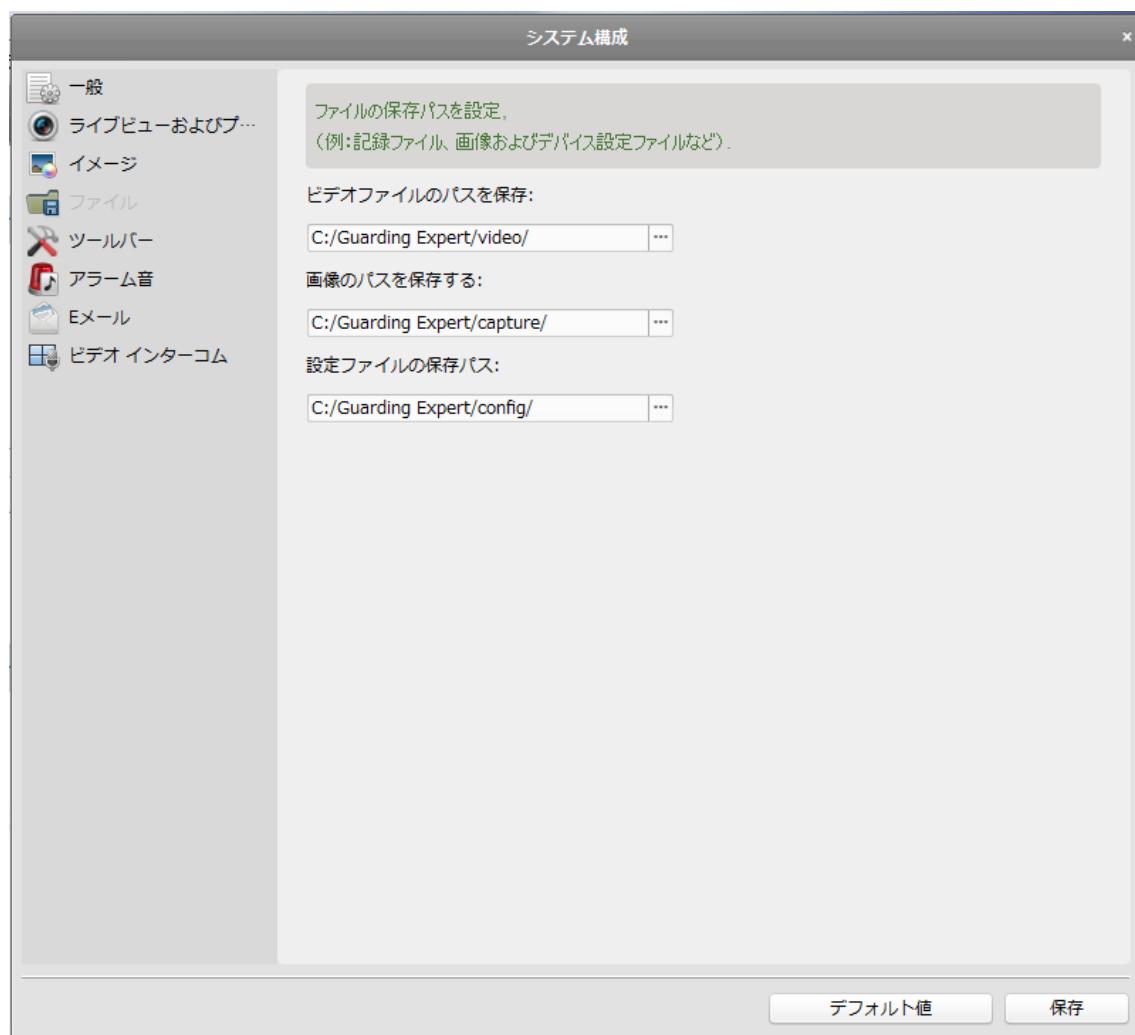
14.2.4 ファイル保存パスの設定

目的:

手動録画のビデオファイル、キャプチャーされた画像、システム設定ファイルはローカル PC に保存されます。これらのファイルの保存パスを設定することができます。

手順:

1. システム設定ページを開きます。
2. ファイルタブをクリックして、「ファイル保存パスの設定」インターフェイスに入ります。
3. アイコン  をクリックし、ファイルのローカルパスを選択します。
4. 保存をクリックして設定を保存します。



14.2.5 ツールバーの設定

目的:

ライブビューと再生ウィンドウのツールバーのアイコンと順序はカスタマイズできます。どのアイコンを表示し、アイコンの順序を設定するかを設定できます。

手順:

1. システム設定ページを開きます。
2. ツールバータブをクリックして、「ツールバーの設定」インターフェイスに入ります。



3. ツールバーに表示するアイコンをクリックして選択します。アイコンをドラッグすると、ツールバーに表示するときにアイコンの順序を設定できます。

ライブビューツールバーのアイコン

	ライブビューを停止する	表示ウィンドウでライブビューを停止します。
	キャプチャー	ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。キャプチャー画像は PC に保存されます。
	レコード	手動録画を開始します。ビデオファイルは PC に保存されます。
	PTZ コントロール	スピードドーム用の PTZ モードを開始します。 ビュー内をクリックしてドラッグすると、PTZ 制御が実行されます。
	双方向オーディオ	ライブビューのデバイスで双方向オーディオを開始します。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効にします。機能を無効にするにはもう一度クリックしてください。
	インスタント再生	瞬時再生モードに切り替えます。
	リモート設定	ライブビューでカメラのリモート設定ページを開きます。

再生ツールバーのアイコン

	キャプチャー	ライブビュープロセスで画像をキャプチャーします。キャプチャー画像は PC に保存されます。
--	--------	---

	レコード	手動録画を開始します。ビデオファイルは PC に保存されます。
	デジタルズーム	デジタルズーム機能を有効にします。機能を無効にするにはもう一度クリックしてください。
	ダウンロード	カメラのビデオファイルをダウンロードすると、ビデオファイルは PC に保存されます。ファイルまたは日付でダウンロードするように選択できます。

4. 保存をクリックして設定を保存します。

14.2.6 キーボードとジョイスティックのショートカット設定

目的:

キーボードをクライアントに接続して、PTZ カメラの制御に使用することができます。キーボードとジョイスティックのショートカットを設定すると、よく使用されるアクションにすばやく簡単にアクセスできます。

注意:

この設定ページは、一般設定でキーボードとジョイスティックを有効にした後に表示されます。詳細は、第 18.2.1 章の「一般設定」を参照してください。

手順:

1. キーボードの場合:クライアントとインストールされた PC にキーボードが接続されている場合は、ドロップダウンリストからコムポートを選択します。
2. キーボードとジョイスティックの場合:
 - 1) リストから特定の機能を選択します。

- 2) PC キーボード、USB ジョイスティックまたは USB キーボード列の項目フィールドをダブルクリックします。
 - 3) ドロップダウンリストから複合キーの操作または番号を選択し、キーボードまたは USB ジョイスティックの機能のショートカットとして設定します。
3. 保存をクリックして設定を保存します。



14.2.7 アラーム音の設定

目的:

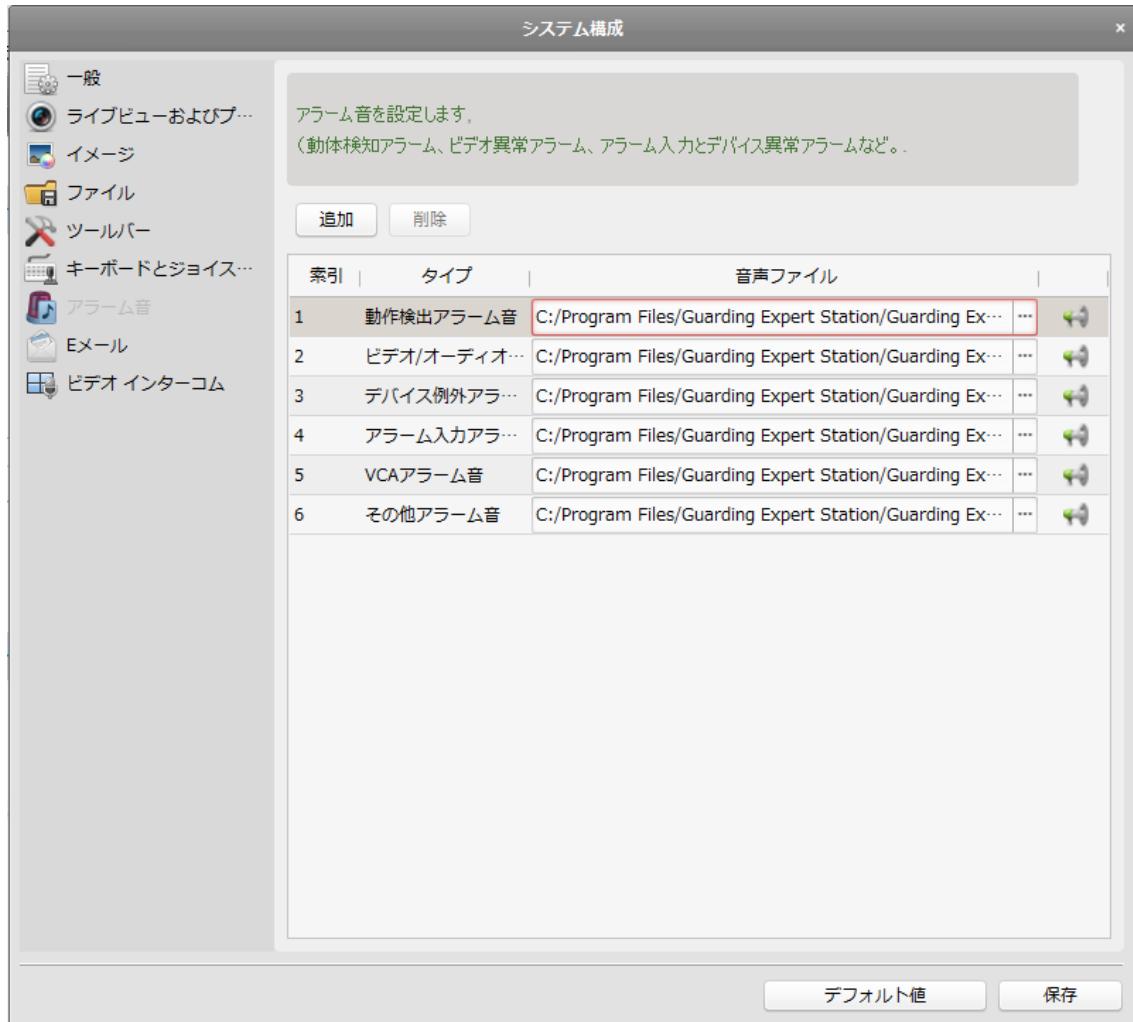
動体検知アラーム、ビデオ異常アラームなどのアラームがトリガされると、クライアントは警告音を鳴らすように設定され、可聴警告音が設定されます。

手順:

1. システム設定ページを開きます。
2. アラーム音タブをクリックして、「アラーム音の設定」インターフェイスに入ります。
3. リストには 6 つの事前定義アラーム音のタイプがあります。アイコン  をクリックし、ローカルパスからさまざまなアラームのオーディオファイルを選択することができます。
4. **追加**ボタンをクリックしてカスタムアラーム音を追加することもできます。

「タイプ」フィールドをダブルクリックして、必要に応じてアラーム音名をカスタマイズします。

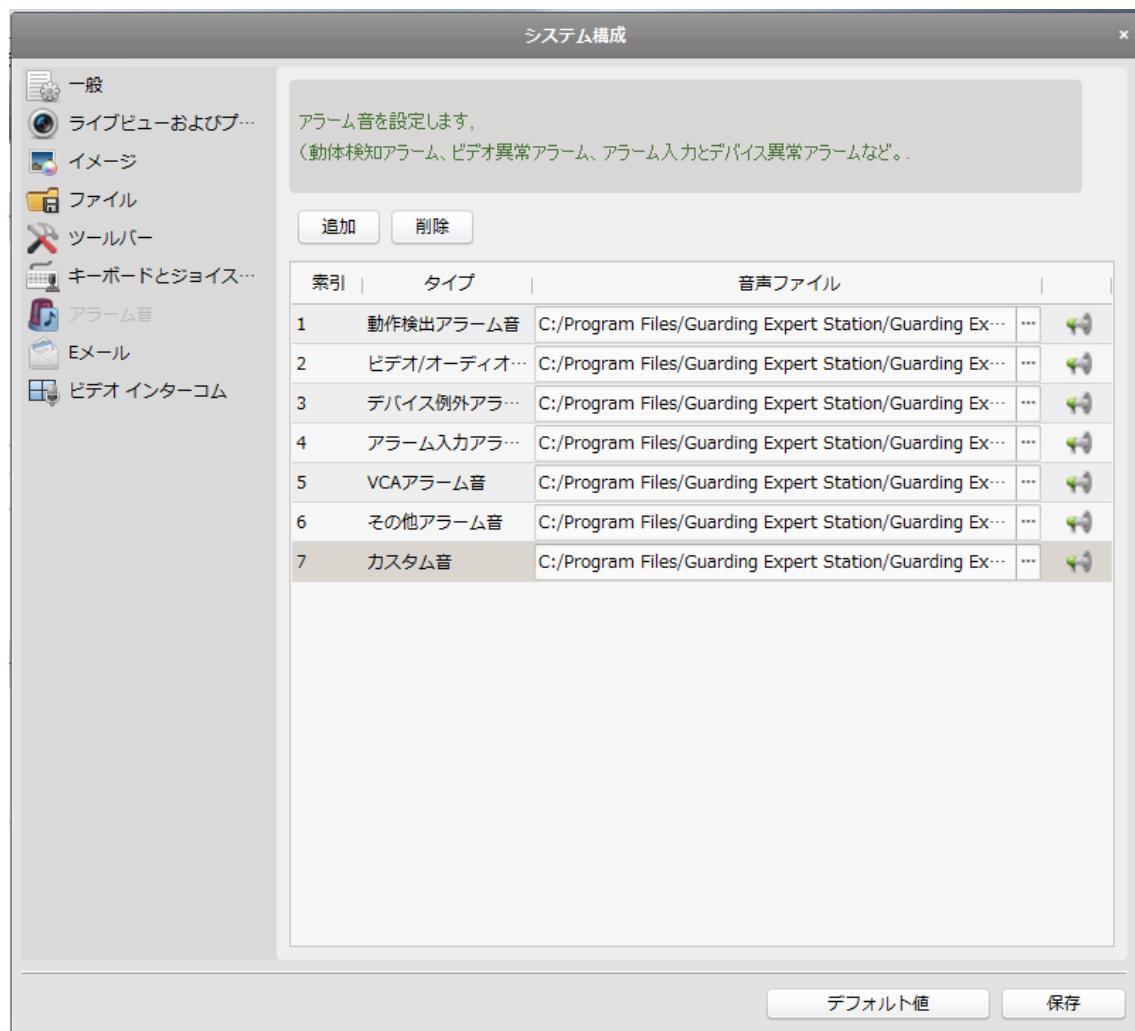
アイコン  をクリックし、ローカルパスからさまざまなアラームのオーディオファイルを選択します。



5. オプションで、オーディオファイルのテスト用にアイコン  をクリックすることができます。
6. 追加されたカスタムアラーム音を選択し、削除をクリックして削除することができます。
7. 保存をクリックして設定を保存します。

注意:

オーディオファイルのフォーマットは、*.wav に限られます。



14.2.8 メール設定

目的:

システムアラームが発生すると、電子メール通知を送信できます。指定された受信者に電子メールを送信するには、電子メールの設定を続行する前に設定する必要があります。

手順:

1. システム設定ページを開きます。
2. **電子メール**タブをクリックして、「電子メール設定」インターフェイスに入ります。
3. 必要な情報を入力します。

サーバ認証(オプション):電子メールサーバーで認証が必要な場合は、このチェックボックスをオンになると、認証を使用してサーバにログインし、電子メールアカウントのログインユーザ名とパスワードを入力できます。

SMTP サーバ:SMTP サーバのアドレスを入力します。

ポート:電子メールサービスの通信ポートを入力します。ポートはデフォルトで 25 です。

ユーザ名:「サーバ認証」がチェックされている場合は、送信者電子メールアドレスのユーザ名を入力します。

パスワード:サーバ認証がチェックされている場合は、送信者の電子メールアドレスのパスワードを入力します。

送信者アドレス:送信者の電子メールアドレスを入力します。

レシーバー1~3:レシーバーのメールアドレスを入力します。最大 3 つの受信機を設定できます。

4. オプションで、「SSL を有効にする」チェックボックスをオンになると、電子メール送信のセキュリティが強化されます。
5. 必要に応じて、「テスト電子メールの送信」をクリックして、テスト用の受信者に電子メールを送信できます。
6. **保存**をクリックして設定を保存します。



14.2.9 ビデオインターホンの設定

目的:

必要に応じてビデオインターホンパラメータを設定できます。

手順:

1. システム設定ページを開きます。
2. ビデオインターホンタブをクリックして、「ビデオインターホン設定」インターフェイスに入ります。

3. 必要な情報を入力します。

着信音:アイコン  をクリックし、屋内局の着信音のローカルパスからオーディオファイルを選択します。オプションで、アイコン  をクリックしてオーディオファイルのテストを行うことができます。

最大着信音時間:着信音の最大継続時間を入力します。

屋内ステーションでの最大通話時間:屋内ステーションでの最大通話時間を入力します。

ドアステーションでの最大通話時間:ドアステーションでの最大通話時間を入力します。

4. 保存をクリックして設定を保存します。



第 15 章 統計

目的:

統計情報では、ソフトウェアを介してデータ統計用の 8 つのモジュールを提供します:ヒートマップ、人数計測、カウント、道路交通、顔検索、ナンバープレート検索、行動分析、および顔のキャプチャー。

	ヒートマップモジュールはヒートマップ統計の表示を提供します。
	人数計算モジュールは、人数統計の表示を提供します。
	カウントモジュールは、カウント統計の表示を提供します。
	道路交通モジュールは、道路交通データの表示を提供します。
	顔検索モジュールは、顔の画像の照会を提供する。
	ナンバープレート検索モジュールは、ライセンスプレート番号のクエリを提供します。
	行動分析モジュールは、行動分析のクエリを提供する。
	顔キャプチャモジュールは、キャプチャーされた顔画像のデータ検索および統計を提供する。

15.1 ヒートマップ

目的:

ヒートマップは、色で表されるデータのグラフ表示であり、ヒートマップデータは線グラフで表示することができます。カメラのヒートマップ機能は、通常、設定されたエリア内の顧客の訪問時間および滞留時間を分析するために使用されます。

始める前に:

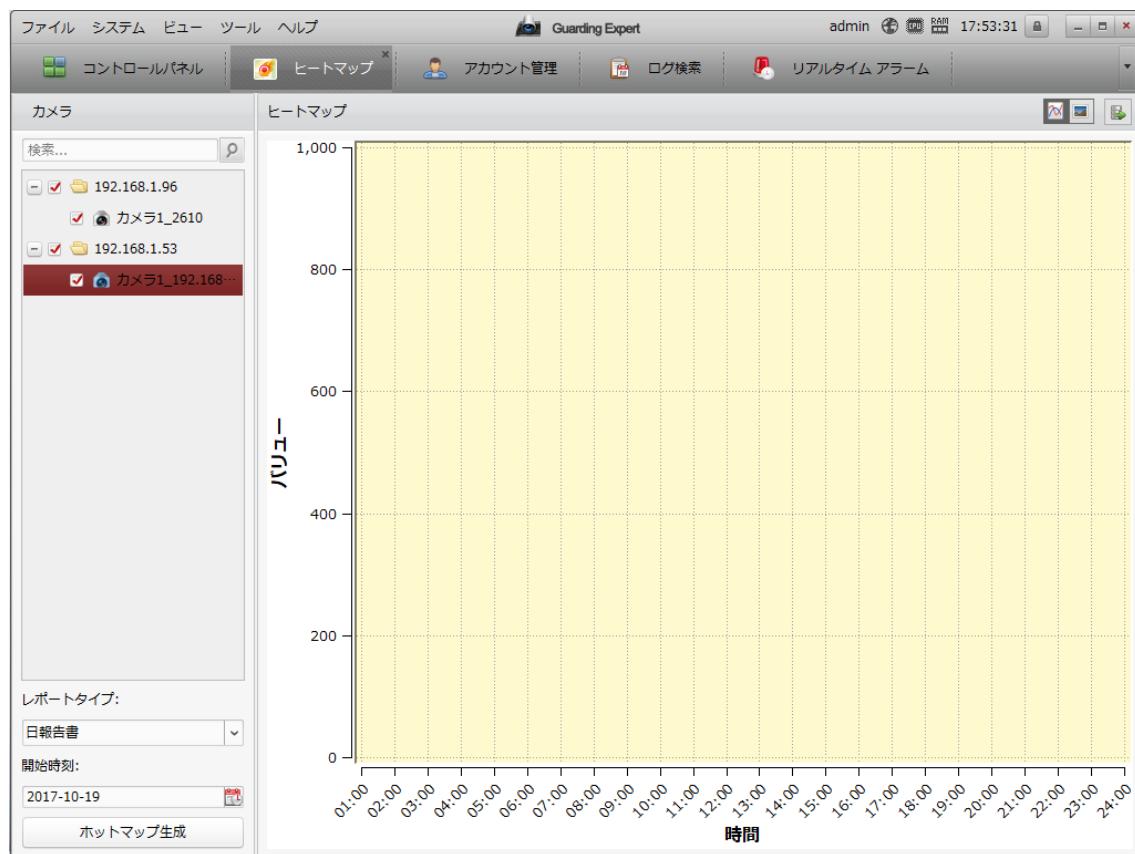
ヒートマップネットワークカメラをソフトウェアに追加し、対応するエリアを適切に設定してください。追加されたカメラは、ヒートマップルールで構成されている必要があります。

注意:

ヒートマップネットワークカメラはエンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。詳しい設定については、「3.1 項」を参照してください。ヒートマップのルールは、ヒートマップネットワークカメラのユーザマニュアルを参照してください。



コントロールパネルのアイコンをクリックしてヒートマップページを開きます。

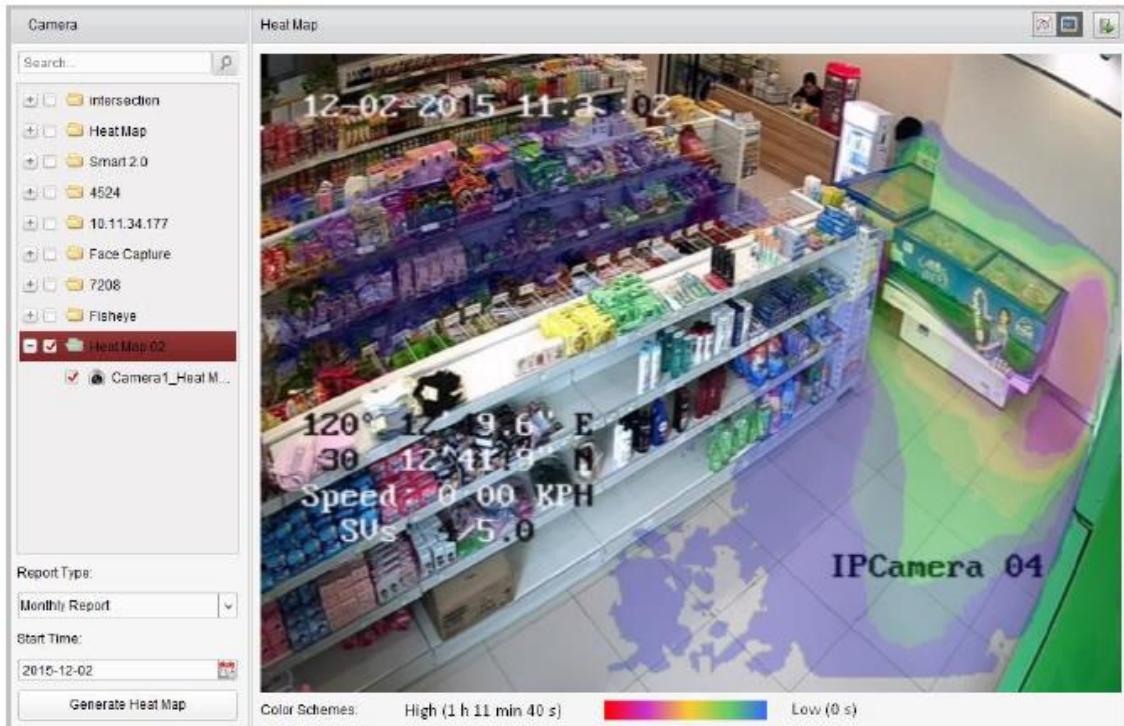


手順:

1. ヒートマップページを開きます。
2. エリアパネルでヒートマップカメラをクリックして選択します。
3. 必要に応じてレポートタイプを選択し、開始時刻を設定します。
4. 「ヒートマップを生成する」をクリックすると、カメラのヒートマップが表示されます。 または  をクリックすると、統計が折れ線グラフまたは画像モードで表示されます。

画像モードでは、赤色のブロック(255,0,0)は最もウェルカムな領域を示し、青色のブロック(0,0,255)は人気のない領域を示します。

5. (オプション)  をクリックして、ヒートマップの詳細データをPCに保存します。



15.2 人数計測統計

目的:

追加された人数計数装置の人数統計をチェックすることができ、統計は折れ線グラフまたはヒストグラムで表示することができます。詳細データは、ローカルストレージ用にエクスポートすることができます。

始める前に:

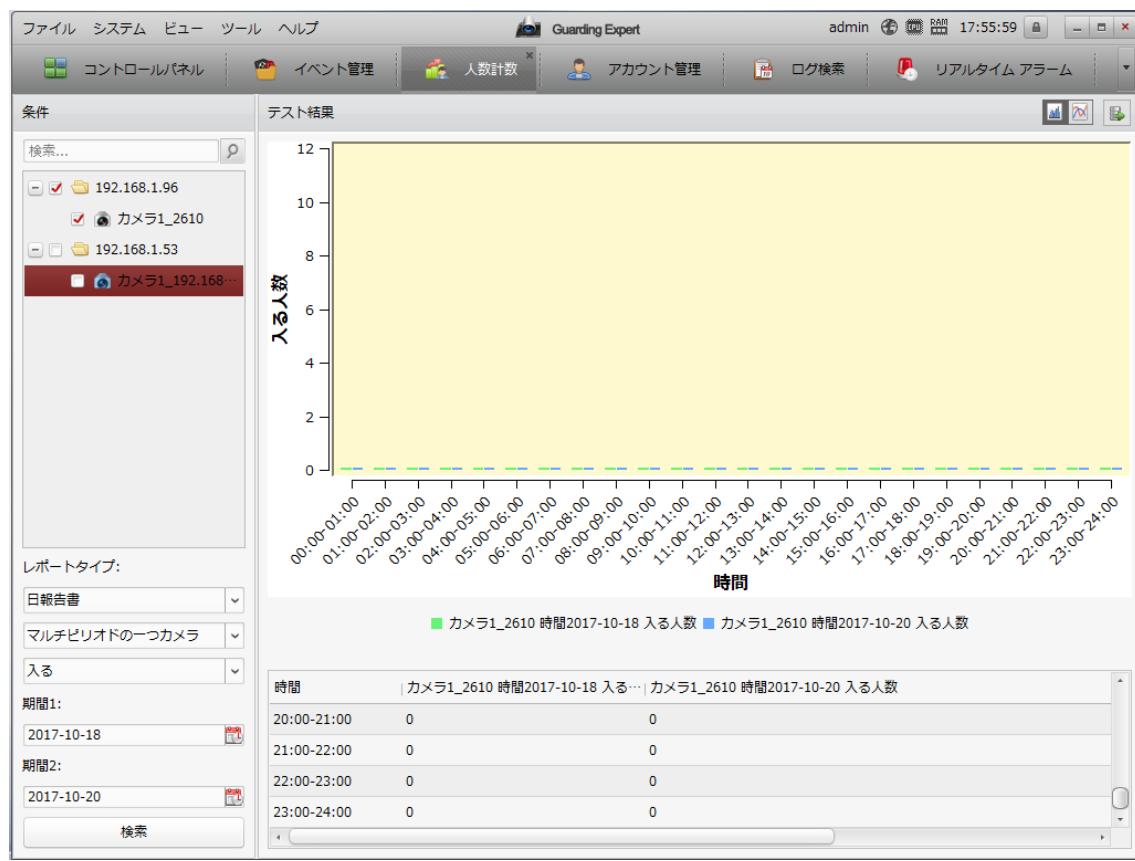
ソフトウェアに人数計算デバイスを追加し、対応するエリアを適切に設定してください。人数をカウントするルールを追加されたデバイスに設定されている必要があります。

注意:

人数計測デバイスは、エンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。詳しくは、第 3.1 章デバイスの追加を参照してください。人数計測規則の設定については、人数計測装置のユーザマニュアルを参照してください。



コントロールパネルのアイコン をクリックして、人数計測ページを開きます。



手順:

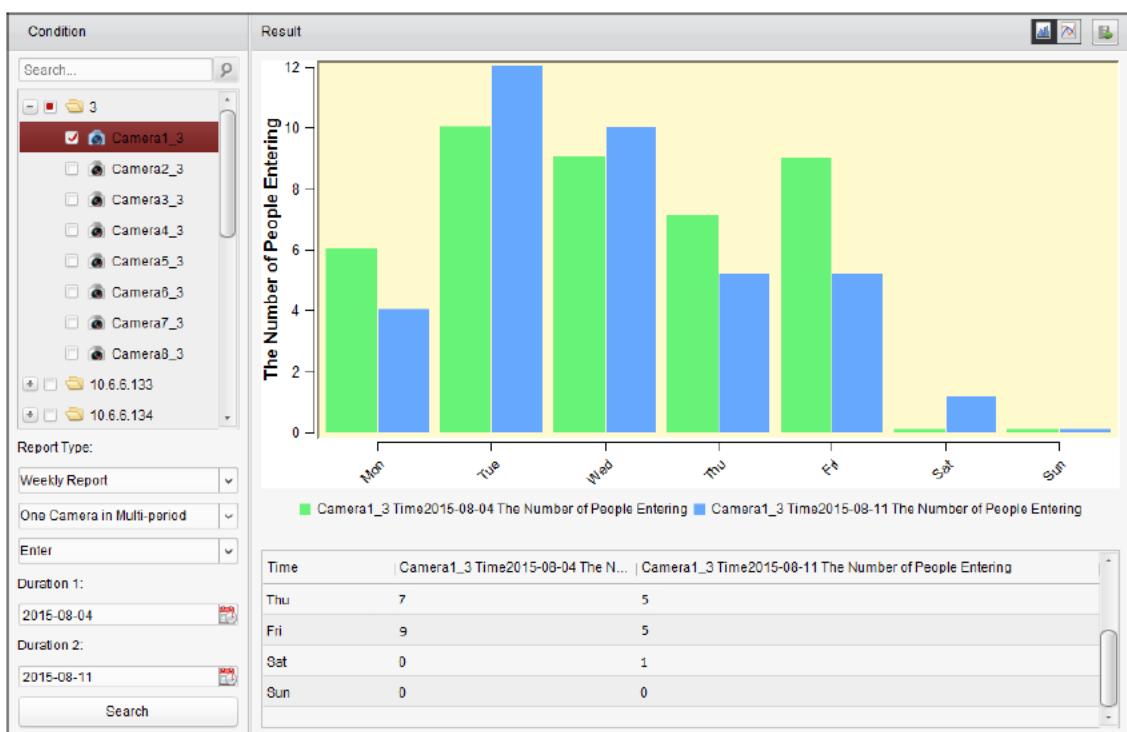
1. 人数計測ページを開きます。
2. 必要に応じてレポートタイプを選択し、時間を設定します。
 - 1) レポートの時間タイプとして、毎日レポート、週別レポート、月次レポートまたは年次レポートを選択します。
 - 2) 統計タイプとして、「複数の期間に 1 台のカメラ」または「1 つの期間に 1 台のカメラ」を選択します。
 - **複数の期間に 1 台のカメラ:** 2 つの期間の統計を生成するために、1 つのカメラを選択することができます。
 - **1 つの期間に 1 台のカメラ:** 1 つのカメラは、1 つの期間の統計を生成するためを選択することができます。
 - 3) データタイプとして「入る」、「出る」、または「出入り」を選択します。
 - **入る:** 入る人はカウントされます。

- **出る**:出る人はカウントされます。
- **出入り**:出入りした人はカウントされます。

- 4) 期間を設定します。
3. レポートを生成するカメラを選択します。
4. 検索をクリックすると、右側のパネルに統計が表示されます。時間、日、月ごとの詳細データも表示されます。

デフォルトでは、統計はヒストグラム形式で表示されます。をクリックすると折れ線グラフに切り替えることができます。

5. (オプション) をクリックすると、人数の詳細なデータをPCに保存します。



15.3 カウント統計

目的:

追加されたカウントデバイスのカウント統計をチェックすることができ、統計は折れ線グラフまたはヒストグラムで表示することができます。詳細データはローカルストレージにエクスポートできます。

始める前に:

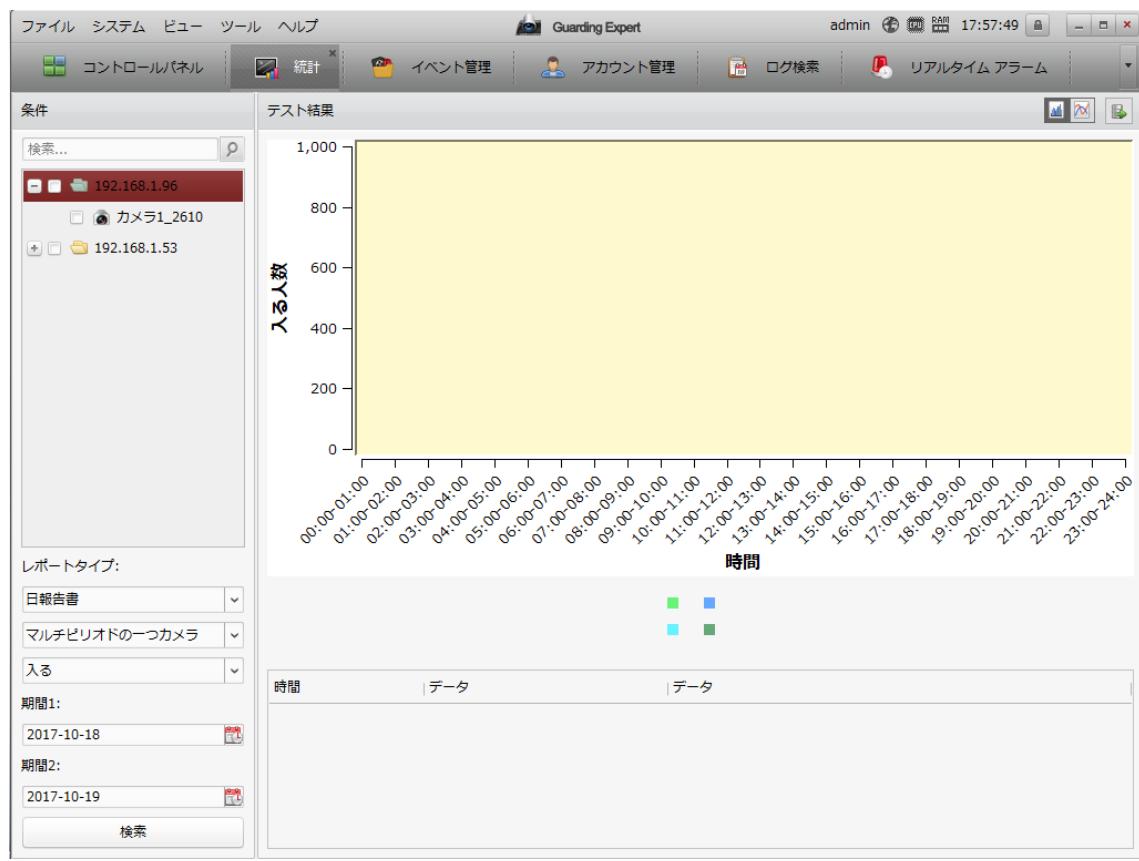
ソフトウェアにカウントデバイスを追加し、対応するエリアを適切に設定してください。追加されたデバイスは、カウント設定で構成されている必要があります。

注意:

エンカウンティングデバイスはエンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。詳しくは「3.1 項」を参照してください。カウント設定については、カウント装置のユーザマニュアルを参照してください。



コントロールパネルのアイコン をクリックすると、カウントページが開きます。



手順:

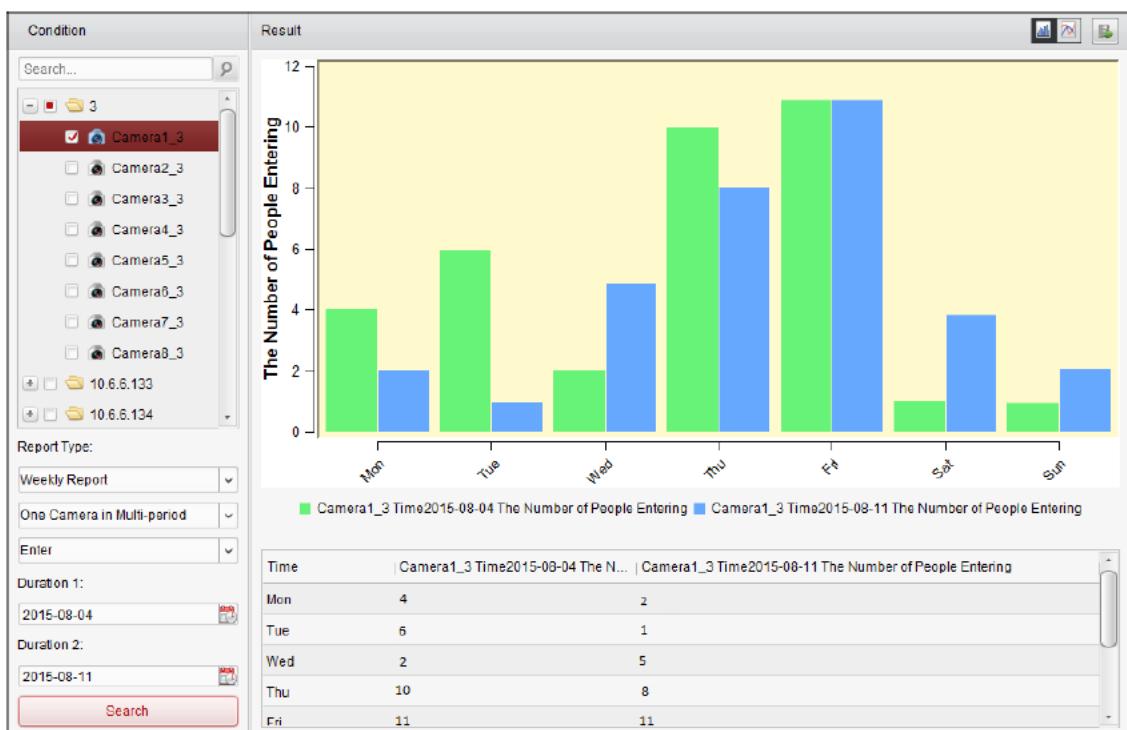
1. カウントページを開きます。
2. 必要に応じてレポートタイプを選択し、時間を設定します。
 - 1) レポートの時間タイプとして、毎日レポート、週別レポート、月次レポートまたは年次レポートを選択します。
 - 2) 統計タイプとして、「複数の期間に 1 台のカメラ」または「1 つの期間に 1 台のカメラ」を選択します。
 - **複数の期間に 1 台のカメラ:** 2 つの期間の統計を生成するために、1 つのカメラを選択することができます。
 - **1 つの期間に 1 台のカメラ:** 1 つのカメラは、1 つの期間の統計を生成するためを選択することができます。
 - 3) データタイプとして「入る」、「出る」、または「出入り」を選択します。
 - **入る:** 入る人はカウントされます。

- **出る**:出る人はカウントされます。
- **出入り**:出入りした人はカウントされます。

- 4) 期間を設定します。
3. レポートを生成するカメラを選択します。
4. 検索をクリックすると、右側のパネルに統計が表示されます。時間、日、月ごとの詳細データも表示されます。

デフォルトでは、統計はヒストグラム形式で表示されます。をクリックすると折れ線グラフに切り替えることができます。

5. (オプション) をクリックすると、人数の詳細なデータをPCに保存します。



15.4 道路交通

目的:

道路交通量監視デバイスを追加した場合、検知した車両またはナンバー プレートのキャプチャー画像の検索とチェックができます。対応する画像について 3 種類の検索種別が利用できます。

- **車両検知:** 通過した車両を検出し、そのナンバー プレートの画像をキャプチャーできます；さらに、車両の色、車両のロゴおよびその他の情報が自動的に認識されます。
- **混合交通量検知:** 歩行者、車両、自転車などが検出できます。対象の画像(歩行者/自転車/ナンバー プレートのない車両)またはナンバー プレートの画像(ナンバー プレートのある車両)が検索できます。
- **交通違反:** 交通ルール(違法駐車や渋滞など)に違反した車両のキャプチャー画像がチェックできます。

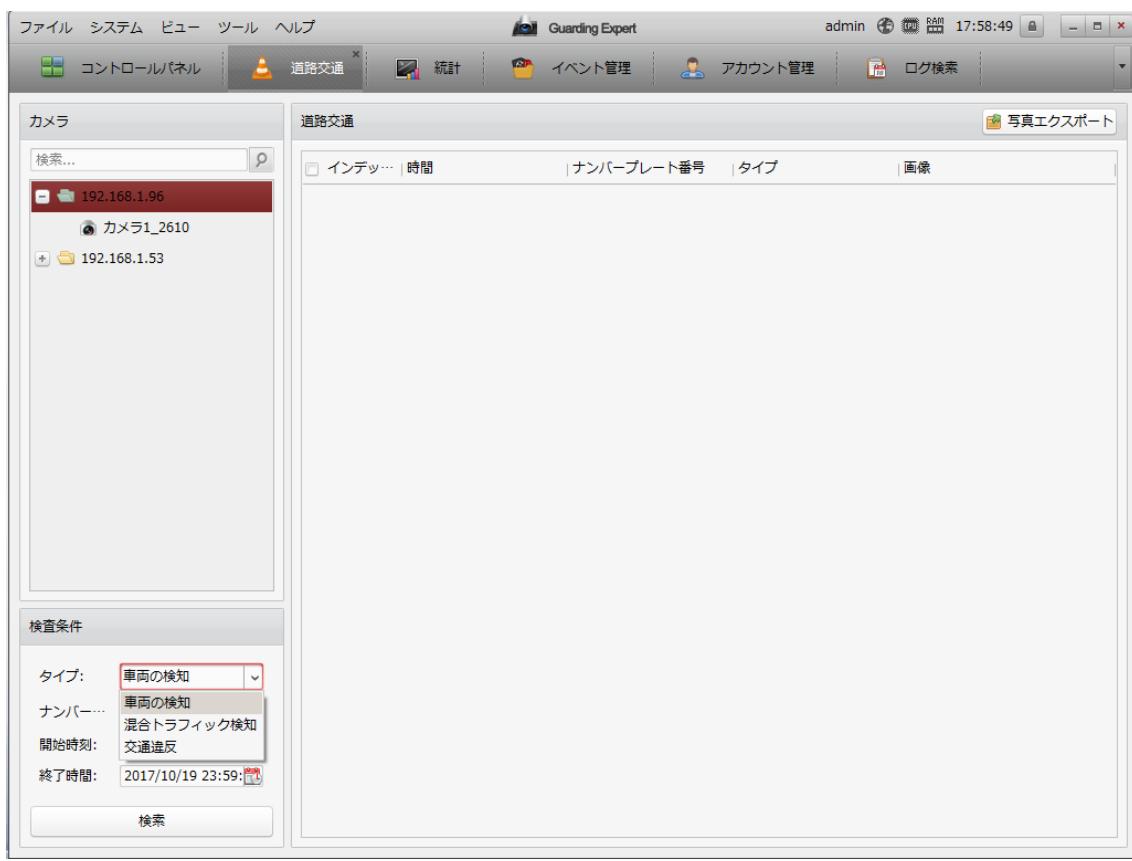
始める前に:

1. 道路交通量監視デバイスをソフトウェアに追加し、対応するエリアを適切に設定してください。追加したデバイスには、対応する画像キャプチャー設定を行う必要があります。
2. 交通違反については、ソフトウェアにストレージサーバを追加する必要があり、デバイスのストレージ サーバを設定して、「画像ストレージ」および「追加情報ストレージ」チェックボックスをチェックする必要があります。詳細については「5.1.2 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。
3. 車両検知、混合交通量検知については、ストレージサーバが設定されていない場合、ローカル デバイスのストレージ デバイスから関連する画像を検索します。

注意:

道路交通量監視デバイスはエンコーディング デバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。設定の詳細については「3.1 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。キャプチャー設定についてはデバイスのユーザマニュアルを参照してください。

コントロールパネルの  アイコンをクリックし、道路交通ページを開きます。



手順:

1. 道路交通量ページを開きます。
2. カメラ パネル上の道路交通量監視カメラをクリックして選択します。
3. 関連画像を見つけるための検索条件を設定します。

タイプ : 検索種別を選択し、イベント種別によってトリガされた画像を検索します。

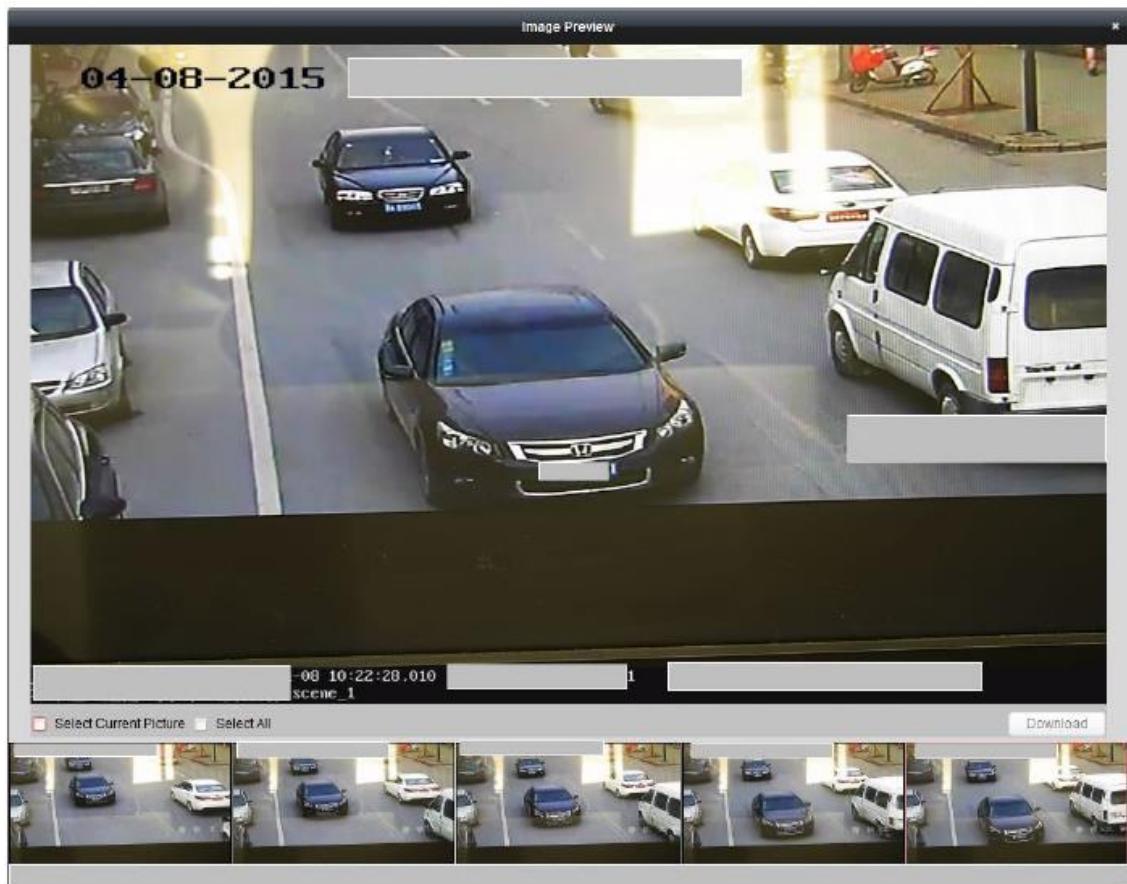
プレートナンバー : ナンバー プレートのナンバーを入力して画像を検索します。

開始時刻/終了時刻 :  をクリックし、開始時刻と終了時刻を指定します。

4. 検索をクリックすると見つかった画像アイテムがリストされます。

Index	Time	License Plate Number	Picture
1	2015-04-08 10:20:16		
2	2015-04-08 10:20:32		
3	2015-04-08 10:20:38		
4	2015-04-08 10:20:49		
5	2015-04-08 10:21:02		
6	2015-04-08 10:21:21		
7	2015-04-08 10:21:35		
8	2015-04-08 10:21:55		
9	2015-04-08 10:22:08		
10	2015-04-08 10:22:26		
11	2015-04-08 10:22:40		
12	2015-04-08 10:22:48		
13	2015-04-08 10:22:59		
14	2015-04-08 10:23:12		
15	2015-04-08 10:23:31		
16	2015-04-08 10:23:45		
17	2015-04-08 10:24:04		
18	2015-04-08 10:24:17		
19	2015-04-08 10:24:36		
20	2015-04-08 10:24:56		

5.  をクリックしてキャプチャー画像と関連情報を確認します。「現在の画像を選択」または「すべて選択」チェックボックスをチェックし、ダウンロードをクリックして、画像をお使いの PC に保存することができます。



6. (オプション) チェックボックスをチェックして画像アイテムを選択し「画像のエクスポート」をクリックして、お使いの PC に画像を保存できます。

15.5 顔検索

目的:

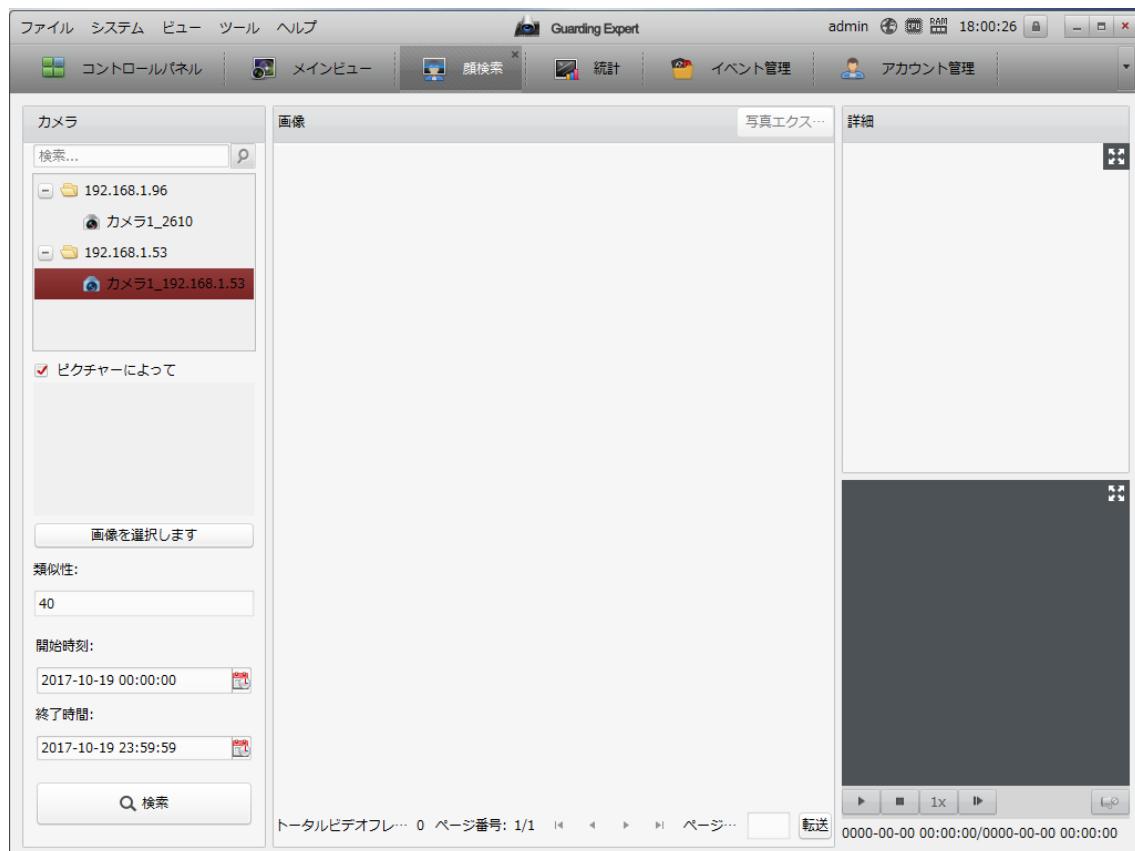
接続したデバイス(NVR または HDVR)が顔検索をサポートしている場合、関連画像を検索して、関連画像のビデオファイルを再生できます。

始める前に:

デバイスをソフトウェアに追加し、対応する設定を適切に行ってください。設定の詳細についてはデバイスのユーザマニュアルを参照してください。

注意:デバイスはエンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。設定の詳細については「3.1 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。

コントロールパネルの  アイコンをクリックし、顔検索ページを開きます。



手順:

1. 顔抽出ページを開きます。

2. カメラパネル上のデバイスをクリックして選択します。

注意:この機能は接続したデバイス(NVR または HDVR)がサポートしている必要があります。

3. 対応する検索条件を設定してください。

- (オプション) 「画像指定」チェックボックスをチェックし、「画像を選択」をクリックしてお使いの PC から画像をアップロードし、アップロードされた画像から検出された顔をクリックして選択し、キャプチャーされた顔画像と照合することができます。
- 類似度のレベルを設定します。

例:類似度を 40 に設定すると、アップロードされた顔画像に対して 40%以上の類似度を持つキャプチャー画像がリストされます。

-  をクリックして、顔画像またはビデオファイルを検索する開始時刻と終了時刻を設定します。

4. 検索をクリックして検索を開始します。画像の検索結果はリストで表示されます。

5. リストから画像をクリックすると、詳細情報を確認できます。

 をクリックすると大きな画像が表示され、 をクリックすると復元できます。

6. 画像を PC に保存するには:

- 1) 「画像のエクスポート」をクリックし、チェックボックスをオンにして、エクスポートする画像を選択します。「すべて選択」をクリックして、検索したすべての画像を選択することもできます。
- 2) エクスポートをクリックし、画像のローカル保存パスを選択します。
- 3) 戻るをクリックして、画像のエクスポートモードを終了します。

7.  をクリックすると、右下のビューウィンドウで画像の関連するビデオファイルが再生されます。

 をクリックすると大きなビデオが表示され、 をクリックすると復元できます。

 をクリックすると、再生の再生速度を調整し、 をクリックしてフレーム単位でビデオファイルを再生し、 をクリックしてオーディオを有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックしてウィンドウを最大化します。

15.6 ナンバープレート検索

目的:

接続したデバイス(NVR または HDVR)がナンバー プレート検索をサポートしている場合、関連画像を検索して、関連画像のビデオ ファイルを再生できます。

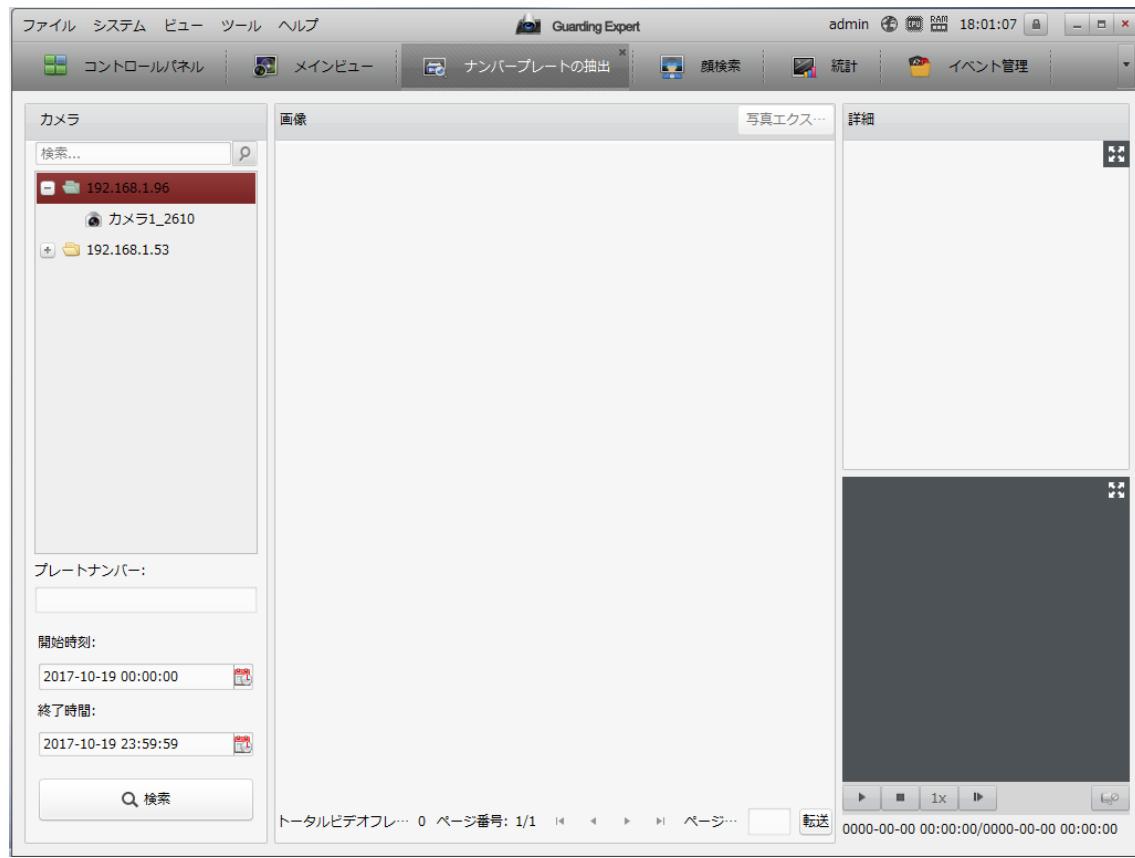
始める前に:

デバイスをソフトウェアに追加し、対応する設定を適切に行ってください。設定の詳細についてはデバイスのユーザ マニュアルを参照してください。

注意:

デバイスはエンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。設定の詳細については「3.1 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。

コントロールパネルの  アイコンをクリックし、ナンバープレート検索ページを開きます。



手順:

1. ナンバープレート検索ページを開きます。
2. カメラパネル上のデバイスをクリックして選択します。

注意:

この機能は接続したデバイス(NVR または HDVR)がサポートしている必要があります。

3. 対応する検索条件を設定してください。
 - (オプション) フィールドに検索するプレート番号を入力します。
 - をクリックして、一致するナンバー プレート画像を検索する開始時刻と終了時刻を設定します。
4. 検索をクリックして検索を開始します。画像の検索結果はリストで表示されます。
5. リストから画像をクリックして詳細情報をチェックできます。



をクリックすると大きな画像が表示され、をクリックすると復元できます。

6. 画像を PC に保存するには:

- 1) 「画像のエクスポート」をクリックし、チェックボックスをオンにして、エクスポートする画像を選択します。「すべて選択」をクリックして、検索したすべての画像を選択することもできます。
- 2) エクスポートをクリックし、画像のローカル保存パスを選択します。
- 3) 戻るをクリックして、画像のエクスポートモードを終了します。



7. をクリックすると、右下のビューウィンドウで画像の関連するビデオファイルが再生されます。



をクリックすると大きなビデオが表示され、をクリックすると復元できます。



をクリックすると、再生の再生速度を調整し、をクリックしてフレーム単位でビデオファイルを再生し、をクリックしてオーディオを有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックしてウィンドウを最大化します。

15.7 行動分析

目的:

接続したデバイス(NVR または HDVR)が行動検索をサポートしている場合、関連画像を検索して、関連画像のビデオ ファイルを再生できます。

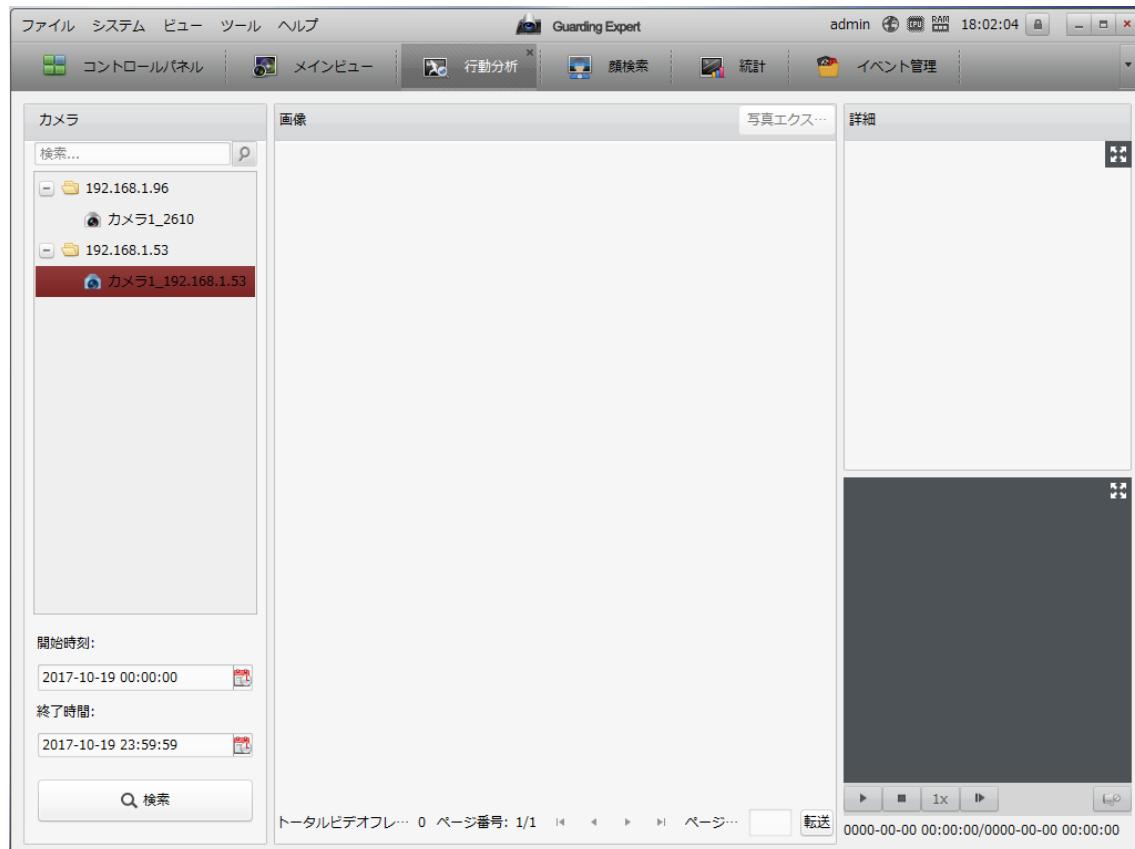
始める前に:

デバイスをソフトウェアに追加し、対応する設定を適切に行ってください。設定の詳細についてはデバイスのユーザ マニュアルを参照してください。

注意:

デバイスはエンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。設定の詳細については「3.1 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。

コントロール パネルの  アイコンをクリックし、行動解析ページを開きます。



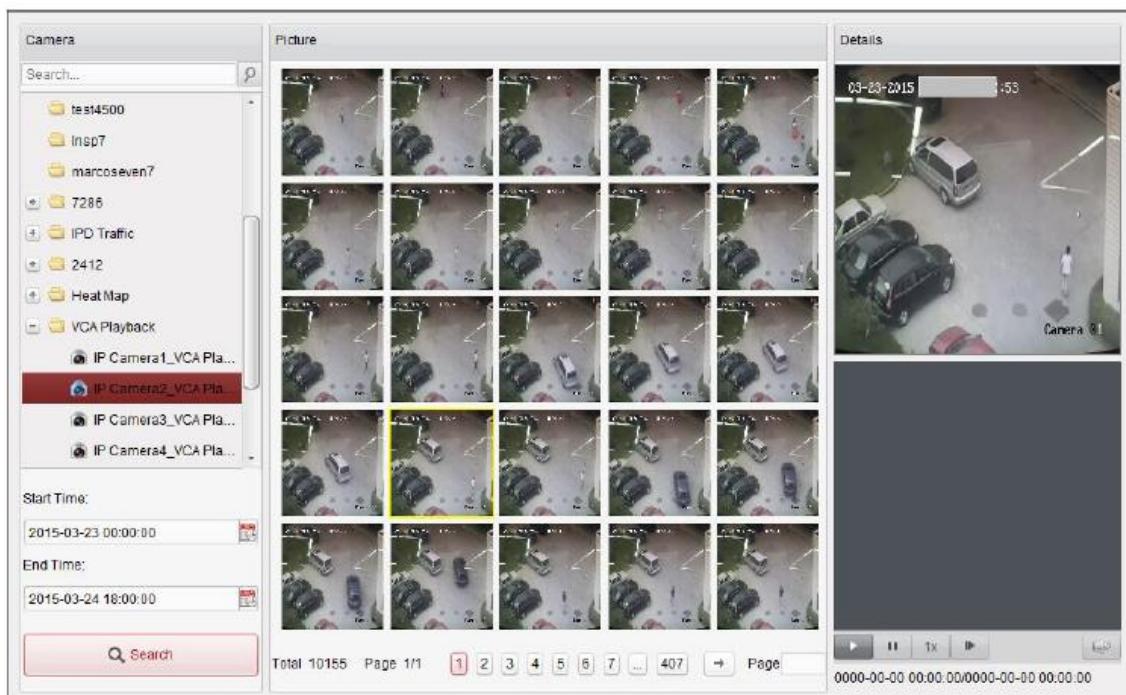
手順:

1. 行動解析ページを開きます。
2. カメラパネル上のデバイスをクリックして選択します。

注意:

この機能は接続したデバイス(NVR または HDVR)がサポートしている必要があります。

3.  をクリックして、一致する画像を検索する開始時刻と終了時刻を設定します。
4. **検索**をクリックして検索を開始します。画像の検索結果はリストで表示されます。



5. リストから画像をクリックして詳細情報をチェックできます。

 をクリックすると大きな画像が表示され、 をクリックすると復元できます。

6. 画像を PC に保存するには:
 - 4) 「画像のエクスポート」をクリックし、チェックボックスをオンにして、エクスポートする画像を選択します。「すべて選択」をクリックして、検索したすべての画像を選択することもできます。
 - 5) エクスポートをクリックし、画像のローカル保存パスを選択します。

- 6) 戻るをクリックして、画像のエクスポートモードを終了します。
7.  をクリックすると、右下のビューウィンドウで画像の関連するビデオファイルが再生されます。
 をクリックすると大きなビデオが表示され、 をクリックすると復元できます。
 をクリックすると、再生の再生速度を調整し、 をクリックしてフレーム単位でビデオファイルを再生し、 をクリックしてオーディオを有効にし、再生ウィンドウをダブルクリックしてウィンドウを最大化します。

15.8 顔のキャプチャー

目的:

追加した顔キャプチャーデバイスの顔キャプチャー統計をチェックすることができます。統計情報は表、ラインチャート、パイチャートまたはヒストグラムで表示できます。詳細データはローカルストレージにエクスポートできます。

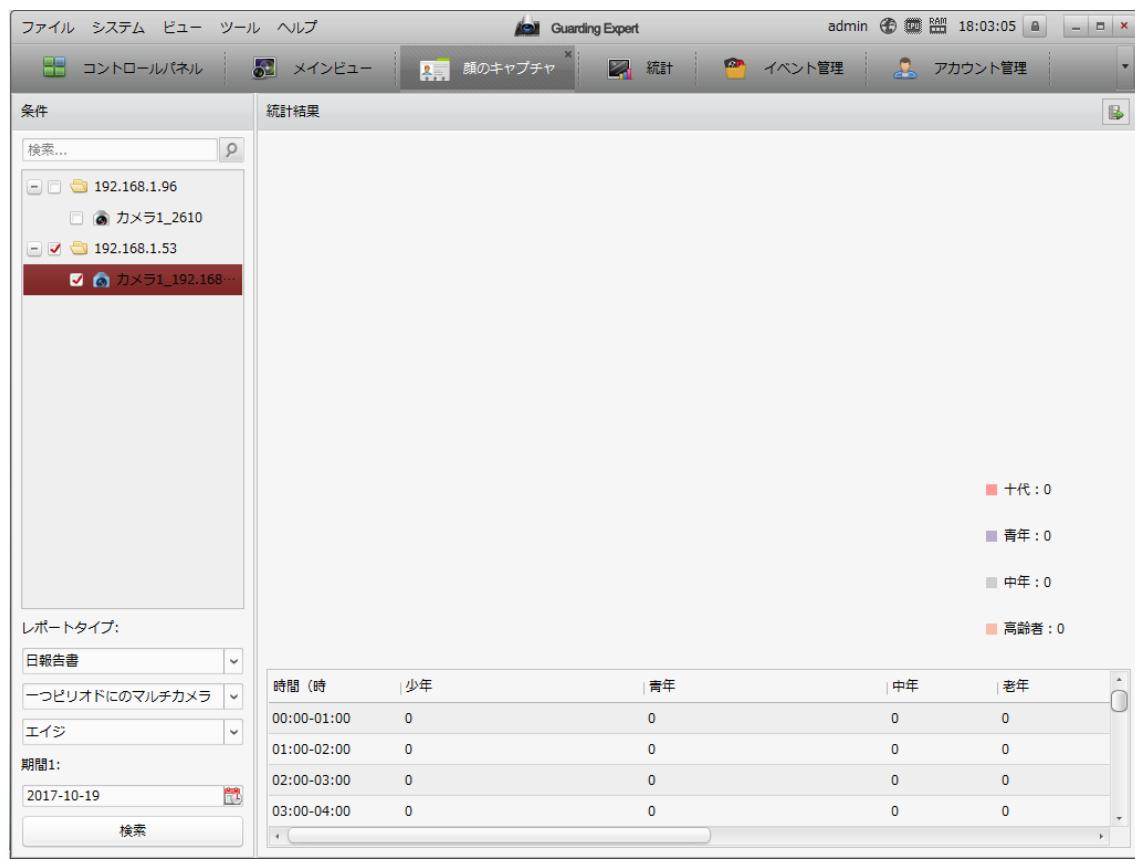
始める前に :

顔キャプチャーデバイスをソフトウェアに追加し、対応する設定を適切に行ってください。設定の詳細についてはデバイスのユーザマニュアルを参照してください。

注意 :

顔キャプチャーデバイスはエンコーディングデバイスとしてソフトウェアに追加する必要があります。設定の詳細については「3.1 エラー! 参照元が見つかりません。」を参照してください。

コントロールパネルの  アイコンをクリックし、顔キャプチャーページを開きます。



手順:

1. 顔キャプチャーページを開きます。
2. レポート種別を必要に応じて選択し、期間を設定します。
 - 1) レポートの期間種別として日次レポート、週次レポート、月次レポートまたは年次レポートを選択します。
 - 2) 統計種別として単一期間の複数カメラを選択します。

単一期間の複数カメラ: 1つの期間に対して、複数のカメラを選択して統計情報を生成できます。
- 3) 年齢、性別または人数をデータ種別として選択します。
- 4) 期間を設定します。
3. カメラを選択してレポートを生成します。
4. 検索をクリックして右側のパネルに統計情報を表示します。時間ごと、日ごと、または月ごと

の詳細データも表示されます。

年齢と性別の統計については、統計はパイ チャートで表示されます。

人数の統計については、統計はデフォルトではヒストグラムで表示されます。をクリックするとライン チャートに切り替えることができます。

5. (オプション) をクリックしてキャプチャーした顔画像の詳細データをお使いの PC に保存することができます。

トラブルシューティング

ライブ ビュー

問題:

- 特定のデバイスからのライブ ビュー取得に失敗する。

可能性のある原因:

- ネットワークが不安定であるか、ネットワーク性能が十分でない。
- 機器がオフラインである。
- リモート デバイスへのアクセス集中により、デバイスの負荷が高くなりすぎている。
- 現在のユーザがライブ ビューの権限を与えられていない。
- クライアント ソフトウェアのバージョンが必要なバージョンより前のものである。

解決法:

- ネットワーク状態をチェックし、お使いの PC で使われていないプロセスを無効にしてください。
- デバイスのネットワーク ステータスをチェックしてください。
- デバイスを再起動するか、デバイスへの他のリモート アクセスを無効にしてください。
- 管理者ユーザでログインして再試行してください。
- クライアント ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードしてください。

録画

問題:

- ローカル録画とリモート録画の違いがわからない。

解決法:

- このマニュアルでのローカル録画とは、ローカル デバイスの HDD、SD/SDHC にビデオ ファイルを保存する録画のことを指します。

- リモート録画はリモート デバイス側のクライアントによって命令される録画アクションのことを指します。

再生

問題:

- ビデオ ファイルのダウンロードに失敗する、またはダウンロード速度が遅すぎる。

可能性のある原因:

- ネットワークが不安定であるか、ネットワーク性能が十分でない。
- NiC 種別の互換性がない。
- リモート デバイスへのアクセスが集中している。
- 現在のユーザが再生の権限を与えられていない。
- クライアント ソフトウェアのバージョンが必要なバージョンより前のものである。

解決法:

- ネットワーク状態をチェックし、お使いの PC で使われていないプロセスを無効にしてください。
- クライアントを実行している PC をデバイスに直接接続し、NiC カードの互換性を確認してください。
- デバイスを再起動するか、デバイスへの他のリモート アクセスを無効にしてください。
- 管理者ユーザでログインして再試行してください。
- クライアント ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードしてください。

FAQ

Q: ライブビュー中にエラーメッセージが表示され、エラーコードは 91 になります。

A: 複数のウィンドウのライブの場合、チャンネルはサブストリームをサポートしていない可能性があります。システム設定 -> 画像でストリームタイプの自動変更機能を無効にし、ライブビューに適したストリームタイプを選択してください。

Q: ライブビュー中は、画像がぼやけたり流暢でなくなったりします。

A: ビデオカードのドライバを確認してください。ビデオカードのドライバを最新バージョンにアップデートすることを強くお勧めします。

Q: しばらく実行された後に、モリリークとクライアントがにクラッシュしました。

A: クライアントソフトウェアのインストールディレクトリで、メモ帳で Setup.xml ファイルを開き、EnableNetandJoystickCheck の値を false に変更します。クライアントを再起動しても問題が解決しない場合は、技術サポートにお問い合わせください。

Q: ライブビュー中に、ストリームメディアサーバ経由でストリームを取得すると、エラーメッセージが表示され、エラーコードは 17 になります。

A: ストリームメディアサーバのポートマッピング、特に RTSP ポートを確認してください。

エラーコード

コード	エラーメッセージ	説明
IVMS-4200		
317	ビデオはありません。	ユーザに再生権限がない場合は、プロンプトが表示されます。
HCNetSDK.dll		
1	ユーザ名かパスワードが無効	
2	全く許可しません。	デバイスのユーザに十分な権限がありません。
4	チャネル番号が無効です。	リモート画面制御のライブビューでプロンプトが表示されます。
5	デバイスを接続することはできません。	
7	デバイスの接続に失敗しました。	
23	サポートしていません。	
29	操作が失敗しました。	
43	バッファがありません	デバイスを追加するときにプロンプトが表示され、デバイスポートがウェブサーバーによって占有されます。

55	IP アドレスが無効です。	
56	MAC アドレスが無効です。	
91	チャネルは操作をサポートしていません。	サブストリームを取得できなかった場合はプロンプトが表示されます。
96	デバイスが DDNS に登録されていません。	
153	ユーザはロックされています。	
250	デバイスはアクティブ化されていません。	
404	チャネル番号エラーまたはデバイスがサブストリームをサポートしていません。	サブストリームを取得できなかった場合、またはサブストリームが存在しない場合は、プロンプトが表示されます。
524	RTSP セットアップのデータの受信に失敗しました。	ソフトウェア DVS のライブビューを外部ネットワーク経由で追加するときに、プロンプトが表示されます。
800	これ以上の帯域幅は使用できません。	
Playctrl.dll		
2		ストリームはビデオとオーディオストリームではありません。

6		64ビットオペレーティングシステムでH.265を採用すると、再生ウィンドウが黒くなります。
SMS		
3		ソフトウェアとストリームメディアサーバ間の接続の問題。
17		ストリームメディアサーバとデバイス間のストリーミングの問題。

0206011070316